

2022年度
授業改善のための学生アンケート
実施報告書

東邦音楽大学大学院
東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

目 次

はじめに	1
2022 年度授業改善のための	
学生アンケートについて	2
授業・レッスンアンケート用紙	3
参考資料 ～ 全体集計結果表	11
講義・演習系、実技（個人レッスン）、大学院 全体集計結果	

専攻別集計結果・アンケート結果考察

◆ 大学 ◆

ピアノ	21
声楽	45
管弦打楽器	55
音楽療法	73
音楽専門教育科目	81
基礎教育科目	161
教職に関する専門科目	201
音楽療法に関する科目	217
文化教養科目	225
外国人留学生に関する科目	231

◆ 短大 ◆

ピアノ	243
声楽	255
管弦打楽器	261
ピアノ指導者	267
音楽教養実技	275
音楽専門教育科目	283
基礎教育科目	307

◆ 大学院 ◆

ピアノ領域	323
管弦打領域	333
声楽領域	339
作曲領域	349
共通科目	355

はじめに

近年多様な背景を持って入学する学生に対する、学士課程教育の改革や改善が年々進められています。本学では、これらの状況を踏まえて教育の改善、充実をはかるため全学的な FD 活動が活発に遂行されています。継続的な研修会をはじめ、各種アンケートの実施等、着々と FD 活動の実質化を計ってきました。

本学の「授業改善のための学生アンケート」は、平成 17 年度の実施以来、教育内容、指導方法の改善に重要な役割を果たしてきました。教員一人一人が自主的な自己点検、評価を行い教育の質的向上を目指すための重要なエビデンスになっています。今後はピアレビューを踏まえた授業公開やアクティブ・ラーニングの活用等の実現化に議論を深めたいと思います。教育に関する問題、課題は絶えることはありません。今後とも改革、改善のため不断の対応を推進して行きたいと思います。

令和 5 年 3 月

東邦音楽大学・短期大学

FD 委員会

山崎 明美(委員長)

高橋 幸雄

遠山 菜穂美

大場 文恵

宮野 陽子

中島 裕紀

國谷 尊之

荻久保 和明

木下 容子

粕谷 麻里乃

江沢 博昭

吉野 正巳

山岡 香苗

2022 年度 授業改善のための学生アンケートについて

I 実施目的

学生による「授業改善のためのアンケート」は、学生の視点から見た授業・レッスン内容、方法、教材などについて意見を聴取し、より充実した授業・レッスンにするための参考資料とするものである。

II 実施対象科目

原則として、すべての開講科目・レッスンについて行う。

III 実施機関

東邦音楽大学・同短期大学 FD 委員会

IV 調査内容

別紙のとおり

V 実施手順

各授業・レッスン担当教員が、授業・レッスン時間終了前に、学生に本調査の趣旨を説明し、用紙を配布した。学生が回答記入後、回収した。

VI 集計

集計は、株式会社教育ソフトウェアに依頼した。

VII 教員への結果通知

各授業・レッスン担当教員の各授業・レッスンごとの個人集計分は、令和 5 年 3 月初旬から順次手渡し、分析を依頼した。

VIII 結果の公表と活用

調査結果については、自己点検・評価特別検討委員会で報告書にまとめ、委員会の責任において公表する。各教員は調査結果を参考にして、次年度の授業・レッスンの内容の改善に役立てる。

東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

時限

うすい

全くそう
思わない

1 時間未滿

易しい

コミュニケーション
能力が向上した

30

K17575C 90 kg

授業改善のための学生アンケート

実技(個人レッスン)用

東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

このアンケート調査は、授業内容をより充実したものにするために、担当者が授業を検討し、改善を図るために実施するものです。あなたの成績評価とは一切関係ありませんので、率直に教えてください。またアンケートの参加は、皆さんの自由意思によるものです。以下の項目のそれぞれに対して、授業を受けたあなたの評価を5点法で評価してください。

科目名

担当教員名

記入上の注意

1. 記入は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
2. 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
3. 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

マーク例

良い例



悪い例



うすい

強く
そう思う

ある程度
そう思う

どちらとも
言えない

あまりそう
思わない

全くそう
思わない

I レッスンへの取り組みについて

a. このレッスンの出席は良好であった。

⑤

④

③

②

①

b. 熱意を持って積極的に取り組んだ。

⑤

④

③

②

①

c. 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。

⑤

④

③

②

①

5時間以上

4時間

3時間

2時間

1時間未満

II レッスン内容・指導方法について

a. このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。

⑤

④

③

②

①

b. このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。

⑤

④

③

②

①

c. 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。

⑤

④

③

②

①

d. レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。

⑤

④

③

②

①

e. このレッスンの回数や時間は守られていた。

⑤

④

③

②

①

III 授業の成果について

a. 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。

⑤

④

③

②

①

b. このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。

⑤

④

③

②

①

c. このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。

⑤

④

③

②

①

IV 自由記述欄

このレッスンで良かった点、改善すべき点等について書いてください。

授業改善のための学生アンケート

講義・演習科目・
レッスン(共通)用

東邦音楽大学
大学院

このアンケート調査は、授業内容をより充実したものにするために、担当者が授業を検討し、改善を図るために実施するものです。あなたの成績評価とは一切関係ありませんので、率直に答えてください。またアンケートの参加は、皆さんの自由意思によるものです。以下の項目のそれぞれに対して、授業を受けたあなたの評価を5点法で評価してください。

科目名

曜日(授業のみ記入)

担当教員名

時限(授業のみ記入)

記入上の注意

1. 記入は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
2. 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
3. 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

マーク例

良い例



悪い例



うすい

5
強く
そう思う

4
ある程度
そう思う

3
どちらとも
言えない

2
あまりそう
思わない

1
全くそう
思わない

I 授業・レッスンへの取り組みについて

a. この授業・レッスンへの出席は良好であった。

5

4

3

2

1

b. 熱意を持って積極的に取り組んだ。

5

4

3

2

1

c. 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。

5

4

3

2

1

5時間以上

4時間

3時間

2時間

1時間未満

II 授業・レッスンの内容・指導方法について

a. シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。

5

4

3

2

1

b. 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。

5

4

3

2

1

c. 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。

5

4

3

2

1

d. この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。

5

4

3

2

1

e. 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。

5

4

3

2

1

(自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。)

III 授業・レッスンの成果について

a. この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。

5

4

3

2

1

b. この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。

5

4

3

2

1

c. この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。

5

4

3

2

1

d. この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。

5

4

3

2

1

IV 自由記述欄 この授業・レッスンで良かった点、改善すべき点等について書いてください。

全体集計結果表

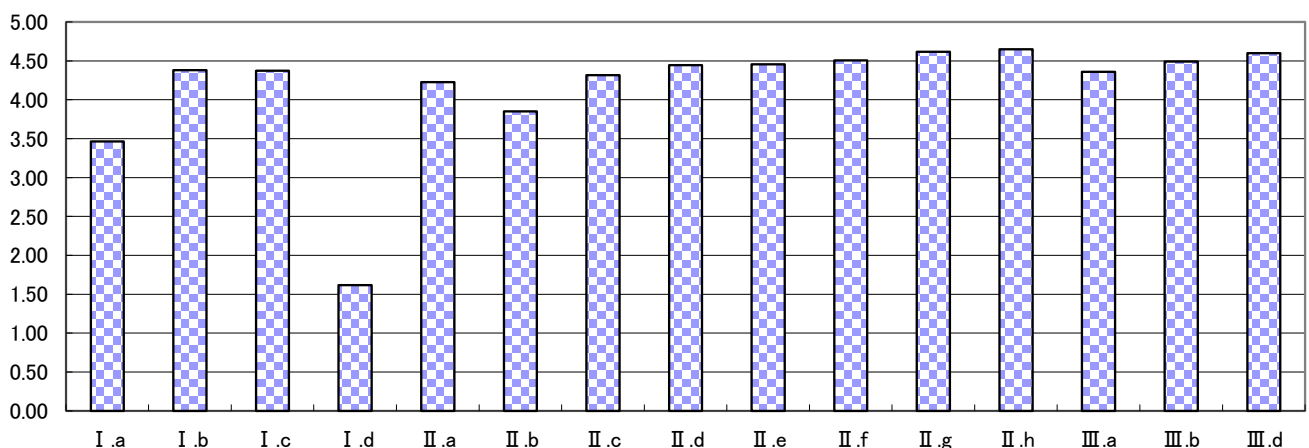
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

区分	大学
科目数	172

履修者数	2,311
回答者数	1,801

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効 回答数	無効 回答数
				5	4	3	2	1		
I	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.46	554 30.8	454 25.3	349 19.4	151 8.4	289 16.1	1,797	4
	b	この授業の出席は良好であった。	4.38	1,023 56.9	526 29.3	178 9.9	53 2.9	18 1.0	1,798	3
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.37	969 54.0	602 33.6	165 9.2	36 2.0	21 1.2	1,793	8
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.62	81 4.5	51 2.8	153 8.5	321 17.9	1,187 66.2	1,793	8
II	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.23	924 51.5	409 22.8	425 23.7	17 0.9	19 1.1	1,794	7
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.85	222 12.4	418 23.3	1,031 57.5	75 4.2	47 2.6	1,793	8
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.31	1,018 56.7	428 23.9	269 15.0	52 2.9	27 1.5	1,794	7
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.44	1,150 64.0	387 21.5	191 10.6	47 2.6	22 1.2	1,797	4
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.45	1,151 64.2	383 21.3	204 11.4	35 2.0	21 1.2	1,794	7
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	1,191 66.4	354 19.7	221 12.3	18 1.0	10 0.6	1,794	7
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.61	1,334 74.2	293 16.3	129 7.2	30 1.7	13 0.7	1,799	2
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.65	1,330 74.2	317 17.7	126 7.0	13 0.7	6 0.3	1,792	9
III	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.36	964 53.8	554 30.9	243 13.6	18 1.0	14 0.8	1,793	8
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.49	1,150 64.4	422 23.6	174 9.7	22 1.2	18 1.0	1,786	15
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	1,313 75.1	742 42.4	602 34.4	372 21.3	324 18.5	1,748	53
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60	1,097 71.5	311 20.3	90 5.9	19 1.2	17 1.1	1,534	267

大学 講義全体平均点



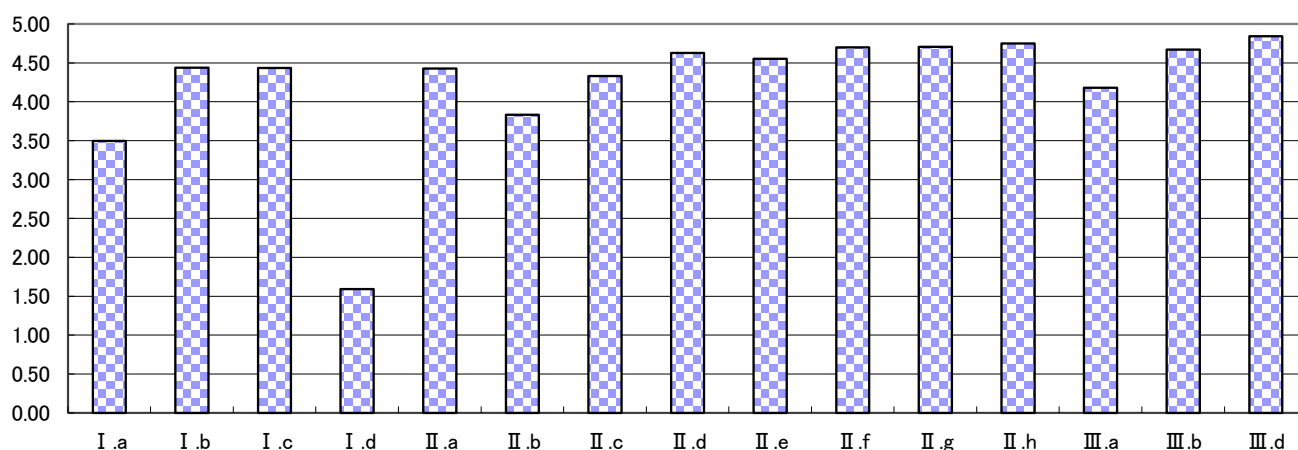
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

区分	短大
科目数	41

履修者数	202
回答者数	157

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効 回答数	無効 回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	32	55	41	7	18	153	4
				20.9	35.9	26.8	4.6	11.8		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.44	89	49	13	4	0	155	2
				57.4	31.6	8.4	2.6	0.0		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43	82	61	9	3	0	155	2
				52.9	39.4	5.8	1.9	0.0		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.59	12	1	10	20	111	154	3
				7.8	0.6	6.5	13.0	72.1		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.43	97	28	27	2	0	154	3
				63.0	18.2	17.5	1.3	0.0		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.83	19	45	84	5	1	154	3
				12.3	29.2	54.5	3.2	0.6		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	85	38	30	2	0	155	2
				54.8	24.5	19.4	1.3	0.0		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.63	110	33	11	1	0	155	2
				71.0	21.3	7.1	0.6	0.0		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.55	105	30	18	1	0	154	3
				68.2	19.5	11.7	0.6	0.0		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.70	118	24	11	0	0	153	4
				77.1	15.7	7.2	0.0	0.0		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.71	120	21	12	0	0	153	4
				78.4	13.7	7.8	0.0	0.0		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	122	22	8	0	0	152	5
				80.3	14.5	5.3	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.18	60	66	26	3	0	155	2
				38.7	42.6	16.8	1.9	0.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	112	33	9	0	0	154	3
				72.7	21.4	5.8	0.0	0.0		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	123	97	62	25	29	154	3
				79.9	63.0	40.3	16.2	18.8		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.84	103	17	1	0	0	121	36
				85.1	14.0	0.8	0.0	0.0		

短大 講義全体平均点



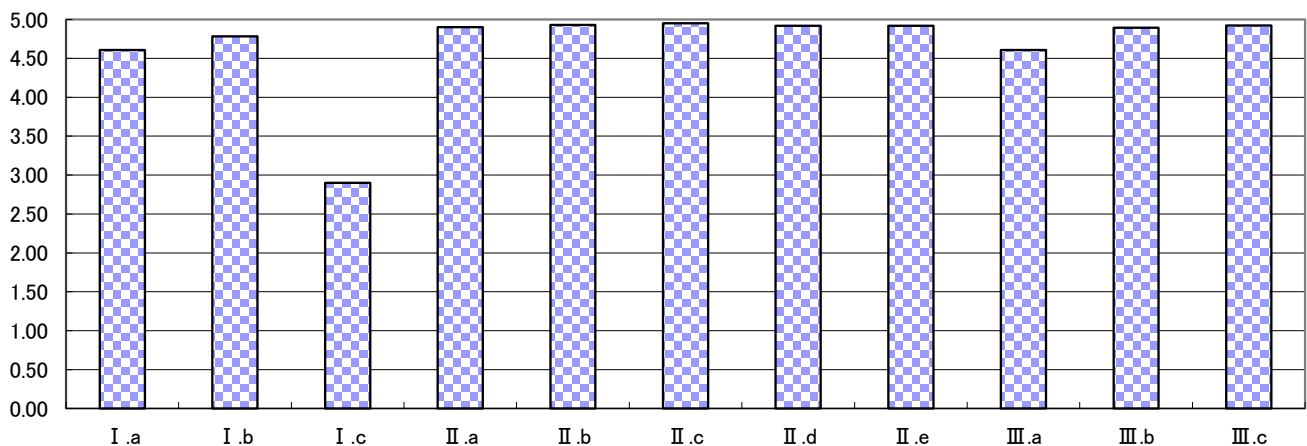
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

区分	大学
科目数	46

履修者数	302
回答者数	244

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.61	172	53	14	5	0	244	0
			70.5	21.7	5.7	2.0	0.0		
	b	4.78	197	41	6	0	0	244	0
			80.7	16.8	2.5	0.0	0.0		
	c	2.90	58	20	49	74	43	244	0
			23.8	8.2	20.1	30.3	17.6		
II	a	4.90	223	18	3	0	0	244	0
			91.4	7.4	1.2	0.0	0.0		
	b	4.93	229	13	2	0	0	244	0
			93.9	5.3	0.8	0.0	0.0		
	c	4.95	234	8	2	0	0	244	0
			95.9	3.3	0.8	0.0	0.0		
	d	4.92	226	16	2	0	0	244	0
			92.6	6.6	0.8	0.0	0.0		
	e	4.92	224	16	2	0	0	242	2
			92.6	6.6	0.8	0.0	0.0		
III	a	4.61	160	73	10	1	0	244	0
			65.6	29.9	4.1	0.4	0.0		
	b	4.89	221	20	3	0	0	244	0
			90.6	8.2	1.2	0.0	0.0		
	c	4.92	228	13	3	0	0	244	0
			93.4	5.3	1.2	0.0	0.0		

大学 実技(個人レッスン)全体平均点



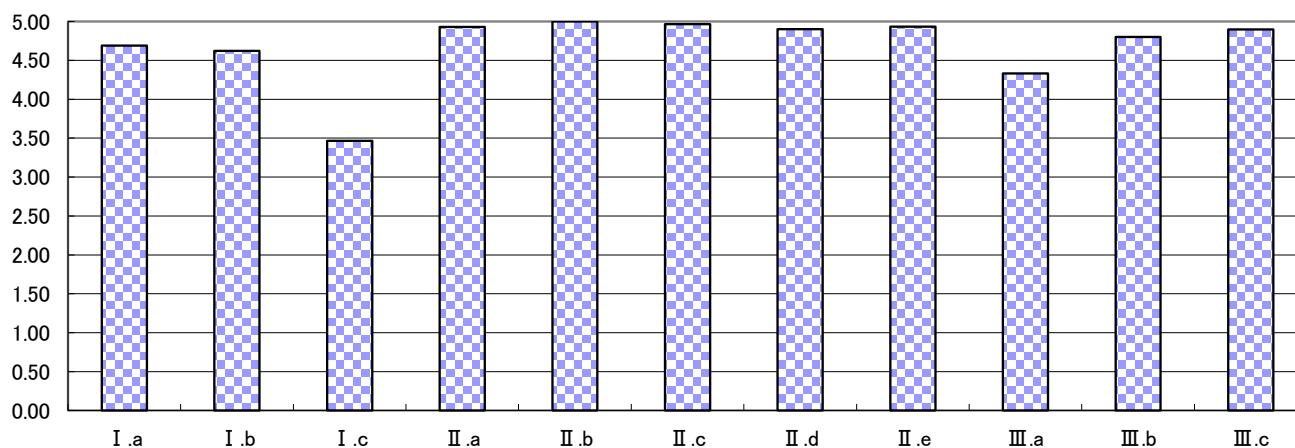
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

区分	短大
科目数	18

履修者数	31
回答者数	30

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効 回答数	無効 回答数
			5	4	3	2	1		
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.69	20 69.0	9 31.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	29	1
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.62	19 65.5	9 31.0	1 3.4	0 0.0	0 0.0	29	1
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.47	15 50.0	1 3.3	3 10.0	5 16.7	6 20.0	30	0
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.93	28 96.6	0 0.0	1 3.4	0 0.0	0 0.0	29	1
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	29 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	29	1
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.97	28 96.6	1 3.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	29	1
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.90	28 93.3	1 3.3	1 3.3	0 0.0	0 0.0	30	0
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.93	29 96.7	0 0.0	1 3.3	0 0.0	0 0.0	30	0
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33	13 43.3	14 46.7	3 10.0	0 0.0	0 0.0	30	0
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.80	24 80.0	6 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	30	0
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.90	26 89.7	3 10.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	29	1

短大 実技(個人レッスン)全体平均点

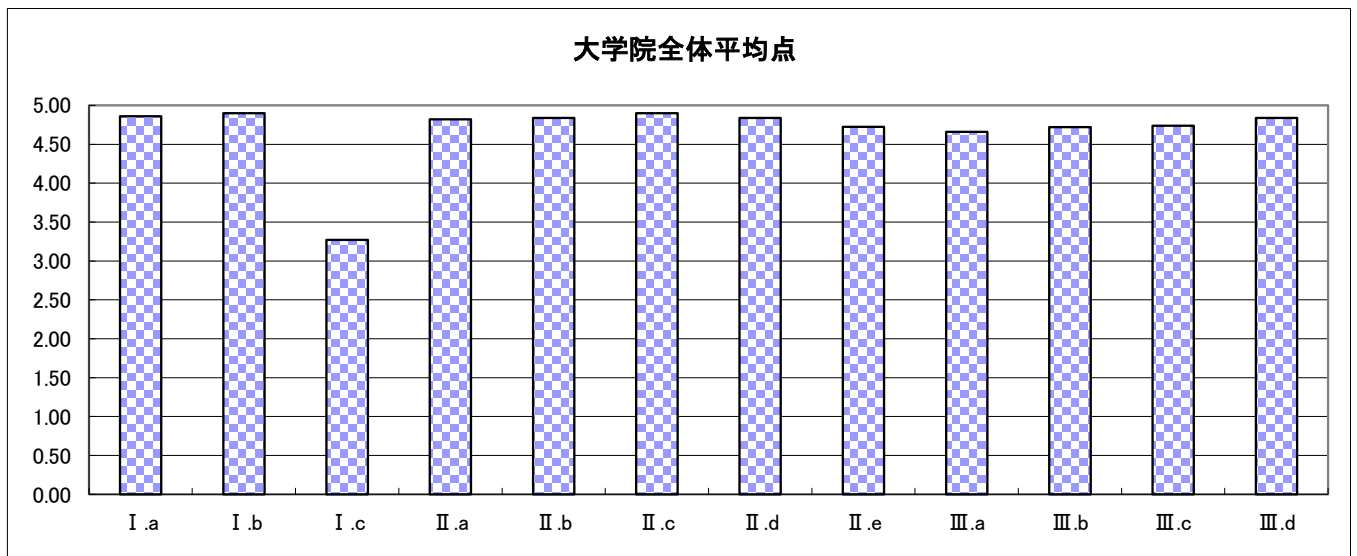


授業改善のための学生アンケート集計結果 大学院

区分	大学院
科目数	25

履修者数	64
回答者数	50

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.86	46	1	3	0	0	50	0
			92.0	2.0	6.0	0.0	0.0		
	b	4.90	47	1	2	0	0	50	0
			94.0	2.0	4.0	0.0	0.0		
	c	3.27	15	8	10	5	10	48	2
			31.3	16.7	20.8	10.4	20.8		
II	a	4.82	44	3	3	0	0	50	0
			88.0	6.0	6.0	0.0	0.0		
	b	4.84	44	4	2	0	0	50	0
			88.0	8.0	4.0	0.0	0.0		
	c	4.90	45	5	0	0	0	50	0
			90.0	10.0	0.0	0.0	0.0		
	d	4.84	43	4	2	0	0	49	1
			87.8	8.2	4.1	0.0	0.0		
	e	4.72	25	1	2	1	0	29	21
			86.2	3.4	6.9	3.4	0.0		
III	a	4.66	35	13	2	0	0	50	0
			70.0	26.0	4.0	0.0	0.0		
	b	4.72	36	14	0	0	0	50	0
			72.0	28.0	0.0	0.0	0.0		
	c	4.74	37	13	0	0	0	50	0
			74.0	26.0	0.0	0.0	0.0		
	d	4.84	41	8	0	0	0	49	1
			83.7	16.3	0.0	0.0	0.0		



東邦音楽大学

ピアノ

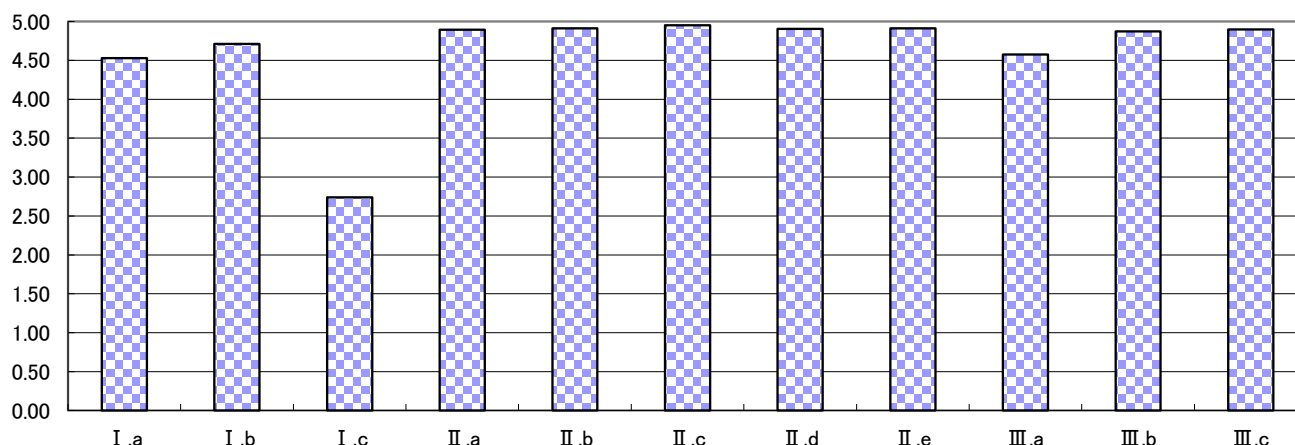
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	01. ピアノ
科目数	22

履修者数	183
回答者数	149

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効 回答数	無効 回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.53	98	37	9	5	0	149	0
				65.8	24.8	6.0	3.4	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.71	111	33	5	0	0	149	0
				74.5	22.1	3.4	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.74	26	14	31	51	27	149	0
				17.4	9.4	20.8	34.2	18.1		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.89	135	12	2	0	0	149	0
				90.6	8.1	1.3	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.91	137	11	1	0	0	149	0
				91.9	7.4	0.7	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.95	143	5	1	0	0	149	0
				96.0	3.4	0.7	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.91	136	12	1	0	0	149	0
				91.3	8.1	0.7	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.91	136	11	1	0	0	148	1
				91.9	7.4	0.7	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.58	96	44	8	1	0	149	0
				64.4	29.5	5.4	0.7	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.87	133	13	3	0	0	149	0
				89.3	8.7	2.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.90	136	11	2	0	0	149	0
				91.3	7.4	1.3	0.0	0.0		

01. ピアノ 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

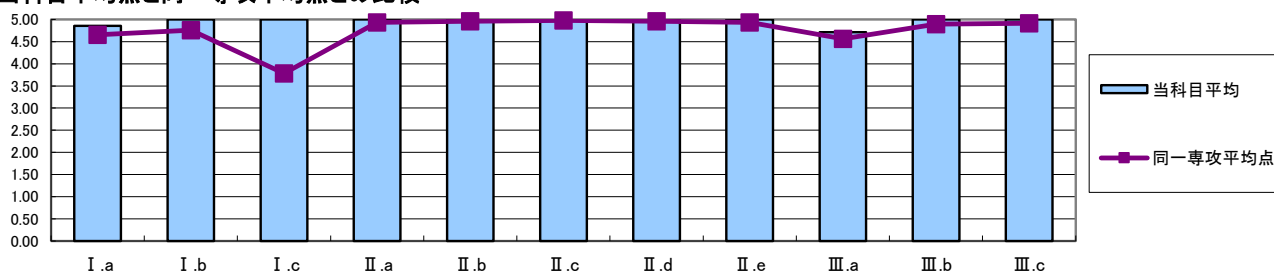
科目名	ピアノ
教員名	國谷 尊之

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	8
回答者数	7

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.86	4.65
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.76
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	3.78
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.93
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.98
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.96
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.93
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.71	4.57
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.89
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2022年度は、大学のピアノ専門レッスンを8名担当した。学年別の内訳は1年次生1名、2年次生3名、3年次生1名、4年次生3名である。うち1名はKonzertfach演奏専攻、1名は教職実践専攻である。無回答の1名は、アンケート実施期間に教育実習があり不在であった。

レッスンでの表現技術や知識の習得のみならず、コミュニケーションスキルや社会人基礎力の向上についての指導も取り入れ、それがさらに能動的な学びにつながるよう考えている。教職実践専攻の学生は、教員採用試験に合格し、ピアノの演奏力も向上させ卒業代表演奏会にも選出された。演奏専攻の学生は、2回の演奏専攻演奏会に加え、ウィーン研修も再開され、4年間の学習成果を実感できる一年間となった。アンケート結果からは、どの学生も十分な練習・研究の時間をとり、到達目標を達成できたことが示された。

● 問題点

将来の進路希望、知識・技能など、多様な学生が在学している。学生それぞれの特徴の特徴に合ったレッスンを心がけているが、そこに意識のズレが無いかどうかは常に留意しておかなければならない。

● 改善の方策

今年度のアンケート結果を継続できるよう、前項に述べたことを引き続き心がけていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

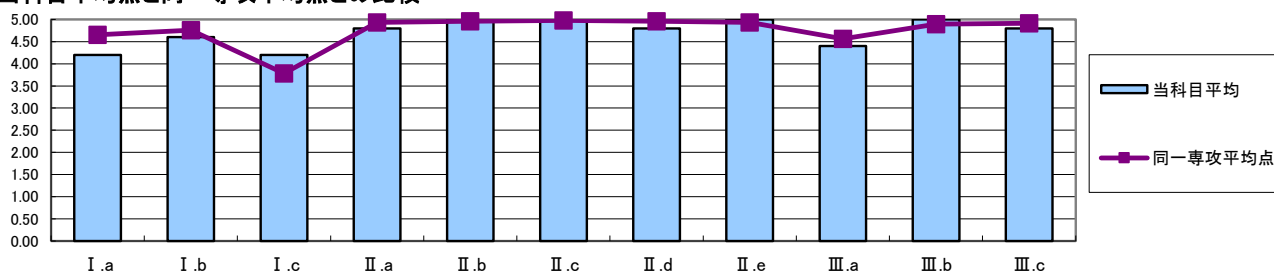
科目名	ピアノ
教員名	中島 裕紀

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	11
回答者数	5

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.20	4.65
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.76
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.20	3.78
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.80	4.93
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.98
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.80	4.96
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.93
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.40	4.57
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.89
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度履修は11名であり、Konzertfach、ピアノ専攻、教職実践専攻ピアノのそれぞれの専攻の学生のレッスンをを行った。

全体としては、良好な出席状況であったが、中には、生活上または、心理的な問題を抱えている学生もいるため、丁寧な対応をした。特に、留学生については、健康面、生活面、勉強の進捗など、毎回のレッスンにおいて、チェックが必要であった。個人レッスンという面を生かして、主となるピアノも含め、日々の生活や勉強の仕方、将来への取り組みなどを含めた総合的なケアをしながら指導を行った。

● 問題点

集計の結果は、教員に関する項目では「強くそう思う」が主となっており、大きな問題点はない。練習時間が少ない学生がいるが、週あたりの練習時間と1日あたりの練習時間の勘違いをしているのではないかとと思われる。

● 改善の方策

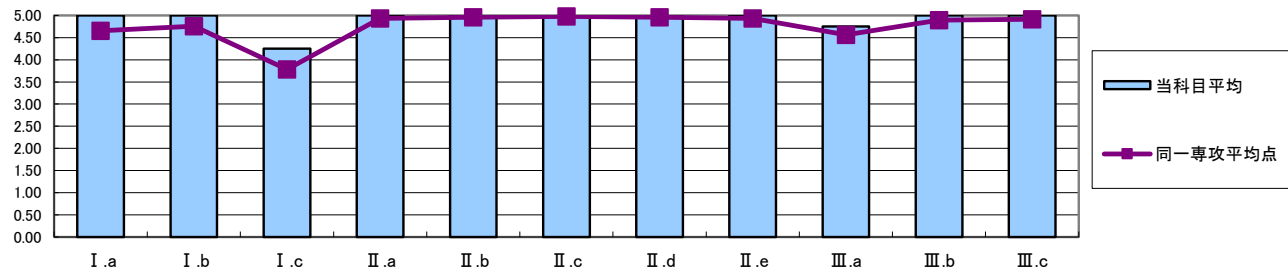
明らかな問題点は抽出されなかったが、今後とも多様な学生に対応できるように学生一人一人のニーズと進捗を踏まえながら、ディプロマ・ポリシーに沿った力を身につけられるように工夫しながらレッスンを進める。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	ピアノ	職名	03. 特任教授	履修者数	4
教員名	太田 幸子			回答者数	4

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.65
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.76
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.25	3.78
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.93
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.98
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.96
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.93
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75	4.57
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.89
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

令和4年度 4人の学生を担当し、全員より回答を得る。
内訳は、Konzertfach1名とピアノ科コース3名でした。
全員意欲的に、熱心に取り組んでおりました。
特にKonzertfachの学生は、年2回のウィーン研修、演奏会、試験の時間も長く、課題も多く、いつも多数の楽譜をかかえておりますが、熱意を持ち、よく努力を続けております。

● 問題点

全体的に特別な問題点はないように思う。
III-aの評価は、学生がどの様に考えたのか？
1人1人と話し合う事はなかったためかと思うが、私が1年間で振り返ると、全員の進歩が認められたと思いました。

● 改善の方策

現状通りの指導で良いと思いましたが、よりコミュニケーションを大事に、学生との意思疎通を大事にして行きたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

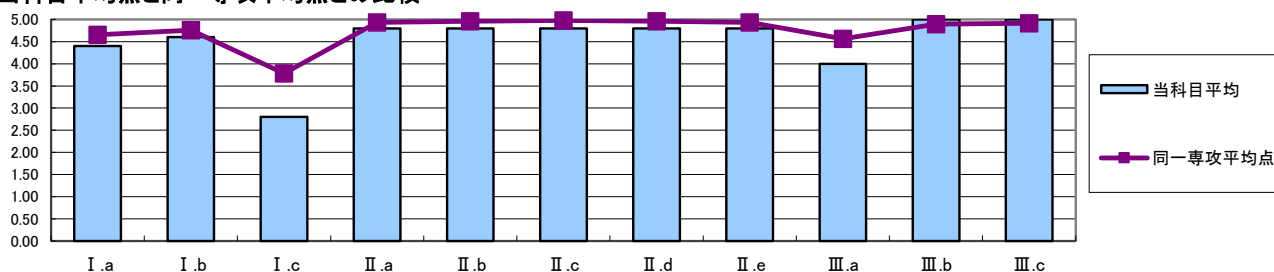
科目名	ピアノ
教員名	大場 文恵

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	7
回答者数	5

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.40	4.65
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.76
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.80	3.78
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.80	4.93
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.96
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.80	4.98
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.80	4.96
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.80	4.93
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.57
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.89
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

履修者6名(1年生1名・2年生1名・3年生1名・4年生3名)のうち5名より回答がありました。1名は社会人です。また1名は体調を崩した時期があり数回の欠席がありましたが、他の学生は無遅刻無欠席でした。5名はレベル差があるものの、それぞれが真摯に熱心に取り組む確実に成長を遂げました。特に社会人の学生は、長年身につけてきた弾き方や考え方からなかなか抜け出せず、苦勞したと思います。学生からは「毎回新しい技術や知識を教えてください吸収できるので、レッスンは大切な時間だった。」「試験曲についての知識や技術を沢山教えていただき感謝している」「全く弾けなかった私にとって、とてもためになる時間だった。」とのコメントがありました。

● 問題点

設問I.cの「1回のレッスンのために、平均どのくらい練習しましたか」への回答が2.8点と低くなっていますが、これは設問を一日平均と考えたことによるためだと思います。

● 改善の方策

学生達とは良好な関係を築いています。練習時間につきましては、良い機会ですので改めて聞いてみたいと思います。そして来年度もそれぞれのレベル・性格・理解力などを考慮し、持てる力を引き出せるよう寄り添っていききたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

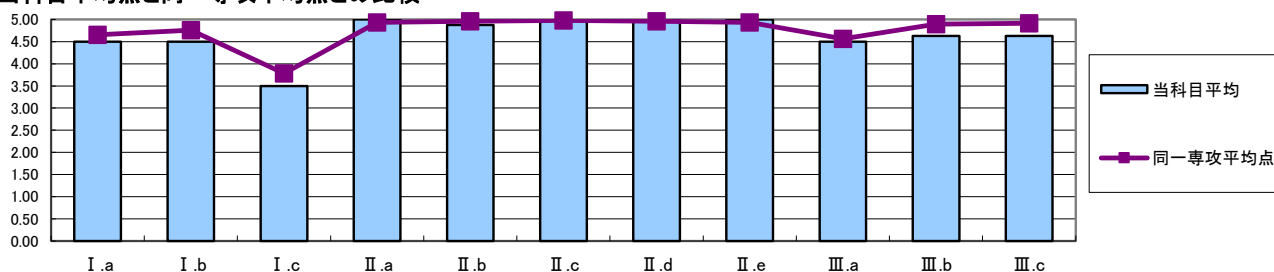
科目名	ピアノ
教員名	中島 剛

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	8
回答者数	8

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.65
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.76
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	3.78
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.93
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.88	4.96
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.98
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.96
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.93
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.57
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.63	4.89
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.63	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2022年度、大学ピアノ科8名を担当しました。コロナも大分落ち着き始めはいましたが、引き続き小まめな換気、手指消毒等徹底してまいりました。コロナ禍にも関わらず、音楽に意欲的に向き合い、ソナタも全楽章を通して学ぶことも出来、大変成長した一年に感じました。

● 問題点

残念ながら8名みんなが意欲的かと思えば、決してそうではなく、数名はなかなか譜読みも遅く、練習も疎かな生徒もいました。集計結果で1Cが平均より下がっていることが物語っています。

● 改善の方策

生徒のみならず僕自身の指導にも原因があったのかと思います。一人一人生徒に寄り添って何とか練習意欲を掻き立てるようなレッスンを心がけていきたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

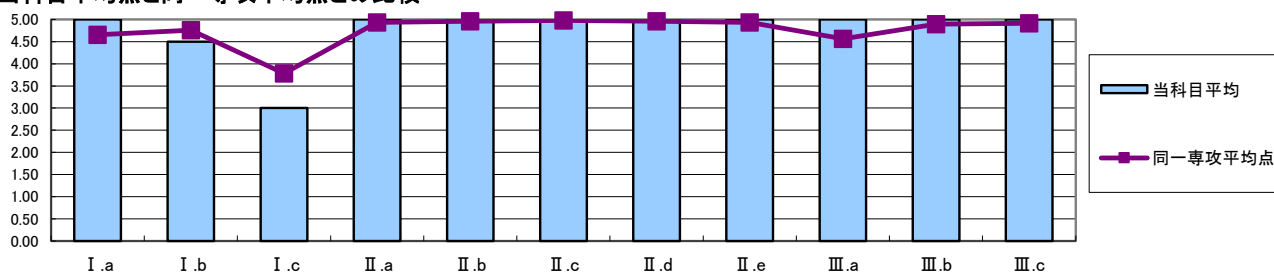
科目名	ピアノ
教員名	野田 説子

職名	07. 特任講師
----	----------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.65
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.76
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	3.78
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.93
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.98
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.96
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.93
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.57
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.89
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

大学の受け持ちは、専門が2年2名
副科は1年10名 2年11名 3年2名 4年3名 長期履修1名
大学の専門の学生2名は、附属からの学生である。二人とも大学の授業についていけるか心配していたが、2年目の今年度もなんとか修めることができた。1名は出席も良好で非常に頑張っており徐々に成長が見られる。もう1名は1年の後期の体調不良が2年目にも続いて、不安定なまま実技試験を受ける状況だった。

大学の副科の学生達は、特定の専攻の学生を除いては、総じて真面目に取り組んでいる。ただ自分の専門や演奏会に時間を取られてしまうので、副科ピアノの練習時間を作るのが難しいようだ。

● 問題点

専門生、副科生共にほとんどの学生は出席が良好で、取り組む姿勢も真面目である。ただ音楽の基礎的な力が弱い学生が目立つ。
専門生は、生まれつきの特性を持ち合わせており、関心や興味の持続が難しい。
副科の学生達は、日常的に忙しいようで、練習時間の確保が出来ない。

● 改善の方策

学生とのコミュニケーションを取りながら、何が問題になっているのかを一緒に考え、具体的に示していくことを心がける。
また、自信や意欲が失わないように努める

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

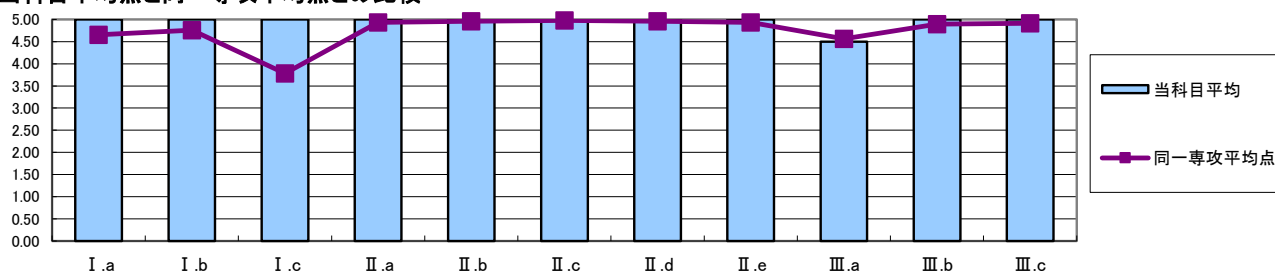
科目名	ピアノ
教員名	亀山 久美子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.65
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.76
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	3.78
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.93
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.98
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.96
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.93
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.57
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.89
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2022年度は大学二年と一年のピアノ専攻生2名から回答を得た。
設問I、IIともに5の回答。IIIも4、5の回答を見る限り、技術と共に音楽に対する知識や考え方など、意欲的に熱心に取り組んだ姿勢が表れている。
また、二名ともタイプの違う学生であり、学ぶペースや課題への取り組みも個性が感じられて大変興味深かった。
2名とも第二高等学校から担当している学生でもあり、それぞれの学習ペースや課題レベルの上げ方、それぞれの思考、感じ方など、長期間の延長線上で対応できるメリットは大きいと感じている。

● 問題点

特に大きな問題点は無いが、III-aに1名、4を入れていることに注視したい。

● 改善の方策

III-aに1名、4を入れていることについて。
学生自らが設定した目標に対し、納得できる所まで努力できたかを自問自答する姿勢が感じられる。
学生が「努力していること」に対し、成果が「出ている」か「出していない」かを客観的に分析し、努力の方向性が正しいか否かを提示すること。
取り組んだ内容の質によって、達成感や自信の付き方が決まってくるので、学生本人の迷いを取り払う作業が個別レッスンの要であることを認識すること。
学生の練習や努力を「成果」として学生に還元していかなければならない。
指導する側としては、現状に甘んじること無く学生の向上心や能力引き上げを逐一察知し、学生とのコミュニケーションを細かい部分まで拾っていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

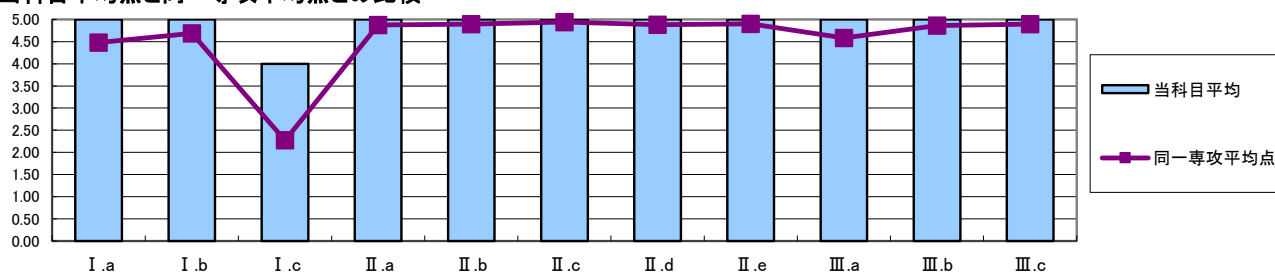
科目名	副科ピアノ
教員名	國谷 尊之

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.48
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.69
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	2.27
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.87
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.89
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2022年度は副科ピアノ1名を担当した。中国からの留学生であり、群馬大学教育学部からの大学3年次編入学生である。日本語能力に全く問題なく、学修意欲は非常に旺盛で、ピアノにおける時代様式に基づく演奏表現、身体の使い方、ペダリング等のピアノ奏法、楽式分析など、多くのことをレッスンで取り入れることができた。アンケート結果からは、学生が十分に練習・研究の時間をとり、学修成果を達成したことが伺える。

● 問題点

副科ピアノには、単にピアノが上達するだけではなく、音楽的素養を高め大学での学び全体を充実させる役割があると考えている。多様な学生に対して、今後もその点に留意していく必要がある。

● 改善の方策

今年度のアンケート結果を継続できるよう、前項に述べたことを引き続き心がけていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

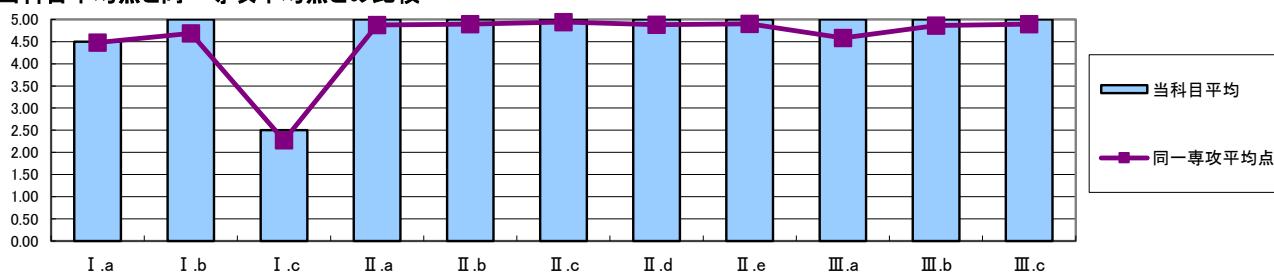
科目名	副科ピアノ
教員名	中島 裕紀

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	3
回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.48
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.69
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.50	2.27
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.87
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.89
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度履修者は3名で、その中2名より回答を得た。
副科実技ではあるが、非常にモチベーションの高い学生たちで、音楽表現に向けてとてもよく取り組んでいた。
集計結果についても、非常に高い点数となっている。

● 問題点

数字上特に問題となる項目はない。

● 改善の方策

明らかな問題点は抽出されなかったが、今後とも多様な学生に対応できるように学生一人一人のニーズと進度を踏まえながら、ディプロマ・ポリシーに沿った力を身につけられるように工夫しながらレッスンを進める。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

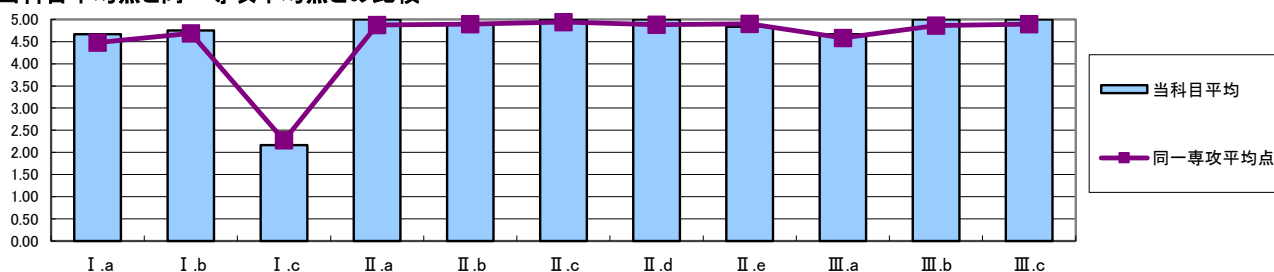
科目名	副科ピアノ
教員名	太田 幸子

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	17
回答者数	12

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.48
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.69
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.17	2.27
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.87
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.92	4.89
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.83	4.90
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

令和4年は副科生17人とあるが、レッスン配属発表後に1人入り、18人の学生を担当した。
 その中で2人の学生が、履修中止をしました。アンケートは4人欠席したため、12名より回答を得る。
 副科生は主専攻のレッスン、ボランティア、又演奏会と重なった学生が目立ちましたが、出席は良かったと思います。

● 問題点

II-eの設問 18名の学生数を担当し、Am10:00~8:00過ぎまでのタイムスケジュールの中で、こなす事は本当に大変です。
 相談事や又Telが入った場合等には時間がずれてしまうのは、仕方がない事と思います。

● 改善の方策

学生達が、私のスケジュールを理解されており、有難いと感謝しています。
 私的なTel等でなくても、迷惑をかけないようにと考えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

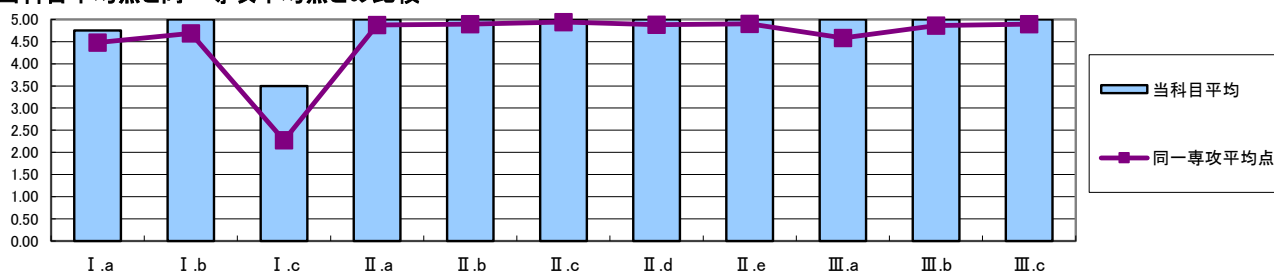
科目名	副科ピアノ
教員名	大場 文恵

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	6
回答者数	4

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.75	4.48
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.69
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	2.27
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.87
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.89
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

履修者6名(1年生1名・3年生1名・4年生4名)のうち4名より回答がありました。回答のなかった2名はウィーンで研修中でした。管楽器・打楽器・弦楽器・声楽の専門実技と副科ピアノを両立させるには努力が必要です。その上4年生は教育実習があり、中には中学校・高校と2度行った学生もいましたので、練習時間の確保に苦労していました。しかしレベル差はあるものの、それぞれが熱心に取り組み、成長していることを実感することができました。学生からは「やりたい曲をレベルに合わせて教えてくださったので楽しかった」「自分のペースで進めてもらったので、とても練習ができた」「来年も是非お願いしたい」とのコメントがありました。

● 問題点

設問I.cの「1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか」では2時間と回答した学生が2名いました。指導する立場から考えると、もう少し長く欲しいところです。

● 改善の方策

練習時間につきましては物理的に難しい学生もいますので、本人の事情とレベルを考え合わせて、演奏時間の短い曲を選んだり少しハードルを下げた曲を選ぶなどの工夫をしたいと思います。そして副科ピアノを通して更に音楽の視野を広げられるよう指導したいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

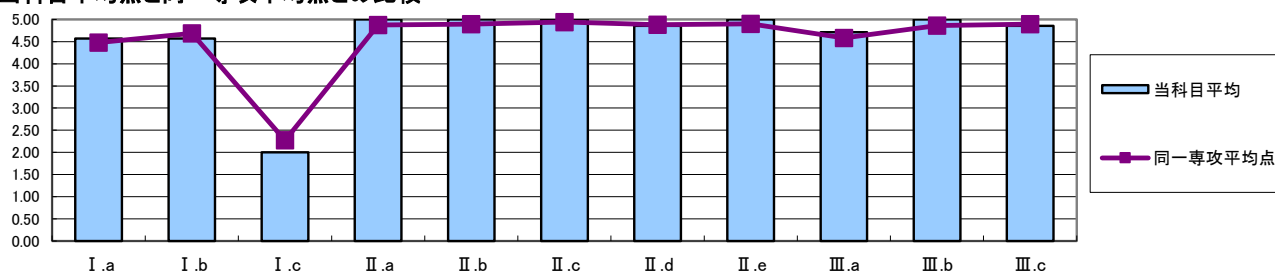
科目名	副科ピアノ
教員名	中島 剛

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	9
回答者数	7

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.57	4.48
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.57	4.69
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.27
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.87
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.89
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.86	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.71	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.86	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2022年度、大学副科ピアノ9名担当しました。副科ピアノの場合、学生が弾きたい曲を選んでいきます。初めは熱心に向き合ってもらえて早めに完成する生徒もいれば、明らかに練習してこない生徒もいました。

● 問題点

集計結果を見ても1cが低く、どうしたら練習してもらえるのか毎年の課題です。せっかく自ら副科ピアノを履修しているのに勿体無いを思います。

● 改善の方策

好きな曲のみならず、生徒にあった適切な曲を選んでいきたいと思います。試験前に一度だけおさらい会が出来、生徒自身が練習したこと成果に繋がったことが結果として大変意義あるものと感じました。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

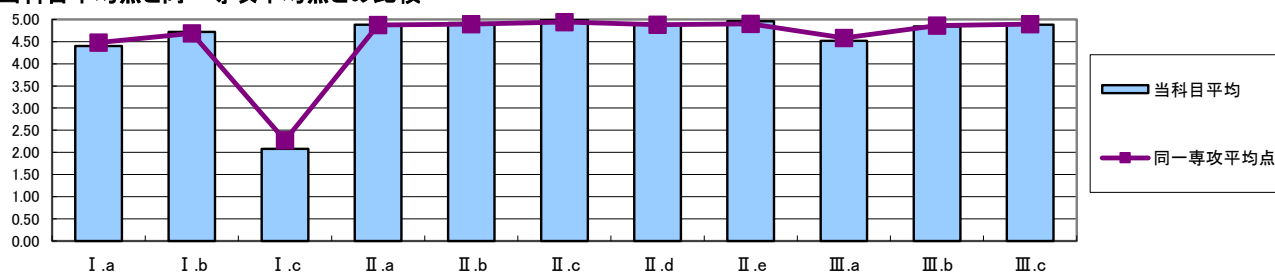
科目名	副科ピアノ
教員名	野田 説子

職名	07. 特任講師
----	----------

履修者数	27
回答者数	25

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.40	4.48
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.72	4.69
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.08	2.27
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.88	4.87
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.92	4.89
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.88	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.96	4.90
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.52	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.84	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

大学の受け持ちは、専門が2年2名
副科は1年10名 2年11名 3年2名 4年3名 長期履修1名
大学の専門の学生2名は、附属からの学生である。二人とも大学の授業についていけるか心配していたが、2年目の今年度もなんとか修めることができた。1名は出席も良好で非常に頑張っており、成長が見られる。もう1名は1年の後期の体調不良が2年目にも続いて、不安定なまま実技試験を受ける状況だった。

大学の副科の学生達は、特定の専攻の学生を除いては、総じて真面目に取り組んでいる。ただ自分の専門や演奏会に時間を取られてしまうので、副科ピアノの練習時間を作るのが難しいようだ。

● 問題点

専門生、副科生共にほとんどの学生は出席が良好で、取り組む姿勢も真面目である。ただ音楽の基礎的な力が弱い学生が目立つ。
専門生は、生まれつきの特性を持ち合わせており、関心や興味の持続が難しい。
副科の学生達は、日常的に忙しいようで、練習時間の確保が出来ない。

● 改善の方策

学生とのコミュニケーションを取りながら、何が問題になっているのかを一緒に考え、具体的に示していくことを心がける。
また、自信や意欲が失わないように努めていく

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

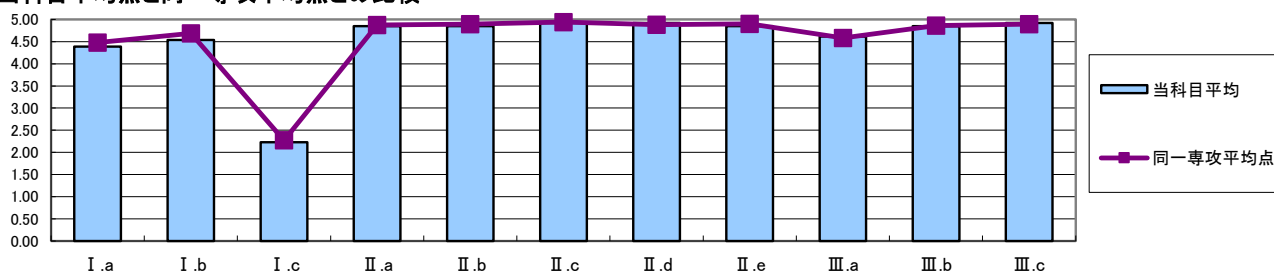
科目名	副科ピアノ
教員名	浅野 和子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	14
回答者数	13

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.38	4.48
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.54	4.69
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.23	2.27
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.85	4.87
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.85	4.89
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.92	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.92	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.85	4.90
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.62	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.85	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.92	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

目的 ピアノを通して音楽の楽しさやハーモニーの重要性、また専攻実技の手助けになるようなレッスンを旨とする。

内容 テクニックが上達する事と、曲を通じて音楽的な表現を習得する。

受講者 14名

状況説明 受講者は積極的にレッスンに取り組んでいたと思います。コロナの影響もあり休みがちになる学生もいましたが、体調不良の場合はきちんと連絡がありました。

設問に対しての回答はほぼ同一専攻平均点です。

● 問題点

I.c「1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか？」についての回答が1時間未満と3時間が23.1%、2時間が46.2%でした。1時間未満の練習時間ではレッスンでやった事を思い出す程度で終わってしまいます。

● 改善の方策

副科実技の為 練習時間がさほど多く取れないとしても、最低でも週に4日30分程度は練習時間を作るよう伝えようと思います。

レッスンの内容を忘れない為、進歩する為には必要な時間だと思います。また練習方法についても学生と話し合いたいです。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

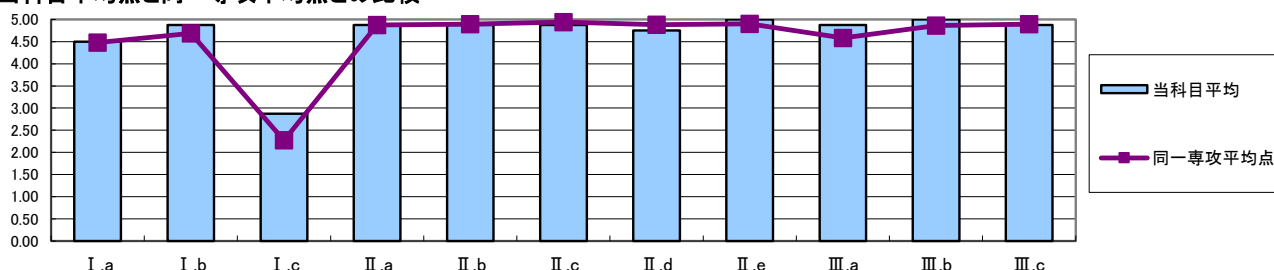
科目名	副科ピアノ
教員名	亀山 久美子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	9
回答者数	8

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.48
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.88	4.69
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.88	2.27
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.88	4.87
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.88	4.89
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.88	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.75	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.88	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2022年度は副科ピアノ履修9名の内、8名から回答を得た。
設問Ⅰ-a(出席)とⅠ-b(熱意を持って～)に関してはほぼ全員が出席良好であり、前年同様に公欠であっても学生からの振替の依頼は積極的であった。

新一年生も何名かおり、不安や自信の無さなどから来る緊張も見られたが、コミュニケーションやヒアリングも交えたことでそれぞれの個性の違いや豊かさを良く把握でき、比較的早めに萎縮も取れ学生達の魅力を伺い知ることが出来た。

設問Ⅰ-c(練習時間)については2が多く、次いで3、4、5の回答となり、学生の状況によっては練習時間の確保に苦心したことが顕著に出ている。

どうしても専攻や学業との兼ね合いが難しく、更には進路や就職活動等で時間を取られ、思い悩む学生も見られた。

設問Ⅱ-a、b、c(レッスン内容と教員について)に関しては1名のみ4、3の回答が見られた。

設問Ⅲ-a、b、c(レッスンに対する評価)についてはほぼ5の回答を得た。

2022年度は、学生の様子を第一にそれぞれの置かれている状況に配慮し、特に掛ける言葉選びに神経を使った。
今年度は学生からの声も例年よりも多くのコメントが寄せられており、各々が副科レッスンに対し有意義な時間と捉えてくれたことにポジティブな驚きもあった。

その成果も認識しつつ、アンケートの3、4等の回答も丁寧に注視していく必要がある。

このアンケートやレッスン内でのヒアリングを基に、今後の指導と対策の方向性や内容を推察・分析し、2023年度に生かせるようにしたい。

● 問題点

設問Ⅰ-c(練習時間)の低さ。
ここに関しては今後も練習時間と練習の習慣性の設定について、アドバイスと改善点を探りたい。
Ⅱ-d(レッスン内外における～)について、3の回答が1名見られる。

● 改善の方策

設問Ⅰ-c(練習時間)に関しては副科の位置付けも含め、学生の負担や抱えている課題との兼ね合いを念頭に慎重に改善点を探りたい。

それには学生個々のヒアリングが大切であり、丁寧なミーティングが必要である。

学生にとって、副科で身に付けるスキルが多々あることを伝えられるように、コミュニケーションを疎かにしないこと。

Ⅱ-d(レッスン内外における～)について3の回答が1名見られた。
毎年年度末に学生にレッスンでの要望や不安、疑問などが無かったかヒアリングしながら振り返るのだが、全員特に問題無いとの答えだったので3の回答は身が引き締まる思いである。
寄せてくれた学生達のコメントも大切にしつつ、引き続き、学生の様子を見守りつつ思い悩む学生を取りこぼさないよう留意したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

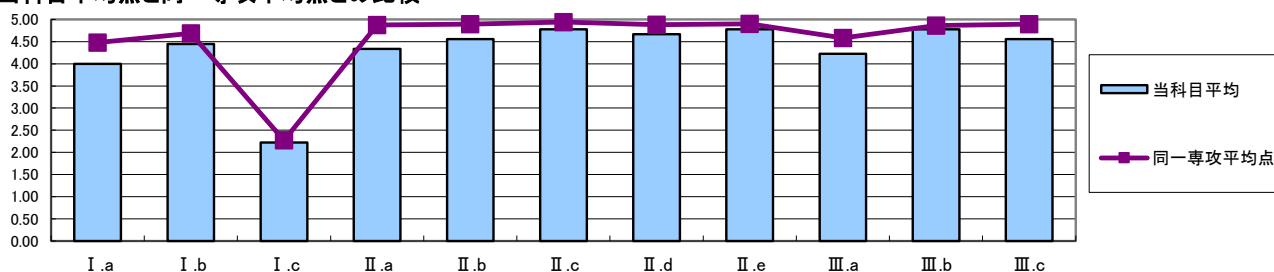
科目名	副科ピアノ
教員名	藤原 新治

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	12
回答者数	9

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.48
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.44	4.69
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.22	2.27
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.33	4.87
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.56	4.89
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.78	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.67	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.78	4.90
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.22	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.78	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.56	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

木曜日9:00-15:00 副科ピアノ専攻12名。
主専攻が旋律楽器や声楽の学生にとって普段共演しているピアノという楽器について、より深い理解と見識を広めるべくレッスンをを行っている。基本的には学期末の試験に向けて1曲を完成させる形式をとった。学生によっては自分の専攻曲の伴奏を持参してくる時もあり、その際は伴奏の何を聞くべきか、どのようにして自分の楽器と絡み合っているかなど分析をした。和声学が苦手な子には鍵盤を使った練習法、コード奏を学びたい学生にはコード理論から即興伴奏作り、教員採用試験への課題曲の指導など、広く柔軟に行った。
主専攻が忙しい、教職やウィーン研修と被る生徒が多く、自主練についてはあまりできなかったようです。こちらとしては毎日10-20分で出来る練習を提示するなどしました。

● 問題点

幸いにもネガティブな意見がありませんでしたが、どちらとも言えないが一番多い項目にレッスンの進め方についてです。学期初めに必ず生徒一人一人にヒアリングし、レベルや経験、どのくらいピアノに取り組みたいかを伺ってから通年のレッスンプランを計画しています。進度が思うように進まない生徒に関しては無理強いせず、無理のない範囲で進めてもらえるように工夫して宿題を出したり、レッスン内でともに練習するようにするなど配慮をしたつもりでしたがまだ足りなかったようです。

● 改善の方策

生徒の得意不得意をちゃんと理解して、その上で課題を出す必要があると感じております。譜読みが苦手な生徒には、比較的読みやすい曲を与えてまずは弾く喜びを味わってもらえるように配慮したいです。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

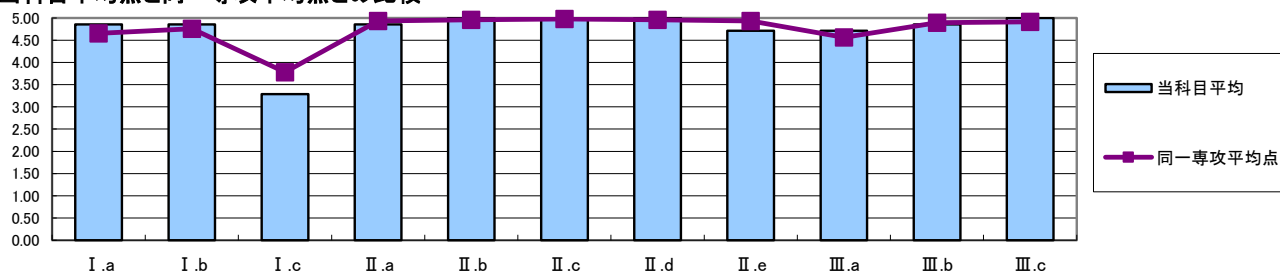
科目名	ピアノ
教員名	小林 律子

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	9
回答者数	7

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.86	4.65
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.86	4.76
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.29	3.78
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.86	4.93
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.98
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.96
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.71	4.93
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.71	4.57
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.86	4.89
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



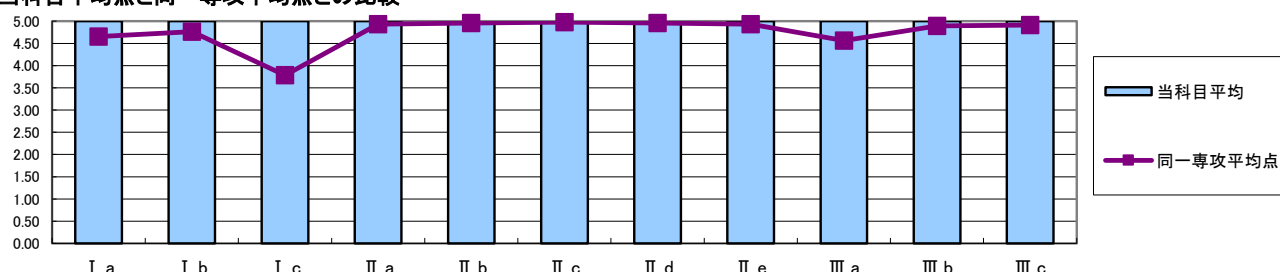
科目名	ピアノ
教員名	藤井 一興

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.65
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.76
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	3.78
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.93
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.98
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.96
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.93
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.57
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.89
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

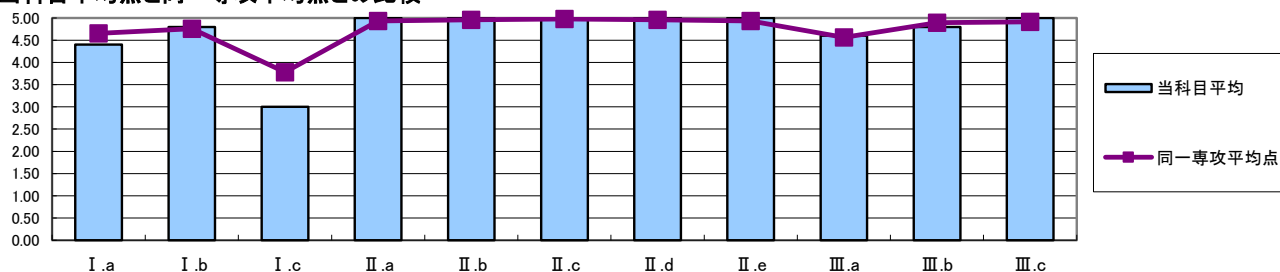
科目名	ピアノ
教員名	浦川 玲子

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	7
回答者数	5

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.40	4.65
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.76
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	3.78
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.93
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.98
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.96
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.93
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.60	4.57
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.80	4.89
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



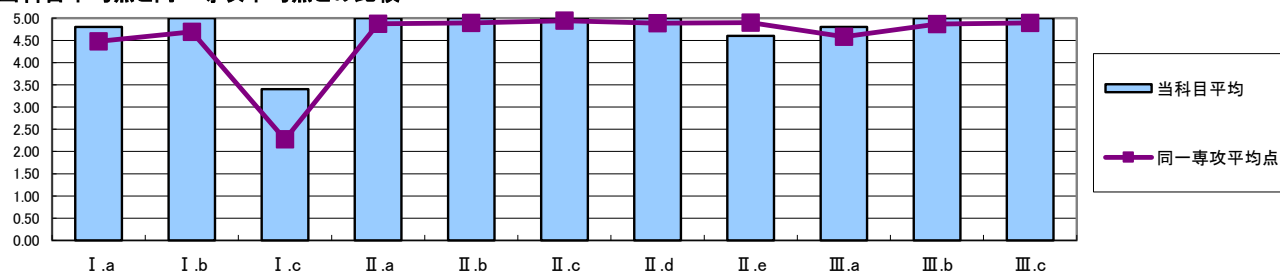
科目名	副科ピアノ
教員名	小林 律子

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	5
回答者数	5

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.80	4.48
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.69
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.40	2.27
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.87
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.89
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.60	4.90
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.80	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

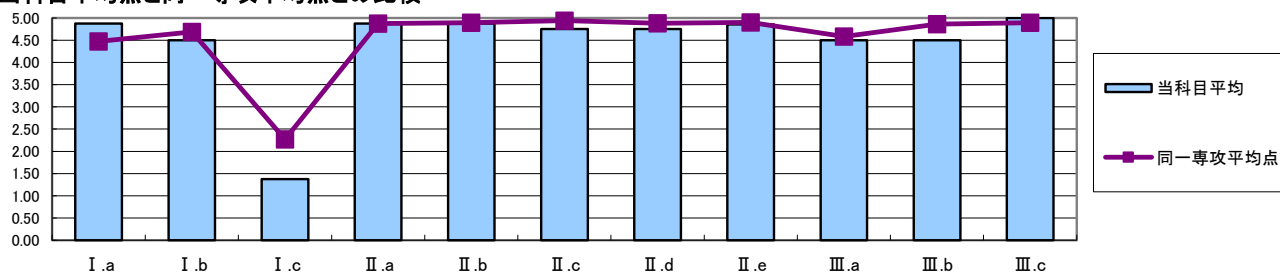
科目名	副科ピアノ
教員名	浦川 玲子

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	11
回答者数	8

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.88	4.48
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.69
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.38	2.27
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.88	4.87
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.88	4.89
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.75	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.75	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.86	4.90
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



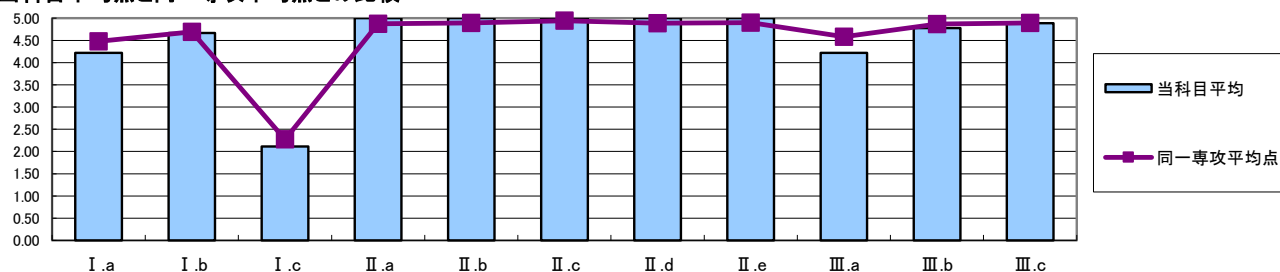
科目名	副科ピアノ
教員名	藪田 京子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	10
回答者数	9

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.22	4.48
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.69
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.11	2.27
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.87
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.89
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.22	4.58
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.78	4.86
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.89	4.89

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



声 楽

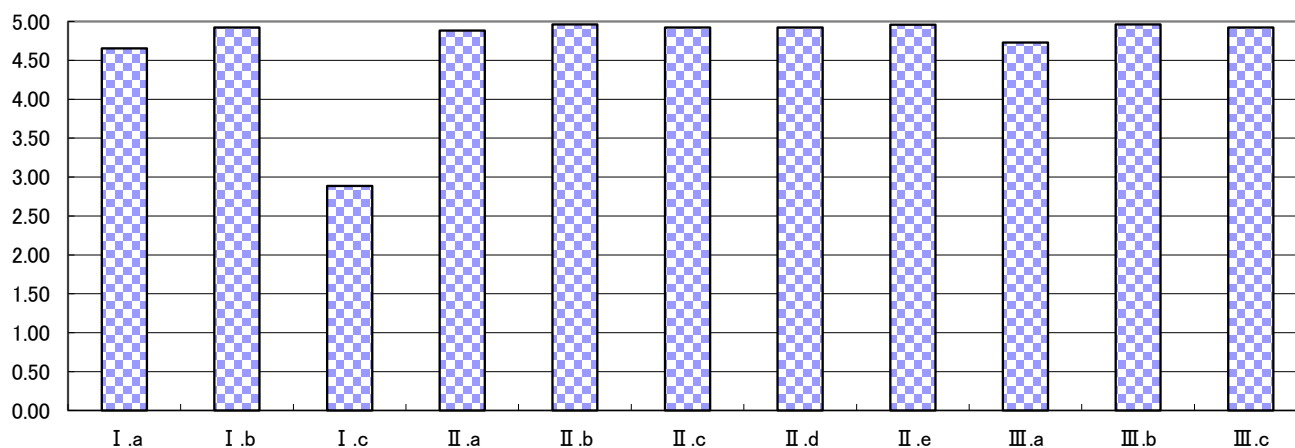
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	02. 声楽
科目数	6

履修者数	44
回答者数	26

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.65	20 76.9	3 11.5	3 11.5	0 0.0	0 0.0	26	0
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.92	24 92.3	2 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	26	0
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.88	7 26.9	1 3.8	3 11.5	12 46.2	3 11.5	26	0
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.88	24 92.3	1 3.8	1 3.8	0 0.0	0 0.0	26	0
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.96	25 96.2	1 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	26	0
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.92	24 92.3	2 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	26	0
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.92	24 92.3	2 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	26	0
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.96	24 96.0	1 4.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	25	1
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.73	19 73.1	7 26.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	26	0
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.96	25 96.2	1 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	26	0
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.92	25 96.2	0 0.0	1 3.8	0 0.0	0 0.0	26	0

02. 声楽 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

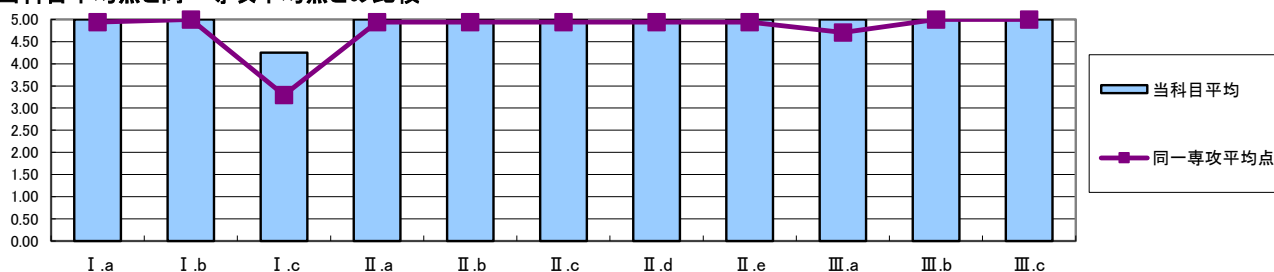
科目名	声楽
教員名	佐藤 泰弘

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	4
回答者数	4

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.94
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.25	3.29
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.94
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.94
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.94
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.71
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

概ね順調にレッスンを進めていて、詩の朗読から楽曲を楽譜に忠実に歌唱するレッスンを毎回積み重ねることが出来た。各々の学生が発声技術を段々と身につけて、将来の音楽人として、また音楽教育家としての礎を積み重ねることが出来ていると思われる。

● 問題点

IのC「1回のレッスンのために、平均どのくらいの練習をしましたか。」という設問について、彼らの練習がまだまだ足りていないことがデータにはっきりと表れている。レッスンでの教員の指導に依存過多になっていることが反省材料である。各学生達の自主性を促す努力も私に必要不可欠であろう。

● 改善の方策

レッスンに向けての予習課題を、もっと詳細に予め出すことで、学生達の意欲を高めることも必要であろう。この対策については、今後大いに知恵を絞って課題を検討したい。そして予習とレッスン実践を結びつけて、各々学生達の更なるレベルアップを目指したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

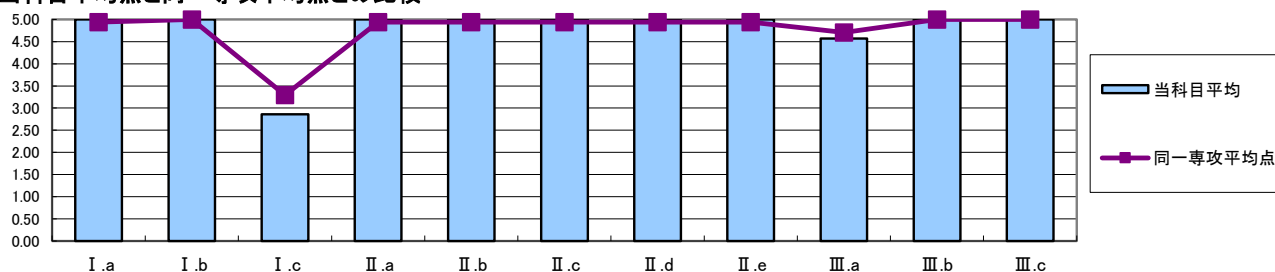
科目名	声楽
教員名	伊藤 和広

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	11
回答者数	7

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.94
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.86	3.29
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.94
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.94
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.94
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.57	4.71
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は、大学1年生が3人、2年生が2人（2名とも留学生）、3年生が2人、4年生が4人（社会人長期履修生1名含む）の計11名の学生が履修しました。大学4年生のウィーン研修とアンケートの時期が重なったため、今年度のアンケートには7名が回答しています。今年度の学生達はコロナ禍であることも考えますと、大変勉強熱心な学生が多く、それぞれが限られたレッスン時間の中でしっかり学修していました。アンケートの集計結果を見てもほぼ5.00であり、総じて良好であったと分析できます。設問 I cは、2.86と低いですが、謙虚に答えた結果であると考察します。III aについても同様であり、大きな問題は感じません。以上、シラバスに提示されている科目の目的については、概ね達成できたということが今年度の結果です。

● 問題点

設問 I cの部分について、声楽では他の専攻に比べてあまり多くの練習時間を取らないことが一般的ですが、実際に歌うこと以外に出来る勉強法、レッスンへの準備について細かく指示する必要があると感じます。

● 改善の方策

レッスン後に次回までに何が必要か等、それぞれの学生に応じたより具体的な勉強法を伝えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

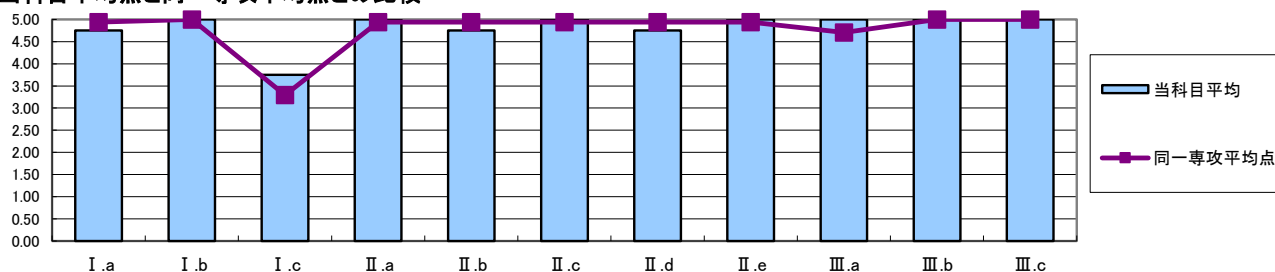
科目名	声楽
教員名	武藤 直美

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	7
回答者数	4

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.75	4.94
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.75	3.29
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.94
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.75	4.94
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.94
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.71
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

主専攻声楽4名の受講者に対して、シラバスに提示された授業計画に沿ってレッスンが行われていたと思います。当初は身体の使い方が十分理解できていない受講生もありました。しかし、呼吸法や発声法を学ぶにつれ、身体の使い方が少しずつ分かってきたようで、それからは、質問も積極的になり、曲の意味を音楽として表現しようとする意欲が出てきたと思料いたします。

● 問題点

今回の結果から判断しますと、設問II.aの回答にて学生のレベルに応じ、レッスンの進め方の見直しが必要であると思われます。また練習時間の確保や練習方法についての指導も必要であると思料いたします。

● 改善の方策

次年度も授業計画に沿ったレッスンを基本としますが、今まで以上に学生のレベルにあわせた指導を心がける所存であります。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

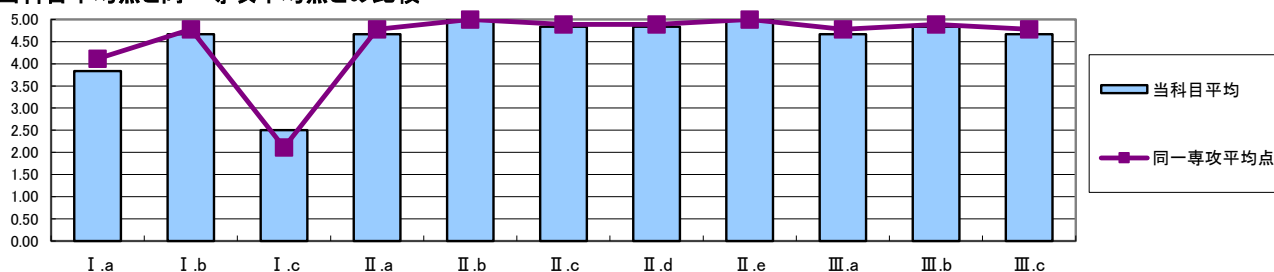
科目名	副科声楽
教員名	佐藤 泰弘

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	14
回答者数	6

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	3.83	4.11
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.78
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.50	2.11
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.67	4.78
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.83	4.89
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.83	4.89
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.78
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.83	4.89
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.78

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

副科声楽は、1人あたり20分程度という非常に短いレッスン時間なので、短時間でも効率よく凝縮したレッスンになるよう努めている。教則本としてコンコーネ50番とイタリア古典歌曲集を用いて、できる限りたくさんの楽曲に取り組ませた。たとえ副科であっても、学生達の教員への期待や要求は意外にも副科の枠を超えたハイレベルのものが求められている。

● 問題点

- ・ Ia「このレッスンの出席は良好であった」という設問については、若干平均を下回る結果になった。コロナ禍において、制限されている中での副科声楽レッスンだったが、声楽に対しての情熱は熱く、歌って大いに発散したい学生も少なくないことがわかった。これからはwith Coronaの風潮になっていくので、たとえ専攻外であっても、声楽を試したいと考える学生は増えていくだろう。
- ・ Icの「1回のレッスンのために、平均どのくらいの練習をしたか」という設問については、各々学生が主専攻の練習に大幅に時間を要するので、この問題については致し方ないと思われる。

● 改善の方策

- ・ もう時代の風潮により、コロナと共存して活動していくよう、流れは変わってきた。体が楽器である声楽であるので、健康管理にはなお一層の注意を促し、なるべくたくさん出席させて欠席を少なくさせるよう、教員としても気をつけなくてはならない。
- ・ 副科であっても、受講者への意欲は更に駆り立てており、担当教員としては、調査規則正しい生活感の中で予習が出来るよう、促していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

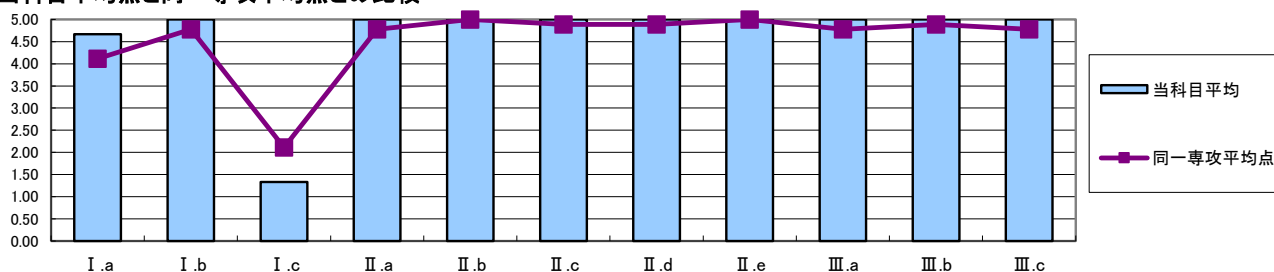
科目名	副科声楽
教員名	伊藤 和広

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.11
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.78
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.33	2.11
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.78
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.89
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.89
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.78
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.89
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.78

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は、履修1年目の学生が2名、2年目の学生が1名の計3名が履修しました。アンケートには3名全員が回答しています。今年度の学生達は、それぞれが抱える学校生活での問題点や将来の夢や希望に向かっての話などを交えてのレッスンになることが多く、副科声楽という位置づけをしっかりと捉えた上で、多くの学びがあったように感じています。アンケートの集計結果を見てもほぼ5.00であり、総じて良好であったと分析できます。設問I cは、1.33と低いですが、副科では大きな問題はなく、また謙虚に答えた結果であると考察します。以上、シラバスに提示されている科目の目的については、概ね達成できたということが今年度の結果です。

● 問題点

今年度の3名は全員管弦打楽器専攻で、主専攻が大変そうであることも含め、副科声楽への練習時間確保についての話を積極的にしていませんでした。

● 改善の方策

副科声楽の練習時間確保について、具体的に話します。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

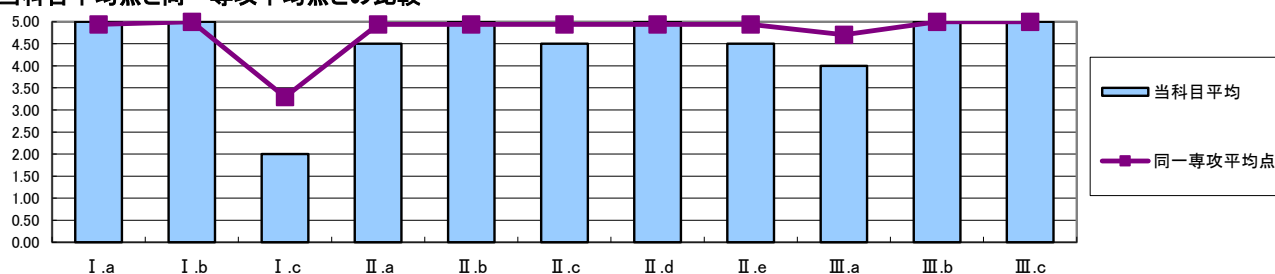
科目名	声楽
教員名	大島 洋子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.94
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	3.29
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.50	4.94
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.94
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.50	4.94
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.94
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.50	4.94
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.71
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



管弦打樂器

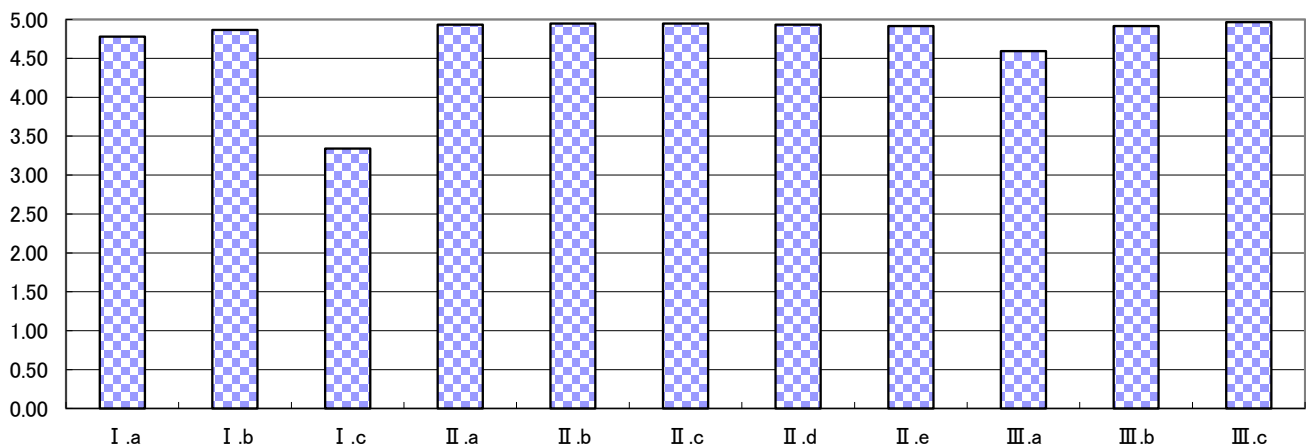
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	03. 管弦打楽器
科目数	15

履修者数	64
回答者数	59

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	このレッスンの出席は良好であった。	47	11	1	0	0	59	0
			79.7	18.6	1.7	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	52	6	1	0	0	59	0
			88.1	10.2	1.7	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	21	5	15	9	9	59	0
			35.6	8.5	25.4	15.3	15.3		
II	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	55	4	0	0	0	59	0
			93.2	6.8	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	57	1	1	0	0	59	0
			96.6	1.7	1.7	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	57	1	1	0	0	59	0
			96.6	1.7	1.7	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	56	2	1	0	0	59	0
			94.9	3.4	1.7	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	55	3	1	0	0	59	0
			93.2	5.1	1.7	0.0	0.0		
III	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	37	20	2	0	0	59	0
			62.7	33.9	3.4	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	54	5	0	0	0	59	0
			91.5	8.5	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	57	2	0	0	0	59	0
			96.6	3.4	0.0	0.0	0.0		

03. 管弦打楽器 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

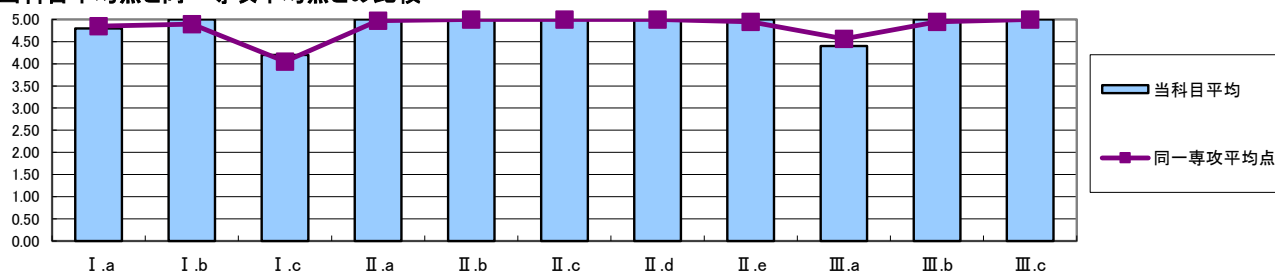
科目名	管弦打
教員名	宮野 陽子

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	5
回答者数	5

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.80	4.85
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.20	4.05
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.97
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.40	4.56
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

大学のヴァイオリンの専攻実技5人を受け持った。
それぞれ個性的な5人で、やり方は工夫しなければならなかった。
大学4年生は、意欲が高まってきて、夏前に「大学院に進学したい」との希望があった。中国出身であるが、日本の滞在も10年近くになっていて、言葉も上手であるので、大学院の論文も問題にはならないだろうと思い、夏休み明けから受験準備を始めた。無事合格できた。
3年生2人もそれぞれよく努力し、成長が見られた。
2年生は、オケ授業でトラブルがあり、後期はオケの授業にも来れなくなり、個人レッスンの方も休みがちになってしまった。後期の試験は難しい状況の中で、何とか受けることは出来たが、この1年、成果は殆どなかったように思う。
1年生は真面目で意欲的な学生だが、色々な事を心配しすぎるので、たまにレッスンを中断してカウンセリングをすることもあった。が、大学に入って刺激をたくさん受け、非常によく成長できた。

● 問題点

1回のレッスンのための平均練習量は、心身ともに好調な学生は問題ないと思われる。調子の悪い学生は、やはり練習に身が入らないのであろう。
到達目標の達成感も少し点数が低くなっている。

● 改善の方策

到達目標について、点数が低いのは、具体的な目標が立てられていなかったからだと思われる。小さな目標をいくつか決め、クリアできたかどうかを意識しやすくすると、明確な達成感を持つことができるだろう。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

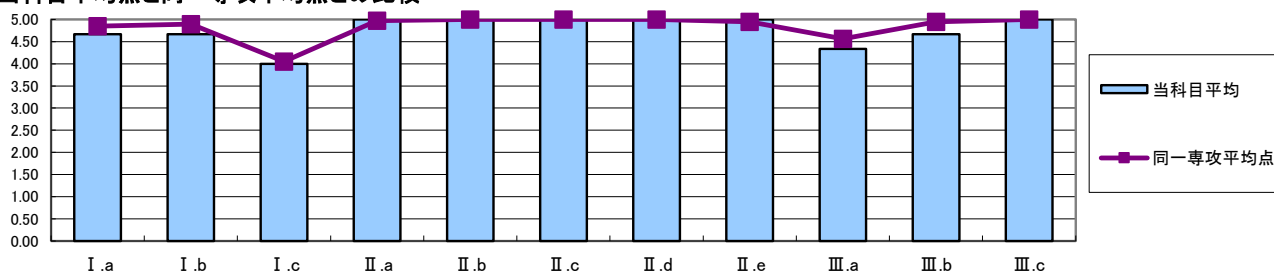
科目名	管弦打
教員名	加古 勉

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.85
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.90
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	4.05
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.97
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33	4.56
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.67	4.95
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2022年度、この授業ではトランペット専攻生3名の個人レッスンを行った。楽曲のレッスンを行うこと以外に、常に奏法のレベル・アップ対応を行っている。つまり、レッスンの中心は、基礎奏法・応用奏法の修得と音楽表現である。これは以前からも、そして今後も変わることは無い。また、学生個々のレベルに合わせたレッスンをしていることも当然である。私が重きを置いているのは学生の絶対的レベルよりも、どれだけのレベル・アップがみられたかということ。つまり伸び幅である。その観点から考察すると、3名共に大変順調であった。

基礎奏法の主な内容は「ロングトーン」「フロー・スタディー」「インターヴァル」「スケール」「フレキシビリティ」「プレス・コントロール」「姿勢」「フィンガリング」「タング・コントロール」「スロート・コントロール」「アパチュア・コントロール」「シラブル・コントロール」「ベンディング・コントロール」「サポート・コントロール」「イメージやアナロジーの活用法」など。

また、基礎奏法・応用奏法修得のために使用している教材は「アーバン教則本」「シグマンド・ヘリング」「ロバート・ゲッチェル」「ハーバード・クラーク」「ルイ・デイヴィッドソン」「マックス・シュロスバーグ」「ジェイムズ・スタンプ」「テオ・シャルリエ」「カーマイン・カルーソー」「ウォルター・スミス」「チャールズ・コリンズ」「ウィリアム・バックャーノ」など。レッスン生のレベル状況により、これらの教材の諸部分をピックアップして使用している。

● 問題点

本学ではアンサンブル教育（オーケストラ・吹奏楽・室内楽等）にもウェイトを置いている為、それらの事前譜読みやリハーサルに多くの時間を要している。その為、レッスンで扱う内容（エチュード・楽曲等）に対する準備が時期によっては、やや不十分になりがちのようである。

● 改善の方策

1日の大半を個人レッスンの為の準備練習に使うことは出来ない。各種授業、並びに、その予習・復習・課題等にも時間を費やさなければならない。オーケストラ・吹奏楽・室内楽等のアンサンブル授業の為の個人レベルでの譜読みも必要である。それ故に、限られた時間の中で如何に無駄の無い合理的な練習方法を組み立てるのか。また、ただ単にがむしゃらに練習するのではなく、think and play の習慣を持てるのかを改善のためのポイントにしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

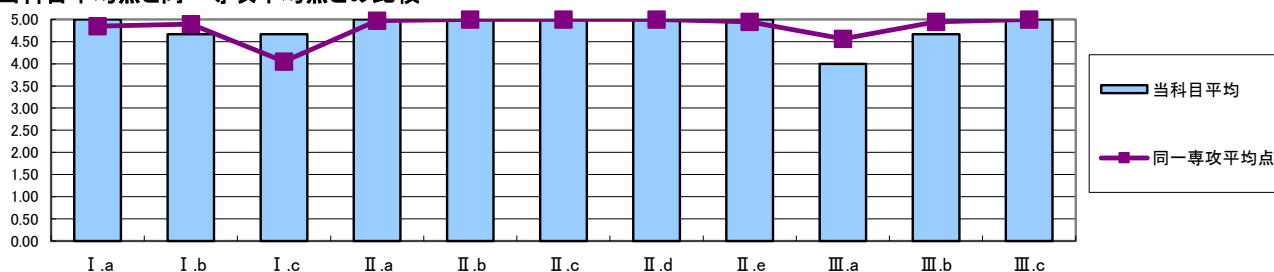
科目名	管弦打
教員名	加藤 里志

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.85
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.90
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.67	4.05
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.97
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.56
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.67	4.95
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

学生それぞれの進度に沿った課題の設定、また目的意識向上のために適切な指導を心がけた。またその結果がよく出ている。

● 問題点

学生の到達目標意識が高く、それぞれが課題を感じている。

● 改善の方策

引き続き、学生毎の進度や状況に合わせて、目標設定や目的意識を持てるようサポートしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

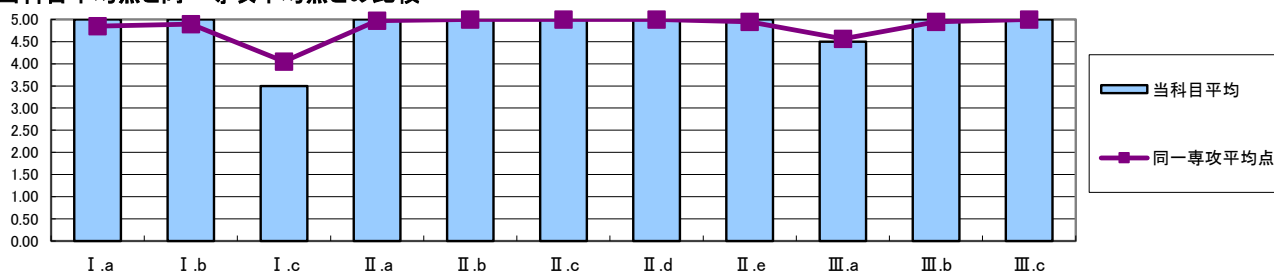
科目名	管弦打
教員名	須永 真純

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.85
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	4.05
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.97
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.56
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

実技(個人レッスン)クラリネット4年生2名、練習時間について、1名2.2時間と回答。開講時に示された到達目標を十分に達成できた。という項目で、ある程度そう思う、という回答。
 そこ以外においての回答は全て5であった。
 練習量に関しては、個人事情も考慮して行ったため、十分な確保ができなかったのではないかと分析。また、それにより目標達成感に関わっていると推測される。

● 問題点

アンケート結果と分析結果により考慮すると、意識のズレに関してはほぼないことがわかる。

● 改善の方策

次年度においても、学生の事情に合わせてレッスンを行いたいと考えているが、音楽に真剣に取り組んだことが思考判断能力の成長に繋がるよう、達成できる目標をつくり、できる限りの成功体験に結びつけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

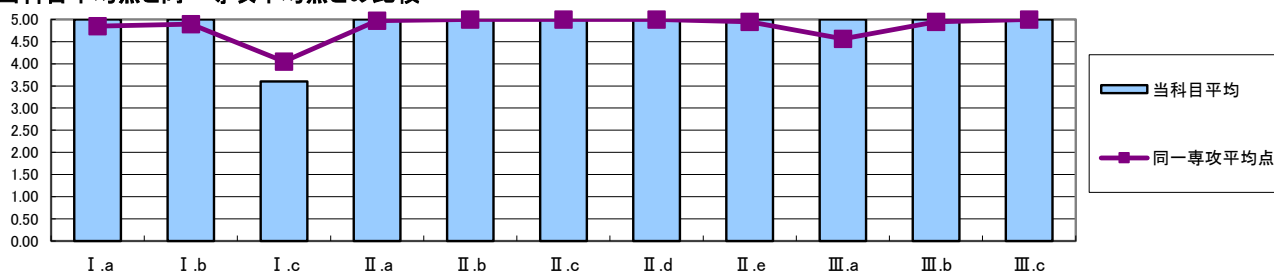
科目名	管弦打
教員名	中村 明子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	5

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.85
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.60	4.05
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.97
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.56
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は4年1名、2年2名、1年2名の5名の専攻生を担当しました。学生達の出席率は良く、彼らのレッスンの為の準備もまずまずでした。

● 問題点

I.cが平均より低いものの、結果は出ているので問題ないと思います。それ以外の項目から推定するに、学生とのコミュニケーションは上手く取れていると思います。

● 改善の方策

レッスン生がオーケストラやソロ定期で活躍していた事が、後輩達の良い刺激になりました。1、2年生も後を追うように気合いが入っている様なので、しっかりサポートして行きたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

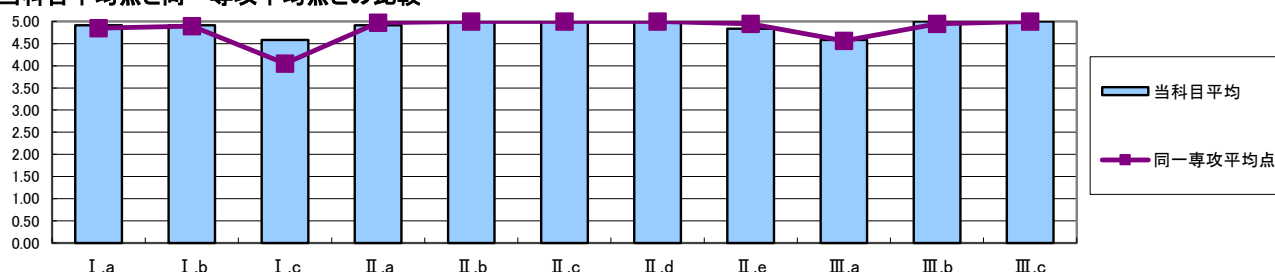
科目名	管弦打
教員名	渡辺 由美子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	13
回答者数	12

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.92	4.85
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.92	4.90
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.58	4.05
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.92	4.97
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.83	4.95
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.58	4.56
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

レッスンでは「自分を打楽器で表現するアイデアを実現するために必要なものは何か」について考えさせ、音楽を表現し伝える際に必要な実践的なスキルを磨き、イメージを具体化するためにさまざまなテクニックや表現力を修得させる。

実技試験、レッスン、課題、門下での発表会などを通して音楽応用力を拡大することを目的とする。資質能力や学ぶ姿勢の向上を念頭に置き、個々の学生の希望や学修の進捗を踏まえつつ可能性を最大限に伸長する教育の実践を心掛けた指導を行う。

学生は、大学での学びの目的や意義をしっかりと理解し、学校内での勉強会、楽器の技術向上は勿論、演奏会やオーケストラ鑑賞、中高生の楽器指導など外部での活動にも積極的に取り組んでいた。

● 問題点

アンケートで改めて振り返るとレッスンに向けて楽器練習だけでは得られない知識を、図書館を利用するなど、広く音楽を学ぶ意識を植え付けたい。

- ・レッスンシラバスの活用
- ・レッスン目標に沿って行われていたか
- ・ノートに書き留めるなど、丁寧に理解させる
- ・予習、復習の徹底

● 改善の方策

- ・第一回目のレッスン時に年間予定を確認。
- ・個々の問題に対し状況に応じて再構築する。
- ・予習や復習の内容をレッスン時明確に伝え、より具体化する。
- ・学生の要望に対しシラバスと乖離した場合調整する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

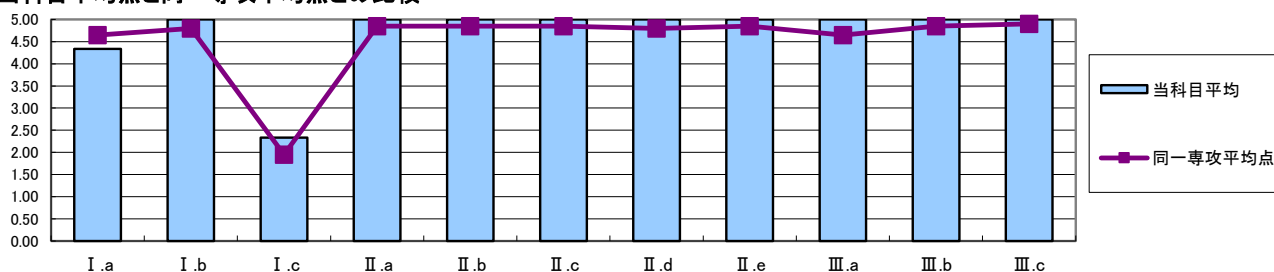
科目名	副科管弦打
教員名	宮野 陽子

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.33	4.65
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.80
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.33	1.95
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.85
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.85
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.85
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.80
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.85
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.65
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.85
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

副科ヴァイオリンの学生を3人受け待っていた。
留学生以外の2人は、大変真面目でよく練習できていた。初心者が2人いたが、順調に進み、教則本もほぼ1冊終えることができた。
留学生は、レッスンの時のみしか楽器に触れないようで、まずは週の中に1～2回は楽器に触るように、と話しているが、最後までそれは身に付かなかった。

● 問題点

出席に関しては、体調不良になりやすい学生が1人おり、欠席が多かったが、それは仕方ないことだと思う。
練習時間は、副科ということで、私も厳しく指摘はしていない。1年生の学生で、ほぼ毎日練習しているという、努力家もいる。

● 改善の方策

練習時間に関しては、それぞれ副科に対する思いに温度差があるので、今後も強く言うつもりはない。が、やはり最低限の誠意が見えるように導きたいと思う。副科に限らず、自分がやろうと決めた事に対して、取り組む姿勢を身に付けてもらいたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

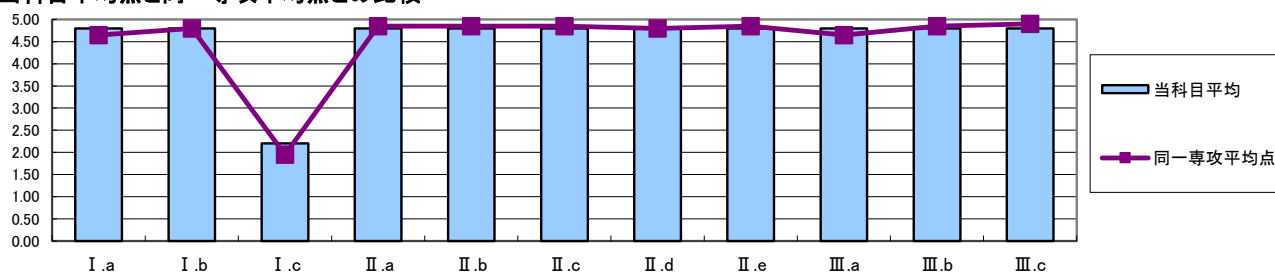
科目名	副科管弦打
教員名	岩間 丈正

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	5
回答者数	5

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.80	4.65
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.80
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.20	1.95
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.80	4.85
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.85
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.80	4.85
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.80	4.80
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.80	4.85
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.80	4.65
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.80	4.85
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

専攻学生同様、各学生のレベルに合った指導をしている。副科であるため高いレベルの演奏技術を求めるのではなく、楽しくフルートを吹いてもらうレッスンを心掛けている。ただ、中学校、高校の吹奏楽部の影響もあるのか、最近の副科の学生のレベルは高く、試験曲においては専攻学生と同様の楽曲を選曲する学生も珍しくない。それに従いレッスンの内容も専攻生に近いものとなる。回答はほぼ4～5に集中しているため、信頼関係も上手く築けている様である。実際に上手く吹けるようになり、試験の成績が上がり喜んでいる学生もいる。また、学生によっては難曲に挑戦することにより、モチベーションも上がっている学生も見受けられる。特に音楽療法専攻学生は将来現場でフルートを使用することが想定されるので、演奏技術を身につけさせることは重要と考える。

● 問題点

今年度は学生の準備不足もなく概ね良好であった。
ただ、前述の通り、副科といえどもレベルが高い学生がいるので、教員側が副科扱いし過ぎると、学生のモチベーションが下がってしまう可能性があるため、気を付けたいとしない。

● 改善の方策

レッスン担当教員として、個人のレベルに合わせたレッスンをさらに心掛けなくてはならないと思う。特にレベルの高い学生には注意が必要。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

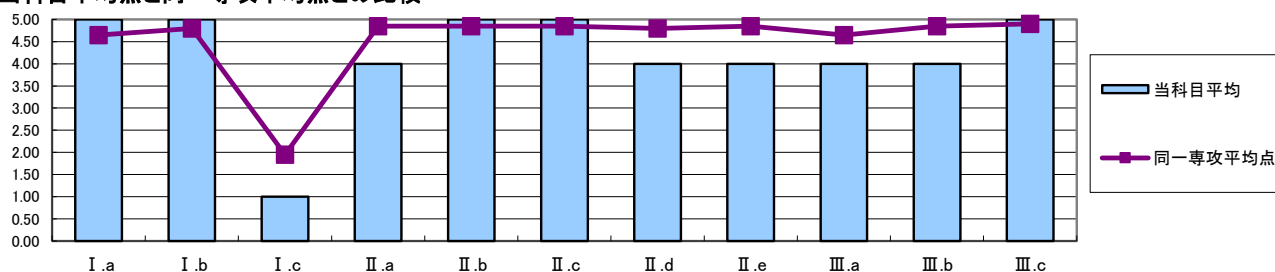
科目名	副科管弦打
教員名	須永 真純

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.65
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.80
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.00	1.95
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.00	4.85
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.85
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.85
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.00	4.80
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.00	4.85
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.65
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.85
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

実技(個人レッスン)クラリネット3年生1名、練習時間1.1時間未満、自由記述に、自分のペースで取り組める、とあり、総合的に判断として、意義あるものであったという、達成を感じられる結果になっている。
不満や要望として、レッスン室の変更が困る、とあった。

● 問題点

アンケート結果と分析結果により考慮すると、意識のズレに関してはほぼないことがわかる。

● 改善の方策

次年度においても、学生の事情に合わせてレッスンを行いたいと考えているが、音楽に真剣に取り組んだことが思考判断能力の成長に繋がるよう、達成できる目標をつくり、できる限りの成功体験に結びつけたい。
レッスン室の変更はなるべくなくすよう努め、変更に際しては余裕をもって行いたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

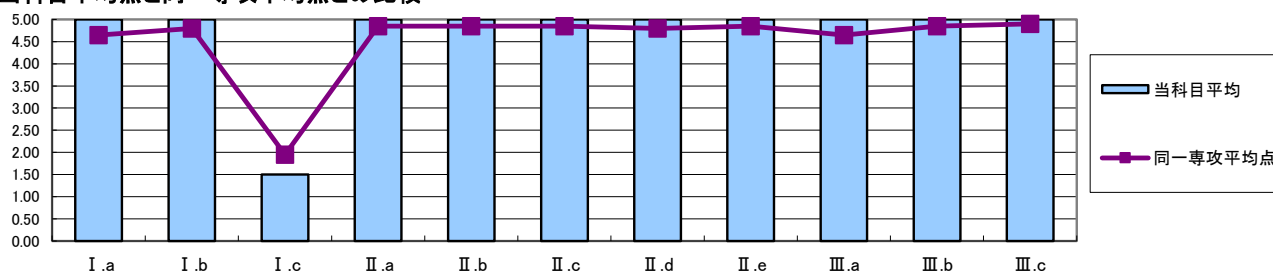
科目名	副科管弦打
教員名	中村 明子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.65
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.80
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.50	1.95
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.85
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.85
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.85
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.80
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.85
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.65
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.85
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年は声楽専攻生3年とピアノ専攻生2年の2名の副科レッスンを担当しました。

● 問題点

I.cが平均よりも低めですが、出席率も良く、楽しんでレッスンに取り組んでいたため、問題ないと思います。

● 改善の方策

フルートの演奏技能だけでなく、専攻科目にも役立つ総合的な音楽的素養が身に付くよう指導したいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

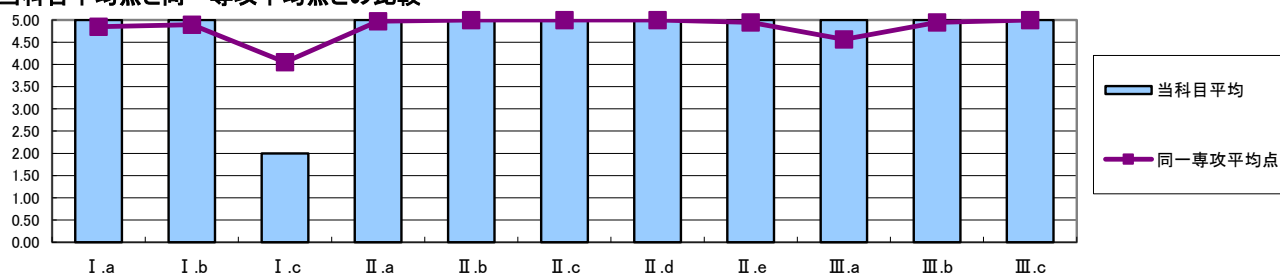
科目名	管弦打
教員名	澤 敦

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.85
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	4.05
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.97
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.56
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



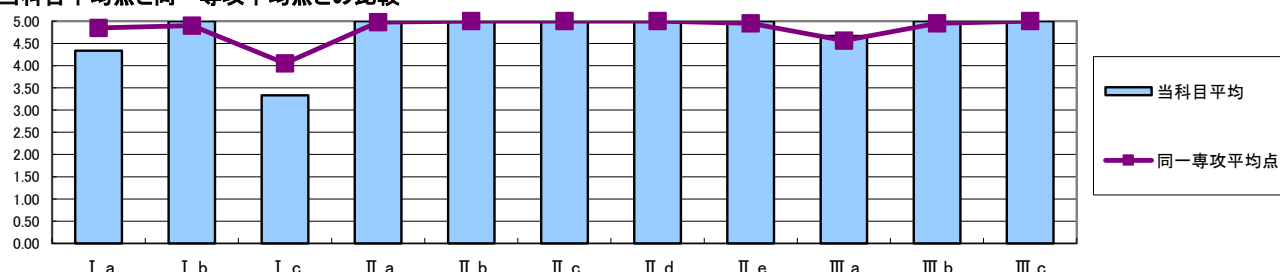
科目名	管弦打
教員名	松尾 賢一郎

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	3

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.33	4.85
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.33	4.05
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.97
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.56
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

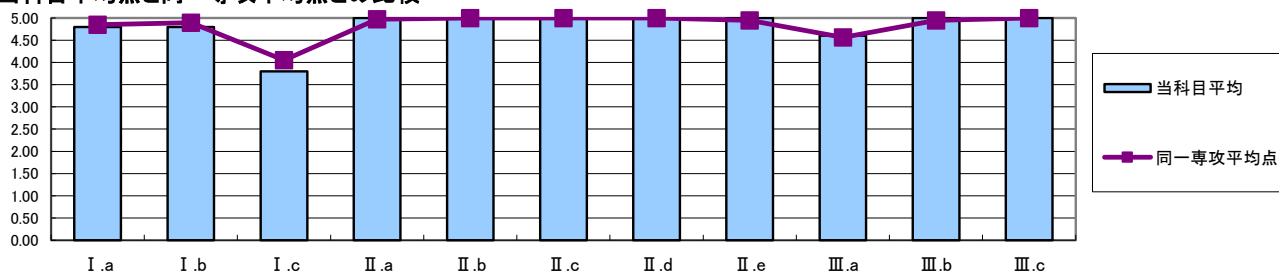
科目名	管弦打
教員名	村越 麻希子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	5

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.80	4.85
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.90
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.80	4.05
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.97
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.95
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.60	4.56
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



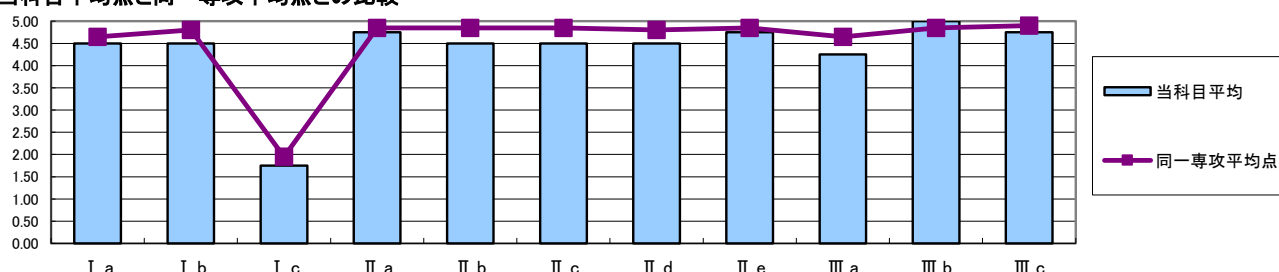
科目名	副科管弦打
教員名	松尾 賢一郎

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	4

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.65
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.80
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.75	1.95
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.75	4.85
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.85
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.50	4.85
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.50	4.80
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.75	4.85
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.25	4.65
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.85
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

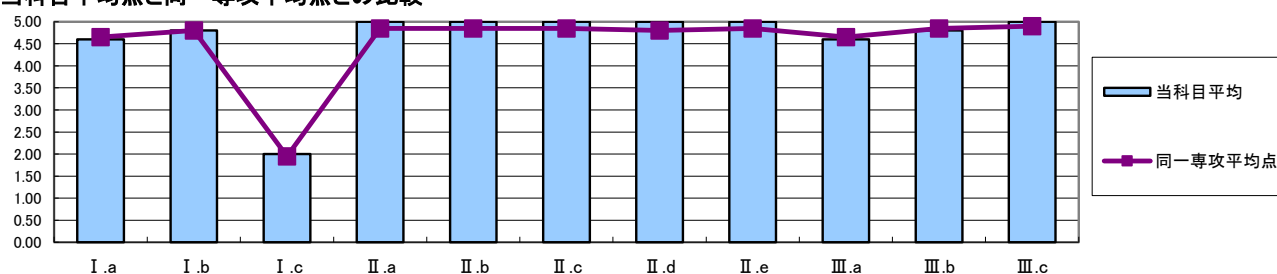
科目名	副科管弦打
教員名	村越 麻希子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	5

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.60	4.65
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.80
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	1.95
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.85
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.85
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.85
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.80
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.85
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.60	4.65
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.80	4.85
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



音樂療法

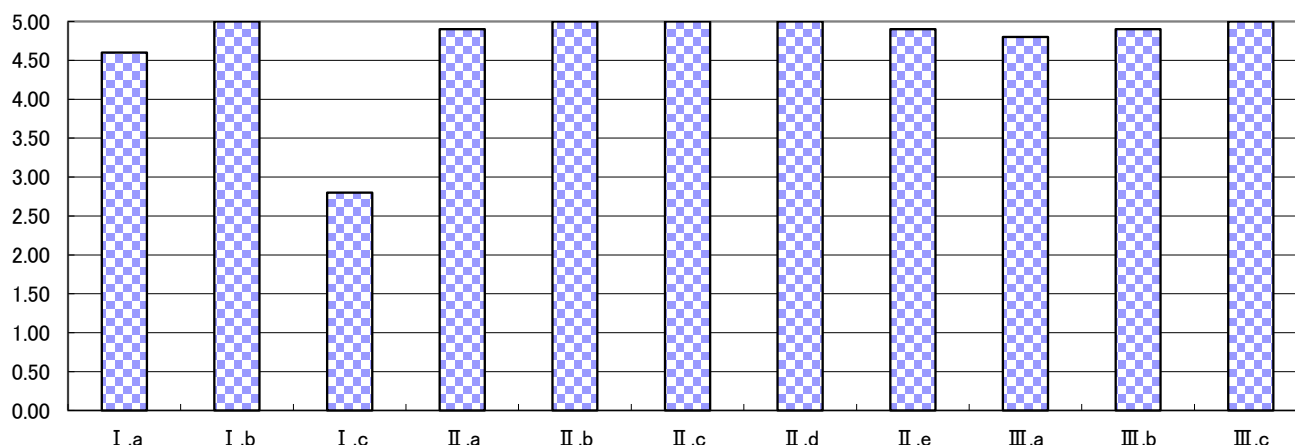
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	05. 音楽療法
科目数	3

履修者数	11
回答者数	10

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効 回答数	無効 回答数
			5	4	3	2	1		
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.60	7 70.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.80	4 40.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	4 40.0	10	0
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.90	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.90	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.80	8 80.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.90	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10	0

05. 音楽療法 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

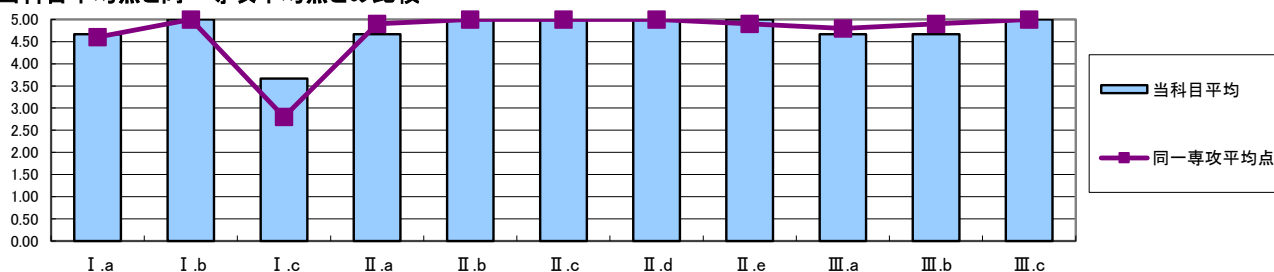
科目名	音楽療法8b(実習を含む)
教員名	馬場 存

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.60
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.67	2.80
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.67	4.90
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.80
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.67	4.90
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

「音楽療法8b」は、ゼミ形式の通年開講科目である。毎週木曜日1限に開講され、受講生は4年生3名であった。授業の主な目的は、本来は(1)優れた卒業研究遂行への指導と卒業論文指導、(2)実習とも関連を持ち、各学生の興味・関心のある学術領域の知識や技術を深めること、の二点である。しかし例年、卒業論文の作成に多大な時間を要するため、(1)の卒業研究指導が中心となった。なお、アンケート上の分類は「実技(個人レッスン)」となっているが、実際にはレッスンではないので、アンケート質問項目が授業の実態に相応していない点がある。点数は、当専攻平均とはば変わらない結果となっていた。

特に平均より高い得点となっているのはI.c「1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか」であった。卒業研究という課題の性質上、練習ではなく、自力での文献調査などがこの項目に相当するのであろう。確かに学生はかなり多くの文献に目を通し、その理解にも時間をかけているようであった。その点は評価に値する。また、IIのb～dが満点の評価であったが、II-a「このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた」は、1名の学生が「ある程度そう思う」と回答したため4.67という値になった。推測するに、1名の学生は比較的遅刻が多く、何らかの理由で学習に苦労している様子であったため、ついてくるのに苦労していたと思われる、その反映であろう。そのような場合は何らかの配慮が必要なのかもしれない。

● 問題点

「現状の説明」に記したように、1名の学生が、授業の進行に着いてくるのに苦労していた可能性があるため、そのような学生にも配慮した、きめ細やかな指導を行う必要がある。

● 改善の方策

この講義は、先に記したように卒業研究指導が主なため、個別に指導する場面も多い。そのような場で、本人が戸惑っていること、困っていることなどを積極的に拾い上げるよう留意する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

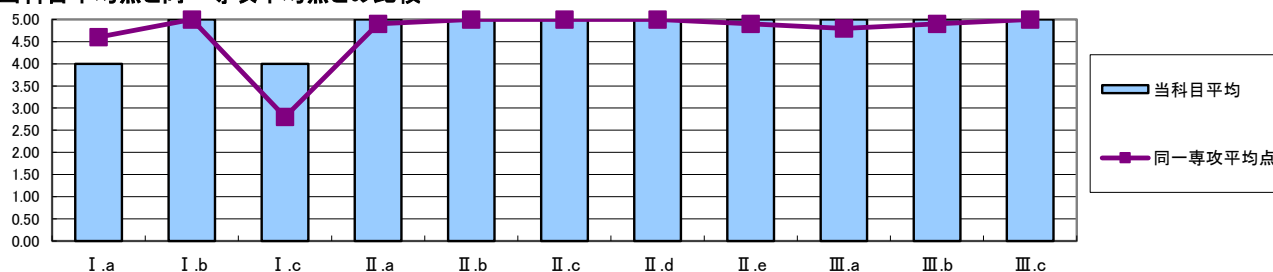
科目名	音楽療法8a(実習を含む)
教員名	木下 容子

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.60
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	2.80
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.90
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.80
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.90
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

<当科目の目的>

卒業論文発表に向けて、論文を執筆する論理的思考力や客観的で説得力のある文章力・文章構成力を身につける。実習では、前年度までに体験して学んだ臨床知識・技術をさらに高める。また、それらを社会生活に活かす展望を得る。

<内容>

卒業論文の各自の研究テーマを確立し、集団ディスカッションや個別指導を通して卒業論文を執筆する。実習では、対象者の理解、伴奏の手法、音楽・非音楽的な対象者への即興的対応、対象者との関係性の構築などの臨床技術を、実習と授業の双方から体得して高めていく。

<授業形態>

実習は、実践・ロールプレイ・ディスカッションで行った。授業は、ロールプレイ・ディスカッション・講義形式で行った。

<受講者数> 4名（回答者は3名）

<開講曜日・時限> 月曜日 4限

<受講者の状況説明>

回答した中の2名は、実習・授業ともに熱心に取り組んでいた。授業では、卒業論文執筆のために自主的に研究を進め、教員の指導でさらに深めていく様子が年間を通して見られた。実習では、事前ミーティング・ロールプレイ・セッション・事後ミーティングの流れを現場ごとに実施し、臨床レポートも時間をかけて作成して提出していた。

<アンケート結果より>

① Iの結果より、学生が積極的に授業にも実習にも取り組んだことが分かった。また、I-c「1回のレッスンのために、平均どのくらい練習しましたか」についての結果は、2名が「5時間以上」で、1名は「2時間」と、論文執筆や実習のために学修したり練習したりする時間に差が生じていた。
② II-a～eの全てにおいての3名の回答から、授業や実習の指導に対して非常に満足していると思われる。
③ III-a～cの回答からも、授業や実習を受けて「新しい知識や技術を獲得し視野が広がった」、「意義のあるものであった」と捉えていることが分かった。これは、コロナの影響で遠隔（オンライン・オンデマンド）実習が継続していたが、後期11月より対面実習が増え、総合的に複数の実習形態で実習に参加できたことが影響していると思われる。

● 問題点

アンケート結果より、教員と学生間に大きな意識のずれは生じなかったように感じている。授業や実習において、学生一人一人に意見や感想、質問等を述べてもらい、学生同士や学生と教員が密にコミュニケーションしたことが影響しているように思われる。練習時間については、学生によってばらつきがあることが明らかになった。

● 改善の方策

2022年度の担当学生については、先述したように学生と教員とで密にコミュニケーションし、学生一人一人の状態に合わせて指導したため、学生が意欲的に授業・実習に取り組んだ結果となった。しかし、学生内でも練習時間に差があるため、次年度以降も受講する学生の状態に合わせて柔軟に授業を展開していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

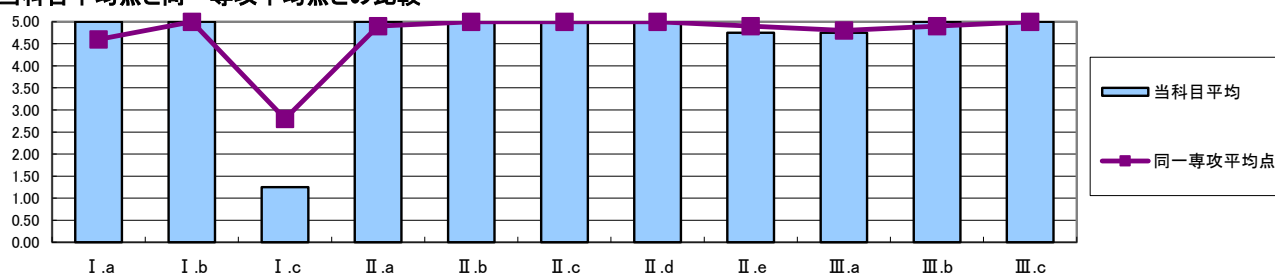
科目名	音楽療法4
教員名	二俣 泉

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	4

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.60
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.25	2.80
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.90
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.75	4.90
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75	4.80
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.90
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



音樂專門教育科目

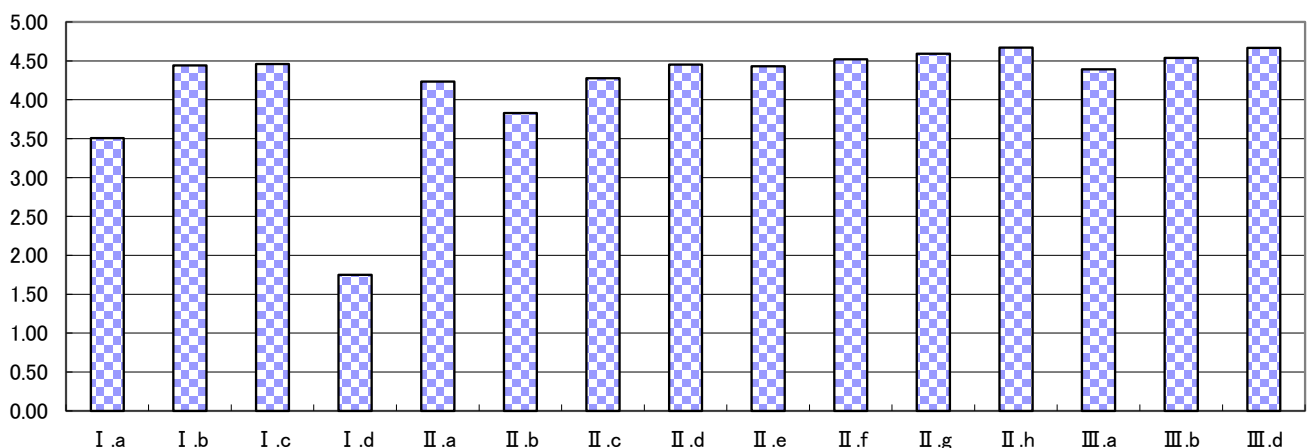
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	06. 音楽専門教育科目
科目数	101

履修者数	1,226
回答者数	962

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	3.51	309	241	188	74	149	961	1
			32.2	25.1	19.6	7.7	15.5		
	b	4.44	573	278	80	21	9	961	1
			59.6	28.9	8.3	2.2	0.9		
	c	4.46	556	312	68	12	8	956	6
			58.2	32.6	7.1	1.3	0.8		
	d	1.75	56	33	95	205	569	958	4
			5.8	3.4	9.9	21.4	59.4		
II	a	4.23	503	209	225	10	11	958	4
			52.5	21.8	23.5	1.0	1.1		
	b	3.83	116	231	544	38	30	959	3
			12.1	24.1	56.7	4.0	3.1		
	c	4.28	534	218	161	30	16	959	3
			55.7	22.7	16.8	3.1	1.7		
	d	4.45	619	198	110	19	13	959	3
			64.5	20.6	11.5	2.0	1.4		
	e	4.43	612	185	132	15	13	957	5
			63.9	19.3	13.8	1.6	1.4		
	f	4.52	647	179	121	6	5	958	4
			67.5	18.7	12.6	0.6	0.5		
	g	4.59	698	166	70	17	9	960	2
			72.7	17.3	7.3	1.8	0.9		
	h	4.67	731	147	72	4	3	957	5
			76.4	15.4	7.5	0.4	0.3		
III	a	4.39	543	268	130	8	8	957	5
			56.7	28.0	13.6	0.8	0.8		
	b	4.54	643	202	92	6	9	952	10
			67.5	21.2	9.7	0.6	0.9		
	c	-	727	396	349	194	128	940	22
			77.3	42.1	37.1	20.6	13.6		
	d	4.67	616	148	41	7	5	817	145
			75.4	18.1	5.0	0.9	0.6		

06. 音楽専門教育科目 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

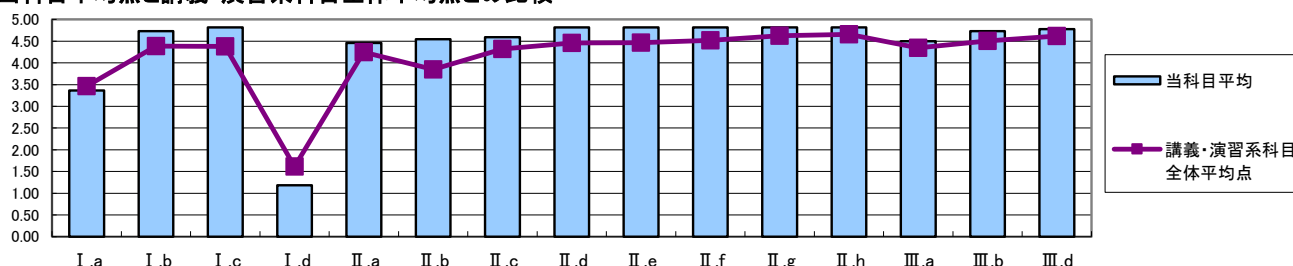
科目名	音楽科教育法Bb
教員名	大熊 信彦

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	23
回答者数	22

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.36		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.73		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.82		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.18		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.45		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.55		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.59		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.82		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.82		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.82		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.82		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.82		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.73		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			77.27	68.18	31.82	31.82	31.82
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.78		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

当科目の目的は、中学校や高等学校などで、音楽科、芸術科（音楽）の授業を担当する教員に必要な資質・能力を身に付けることです。このため、平成29年告示中学校学習指導要領、及び、平成30年告示高等学校学習指導要領の理解、学習指導案の作成、学校現場での授業展開を見据えた授業づくりなどを内容とし、理論と実践の往還を大切にしながら、講義、グループ・ワーク、模擬授業、協議を組み合わせて実施しました。

水曜日の3時限に教職課程を履修している23人の学生が受講しました。授業に臨む学生の姿勢はおおむね意欲的で、協力し合いながらグループ・ワークを行い、模擬授業に真摯に取り組み、協議にも積極的に参加していました。

授業改善のための学生アンケート集計結果において、「自分のためになったことは何ですか（複数回答可）」の問いに対する当科目の回答率を、講義・演習系科目全体の回答率と比較すると、「新しいものの見方」は当科目の回答率が全体の回答率を大きく上回るとともに、「コミュニケーション能力向上」や「問題発見・解決能力」も全体の回答率を上回っていました。

この結果は、当科目の次のような特性が要因と考えます。すなわち、中学校や高等学校などの学校現場で実際に音楽の授業を行うことを想定した模擬授業などに取り組んだ経験が、学生にとって「新しいものの見方」につながったこと、また、学生同士が協力し合いながら授業の構想を練ったり、教師役と生徒役に分かれて協働的に取り組む過程で、「コミュニケーション能力向上」や「問題発見・解決能力」の高まりを実感できたと考えます。

● 問題点

「1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか」の問いに対して、8割を超える学生が「1時間未満」の回答でした。また、「自分のためになったこと」の問いに対して、「関連分野の学習意欲」については講義・演習系科目全体の回答率を若干下回っていました。

● 改善の方策

学生が授業の予習や復習を積極的に行い、学修を更に深めていくことができるように、今後、課題の設定などを一層工夫したいと考えます。また、科目の学修を通して、学習指導要領の理解や学校現場での授業づくりに関わる実践的な内容に留まらず、学生の「関連分野の学習意欲」などを高めることにもつながっていくような改善を図っていきたいと考えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

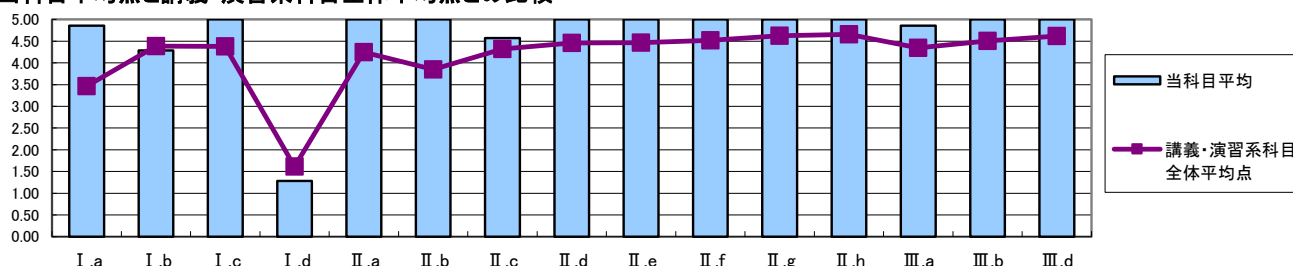
科目名	教育総合科目(教職実践)ⅠB
教員名	大熊 信彦

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	8
回答者数	7

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.86		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.29		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.29		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.57		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.86		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	85.71	100.00	85.71	42.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

当科目の目的は、学校の教員として、また、音楽科の教員として求められる資質・能力を総合的に高めることです。履修する学生は教職実践専攻生で、全員が教員を志望しています。そこで授業では、教員採用選考試験を受験することも見据えて、専門教養に関連する実技（ギター、和楽器（箏））の演奏や授業づくり、専門教養（音楽）の理解、学習指導案の作成と模擬授業の実施についての講義、グループ協議、演習、発表などを行いました。

金曜日の1時限に8人の学生が履修しましたが、授業に臨む学生の姿勢は積極的で、目的意識を持って真摯に取り組みました。

授業改善のための学生アンケート集計結果を見ると、回答者全員が、「難易度」について「適切」と答え、「熱意を持って積極的に取り組んだ」、「教員の熱意や工夫が感じられた」、「内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった」などの多くの問いについて「強く思う」と答えました。

また、「自分のためになったこと」の問いについて、当科目の回答率を講義・演習系科目全体の回答率と比較すると、全ての問いにおいて当科目の回答率が全体の回答率を大きく上回っていました。

このような結果の要因として、前述のとおり目的意識の高い学生が受講していること、当科目の内容が、受講する学生にとって必要な学びであることが考えられます。

● 問題点

「1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか」の問いに対して、約3割の学生が「2時間」、その他の学生は「1時間未満」の回答でした。また、前述のとおり「自分のためになったこと」について、全ての問いにおいて当科目の回答率が全体の回答率を上回っていた中、「コミュニケーション能力向上」については、他の問いよりも率の差が比較的小さい結果でした。

● 改善の方策

教職実践専攻生が学ぶ本科目は、次の時代の音楽科教育の担い手を育むことに直接・間接につながっています。そこで、今後は、学生が予習、復習を効果的に行うことを促して、自らの能力を一層高めるとともに、学生同士で協働する活動を充実させていく必要があります。この視点で、授業計画や内容の改善を図っていきたいと考えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

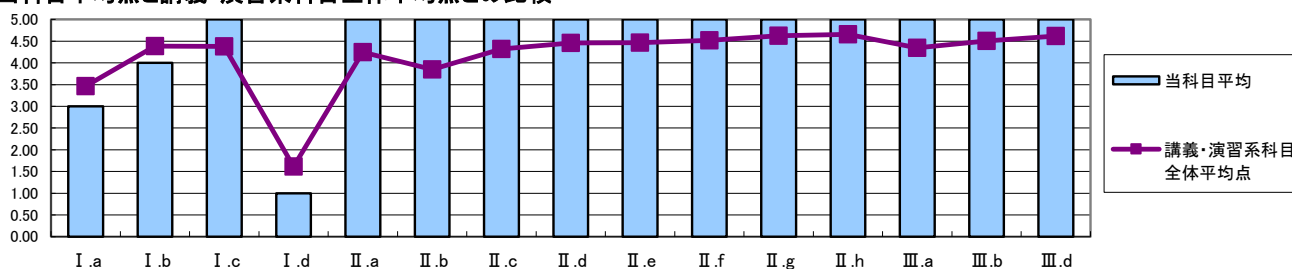
科目名	教育総合科目(教職実践)ⅡB
教員名	大熊 信彦

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

当科目の目的は、学校の教員として、また、音楽科の教員として求められる資質・能力を総合的に高めることです。「教育総合科目(教職実践)ⅡB」と同時開講しました。当科目を履修する学生は教職実践専攻生です。そこで授業では、教員採用選考試験を受験することも見据えて、専門教養に関連する実技(ギター、和楽器(箏))の演奏や授業づくり、専門教養(音楽)の理解、学習指導案の作成と模擬授業の実施についての講義、グループ協議、演習、発表などを行いました。

金曜日の1時限に1人の学生が履修しましたが、授業に臨む学生の姿勢はとても積極的で、目的意識が高く、真摯に取り組みました。

授業改善のための学生アンケート集計結果を見ると、「自分のためになったこと」(複数回答可)の問いについては、「新しい知識・技能」、「新しいものの見方」をはじめ全ての項目を選択していました。また、「熱意を持って積極的に取り組んだ」、「教員の熱意や工夫が感じられた」、「内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった」などの多くの問いについて「強くそう思う」と答えました。

このような結果の要因として、前述のとおり目的意識の高い学生が受講していること、当科目の内容が、受講する学生にとって必要な学びであることが考えられます。

● 問題点

「1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか」の問いに対しては、「1時間未満」の回答でした。授業中の取組によって一定の学修成果があがっている一方で、予習、授業、復習の一連の流れを確かなものにすることによって学びを一層深めるようにすることが課題と考えます。

● 改善の方策

教職実践専攻生が学ぶ本科目は、次の時代の音楽科教育の担い手を育むことに直接・間接につながっています。そこで、今後は、学生が予習、復習を効果的に行うことによって一層の学修成果が高まるような授業計画を立案し、内容の改善を図っていきたいと考えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

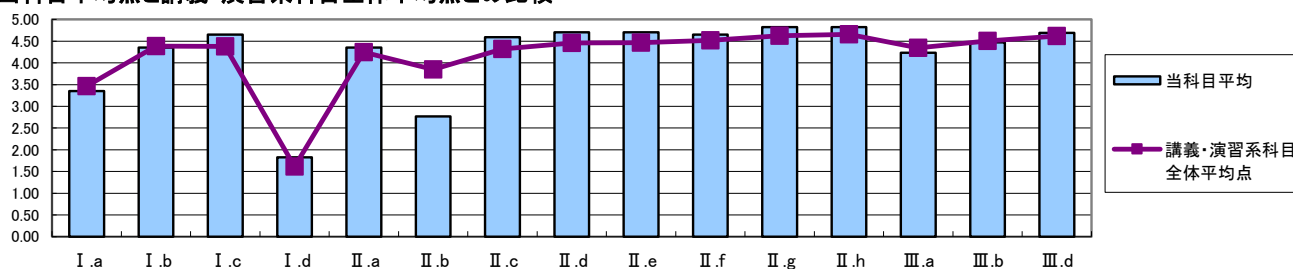
科目名	ソルフェージュ4c
教員名	大場 文恵

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	21
回答者数	17

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.35		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.35		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.65		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.82		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.35		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.76		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.59		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.71		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.71		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.65		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.82		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.82		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.24		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.47		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			93.75	37.50	25.00	18.75	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.69		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

履修者21名中17名から回答がありました。この授業はピアノに特化したソルフェージュで必修科目です。レベルにより2クラスに分け、移調奏と初見視奏を2名の教員で担当しています。これらは共に演奏家・指導者として活動する際に実践的且つ有効なスキルです。移調奏ではまず調性を理解した上で毎回提示する課題をさまざまな調に移して演奏できる力を養っています。また初見視奏では初めて見る楽譜から、その曲の曲想を即座に理解し演奏出来るよう、毎週沢山の課題と向き合っています。学生からは「段階、難易度が少しずつ上がっていったので、成長を感じることができた」「苦手だった譜読みが苦でなくなった」とのコメントがありました。

● 問題点

設問 II.b の回答を見ますと、「難しい」「やや難しい」と回答した学生が8割近くいました。ほとんどの学生が経験したことのない移調と初見視奏ですので、そのように感じたのだと思います。設問 I.d の予習復習の時間を問うていますが、少ないようです。またレベルを重視して2クラスに分けたところ14人と7人とアンバランスになりました。

● 改善の方策

難易度につきましては課題の研究をさらに深め、学生の様子を観察してさまざまな課題が提示できるようにします。そして学生には予習復習の大切さを伝えたいと思います。またクラス分けにつきましては、レベルを重視しながらも出来るだけ均等に分け、指名する回数が公平になるよう心掛けたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

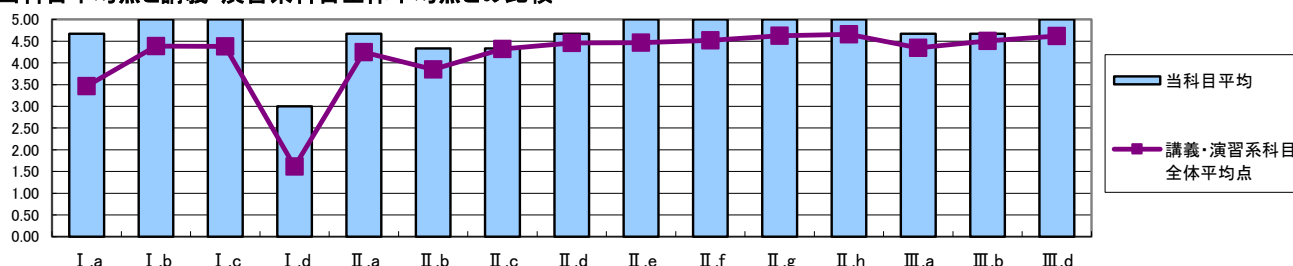
科目名	ピアノ伴奏法ⅠB
教員名	大場 文恵

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	3
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.67		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			66.67	66.67	33.33	33.33	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

履修者3名(ピアノ専攻2年生)より回答がありました。
 ピアノ演奏の重要な分野である伴奏を学ぶ授業です。伴奏は声楽・器楽とのアンサンブルであることから、ソロを弾く時に加えて更に多くのことを心掛けなければなりません。ピアノ伴奏法ⅠAで学んだ基礎を踏まえてⅠBでは更にレパートリーを広げ、研究員とともに演奏を作り上げています。
 3名の学生は授業で学んだことだけでなく、学生同士で切磋琢磨している様子も伺え、授業回数を重ねるごとに演奏に様々な要素が加わってレベルが上がってきたことが実感できました。将来伴奏で仕事がしたいという学生も現れ、嬉しく思っています。

● 問題点

設問Ⅰdで予習復習の時間を問うていますが、3点となっています。学生の負担が大きくなるよう演奏時間の短い課題を選んでいますが、詞や歴史などを調べたり音源を聴く時間を考えますと、もう少し時間をかけて欲しいと思います。

● 改善の方策

学生達をもっと音楽に関心をもち、調べること・知ることの喜びを感じられるよう授業で沢山の例を挙げるなど刺激を与えたいと思います。また、伴奏を弾くことによって視野が広がることや音楽を客観的に捉えることの大切さを折に触れて伝え、履修者の数を増やしたいと思っています。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

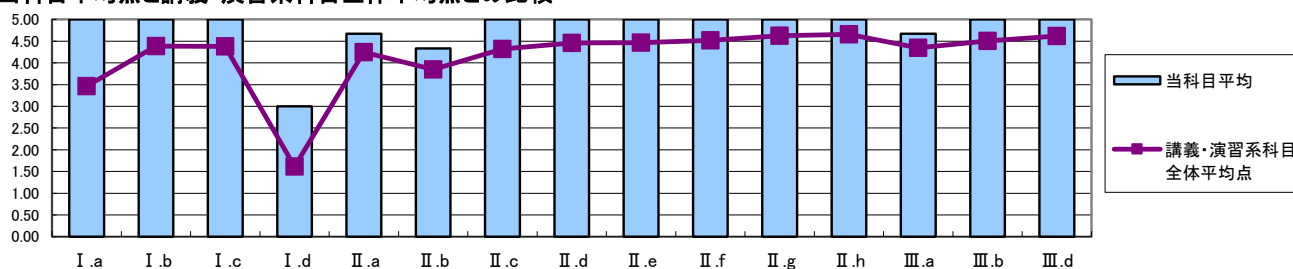
科目名	室内楽 I Bc
教員名	佐々木 雄二

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	3
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			66.67	33.33	0.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

サクソアンサンブル(ラージアンサンブル、四重奏)を通して、演奏技術、表現能力、各奏者間のコミュニケーション能力を強化し向上させることを目的にしている。

受講者数は1年生から4年生までの11名で、毎週木曜日の6限にこの授業を行っている。

学生達は、意欲的に授業に参加しているが、授業内容に不満を持っている学生もいるので、教材の選曲、授業の進め方、また四重奏を組むにあたっての人選等、改善点をしっかりと見つめて行きたい。学生全員に、まんべんなく目が行き届くようにする。

● 問題点

学生個々と顔を合わせて、話し合いをする時間を設け、各々からの要望をしっかりと受け止め授業に反映させる。学生個々の意識を大切にする。

● 改善の方策

授業内でも、教員側からも学生側へ頻繁に質問し学生達の思いを発言させることが必要だと考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

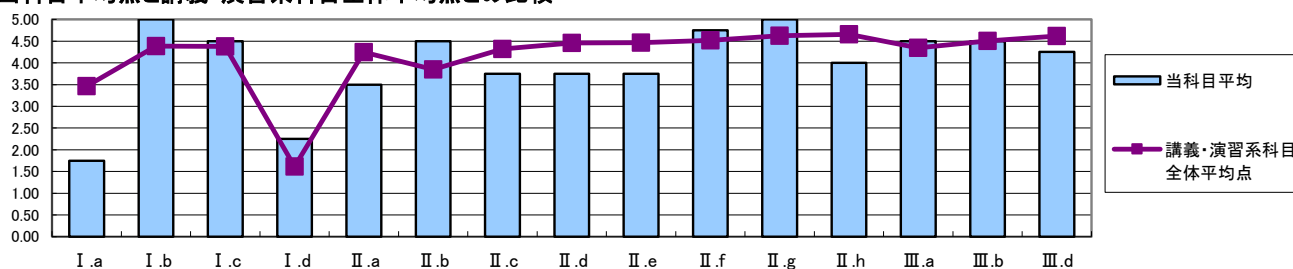
科目名	室内楽ⅡBc
教員名	佐々木 雄二

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	4
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.75		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.25		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.75		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.75		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.75		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	50.00	75.00	50.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.25		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

サクソアンサンブル(ラージアンサンブル、四重奏)を通して、演奏技術、表現能力、各奏者間のコミュニケーション能力を強化し向上させることを目的にしている。

受講者数は1年生から4年生までの11名で、毎週木曜日の6限にこの授業を行っている。

学生達は、意欲的に授業に参加しているが、授業内容に不満を持っている学生もいるので、教材の選曲、授業の進め方、また四重奏を組むにあたっての人選等、改善点をしっかりと見つめて行きたい。学生全員に、まんべんなく目が行き届くようにする。

● 問題点

学生個々と顔を合わせて、話し合いをする時間を設け、各々からの要望をしっかりと受け止め授業に反映させる。学生個々の意識を大切にする。

● 改善の方策

授業内でも、教員側からも学生側へ頻繁に質問し学生達の思いを発言させることが必要だと考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

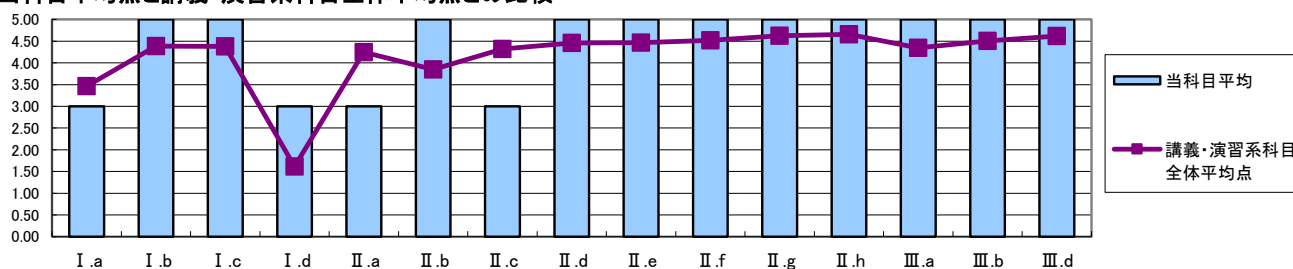
科目名	室内楽ⅢBc
教員名	佐々木 雄二

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

サクソアンサンブル(ラージアンサンブル、四重奏)を通して、演奏技術、表現能力、各奏者間のコミュニケーション能力を強化し向上させることを目的にしている。

受講者数は1年生から4年生までの11名で、毎週木曜日の6限にこの授業を行っている。

学生達は、意欲的に授業に参加しているが、授業内容に不満を持っている学生もいるので、教材の選曲、授業の進め方、また四重奏を組むにあたっての人選等、改善点をしっかりと見つめて行きたい。学生全員に、まんべんなく目が行き届くようにする。

● 問題点

学生個々と顔を合わせて、話し合いをする時間を設け、各々からの要望をしっかりと受け止め授業に反映させる。学生個々の意識を大切にする。

● 改善の方策

授業内でも、教員側からも学生側へ頻繁に質問し学生達の思いを発言させることが必要だと考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

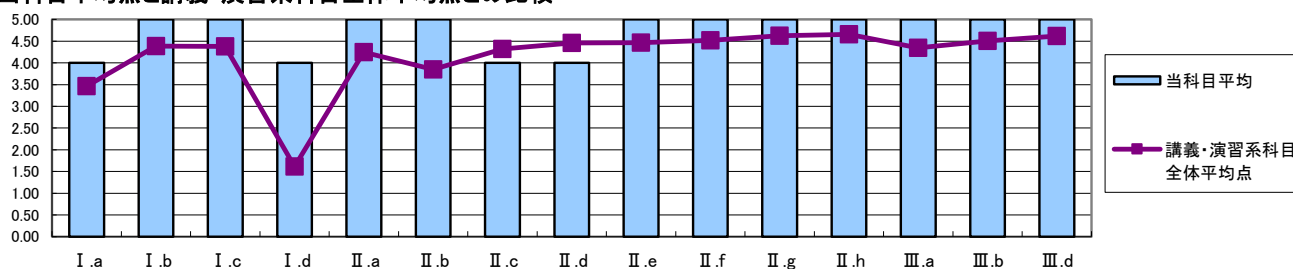
科目名	室内楽ⅣBc
教員名	佐々木 雄二

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	3
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	0.00	100.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

サクソアンサンブル(ラージアンサンブル、四重奏)を通して、演奏技術、表現能力、各奏者間のコミュニケーション能力を強化し向上させることを目的にしている。

受講者数は1年生から4年生までの11名で、毎週木曜日の6限にこの授業を行っている。

学生達は、意欲的に授業に参加しているが、授業内容に不満を持っている学生もいるので、教材の選曲、授業の進め方、また四重奏を組むにあたっての人選等、改善点をしっかりと見つめて行きたい。学生全員に、まんべんなく目が行き届くようにする。

● 問題点

学生個々と顔を合わせて、話し合いをする時間を設け、各々からの要望をしっかりと受け止め授業に反映させる。学生個々の意識を大切にする。

● 改善の方策

授業内でも、教員側からも学生側へ頻繁に質問し学生達の思いを発言させることが必要だと考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

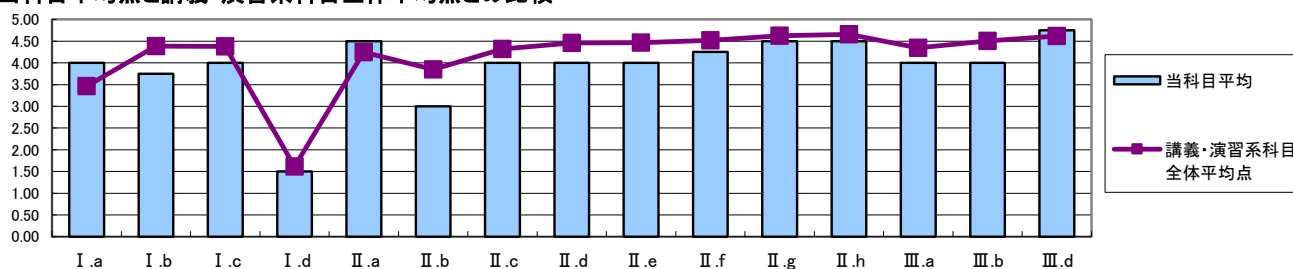
科目名	P.A.C.S.2
教員名	高橋 幸雄

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	6
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.75		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.25		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			75.00	75.00	0.00	50.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

エンターテインメントを含む芸術作品が、どのような歴史や社会を背景として持っているのかを映像作品を通して読み解いて行く授業を展開した。ドイツ、アメリカ、フランス、イギリス、イタリア、ロシアの文学の紹介と解説を行い、それぞれの国の特徴を社会的、歴史的背景を踏まえて説明出来ることを主眼にした。

● 問題点

それぞれの国の社会や歴史の基本的な知識が共有されていないので、作品の問題点を抽出し、理解することが出来ない。それ故、概論的な説明が必要になり、作品自体の問題性を議論するまでには行きつかなかった。

● 改善の方策

扱う国々の社会的背景や歴史のレジュメを作成し、それを踏まえて作品解釈をプレゼンできる様にする。それによって個々の国の社会的、歴史的視点を確立する事ができ、作品批評の精度の向上を目指す。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

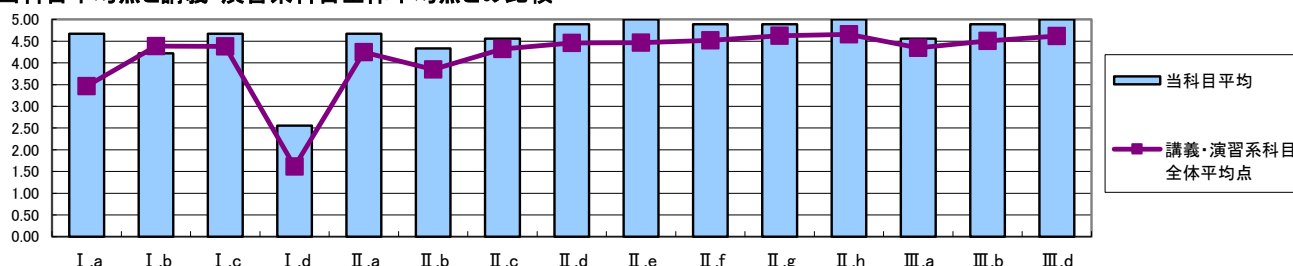
科目名	朗読法B(イタリア語)
教員名	伊藤 和広

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	9
回答者数	9

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.67		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.22		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.56		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.56		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.89		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.89		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.89		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.56		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.89		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			88.89	55.56	66.67	66.67	55.56
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は、9名が履修し9名全員がアンケートに回答しています。今年度は、留学生が多い中での外国語に関する講義であったことで、例年にも増して工夫せざるを得ない部分がかなり多く、必要以上に労力を使ったように思います。その分、アンケート以外での自由記述欄へ大変嬉しいメッセージが多く、改めてやりがいを感じています。アンケートの集計結果を見ますと、出席に関しては個人差があったため、I bは4.22とやや低いです。I dの予習と復習についても2.56と低く、講義が難しい内容であるため、家に帰ってまで勉強する気になれなかったのではと分析します。これら以外については、いずれも4点代後半から5.00と高く、嬉しく思います。以上、シラバスに提示されている科目の目的について概ね達成できたということが今年度の結果です。

● 問題点

声楽専攻の必修科目にしては欠席の多い学生が数名いました。

● 改善の方策

毎回の講義全てが大切であること等、更に細かく話した上で出席率の向上を目指します。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

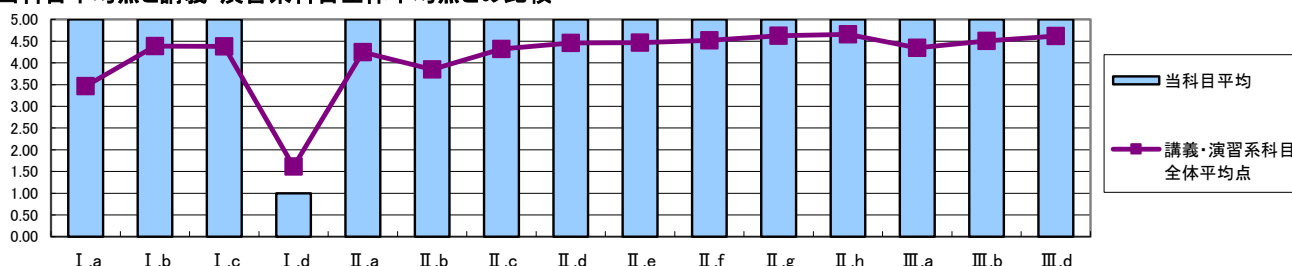
科目名	朗読法 (Konzertfach・イタリア語)
教員名	伊藤 和広

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	2
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
I	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
II	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
III	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は2名の学生が履修し、アンケートには1名が回答しています。今年度の2名は大変意欲的であり、それぞれ学校生活においての問題点はあるようでしたが、講義については非常に勤勉に学修しました。アンケートの集計結果を見ても1つの設問以外は全て5.00と高く、問題はないと分析します。以上、シラバスに提示されている科目の目的は概ね達成できたということが今年度の結果です。

● 問題点

アンケートに回答したこの学生が留学生であるため、日本語の習得他多くの勉強に時間を取られてしまうことを考慮しても大切な朗読法の予習と復習時間が少ないです。

● 改善の方策

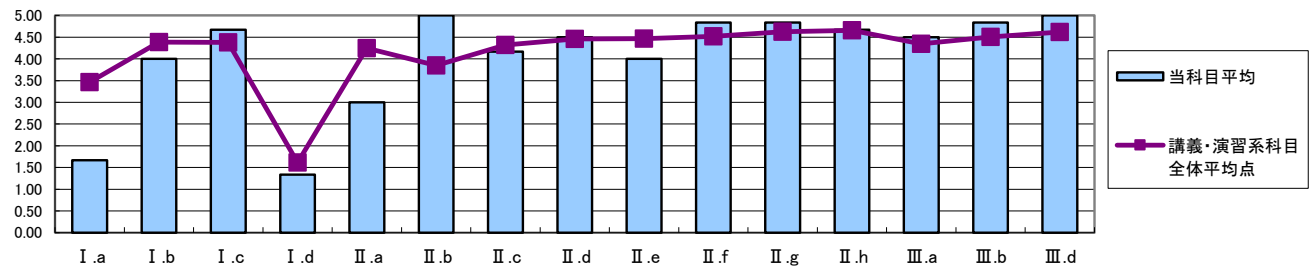
予習と復習の内容、ボリュームを増やします。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	楽器の特性と機能(教職実践)	職名	04. 准教授	履修者数	8
教員名	岩間 文正			回答者数	6

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.67		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.17		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.83		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.83		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.83		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
	5		4	3	2	1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	100.00	66.67	83.33	0.00	0.00

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業は鍵盤楽器を含む全ての楽器について学習する授業である。この授業の特色は担当教員が一人で全ての楽器について解説するのではなく、毎週、各楽器の専門の講師を招いて、演奏を交えながら講義を行う。学生は毎週教員が代わるので飽きる事なく授業に参加している。

将来教員を目指す教職実践専攻の学生が対象なので、学ぶ意識が高く、中身の濃い授業になっている。各教員には、将来吹奏楽部指導を行うことを前提として、楽器解説に加えて、移調楽器、スコアリーディング等も交えながら授業を進めてもらった。昨年度は、実際の吹奏楽コンクールがどのようなものか理解させるため、コンクールの映像を見てもらったが、今年度は学生からの希望がなかったため実施しなかった。学生のこの授業に対する満足度は高いと思われる。教職実践専攻以外の教職課程履修学生には、将来の吹奏楽部指導のため、単位は取得できないが聴講を勧めている。

● 問題点

アンケート結果を見る限り回答は4と5に集中しているため、学生の評価は良いものと考えられる。授業の進め方、成績の出し方等にも問題はないと思われる。15名程の教員が関わるため、アンケート結果は担当教員（単位授与教員）に対するものではなく、授業全体の評価となる。設問Ⅱ-aに関しては、シラバスにも明記してあるが、シラバス作成時点で各教員のスケジュール調整が出来ないため、必ずしもシラバスに掲載した楽器順には授業が進められない。今年度休講はなかったが、設問Ⅲ-h、補講に関して、授業の特性上、実施するのが困難であるため、担当教員が学校業務で授業が出来ない場合は、担当講師に授業を任せる事がある。担当教員が授業毎に代わるため試験を実施出来ないため、評価はレポート提出となる。全ての楽器についてレポートを提出させるので、レポートの分量が必然的に多くなってしまった。今年度は月が終わる毎にレポートの整理をするよう指導を徹底した。

非常勤教員に授業を依頼しているため、オーケストラ等のスケジュールによっては解説出来ない楽器が出てしまう。研究員使用の許可を取り、担当講師が授業を出来ない場合は、担当講師から指導を受けた演奏研究員に授業を担当させた。

● 改善の方策

レポートをしっかりと提出させるよう指導を徹底したい。

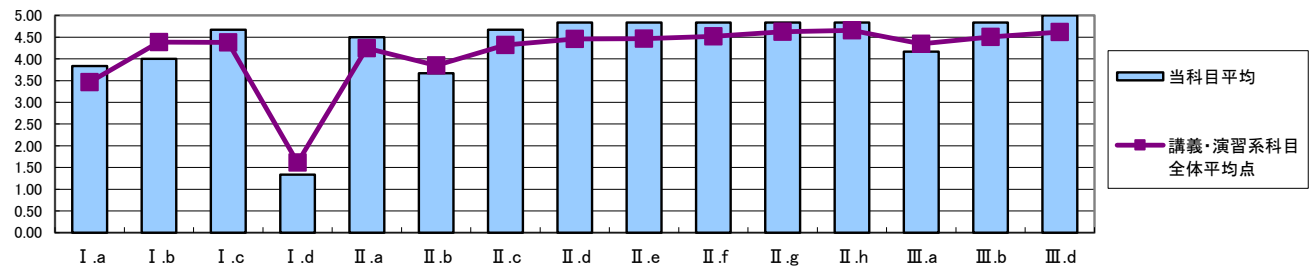
各教員のスケジュール調整はなるべく早い時期に行うよう努力する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	The Science of Sound(音の科学)B	職名	04. 准教授	履修者数	9
教員名	粕谷 麻里乃			回答者数	6

設問		設 問 文	平均点		全体平均点	
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.83		3.47	
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00		4.39	
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67		4.38	
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33		1.61	
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50		4.24	
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67		3.85	
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67		4.32	
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.83		4.46	
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.83		4.46	
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.83		4.52	
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.83		4.62	
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.83		4.66	
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.17		4.34	
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.83		4.51	
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率			
	5		4	3	2	1
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	66.67	66.67	66.67	33.33

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

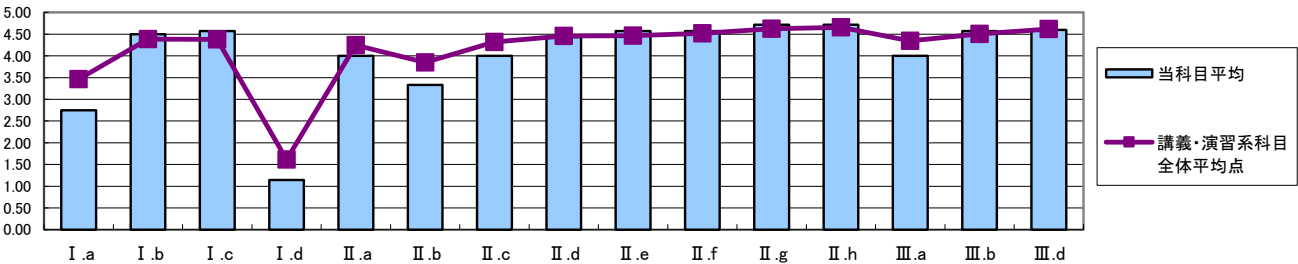
● 現状の説明
本科目（水曜日1限目に開講）は、履修者に関心の高い「音」を題材に、音楽とは異なる科学の視点から「音」について検討し、履修者の考える力を伸ばすことを目的とした。学生の主体性を促すことに重きを置き、講義よりも演習に重点を置いた。受講生は当時の3年生が中心であった。慎重に検討すべき点として、①「この授業の出席は良好であった（設問 I b）」が全体平均を下回ったこと、②「1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか（設問 I d）」において予習・復習に取り組む時間が低いことが挙げられる。
● 問題点
本科目はゼミ形式である。教材はなく、毎週教員が用意したプレゼンテーションを聞き、学生自身が大切なポイントを自身のノートに記述するスタイルであったが、現状の説明に記述した検討事項①、②より、学生が予習・復習をやるためのポイントが少しわかりづらかったと考える。
● 改善の方策
学生がより主体的に取り組んでもらえるよう、ポイントは明記したり、宿題などを課すことで予習・復習に取り組みやすいよう工夫をする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	教材伴奏法 I Bb	職名	04. 准教授	履修者数	9
教員名	平田 紀子			回答者数	8

設問		設 問 文	平均点	全体平均点			
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.75	3.47			
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.39			
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.57	4.38			
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.14	1.61			
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.24			
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.33	3.85			
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.32			
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.43	4.46			
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.57	4.46			
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.57	4.52			
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.71	4.62			
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71	4.66			
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.34			
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.57	4.51			
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			83.33	0.00	33.33	16.67	0.00
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60	4.62				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

履修者9名・混合専攻の授業で、受講姿勢は良好である。弾く順番を受講生同士が話し合っ決めて、各自の課題に合わせて皆が積極的に歌唱するスタイルが保たれている。コードネームを見ながら自分で伴奏を付ける授業では、持てる技能を開示し皆から賞賛される、得意分野として新たな自己の気づきができるといった学生もみられる。

授業初回に、授業の進め方や試験の方法・採点方法・対策などを作成しプリントにて配布、毎回各自のレベルに合わせて課題を出し、個別の教材を用いて指導している。

アンケートの結果はおおむね全体平均点と同じであった。高かったのは、熱意・教科書や資料の項目にみられ、低かった項目は、シラバスの活用・予習復習であった。

設問Ⅲ-c「自分のためになったこと」については「新しい知識・技能」が全体平均を越える率であった。自由記述には「楽しかった」の文言がみられた。

● 問題点

各自の技術に合わせ課題を決めるため、シラバス通りに進まないところがある。

「予習・復習」が十分になされず、レポートが増やせない受講生がいる。

試験結果は良好で、試験に向けての努力がみられる。が、ピアノの基礎技術に不安を持つ受講生には平素の積み重ねが課題である。

● 改善の方策

個々への課題を工夫して明確に提示し、引き続き内容を充実していく。

全員での斉唱・合唱の他、互いにコメントし合うなどの時間を設け「コミュニケーション能力」を向上させたい。またコードネームの知識を身につけ自分で考えて伴奏する内容をさらに深める。

ピアノの基礎技術に不安を持つ受講生に、平素の積み重ねの重要性を毎回促す。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

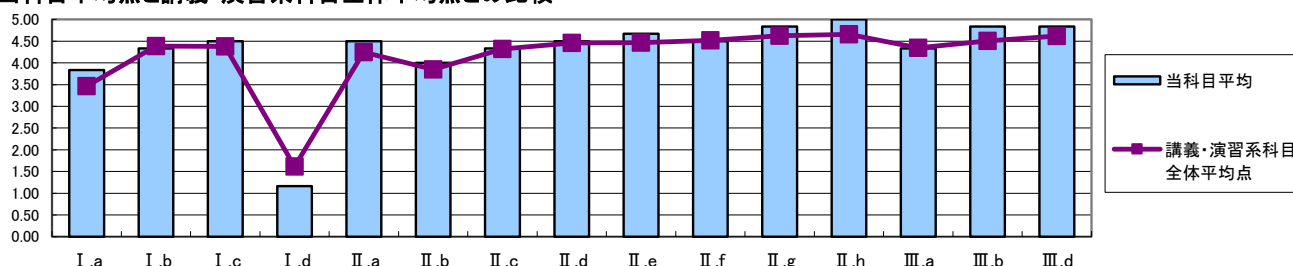
科目名	音楽療法的音楽論
教員名	平田 紀子

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	8
回答者数	6

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.83		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.17		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.83		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.83		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			66.67	50.00	66.67	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.83		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

音楽療法専攻の必修科目（他専攻も受講可）だが、今年度は音楽療法専攻生の他に他専攻から一名・社会人学生二名の受講があった。世代を越えて共に学び相互交流でき、各専攻の演奏・創作や介護実習に活かせる内容なので、引き続き呼びかけをしたい。

所見として「全体との比較」では9項目で平均より高い数値がみられた。低かったのは「予習・復習」であった。

「授業に対する教員の熱意や工夫」「学習意欲を刺激し興味深い」「総合的に判断して意義のあるもの」などで4.83～5.00点を得ることができた。

設問Ⅲ-c「自分のためになったこと」については「関連分野の学習意欲」「新しいものの見方」についての回答率が高かった。自由記述にもそれが記されている。

受講者は熱心にメモを取りグループワークにも積極的で、取り組みの姿勢が良好であり、期末のレポート試験は各自の取り組みが十分になされていた。

● 問題点

内容はシラバスに沿っていたが、楽曲の数や長さ、解説により、進捗の前後が多少あった。また予習・復習に関して指示が徹底していなかった。

● 改善の方策

手作りの資料、私物の音源など駆使し、引き続き内容を充実していく。毎回の授業進行のアナウンス、予習・復習の仕方について説明を丁寧にする。他専攻にも実りのある授業を心がける。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

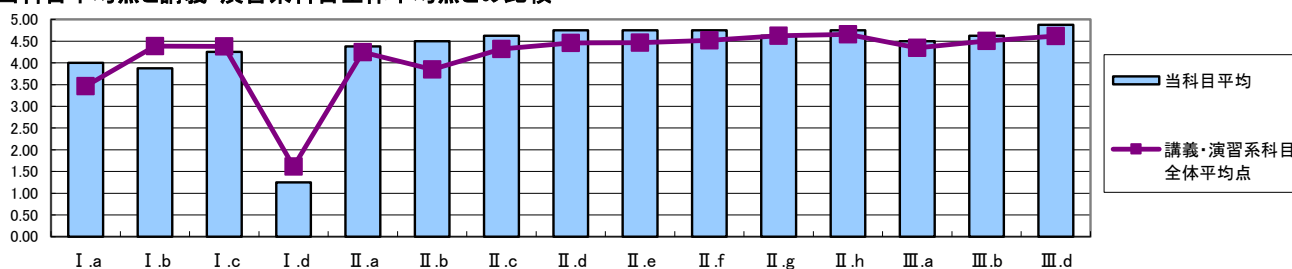
科目名	作曲家の肖像と作品の魅力 I B
教員名	武藤 直美

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	9
回答者数	8

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.88		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.38		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.63		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.63		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.63		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			62.50	37.50	75.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

作曲家の肖像と作品の魅力 I Bにおいては1858年以降の年代の声楽曲を扱い授業を行っております。歌とは何か、歌の可能性とは何か、ロマン派後期から近現代の大きなうねりの中にいた作曲家の肖像を学び、その作品の魅力を感じとりながら、現在私たちが日常に楽しむ音楽のルーツを理解することを授業の目的としております。木曜日2時限目に開講しており、今回は9名中8名の履修者がアンケートに回答しております。設問 I-b及び I-dの回答が全体平均点より下回っており、その他の回答は平均点を上回る結果となっております。この授業を通じ設問 III-cから履修者の学習意欲の高さを感じることができます。

● 問題点

毎回の課題提出率は良いもの、予習復習時間が少ないという回答が多いことがわかります。

● 改善の方策

すべての履修者が積極的に、興味や関心を持って予習、復習に取り組んでいけるような環境を構築していく所存であります。また、創意工夫しながら、新たな発想をもって取り組んでいきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

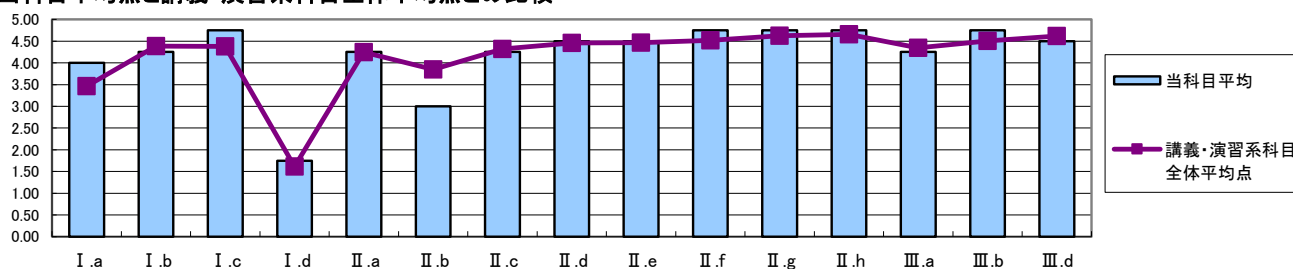
科目名	ショー・ビズ・ベーシック・ソルフェージュB
教員名	武藤 直美

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	10
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.75		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.25		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	0.00	75.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業では歌を通じてソルフェージュの基礎を学び、楽譜を正確に読み取る力を身に付けること、また、クラシックからポップスまで様々なジャンルの音楽上の基礎を学習し、正確な音程で歌唱することが可能となることを目的としています。木曜日2時限目に開講されており、10名の履修者が大変積極的に授業に臨んでおります。またアンケートの結果、設問II-b難易度については難易度が高い、低いという回答で2分割されており、予習復習においても1回の授業に対し3時間、2時間、1時間と解答が分散されていることが明らかになっております。設問III-cより講義・演習系科目全体との回答率を比較すると履修者の学習意欲の高さ、新しい知識や技能の習得に努めている様子が明確となっております。

● 問題点

1回の授業に対し予習復習時間が1時間未満の履修者が半数おり、また、授業の難易度が高いという回答と低いという回答に別れていることが明確になっております。

● 改善の方策

すべての履修者が積極的に、興味や関心を持って予習、復習に取り組んでいけるような環境を構築していく所存であります。また、創意工夫しながら、新たな発想法をもって取り組んでいきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

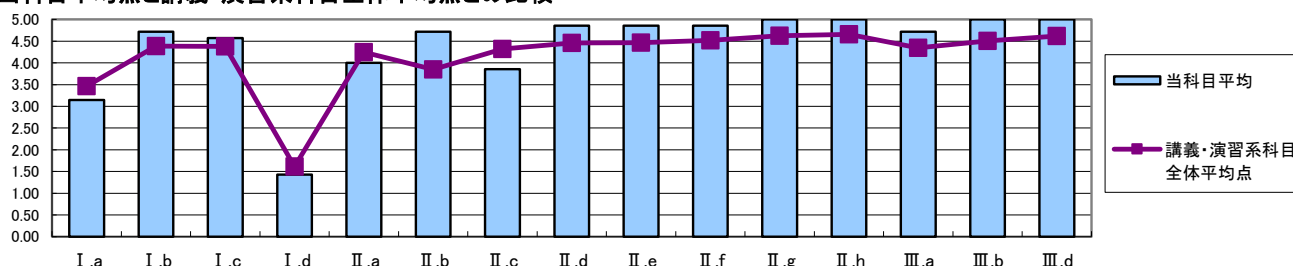
科目名	教職特講(教職実践)Ⅱ
教員名	石橋 裕

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	8
回答者数	7

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.14		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.71		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.57		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.43		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.71		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.86		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.86		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.86		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.86		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.71		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			85.71	85.71	85.71	42.86	14.29
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

科目は、教職実践専攻2、3年生の学生が履修する必修科目である。履修者は当然ながら他専攻の教職課程履修者と比較して教員採用選考試験を受験し教員になるという明確な意志を持っていることから、今日的な教育課題について幅広く考察することで、教員として求められる資質・能力を高めることを目指している。特に教員採用選考試験における教職教養、面接、論文で必要な知識を習得し、教員に求められる人間性について考察していくことに力点を置いた。併せて論文の出題傾向、主題形式、序論・本論・結論の記述方法等について詳細な個別指導を実施し、対応力を高めた。

教育課題においては、生徒指導(いじめ・不登校問題を含む)、教育相談、キャリア教育、情報教育、特別支援教育、西洋、日本の教育思想及各種教育プラン等について、中教審答申や学習指導要領解説書、各種関係資料をもとに幅広く、考察する学修を展開した。これらの学修を通して教員としての資質・能力を高めるため、話し合い活動、擬似体験等アクティブ・ラーニングの手法で授業を展開した。また、教育法規について教育基本法、学校教育法、地方公務員法を中心として、学校教育の目標、ねらい、各種規定、教育公務員としての服務や義務について調べ、個別的な学修を実施した。

これらの学修から、現代の学校を取り巻く諸条件や変化、現代及び未来に期待される学校教育の在り方、家庭や地域との協働、連携の在り方、求められる教師像と働き方改革につながる勤務の現状について掘り下げて考えることができた。

● 問題点

学生アンケート結果ではⅠd「1回授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」で4人が1時間未満と回答している。今後いかにして、予習、復習時間を増加させるかが課題となる。

● 改善の方策

シラバスに記した「準備学習」について、毎時間最後に確認するようにしたい。特に復習に力を入れ、発展的に学修の内容をより深めていくようにする。グーグルクラスルームを活用し、次回の学修内容を掲載し、焦点化した課題を提示するようにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

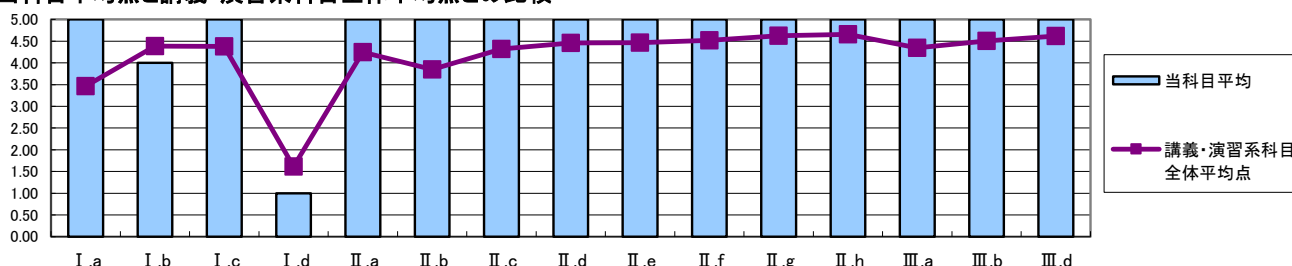
科目名	教職特講(教職実践)Ⅲ
教員名	石橋 裕

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	1
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
I	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
II	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
III	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、教職実践専攻2、3年生の学生が履修する必修科目である。履修者は当然ながら他専攻の教職課程履修者と比較して教員採用選考試験を受験し教員になるという明確な意志を持っていることから、今日的な教育課題について幅広く考察することで、教員として求められる資質・能力を高めることを目指している。特に教員採用選考試験における教職教養、面接、論文で必要な知識を習得し、教員に求められる人間性について考察していくことに力点を置いた。併せて論文の出題傾向、主題形式、序論・本論・結論の記述方法等について詳細な個別指導を実施し、対応力を高めた。

教育課題においては、生徒指導（いじめ・不登校問題を含む）、教育相談、キャリア教育、情報教育、特別支援教育、西洋、日本の教育思想及各種教育プラン等について、中教審答申や学習指導要領解説書、各種関係資料をもとに幅広く、考察する学修を展開した。これらの学修を通して教員としての資質・能力を高めるため、話し合い活動、疑似体験等アクティブ・ラーニングの手法で授業を展開した。また、教育法規について教育基本法、学校教育法、地方公務員法を中心として、学校教育の目標、ねらい、各種規定、教育公務員としての服務や義務について調べ、個別的な学修を実施した。

これらの学修から、現代の学校を取り巻く諸条件や変化、現代及び未来に期待される学校教育の在り方、家庭や地域との協働、連携の在り方、求められる教師像と働き方改革につながる勤務の現状について掘り下げて考えることができた。

● 問題点

学生アンケート結果ではI.d「1回授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」で1人が1時間未満と回答している。今後いかにして、予習、復習時間を増加させるかが課題となる。

● 改善の方策

シラバスに記した「準備学習」について、毎時間最後に確認するようにしたい。特に復習に力を入れ、発展的に学修の内容をより深めていくようにする。グーグルクラスルームを活用し、次回の学修内容を掲載し、焦点化した課題を提示するようにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

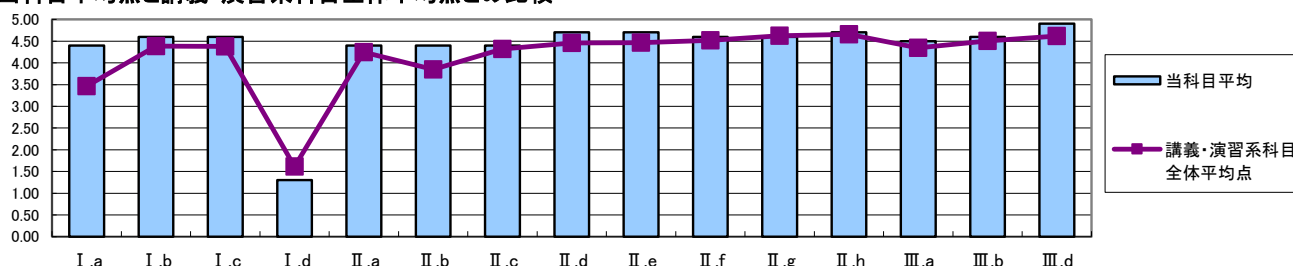
科目名	教職特講(教職実践)Ⅰ
教員名	石橋 裕

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	10
回答者数	10

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.40		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.30		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.40		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.70		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.70		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.60		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.70		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			90.00	50.00	50.00	40.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.90		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、教職実践専攻必修科目であり、教職実践専攻のみの学生が受講する最初の授業でもある。履修者は当然ながら他専攻の教職課程履修者と比較して教員採用選考試験を受験し教員になるという明確な意志を持っている。教職に関する4年間の学修の導入として位置づけられ、教育に関する基礎的な知識や技能を身に付け、教員を志すための基礎・基本を定着させるというねらいがある。教員としての資質・能力の基礎を築くと同時に音楽科教員としての資質・能力の基礎を築くことが重要であり、今日的な教育課題を考察すると同時に我が国で長く親しまれている歌曲の特徴をつかみ、弾き歌いの基礎的な技能の習得を図っている。教員の職務内容の概要、教員に求められる資質・能力、社会の変化に対応する学校教育の現状、現代の学校を取り巻く諸課題等について、個別的な学修とともに討論形式やブレinstローミング、KJ法等を取り入れたアクティブ・ラーニングを多く実施するとともに、中教審答申や学習指導要領解説書から適切な資料を用いて検証していくプロセスで知識・技能を身に付けるとともに、思考力、判断力、表現力を伸ばしていった。

また、音楽科教員としての基礎的な資質・能力を身に付けるため、中学校学習指導要領(音楽科)で示されている、いわゆる歌唱の共通教材7曲の歌詞の特徴、旋律や和音の特徴、それぞれの曲が作詞・作曲された時代の背景について、資料収集しまとめる学修を行い、曲に関する基礎的な知識を定着させることができた。併せて技能を高めるため、ピアノ伴奏、歌唱、弾き歌いの3つに分け、その中でそれぞれの学生が持つ技能的な課題を見つけ、その解決を図る個別的な学修を展開した。

これらの授業内容を通して、学生は教員を目指す上で、これからの学修における課題となる事柄を明確にすることができた。

● 問題点

学生アンケート結果ではⅠd「1回授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」で8人は1時間未満と回答している。今後いかにして、予習、復習時間を増加させるかが課題となる。

● 改善の方策

シラバスに記した「準備学習」について、毎時間最後に確認するようにしたい。特に復習に力を入れ、発展的に学修の内容をより深めていくようにする。グーグルクラスルームを活用し、次回の学修内容を掲載し、焦点化した課題を提示するようにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

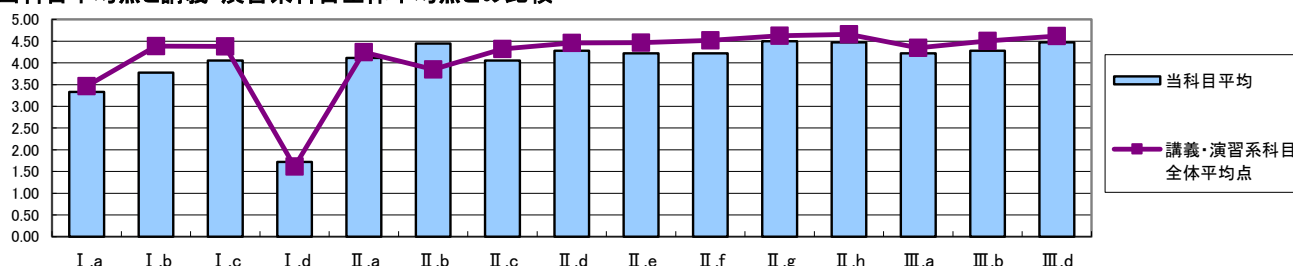
科目名	ソルフェージュ4b
教員名	井上 淳司

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	22
回答者数	18

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.78		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.06		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.72		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.11		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.44		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.06		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.28		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.22		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.22		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.47		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.22		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.28		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5	4	3	2	1
			72.22	11.11	22.22	16.67	27.78
			4.47		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

1年次のソルフェージュ1および2の成績を基に再編成した、下位のクラスである。履修者数は22名で回答者数は18名である。中国からの留学生が4名いた。シラバスにある聴音、教科書の歌唱、リズム打ちを中心に行い、試験はその3項目で行った。行事やその練習・準備と重なる学生が多く、全体の出席率はどちらかというと良いとは言えず、また個々の基礎的な力や意識に差があって課題等がフィットせず、授業態度もあまり積極的ではない学生も見受けられた。

● 問題点

アンケートの設問のほとんどでわずかがが全体平均点より下回っている。近年、音楽の向上や上達のためにソルフェージュを学ぶ必要性を感じていない学生が増えてきており、基礎力の不足やモチベーションの低下から音楽に対する意識や姿勢が年々薄くなっている。留学生については、日本語が通じているのかいないのかが不明等の授業態度や易しい課題であっても基礎力不足からか本人にはとてつもなく困難な課題に感じてしまうという学生が数人いることによって、それがモチベーションの低下を招く原因にもなっている。

● 改善の方策

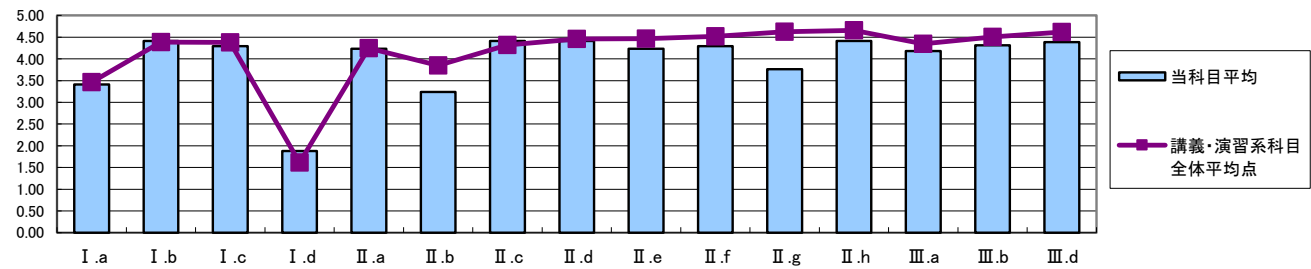
ソルフェージュは音楽の土台を作るための下支えであり、日々の積み重ねが必要である。さらにワンツールの理念に基づく指導は、学生同士が似たような出来具合の中で各人のモチベーションが切磋琢磨されて上がるため一番の方策はクラスサイズを小さくすることであり、クラス内の能力の差を縮め、扱う課題が十分に機能するようにすることである。特に留学生には日本語が通じないのはこれ以前の問題ではあるがそれをも解消するために中国語で対応する別クラスが必要であると思われる。全体の質の低下は果てに芸術の衰退につながることは否めない。差し当たって出来ることは授業以外でも訓練を継続することの必要性を説くこと、個々の弱いところに時間をかけて対応出来るような、各人にあった適切なアドバイスを表面的ではないさらに踏み込んだコミュニケーションを基にした効果的な訓練のプログラムの組み立てをすることが必要であろう。各人に合ったきめの細かい指導をする授業を目指したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ソルフェージュ2b	職名	05. 特任准教授	履修者数	17
教員名	井上 淳司			回答者数	17

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.41		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.41		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.29		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.88		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.24		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.24		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.41		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.41		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.24		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.29		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.76		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.41		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.18		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.31		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			88.24	23.53	17.65	11.76	5.88
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.38		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

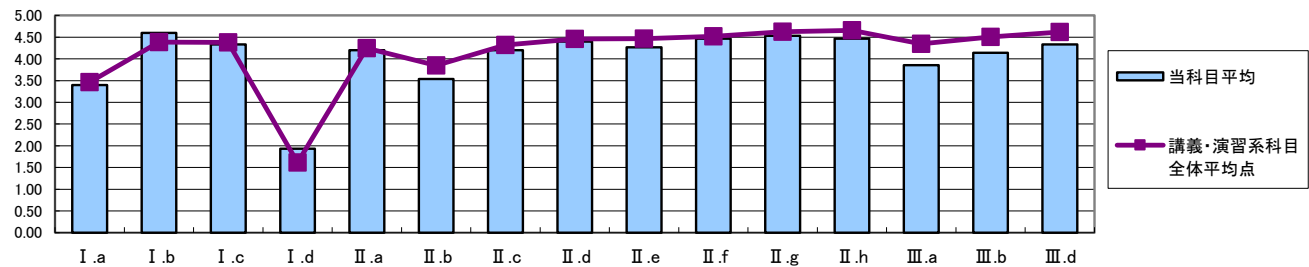
● 現状の説明
1年生を対象にクラス分けの為の実力チェックを行い、2クラスに分けた、下位クラスの後期授業である。履修者は17名であった。授業時間は月曜日3限と木曜日4限の週2コマ各90分である。聴音、弾き歌い、リズム打ちを中心に授業を進めた。試験は授業で扱った上記項目で行った。基礎訓練がまだ充分に必要な下クラスである。音符の読み書きがまだ不確かで、特に聴音では、リズムにつながる音価が即座に思い浮かばない、音楽の流れの中でそれを感覚的に捉えることの困難な学生がいる一方で、簡単な問題はたやすく出てしまう学生もいて、その差は人数以上に大きい。授業で扱う聴音、新曲視唱、リズム打ち、弾き歌い等が音楽の中でどのように結び付けられるかの体感がまだ出来ず、自己の問題として積極的に捉えるより、与えられたものをこなすだけで精一杯な状況である。アンケート項目のほとんどが全体の平均点より低かった。
● 問題点
シラバスの活用到達目標（I.a）、成績評価の基準の明確さ（II.c）、教科書や資料の効果（II.e）、授業回数・時間の守り（II.g）にあまりそう思わない、全くそう思わないという評価が出ている。17名というクラスサイズは下位クラスでは大き過ぎる。下位ほど学生の能力の差があり過ぎて、このクラスサイズは学生個々への対応や能力を高めるには不適切で、モチベーションの低下を学生に与えかねない。アンケートの結果に表れている、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」という評価が出ている一因はそこにもあると思われる。また、扱う課題の共通性がなくなってしまう指導目的が一律に等しく遂行出来ない。繰り返しや積み重ねがまだ必要な学生と、鍛えればもっと伸びる学生が混在しており、個々の能力を授業時間内だけで高めることが出来ないのが大きな問題点であった。
● 改善の方策
限られた環境と時間の中での上達は困難を伴うが、指導やアドバイスを工夫し、授業がきっかけとなって個々が意欲を感じられるようにそれぞれに合った方法を考えたい。同一クラス内で学生の能力のバラツキが大きいと、同じ課題でも難し過ぎてついて行けない者、簡単すぎて意欲が下がってしまう者と差が出てしまうため、授業内容はシラバスを正確に反映出来ず、授業の組み立て、教材の見直しの必要がある。効果的なのは、同じ能力の者を出来る限りOne to Oneに近いクラスサイズにすることである。その上に音楽の習得のための日々の努力とその積み重ねる時間を、十分に周知させなければならないが、授業のあり方や指針を検討する教員同士の場を設け多くの意見を持ち寄る事により独りよがりにならないより良い授業を展開させることも必要である。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	和声学2b	職名	05. 特任准教授	履修者数	22
教員名	井上 淳司			回答者数	15

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.40		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.93		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.20		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.53		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.40		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.27		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.47		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.53		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.47		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.86		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.14		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
	5		4	3	2	1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	85.71	35.71	28.57	0.00	7.14
		4.33		4.62			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

和声法の学習のうち、基礎となる和音の構成および連結の実習を習得する授業で、1年生を対象に2クラスに分けた外部より入学した学生のうち和声法未経験者のクラスである。履修者は22名でアンケート回答者は15名であった。

和声法はやや煩雑な規則を基に、連続した理論的組み立ての上に実習を重ねて行くもので、そのため本授業は理論や規則を記すための板書が多い。（毎回約1/3の時間、残りを実習）それを理解するには自分自身の手書きでノートするやり方が一番効果的である。音楽は理論的規則性に縛られない自由な芸術ではあるが、理論的な裏づけや積み重ねの無いその場の感性だけでは、作品の本質や演奏表現を多くの人に伝えることは出来ない。学生の中には専攻実技のみに専念すればとの誤解からこのことを疎かにしてしまいがちな考えを持つ者がいる。それを是正して、地道に自己の努力を積み重ねていく重要性は実技のみではなく、むしろ背景にある音楽を支えている部分に多くあるということを理解して、和声の重要性を認識してもらうための授業である。

● 問題点

演奏と同じで、理解が出来てもそれがすぐに実習でうまく行くとはいえず、何回も失敗を積み重ねて一つずつ理解しつつ、規則に慣れながら体得していかなければ上達しないため、地道な積み重ねが必要となる。実習したノートを時間が許す限りひとりひとり見てアドバイスをすることを行っているが、復習や実習を怠ることや、また一回の欠席でも授業内容が分からなくなることが多いため、一旦つまづいてしまうとノートを見せなくなる学生もあり、悪循環的にモチベーションが下がり、さらに欠席を重ねてしまったり、やる気が失せたりして学習が続かなくなるため学生側の和声法への意識や方法の改善が常に必要であると思う。

● 改善の方策

地道にやる重要性を理解してもらい、いかに学生の集中力を持続させるかの指導に今後さらに腐心したい。加えて、やる気の出る板書、話し方、接し方に工夫を心がけ、休んだ学生や遅れている学生には、自覚を促すべく細かな指導を通して、モチベーションを保つように徹底したい。下のクラスのサイズは、学生の理解力や実習の速度がまちまちで、全ての学生に目を行き届かせながらそれぞれの進捗に合わせたアドバイスをするには今の約半分（10人前後）が理想的であり本校の理念であるOne to Oneにもなっている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

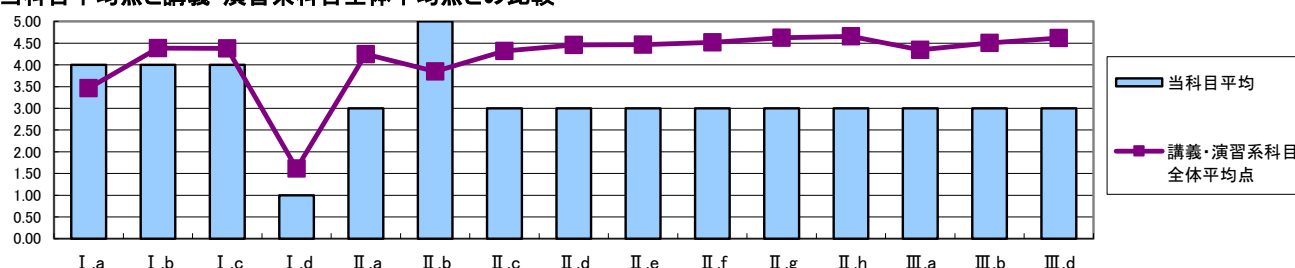
科目名	総合作曲演習ⅢB
教員名	井上 淳司

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	4
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

音楽創造専攻生のための講座で、今年度の1年次生1名、2年次生3名の計4名が履修した。ゼミ形式での授業形態ではあるが、講義内容が1年次生には難しすぎるため2年次生と隔週でそれぞれ別に行うこととした。作曲をするのに役立つような様々な音楽や関連する事柄を双方向や学生間の意見交換を行うことにも重点を置いて講義した。

● 問題点

教員から講義内容を押しかけるのではなく各学生が何を学びたいかを優先し、毎回学生の希望や意見を取り上げながら講義を進めたためシラバス通りには行かなかった。毎回の講義でその時々で出た疑問やもっと深く掘り下げるべき事項があればそれらはある程度解決するまでは内容変更を余儀なく行った。そのため開講時には成績の評価基準を明確に示す事が出来なかったことや、資料の変更等もあった。

● 改善の方策

あらかじめ決まった内容を押し進めるのは学生の理解度を無視し、前後のつながりがよく分からないまま講義だけが先走りになる恐れがある。その時の学生の反応を見ながら授業を進めているため個々の学生が何を学ぶべきかを優先したが、出来得限りの予測を立ててシラバスを作成することを心がけたい。学生にもシラバスをよく見て自身の作曲に適する広い範囲での予習および復習を行い積極的に授業を活用して取り組むよう強く喚起したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

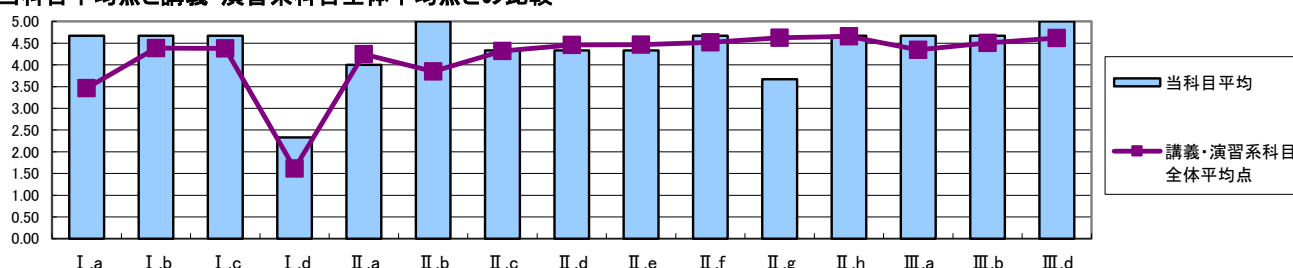
科目名	作曲家の肖像と作品の魅力ⅡB
教員名	中島 剛

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	3
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.67		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.33		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.67		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	66.67	100.00	0.00	33.33
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2022年度、パフォーマンス総合芸術文化専攻から3名の学生を担当することになりました。この授業はクラシック音楽に馴染みのない学生にクラシック音楽の魅力、時代背景、楽曲の紹介をピアノを使ったり、CDや映像を交えて丁寧に説明してきました。少人数なので1人1人が各回のテーマを予習し、授業内でプレゼンしてもらいより深く知識として高めてもらえたと思います。

● 問題点

僕がコンサートの本番で授業が2週出来なかったりすることもあり、（もちろん補講はしました）学生のモチベーションを下げてしまった事は申し訳なく思っています。

● 改善の方策

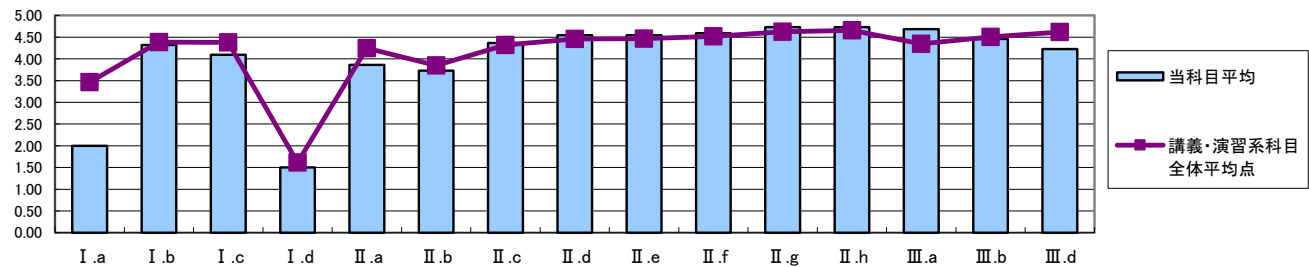
特にありません。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	教材伴奏法 I Ba	職名	08. 講師	履修者数	34
教員名	小野瀬 照夫			回答者数	22

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.32		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.09		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.86		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.73		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.36		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.55		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.55		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.59		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.73		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.73		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.68		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.45		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
	5		4	3	2	1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	85.71	28.57	19.05	0.00	4.76
		4.23		4.62			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

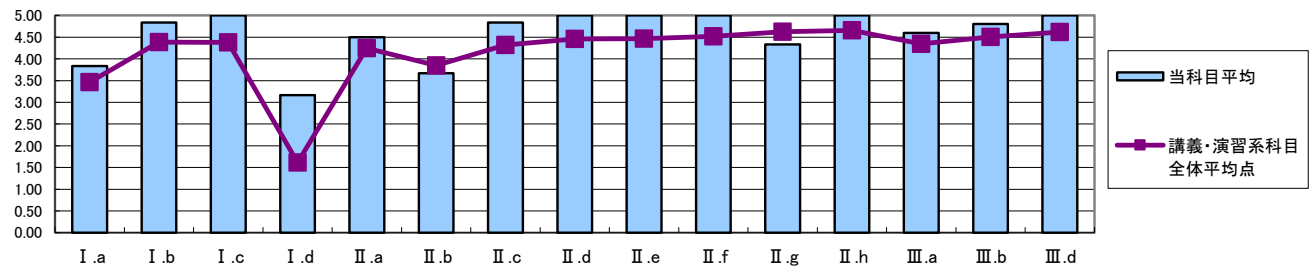
- 現状の説明
令和4年度でのこの講座では受講者人数が40名弱という状態でスタートしたが、内容は中学校の共通教材7曲を中心とした実技系のものであり、最終的には弾き歌いができるようにするものである。しかしながら前述のとおり受講者が多いこともあって、講座内での学生への実技練習の機会が少なくなってしまっていた。実質は受講者一人に対して前期で一回、後期で一回というペースになってしまった。この講座の開講日は金曜日であったが、学生に聞くとところによると、できれば月曜日の平田先生の方をとりたかったが、他の必須講座との兼ね合いでやむを得ずこの講座をとったという学生も少なからずいた。
その影響で、学生たちは
1. なかなか自分の順番が回って来なく、
2. 順番に当たっていた学生は数少ない番のため、多くの学生が「夏の思い出」などのやり易い楽曲に集中してしまい、ほとんど毎回同じ曲をやることになるので、周りの者が飽きてしまい、
3. 飽きてしまうと、番に当たった学生が伴奏を弾いても、周りの学生の歌声は小さくなってしまい、消極的な空気が漂うような良からぬ雰囲気となってしまった。
その結果、実技試験ではクラスによる違いが観面に現われ、私の講座の学生に比べ、平田先生の講座の学生の方が成績が平均点が高いものとなって表れた。
- 問題点
初めの時点で受講人数が多いことがわかったので、一回の講座で2~3人の学生が伴奏を弾き、その学生の伴奏で全員が歌い、そのつぎにその学生は弾き歌いをするというパターンで行っていたが、学生の目線からは新鮮味が薄れ、惰性となってしまう、結果歌声も小さくなってしまおうという負のサイクルができてしまった。
- 改善の方策
講座の時間割は本年度も昨年度と変わっていないため、受講する学生数はあまり変わらず、また I と II の合同講座となっているため、昨年度の問題がより起こりやすくなっている。そこで、進め方の方針を変え、できるだけ多くの学生が伴奏を弾き、歌えるようにして実技の機会を増やし、同じ曲は複数回に渡って繰り返さないように1日1曲というシステムにしていくこととする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	教材伴奏法ⅡB	職名	08. 講師	履修者数	6
教員名	小野瀬 照夫			回答者数	6

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.83		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.83		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.17		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.83		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.33		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.60		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
	5		4	3	2	1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	100.00	0.00	50.00	0.00	0.00

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明 教科伴奏法Ⅰでは主に中学校の共通教材7曲を中心に行ったが、このⅡでは小学校や高等学校の教材を扱うこととしている。曲種も伴奏用楽譜があるものだけでなく、コードネームのみをもとにして伴奏を弾かなければならないものも扱い、実技を中心に行った。学生は小学校用教材と高等学校用教材の中から自分で選曲し、その学生の伴奏で他の学生たちが実際に歌い、更に本人の弾き歌いまで行うものとした。こちらⅡの講座は例年7名前後の人数で推移しており、Ⅰの講座と比べると一人の当番の当たる回数も多く、授業はやり易い。但し、金曜日の5時限ということもあって、学生たちにはかなりハードだったようである。また、アンケートの回答にはg回数や時間に関する設問に対し、2.あまりそうは思わない というものがあったが、それは開始時間のことと思われる。この講座の前の4時限にⅠの授業を行い、次に行っていた訳だが、Ⅰは103教室、Ⅱは302教室で、しかも一度事務室に鍵を返却してから次の鍵を借りて移動するという動きをとらざるを得なく、かなり時間のロスがあった。どちらも同じ教室で行いたい旨を申し上げたが、状況はかなわなかったようである。 また、学生からの回答に「雑談」のような表記があったが、これは私が高等学校で実際に授業を行っており、教員の卵である学生たちに現場の生の様子を伝え、例えば伴奏法に直接の関係がなくてもその空気を伝えてあげたいと考えて行ったからである。また、ボランティアで特別支援学校に行き手伝っている学生からの疑問なども発言され、その貴重な経験や疑問などに応えるためにも丁寧に扱ったからのことに対する意見と思われる。
● 問題点 私は今年度は高等学校のクラスだけでなく中学生にも授業を担当することになっており、その中での経験も学生に参考になることも少なからずあると思われるので、学生の理解を得られるよう注意しつつ、本来の伴奏法の実技指導に取り組む所存です。また、ⅠとⅡの合同講座ということもあって、同時に同じ教室で行えるので、移動等の心配は無用と思われる。
● 改善の方策 学校における授業は、机上の空論では予想ができなく、生徒たちとの関係で進められるものである。講座の授業ではできるだけ準備・備えを経験し、身に付けているべきであるが、やはり学校現場では生の児童・生徒たちとの一種の化学反応で進められる。このようなことを学生たちにも伝え、理解を得られるよう注意して進めていく所存です。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

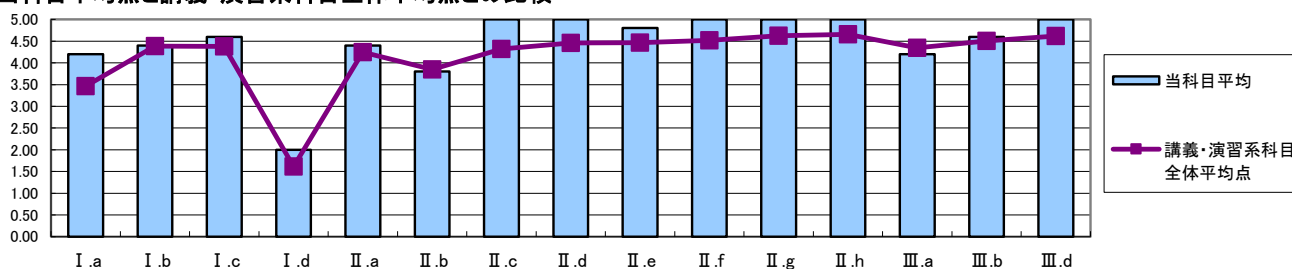
科目名	チェンバロ研究ⅠB
教員名	梶山 希代

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.20		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.40		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.80		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.20		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	20.00	60.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2022年度後期の受講者数は5名。
二年続きで設定されているこの授業ではチェンバロ実技のみの習得を目的としておらず、一年目では楽器の構造と様式、構造からくる音楽語法、そしてバロック音楽全体の美学とバロック楽器復興の流れを理解することに重点を置いている。実技演習では学生の任意性を尊重しているため、なるべく指名はせず各自の自主性に任せているが、内気な学生はなかなか自分から名乗り出ない。しかし新学期的の授業開始時に弾きたければアピールをと説明、さらにシラバスに受け身の姿勢は評価せずと明記している以上、現状を変えるつもりはない。そもそも実技の上達を望むなら個人レッスンをしない限り不可能で、この授業においてはあくまでチェンバロという楽器への導入の手ほどきと、バロック音楽への初歩的アプローチを目指している。
近年の傾向としてピアノ専攻学生のレベルに著しく差があり、特に2022年度は副科ピアノ以下では？と思われる学生も見受けられた。さらに授業内容に対する理解力にも、かなり問題がある学生もいる。しかしこの傾向は、今後も継続すると考えられる。

● 問題点

ほぼ全ての設問において演習系科目の平均を上回っている、という点では問題はない。
自由記述欄の回答も概ね高評価で、授業内容に学生との意識のズレはないと思われる。
ただ上述のような明らかに実力不足の学生の救済方法には、毎年苦心する。

● 改善の方策

一年目の授業では実技に大きな重点を置いていない。奏法の習熟を望む学生には、チェンバロ研究Ⅱを選択することを推奨する。
とはいえ主専攻実技能力が著しく劣る学生もいるため、演習は強要せず(しても意識の高い学生の妨げになる)、良き聴き手として意見が言えるよう指導すると共に、言いやすい状況を作る。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

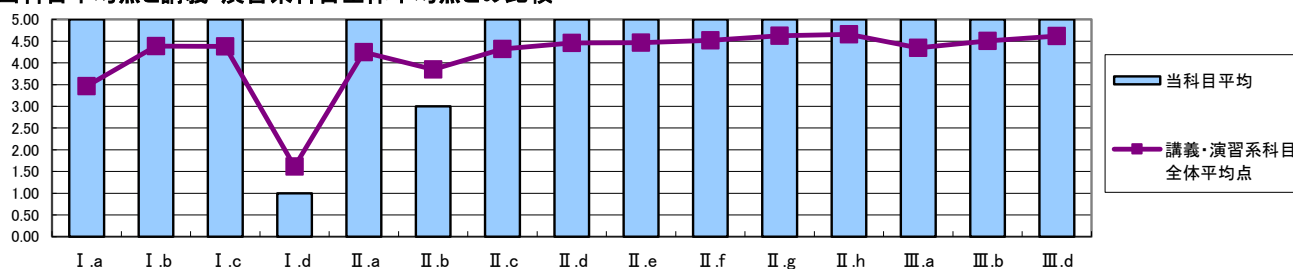
科目名	チェンバロ研究ⅡB
教員名	梶山 希代

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	100.00	50.00	50.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2022年度後期の受講者数は二名。
二年目の授業では実技演習の比重が増し、奏法に関してもより実践的な内容となる。
二名とも非常に優秀かつ意欲的で、質の高い授業ができたと思っている。
授業内容についての設問も全て、演習系科目の平均を上回った。

● 問題点

現状説明の通り、学習意欲の高い学生と教員の相互作用が良い結果となって反映されたので、大きな問題点はなし。
2022年度に限って言うなら、優秀な学生はコンクールや伴奏、ウィーン研修等の公欠が多くなり、授業計画の若干の変更を余儀なくされた。

● 改善の方策

現時点での早急な改善点は見当たらない。ただし少人数クラスの授業では受講する学生の実力レベルと質によって内容が大きく左右されるので、次年度はこの限りではない。今後もクラス内の学生のレベル如何によっては、授業計画の多少の軌道修正は必要。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

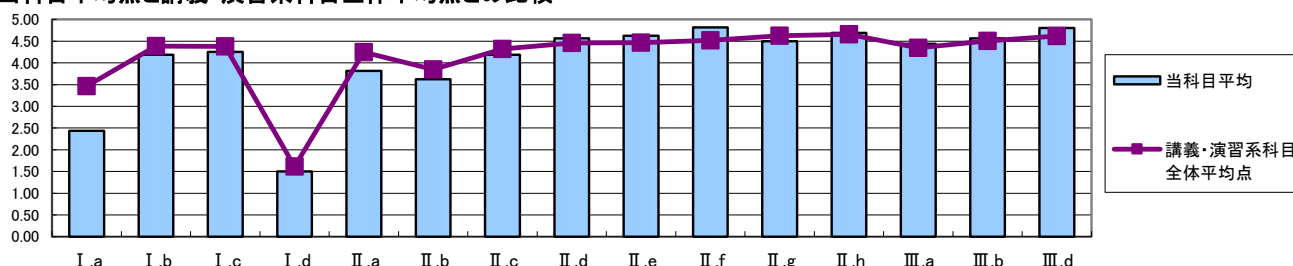
科目名	ソルフェージュ4a
教員名	加茂下 裕

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	17
回答者数	16

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.44		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.19		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.81		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.63		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.19		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.56		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.63		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.81		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.69		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.44		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.56		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			81.25	12.50	25.00	25.00	6.25
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

受講者の状況：前年度のソルフェージュ2aクラスの受講生からピアノ専攻生を除いたクラス。比較的少人数のクラスで授業内容のレベルは絞り易かったと思う。自作の教材やクラシックの名曲を題材として取り上げ、ソルフェージュの取り扱う様々な内容を発展させて演奏に結びつけていくための考え方を提示することを主眼に置いて授業を進めた。集計結果の分析：上記の授業の進め方に関する考え方が受講生達にも伝わっていたことが特に自由記述の回答から感じられ、勇気づけられた思いがする。

● 問題点

設問I.bの出席状況があまり良くなかった点。設問I.cの授業に対する熱意の不足と共に、この科目には（グレードに関わらず）何故か存在し続けている問題である。

● 改善の方策

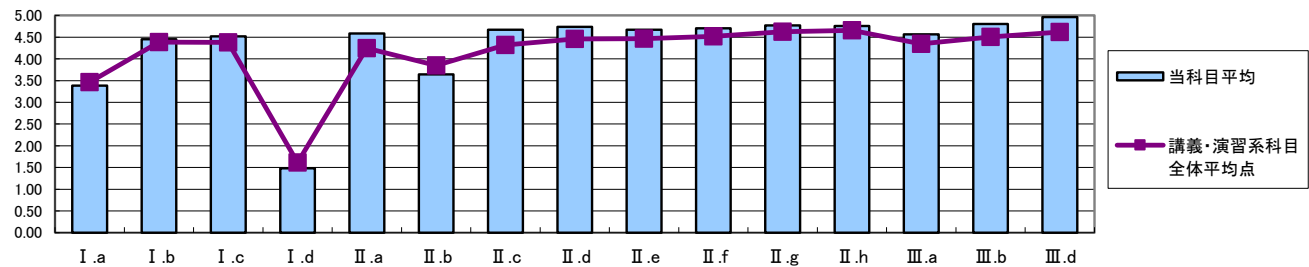
単にソルフェージュ1・2の延長としての3・4ではなく、例えばピアノ科のソルフェージュのように個々の専攻に即した内容（特に読譜に重点を置いた）の科目として構想し直すことも一案と思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ソルフェージュ2a	職名	08. 講師	履修者数	42
教員名	加茂下 裕			回答者数	31

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.39		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.45		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.52		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.48		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.58		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.65		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.73		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.70		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.77		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.76		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.57		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
	5		4	3	2	1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	80.00	30.00	26.67	10.00	6.67
		4.96		4.62			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

- 現状の説明
受講生の状況：入学前にソルフェージュをある程度体験していたと思われる入学生を集めたクラス。42名という大きなサイズのクラスであり、レベル的にも基礎段階から発展段階まで幅広い受講生が含まれていたため、色々なレベルにフォーカスして授業内容を工夫しつつ授業を進めた。
集計結果の分析：設問Ⅱbへの回答に上記の意識で授業を進めたことに対する受講生達の素直な捉え方が現れていると思う。難易度の捉え方の幅が広がっていることは、このサイズのクラスでのソルフェージュの場合は当然の結果と思われる。設問Ⅲの領域に関して、大部分の受講生達が学習意欲を感じ、到達目標に達したと感じているということであり、様々なレベルの受講生でクラスが構成されていること自体は、ソルフェージュの場合プラスに働く面もあるように思われる。
- 問題点
個々の受講生とのコミュニケーションを十分に取れなかったと思われる点。
- 改善の方策
可能ならもう少し小さなサイズで行えると良いと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

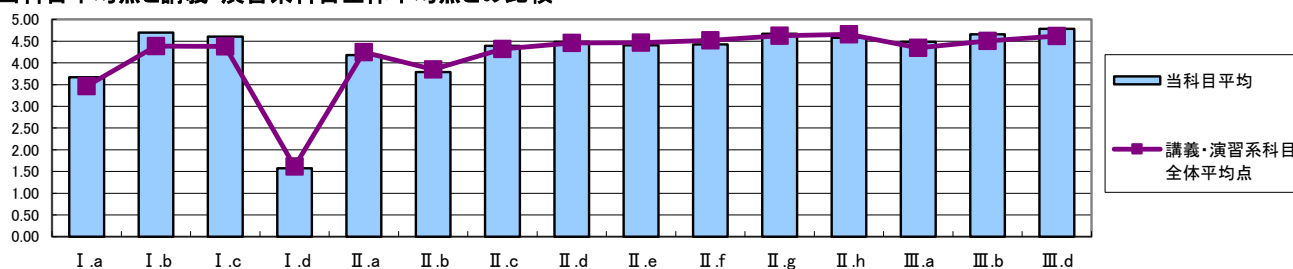
科目名	音楽の基礎理論Bb
教員名	加茂下 裕

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	37
回答者数	33

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.70		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.61		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.58		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.18		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.79		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.39		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.48		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.41		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.42		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.58		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.48		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.66		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			81.82	30.30	33.33	18.18	3.03
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.79		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

受講者の状況：日本人学生に数名の留学生を加えた37名のクラス。事前にどのようにクラス編成が成されたかは不明。日本人受講生の大部分は筆者が第二高等学校で和声を教えた学生達であり、今年度の他の授業科目で担当している学生も多く、とても授業が進めやすいクラスであった。

集計結果の分析：設問Ⅱbのこの科目の難易度に関して「適切」とほぼ同数の「難しい」の回答があった点が少し意外な感じがしたが、設問Ⅲの領域に関して、大部分の受講生が学習意欲を感じ、到達目標に達したと感じていることであり、授業の進行上は大きな問題ではなかったのだろうと思われる。また設問Ⅲcに関して、「新しいものの見方」を伝えることが今年度の課題としていたことであり、この点についてはある程度の成果が上がっていたように思われる。

● 問題点

受講生の提出課題に対して十分なフィードバックをする時間が取れなかった点。

● 改善の方策

この科目も、可能ならもう少し小さなサイズのクラスで、通常の授業時間（90分）で行えると良いと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

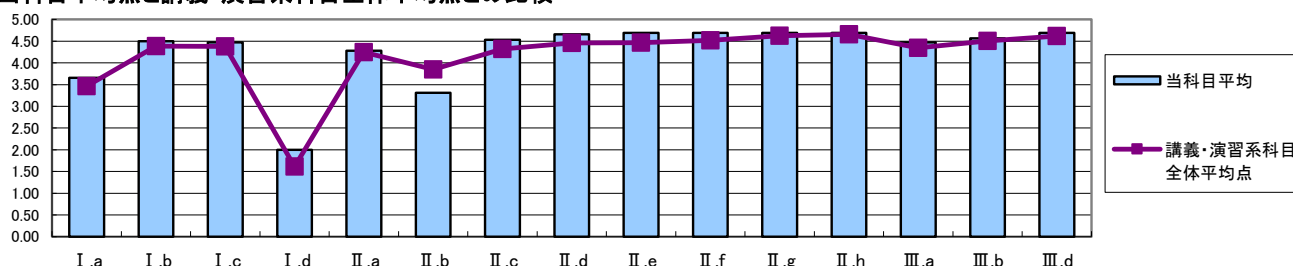
科目名	和声学4b
教員名	加茂下 裕

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	33
回答者数	32

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.66		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.47		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.28		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.31		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.53		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.66		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.69		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.69		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.69		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.69		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.47		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.56		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			68.75	25.00	18.75	31.25	3.13
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.69		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

受講者の状況：前年度の和声学2bクラスの受講生にほぼ同数の留学生（そのうち約半分は再履修者）を加えたクラス。年度当初から留学生への対応に気を取られ、日本人学生への対応が疎かになった感否めないが、日本人学生が状況を理解して協力してくれ、また留学生の中にも熱心で理解力の高い受講生が何名か含まれていて伝達の核となってくれたこともあり、計画通りに授業を進めることができた。この科目のこのクラスの状況で一人の落後者もなく授業を終えられたことに感謝したい。

集計結果の分析：設問II.bのこの科目の難易度が難しい方向に傾いているのは例年のことであり、難しいことを前提として取り組むように受講生達を鼓舞して授業を進めている。設問I.dの予復習時間が比較的長く取られているのは、この点に対する受講生達の意識の表れだと思う。設問IIIの領域に関して、大部分の受講生達が学習意欲を感じ、到達目標に達したと感じ、新しい知識技能だけでなく問題発見・解決能力を得たと感じてくれた受講生も多かったということであり、この科目の成果はある程度上がっていたものと思われる。

● 問題点

和声学1・2では留学生と日本人学生を分けているこの科目（和声学3・4）で、両者を合わせて行う形が良いのかどうかという点。

● 改善の方策

和声学は個々の教員によって教え方に大きな違いのある科目だと思う。日本人学生のクラスは和声学1・2と和声学3・4を同じ教員が担当するのを基本路線としているはずなので、留学生のクラスもその形で行った方が良いのではないかと思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

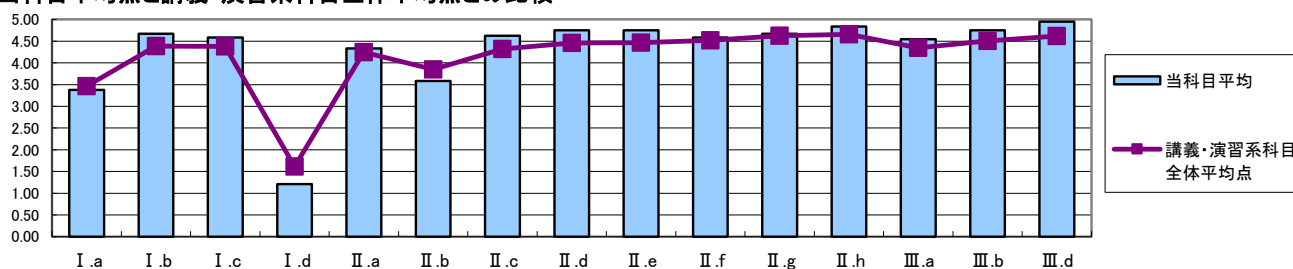
科目名	和声学2a
教員名	加茂下 裕

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	29
回答者数	24

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.38		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.58		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.21		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.58		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.63		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.58		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.83		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.54		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			87.50	33.33	20.83	41.67	4.17
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.95		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

受講者の状況：入学前に和声学を学んだことのある受講生のクラス。ほとんどの受講生は付属高校からの入学者であり、筆者が第二高等学校で教えた学生も多く、説明がし易いという点を含めて、授業の進め易いクラスであった。付属高校からの入学者にとっては、和声学1・2は発展的復習と言っても良い内容なので、できるだけ多くの課題に自主的に取り組むように鼓舞しつつ授業を進めた。

集計結果の分析：設問IIbの授業の難易度の捉え方の、適切と感じた受講生と難しいと感じた受講生がほぼ同数であった点にこのクラスの状況が良く表れていると思う。設問IIIcの自分のためになった点として、新しい知識技能と共に問題発見・解決能力を挙げた受講生の多かったことはこの科目の趣旨に関わることなので喜ばしい。設問I dの予復習に掛けた時間がこの科目のこのグレードにしては短すぎるように思われる。

● 問題点

受講生の提出課題をリアルタイムで添削・解説する時間が充分に取れなかった点。

● 改善の方策

この科目も、可能ならもう少し小さなサイズのクラスで行えると良いと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

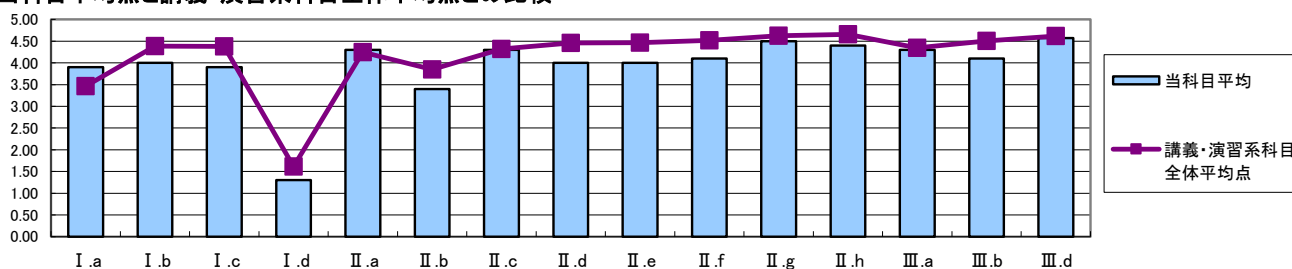
科目名	日本の伝統音楽概説B
教員名	黒川 真理恵

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	13
回答者数	10

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.90		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.90		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.30		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.30		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.40		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.30		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.10		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.40		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.30		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.10		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			70.00	40.00	20.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.57		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この科目の目的は、和楽器の基本的な奏法を学ぶことで、後期では祭囃子、長唄三味線、箏の演習を行った。授業形態は演習形式で、開講曜日時限は火曜日2限だった。受講者数は13名だったが、毎回出席していたのは11名だった。そのうち8名が前期から継続して履修、3名が後期から履修だった。前期からの学生と、後期からの学生では、箏の習熟度に差があった。そのため、シラバスでは箏の曲は難易度の高い《千鳥の曲》を教材とする予定だったが、実際には基本曲の《六段の調》を教材とした。

● 問題点

自由記述からは、「何度も練習させてくれるのは嬉しかったがやりすぎかなとも思う」という意見と、「1つ1つの進みが早く難しかった。個人練習する時間が取れないので少し授業内でも時間がほしいと思った」という意見があった。前述の通り、学生の習熟度に差があったため、学生が感じる難易度にも差があったと思われる。また、欠席が続くと、進度に差が生じてしまったこともあったと思われる。

● 改善の方策

単元ごとの時間数と、教材の難易度を見直し、授業内での練習時間を多くとるようにしたい。振り返りの時間を設け、学生と教員で、課題を共有するようにしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

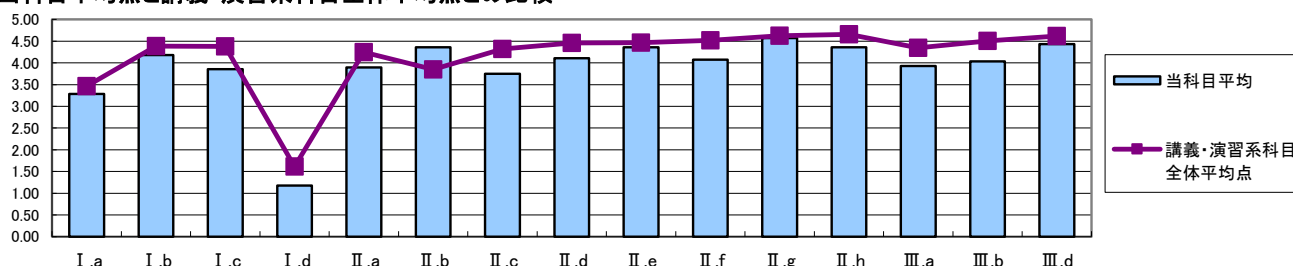
科目名	日本音楽史概説B
教員名	黒川 真理恵

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	40
回答者数	28

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.29		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.18		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.86		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.18		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.89		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.36		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.75		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.11		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.36		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.07		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.57		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.36		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.93		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.04		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			66.67	55.56	22.22	3.70	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.43		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この科目の目的は、日本の伝統音楽について、各種目の歴史と理論を学習し、基本的な知識を身につけることである。授業形態は講義形式で、受講者数は40名、開講曜日時限は火曜日 2 限だった。受講者40名のうち、受講生は1～3年まで分布していた。また、7名は前期から継続して履修だった。

多くの学生が、日本の伝統音楽について触れる機会が少ないなかで、集計結果の【IIIb】からは、興味を持って履修していたことがうかがえる。自由記述からも、映像と解説付きでわかりやすかったという意見が多かった。

● 問題点

【IIb】の授業の難易度については、適切20名、やや難しい6名、やや易しい1名だった。どちらかというと難しいと感じたのではないと思われる。毎回の授業でコメントシートに質問や感想を書いてもらい、次回の授業の最初に回答するようにした。わかりやすく丁寧に説明したり、質問に答えたりしたことで、当日のレジュメの内容が終わりず、次回に持ち越しになることもあった。

● 改善の方策

学生の難易度に合わせて、レジュメの内容を取捨選択し、今後もわかりやすい授業を心掛けたい。単元ごとに要点をまとめた課題を作成したところ、学生からも復習がしやすいと好評だったため、今後も継続したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

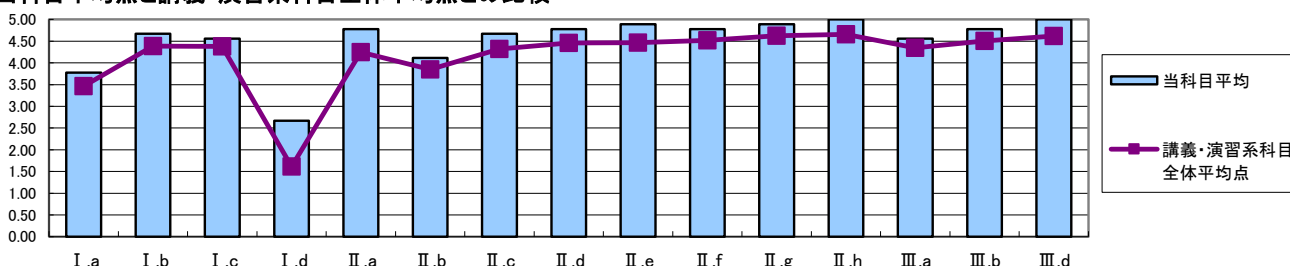
科目名	和声学(Konzertfach)2
教員名	白石 茂浩

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	10
回答者数	9

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.78		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.56		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.67		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.78		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.11		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.78		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.89		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.78		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.89		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.56		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.78		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	88.89	44.44	44.44	22.22	11.11

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は木曜日3時限に開講された1・2年生合同授業の形態をとっている授業であり、Konzertfachの学生は同じ内容の授業を二度受講することになっているが、ここには「前期授業終了後にある、一年生にとって初めてのウィーン研修までに、ある程度のところまで授業を進めておかななくてはならない」という事情があり、結果、この授業の進捗は必然的に速くなる。進度の速い授業には学習内容全体の流れ・個々の事柄の関連性の理解をたやすくするという利点がある一方、深く学ぶことに関しては弱くなるという欠点がある。これを補うために、本科目については同じ内容の授業を二度受講する措置がとられているのだが、通年を通して、後期では実作品の和声分析を行う形で前期で学んだ内容の復習をするとともにこれへの理解を深めるという形をとっている。

この科目では、Konzertfach 学生にとっての最終目標である「自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようになること」に向けて、和声音楽と称される近代西洋音楽の骨子をなす機能的和声法の基礎知識を得ることを目的として掲げており、このため授業は講義形式が主体となっているが、先に述べたような事情から、前期に比べ後期の和声学（Konzertfach）2・4では課題実習の比率が高くなっている。和声学1から4まで、それぞれの到達目標は〈和声学1：機能的和声法の概要を知ることができる〉〈和声学2：機能的和声法の概要を知るとともに、学んだ知識の応用について知ることができる〉〈和声学3：機能的和声法への理解をより深めることができる〉〈和声学4：楽曲分析・解釈を行うにあたって必要不可欠な「自分で考える力、を身につけることができる」である。

今年度の和声学2・4の受講生は、和声学2（1年生）が中国人留学生2名を含む10名（ピアノ3名・声楽3名・ヴァイオリン1名・サクソフォーン1名・打楽器2名）、和声学4（2年生）が2名（サクソフォーン・ピアノ各一名）であった。

前年度のアンケート結果に引き続き、今年度でもIIbとIIdにおいて2年生（2021年度1年生）の回答に大きな差異が見られた。

一方、一年生に関してはIIb・IIdをも含め、アンケート結果を見る限り問題点を見出すことができなかった。

● 問題点

先にも述べたように1年生に関してはアンケート結果上は問題点を見出すことができないが、IIbの回答に『3. 適切』が多いことに気をつけるべきであろうと考える（これまでは2年目の授業で「昨年、学んだことの意味がわかった」と言う学生が少なからずいた）。

2年生については前年度同様、一部の学生と教員の間に達成目標に関する意識のズレが存在していたと考えられる。

● 改善の方策

この『考察』を書いている4月現在、2022年度和声学4受講生は対位法の授業を履修しており、この授業には和声学で学んだ内容の復習も含まれているので、ここで学生が理解が不十分であると感じている点、自信を持ってない点を見出し補うことにする。

2023年度2年生（前年度1年生）については、理解が深まっているかどうかという点に注意しながら授業を進める。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

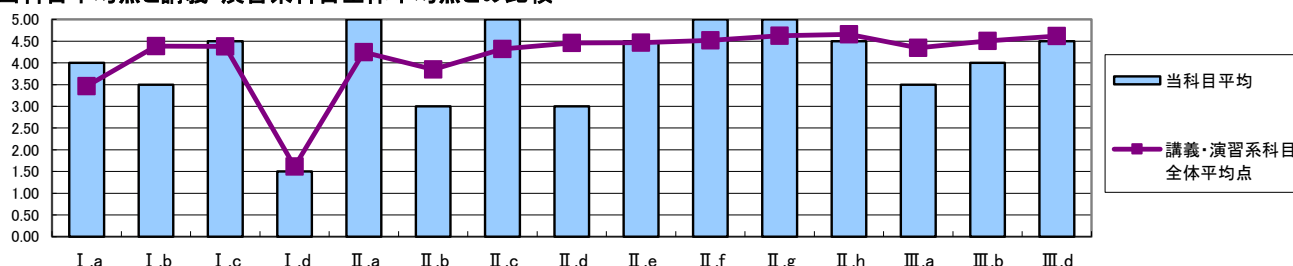
科目名	和声学(Konzertfach)4
教員名	白石 茂浩

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.50		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.50		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は木曜日3時限に開講された1・2年生合同授業の形態をとっている授業であり、Konzertfachの学生は同じ内容の授業を二度受講することになっているが、ここには「前期授業終了後にある、一年生にとって初めてのウィーン研修までに、ある程度のところまで授業を進めておかななくてはならない」という事情があり、結果、この授業の進捗は必然的に速くなる。進度の速い授業には学習内容全体の流れ・個々の事柄の関連性の理解をたやすくするという利点がある一方、深く学ぶことに関しては弱くなるという欠点がある。これを補うために、本科目については同じ内容の授業を二度受講する措置がとられているのだが、通年を通して、後期では実作品の和声分析を行う形で前期で学んだ内容の復習をするとともにこれへの理解を深めるという形をとっている。

この科目では、Konzertfach 学生にとっての最終目標である「自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようになること」に向けて、和声音楽と称される近代西洋音楽の骨子をなす機能的和声法の基礎知識を得ることを目的として掲げており、このため授業は講義形式が主体となっているが、先に述べたような事情から、前期に比べ後期の和声学（Konzertfach）2・4では課題実習の比率が高くなっている。和声学1から4まで、それぞれの到達目標は〈和声学1：機能的和声法の概要を知ることができる〉〈和声学2：機能的和声法の概要を知るとともに、学んだ知識の応用について知ることができる〉〈和声学3：機能的和声法への理解をより深めることができる〉〈和声学4：楽曲分析・解釈を行うにあたって必要不可欠な「自分で考える力、を身につけることができる」である。

今年度の和声学2・4の受講生は、和声学2（1年生）が中国人留学生2名を含む10名（ピアノ3名・声楽3名・ヴァイオリン1名・サクソフォーン1名・打楽器2名）、和声学4（2年生）が2名（サクソフォーン・ピアノ各一名）であった。

前年度のアンケート結果に引き続き、今年度でもIIbとIIdにおいて2年生（2021年度1年生）の回答に大きな差異が見られた。

一方、一年生に関してはIIb・IIdをも含め、アンケート結果を見る限り問題点を見出すことができなかった。

● 問題点

先にも述べたように1年生に関してはアンケート結果上は問題点を見出すことができないが、IIbの回答に『3. 適切』が多いことに気をつけるべきであろうと考える（これまでは2年目の授業で「昨年、学んだことの意味がわかった」と言う学生が少なからずいた）。

2年生については前年度同様、一部の学生と教員の間に達成目標に関する意識のズレが存在していたと考えられる。

● 改善の方策

この『考察』を書いている4月現在、2022年度和声学4受講生は対位法の授業を履修しており、この授業には和声学で学んだ内容の復習も含まれているので、ここで学生が理解が不十分であると感じている点、自信を持ってない点を見出し補うことにする。

2023年度2年生（前年度1年生）については、理解が深まっているかどうかという点に注意しながら授業を進める。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

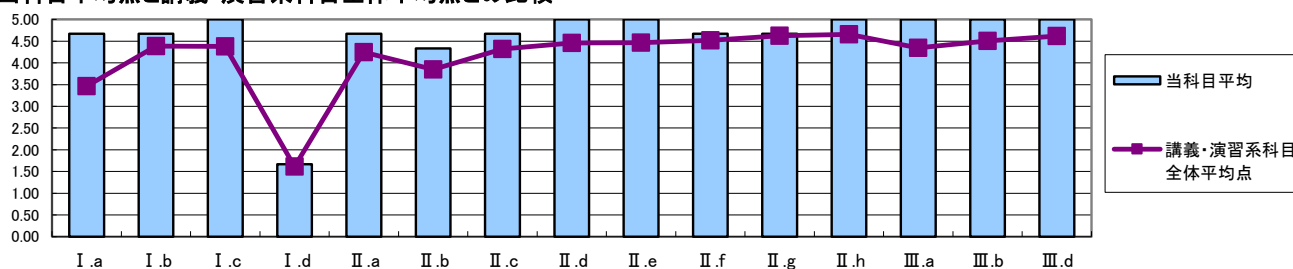
科目名	ピアノ伴奏法ⅡB
教員名	田中 梢

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.67		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	66.67	66.67	33.33	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

木曜日5限4名の履修者。後期として、オペラ、オペレッタ、ミュージカルなどのオーケストラ伴奏物の課題を演習した。三名は優秀。一名は技術未熟者。

● 問題点

優秀で意欲的な生徒達だったので、意識のズレはないと思う。

● 改善の方策

毎回思うが、生徒間の技術の差は授業を進める上で妨げになる。でもどの生徒も弾けるようにと願うのでどうするかは難しい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

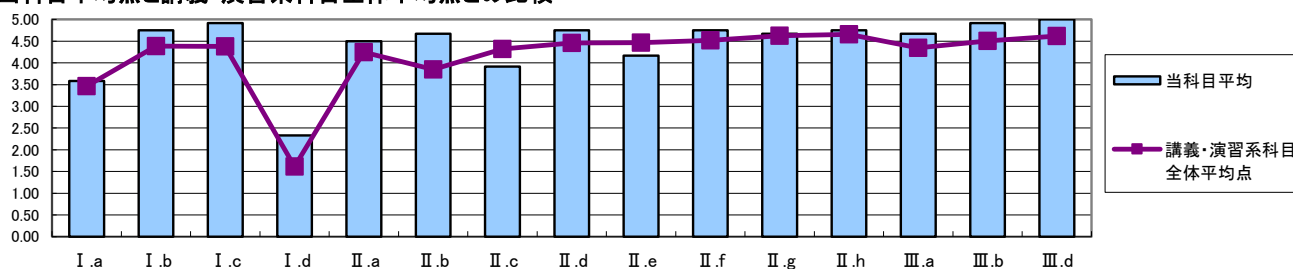
科目名	ピアノアンサンブルB
教員名	田中 梢

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	12
回答者数	12

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.58		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.75		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.92		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.33		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.67		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.92		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.17		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.92		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			83.33	58.33	41.67	25.00	16.67
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

ピアノアンサンブルAの後期ということで、フランスのアンサンブル曲を主に、クリスマスの時はクリスマスの合奏曲をそして自由課題で試演会を行う。12名なので1組15分レッスン出来たので良かった。

● 問題点

皆忙しく予習復習する時間が少なく授業の中でも合わせる時間を作らなければならなかった。個人的に病気等休む生徒がいて、予定通り進められないこともあった。

● 改善の方策

一組30分のレッスン時間は欲しいが、今回は難しかった。自由課題に大曲を選んで欲しいが、来年度に期待したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	オペラ研究ⅠB	職名	08. 講師	履修者数	10
教員名	十川 稔			回答者数	10

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.40		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.40		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.50		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.80		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.30		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.40		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.40		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.40		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.20		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.30		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			60.00	50.00	40.00	60.00	10.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.78		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

音楽総合芸術であるオペラの実習科目である。歌手の職業が確立しているヨーロッパにおいては、オペラ劇場に就職することが大きな役割を持ち、日本で声楽を専攻する学生にとっても欠かすことの出来ない科目となっている。選択科目として声楽専攻生3年次、4年次のみ受講出来る科目として設定されている。指導する教員は、演出家、指揮者、音楽指導、コレペティの先生方でチームとして意思疎通を図りつつ、授業を進めている。学生一人一人の声楽技術、声の種類を細かく検討し、アンサンブル課題を出す。前期では、音楽の試演会を行い、後期においてオペラのシーンを演じることが出来るようになるまで指導している。前期は、演出家による身体トレーニングも設定し、後期における演技を伴う歌唱への導入を行っている。取り扱う言語は、イタリア語、ドイツ語である。2年時に必修科目として朗読法があり、歌唱イタリア語、歌唱ドイツ語の指導がなされている。

履修学生10名であり、全員から提出された。アンケートは、本人の受講についての設問4項目、教員の授業の進め方についての設問8項目、学生が実感する到達度についての設問4項目よりなる。回答は積極的肯定：5、消極的肯定：4、普通：3、消極的否定：2、積極的否定：1で回答されている。

アンケート結果は、Ⅰにおいて4.4、Ⅱにおいて4.3、Ⅲにおいても4点台であった。

● 問題点

Ⅰにおいては、7名が全ての問いに対し積極的肯定・5点を選択したのに対し、3名が、3点のどちらともいえないとなっている。Ⅱにおいては難易度の高さを実感している様子が伺えるが、それでも食欲に新しい知識、技術に取り組んだ様子が伺える。ここでも3名ほどが消極的な意見に留まっている。Ⅲにおいて、到達目標に近づいたと感じているのは7名となった。しかし、「この授業は意義のあるものだったか」の問いに8名は5点となった。

● 改善の方策

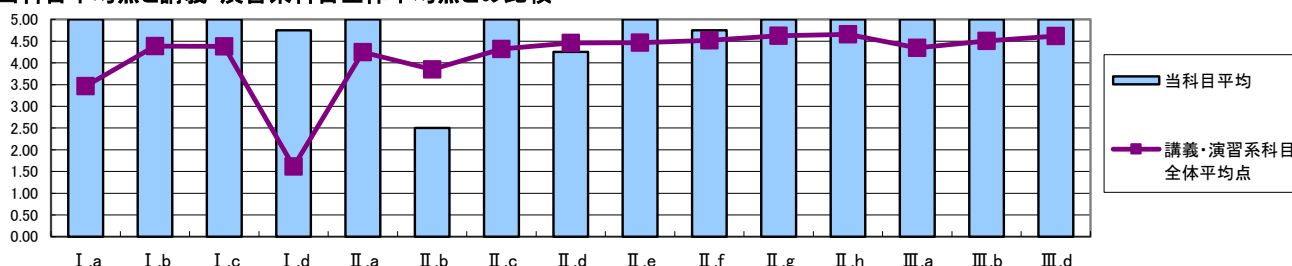
オペラ研究の授業は、学生が音楽現場の厳しさに触れる第1歩となる。1年、2年で学んできた基礎を生かして、歌でプロを目指す試金石でもある。オペラ歌手ではなく、コンサート歌手に適した人材もあり、オペラを履修してみたが、なかなか難しさを感じた学生もいることが伺える。学生のそのような悩みに対しても会話する時間をとるように心がけている。学生一人一人の個性を重んじつつ、成長を実感できるようサポートしていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	オペラ研究ⅡB	職名	08. 講師	履修者数	4
教員名	十川 稔			回答者数	4

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.75		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.50		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.25		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			75.00	25.00	0.00	25.00	50.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

音楽総合芸術であるオペラの実習科目である。歌手の職業が確立しているヨーロッパにおいては、オペラ劇場に就職することが大きな役割を持ち、日本で声楽を専攻する学生にとっても欠かすことの出来ない科目となっている。選択科目として声楽専攻生3年次、4年次のみ受講出来る科目として設定されている。指導する教員は、演出家、指揮者、音楽指導、コレペティの先生方でチームとして意思疎通を図りつつ、授業を進めている。学生一人一人の声楽技術、声の種類を細かく検討し、アンサンブル課題を出す。特にオペラ研究Ⅱでは、更に技術や、能力が問われる課題を選曲している。前期では、音楽の試演会を行い、後期においてオペラのシーンを演じることが出来るようになるまで指導している。前期は、演出家による身体トレーニングも設定し、後期における演技を伴う歌唱への導入を行っている。取り扱う言語は、イタリア語、ドイツ語、フランス語、日本語などの多岐にわたる。2年時に必修科目として朗読法があり、歌唱イタリア語、歌唱ドイツ語の指導がなされている。

履修学生4名であり、全員から提出された。アンケートは、本人の受講についての設問3項目、教員の授業の進め方についての設問5項目、学生が実感する到達度についての設問4項目よりなる。回答は積極的肯定：5、消極的肯定：4、普通：3、消極的否定：2、積極的否定：1で回答されている。アンケート結果は、Iに5、IIにおいてもほぼ5、IIIも5であった。

● 問題点

このアンケートから、教員と学生の信頼関係が結ばれていることが確認できたことは喜ばしい。1年の履修を経てさらに難しい課題に取り組んだ充実が伺える。アンサンブルの授業ではあるが、教員は常に一人一人の技術、可能性と向き合っており、その良さを生かした丁寧な指導を継続していきたい。

● 改善の方策

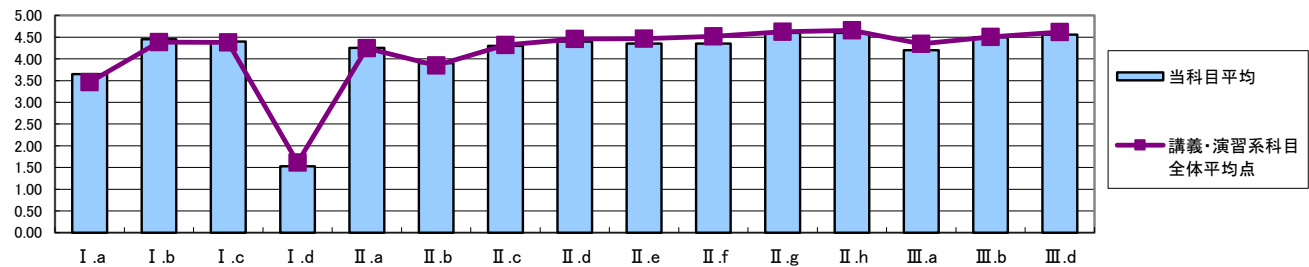
オペラ研究の授業は、学生が音楽現場の厳しさに触れる第1歩となる。1年、2年で学んできた基礎を生かして、歌でプロを目指す試金石でもある。オペラ研究Ⅱでは、更にオペラの授業で自らの可能性を目指す学生が履修する傾向がある。社会に出て十分に活躍できる基礎、学び方、やるべきことを教授する授業となっている。学生一人一人の個性を重んじつつ、成長を実感できるようサポートしていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	合唱ⅢB(歌唱指導法・日本の伝統的な歌唱を含む)	職名	08. 講師	履修者数	26
教員名	山崎 正彦			回答者数	20

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.65		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.45		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.53		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.90		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.30		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.40		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.35		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.35		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.60		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.20		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			78.95	42.11	31.58	42.11	26.32
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.56		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明 教育現場で求められる指導者の能力としての合唱指導に焦点を当て、合唱教材についての適正な理解、発声指導の適正な方法、読譜指導のあり方（以上、ここまで前期の学修内容）、それらに基づき、今期では合唱における表現の創意工夫段階における指導のあり方についての理解と実践力を身につけることを目的としている。 内容は、学生が期間中、指揮をしながら合唱指導の創意工夫における指導を行い、他者の指揮に際して伴奏も担当した。授業形態は教員の講義と学生の指導演習による。受講者数は26名。開講曜日・時限は水曜日第4限。 新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら、手探りの状態での授業実践となった。合唱という呼気に関わる内容であり、全員がマスクを着用しての合唱とした。これは政府の当時の指示としては当然であったが、その徹底に苦勞することもあった。 授業への参加意欲、授業態度は概ね良好であった。
● 問題点 本科目の平均点が全科目平均よりも低い傾向があることに問題を感じる。学生との意識のズレである。Ⅱ－d, e, fに関して全体平均に大きく及んでいない実情についての原因について。正直「何が？」と考えてしまう。 ただ、自由記述欄に綴られている内容を読むと、当方の指導意図と本科目で身につけて欲しいと考えている学力について学生が適切に理解して、一部であるが、それを実感していることが察せられ、果たすべき役割は果たしている側面もあるのかなど、安堵もしている。 2023年度は履修者が増加することが判明している。科目平均が全体平均に及ぶ、もしくはそれを超えるように全力、真剣勝負で臨む。
● 改善の方策 今回の学生による評価内容、とりわけ全科目平均に比して低い実情の改善に向けて努力を行わなければならないが、2022年度と同様の指導を行いながら、学生の様子を注視しながら、その都度、改善に向けての要素を発見していく。 他科目にも記したが、当方の把握しておきたい項目としての学修内容の理解と技能獲得に関しての個々人の見解が不明であり、指導者側としての核心的な次元での内容の定着度が気になる。改善の方策から外れてすみません。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

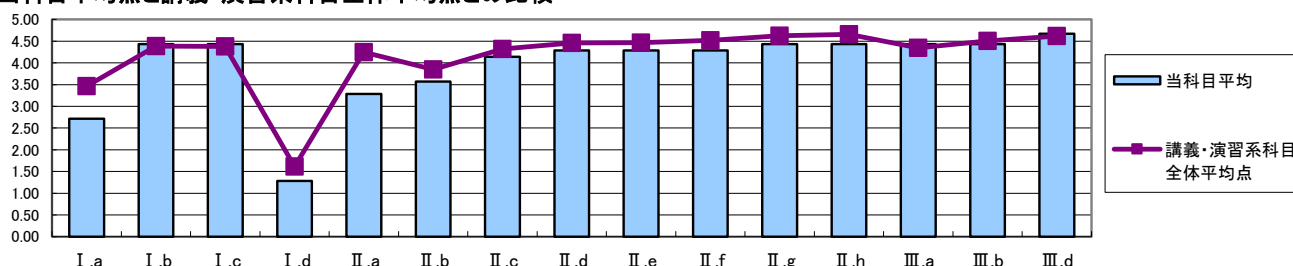
科目名	合唱ⅣB
教員名	山崎 正彦

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	7
回答者数	7

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.71		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.43		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.29		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.29		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.57		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.14		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.29		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.29		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.29		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.43		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.43		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.43		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.43		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			50.00	50.00	50.00	33.33	16.67
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

3年次の学修内容をふまえて、その反復を3年次生と共に学修していくことを目的としている。内容は、指揮をしながらの合唱指導の創意工夫の実践。授業形態は教官の講義と学生による指導演習。受講者数は7名。開講曜日・時間は水曜第4限である。

学生の授業への取り組み、授業態度は良好である。

● 問題点

集計に現れていることではないが、授業内での学生のコメントがあり、この4年次生が3年次生の時に、本科目での内容である〈指揮をしながら合唱の創意工夫について指導をする〉が新型コロナウイルス感染症の蔓延のために一切、実践できなかったが、4年次になりこの内容に触れ「教育実習前に、これができていたらよかったのに」と授業後に数人が伝えてくれた。まさに、教育実習に行ってきたからこそ分かることであり、このコメントをして本科目のねらいに確信をもつに至った。

● 改善の方策

先ほどの4年次生のコメントを受け、それをいかに3年次生に伝えきるのか。それについて試行錯誤を行う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

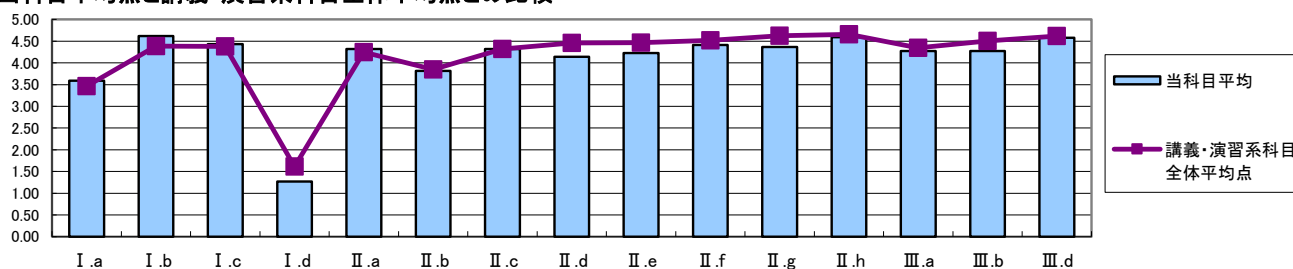
科目名	合奏B(和楽器を含む)
教員名	山崎 正彦

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	26
回答者数	22

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.59		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.62		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.27		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.32		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.82		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.32		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.14		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.23		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.41		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.36		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.59		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.27		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.27		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			72.73	50.00	18.18	31.82	13.64
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.58		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

リコーダー、ギターの習熟（前期、ただし、新型コロナウイルスのためリコーダーは不可能）を経て、その知識と技能を生かし、打楽器を交えたアンサンブルを企画、実践することを目的としている。内容は打楽器合奏の企画、編曲、実践である。授業形態は教官による講義と学生による演習、演奏。受講者数は26名。開講曜日・時限は水曜日・第5限。

新型コロナウイルスの蔓延により、ここ数年間、通常の予定していた授業内容が叶わずにきていたが、2022年度はクラスをABの2つに分け、互いに相手チームの合奏用楽曲を編曲、指導を行い演奏できるようになるまで責任をもつという2022年用として取り組んだ。それなりの効果があったと考えている。

● 問題点

本科目平均が全科目平均より若干低いという点が問題である。とはいえ、自由記述を読む限り、当方の指導意図と見込んでいる学力と同様のことを学生は述べており、学生と教官との間に大きなズレは生じていないと考えている。

以下、問題点とは関係ないが、毎授業、予期しない事態が発生することも多い授業であり、学生と教官との創意工夫で乗り切るような側面をもっている。それは小中学校の教育現場でも生じることであり、学生はそれを身をもって体験していたことになる。

● 改善の方策

2023年度は当方が本科目を担当しないことになっている。後任者に、本科目の趣旨、期待する成果、授業を進めるうえでの課題について先日、伝えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

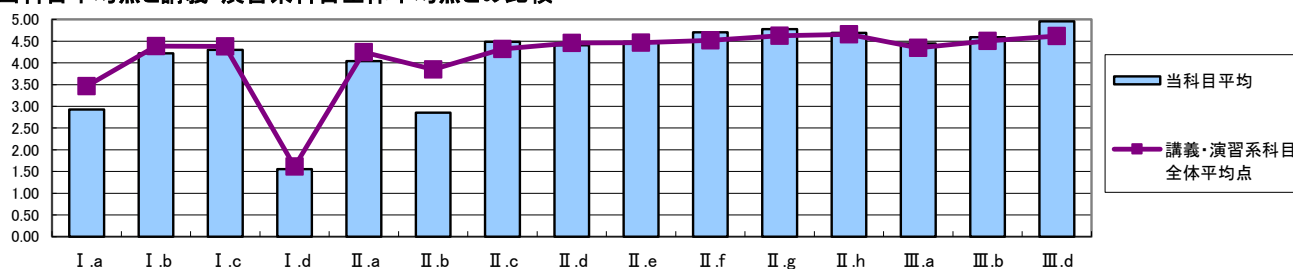
科目名	和声学4a
教員名	横山 裕美子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	34
回答者数	27

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.93		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.22		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.30		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.56		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.04		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.85		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.48		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.41		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.48		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.70		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.78		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.69		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.44		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.59		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			80.77	34.62	19.23	15.38	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.95		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

和声学1年次aクラス（上のクラス）だった学生たちの2年次のクラスである（必修）。学生には、毎授業ごとに順番に板書課題を解いてもらい、アドバイスを直接伝えることを続けた。また、小テストを数回実施し、個別アドバイスを書き込んで学生へ返却するという作業を徹底して続けた。和声学は理論の積み重ねなので、一回授業を休むとわからなくなってしまう可能性もある。コロナ禍でもあり、休まざるを得ない学生たちもいるので、とにかく丁寧に適切なアドバイスをすることに専念した。クラス全体の雰囲気も良好で、課題の正解率は上がっていった。

● 問題点

特になく考える。

● 改善の方策

引き続き、授業・プリント・アドバイスの方法など工夫していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

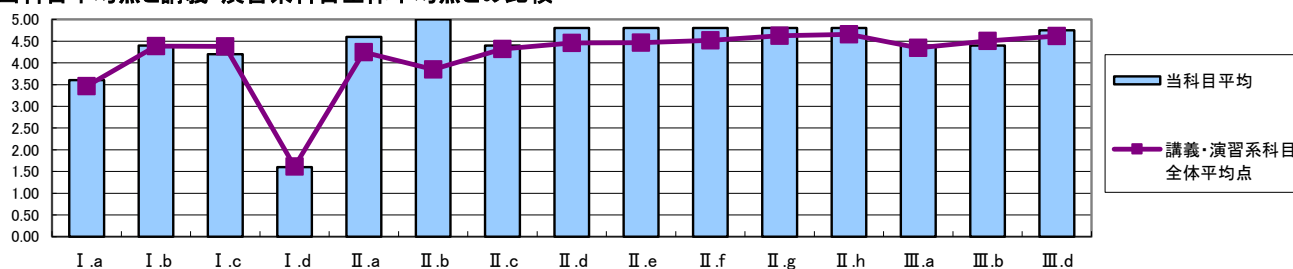
科目名	音楽の基礎理論(Konzertfach)B
教員名	横山 裕美子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	9
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.60		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.40		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.20		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.60		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.40		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.40		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	60.00	40.00	20.00	20.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

Konzertfachに在籍する1年生の必修授業である。授業では、実際の楽曲を使って音楽の基礎理論を学ばせ、楽曲を分析していく力を養えるよう、工夫して授業を組み立てている。ウィーン留学に向けて、イタリア語とドイツ語の音楽用語テストも毎回行っている。
今年の1年生は9人という多い人数で、専攻もバラエティーに富んでいた。（うち1人は留学生）そのせいか、ユニークな解釈や意見を聞くことができた。

● 問題点

50分間しか授業時間がないので、少々忙しい。

● 改善の方策

引き続き授業を工夫していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

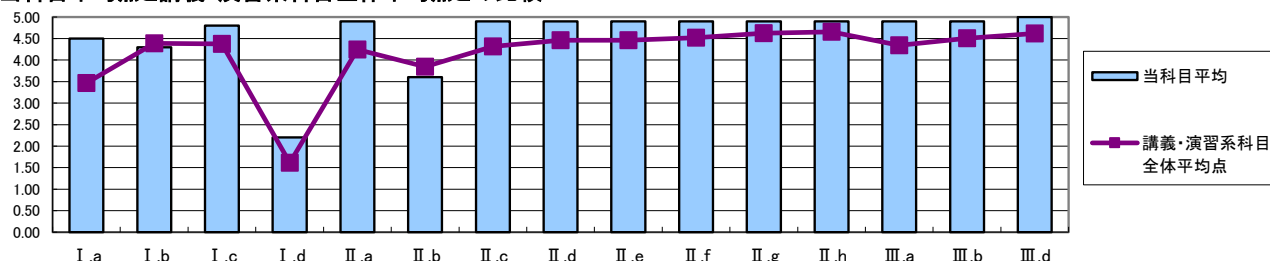
科目名	音楽文化論B
教員名	遠山 菜穂美

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	12
回答者数	10

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.30		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.20		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.90		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.60		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.90		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.90		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.90		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.90		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.90		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.90		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.90		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.90		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			77.78	55.56	55.56	22.22	33.33
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



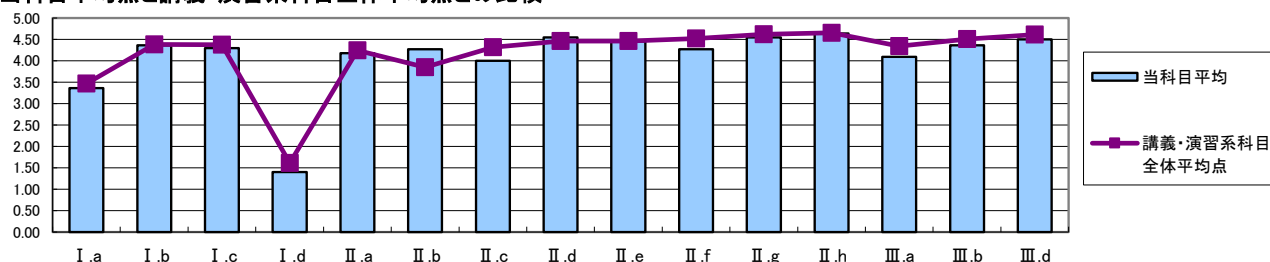
科目名	作品研究[鍵盤]B
教員名	遠山 菜穂美

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	11
回答者数	11

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.36		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.36		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.30		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.40		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.18		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.27		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.55		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.45		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.27		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.55		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.64		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.09		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.36		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			66.67	44.44	66.67	0.00	11.11
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	音楽史B
教員名	遠山 菜穂美

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	31
回答者数	27

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
I	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.59		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.41		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.56		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67		1.61		
II	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.56		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.07		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.48		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.41		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.48		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.63		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.74		4.66		
III	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.37		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			88.46	53.85	50.00	15.38	3.85
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.71		4.62			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



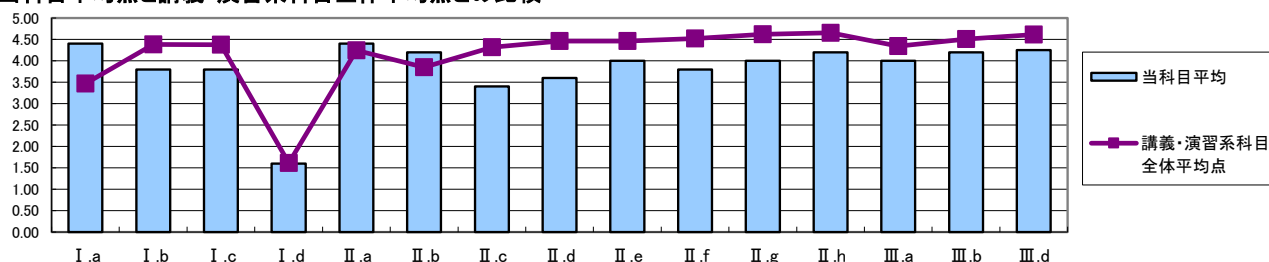
科目名	P.A.C.S.4
教員名	遠山 菜穂美

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	5
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.40		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.80		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.80		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.40		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.60		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.80		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.20		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.20		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			40.00	80.00	40.00	0.00	20.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.25		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

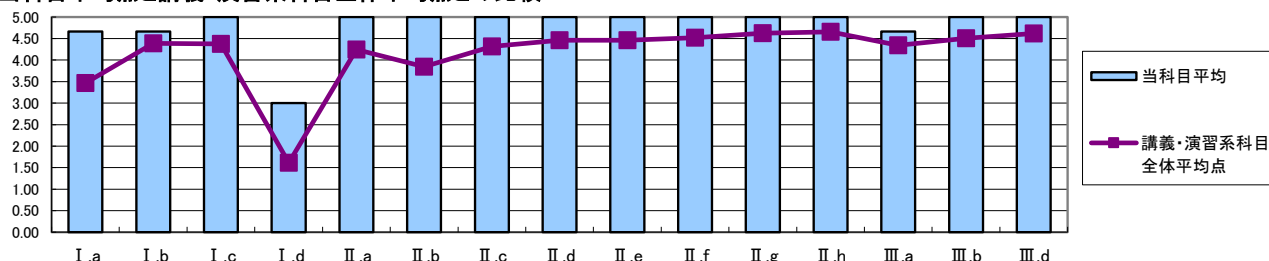
科目名	室内楽ⅠBg
教員名	宮野 陽子

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	4
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点	全体平均点				
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.67	3.47				
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.39				
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38				
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.61				
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.24				
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.85				
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.32				
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.46				
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.46				
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.52				
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62				
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.66				
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.34				
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.51				
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率					
			5	4	3	2	1	
			100.00	100.00	66.67	33.33	33.33	
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.62					

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



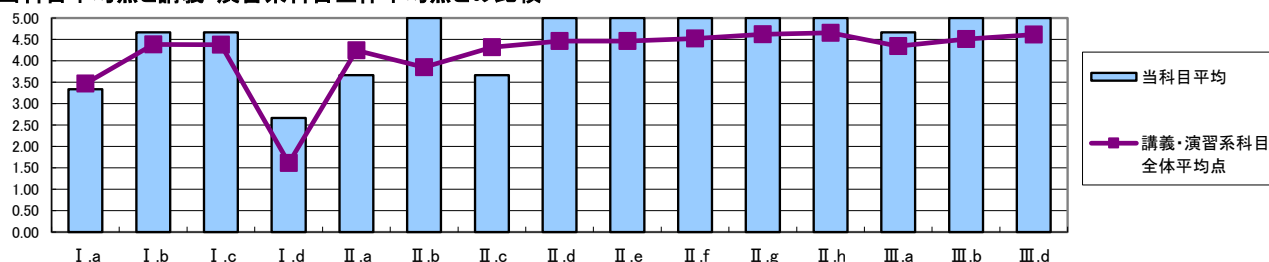
科目名	室内楽ⅢBg
教員名	宮野 陽子

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	4
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.67		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.67		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.67		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			66.67	100.00	100.00	33.33	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

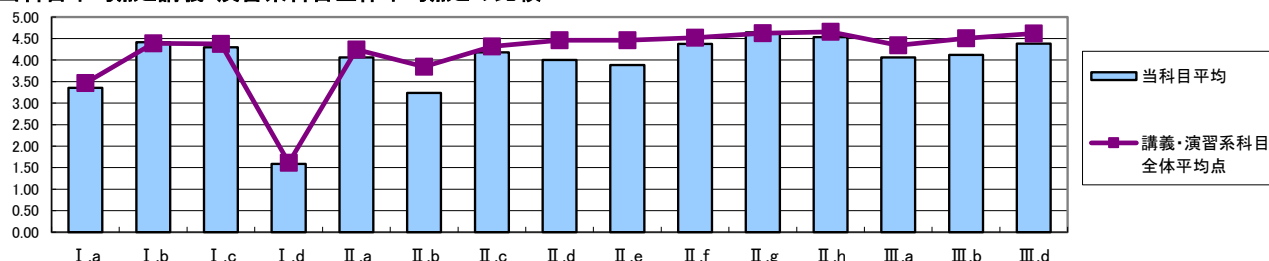
科目名	オーケストラ・ウインド・オーケストラのための合奏ベーシックⅡB
教員名	浅野 高瑛

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	26
回答者数	17

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.35		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.41		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.29		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.59		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.06		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.24		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.18		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.88		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.38		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.65		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.53		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.06		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.12		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.38		4.62		
			5	4	3	2	1
			64.71	47.06	5.88	41.18	0.00

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



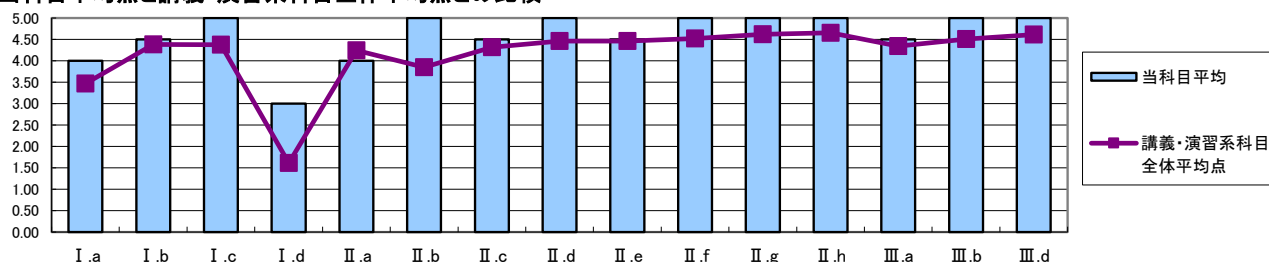
科目名	オーケストラ・ウインド・オーケストラのための合奏ベーシックⅡB
教員名	浅野 高瑛

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	15
回答者数	2

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			50.00	50.00	50.00	0.00	50.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

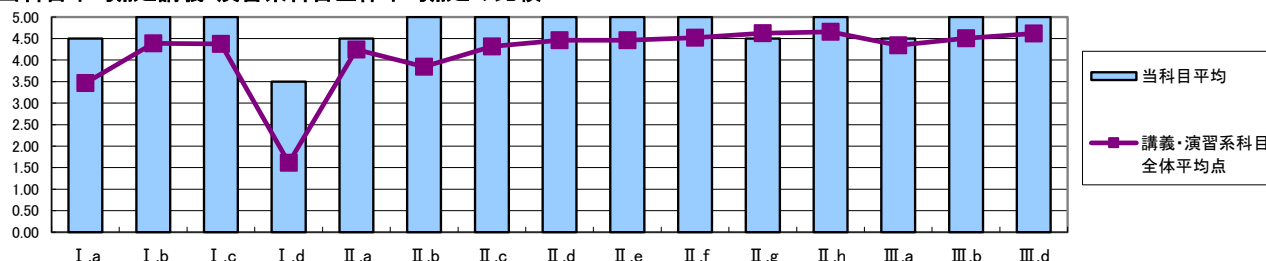
科目名	オーケストラ・ウィンド・オーケストラのための合奏ペーシクⅢB
教員名	浅野 高瑛

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	15
回答者数	2

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.50		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	50.00	100.00	0.00	0.00	0.00

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



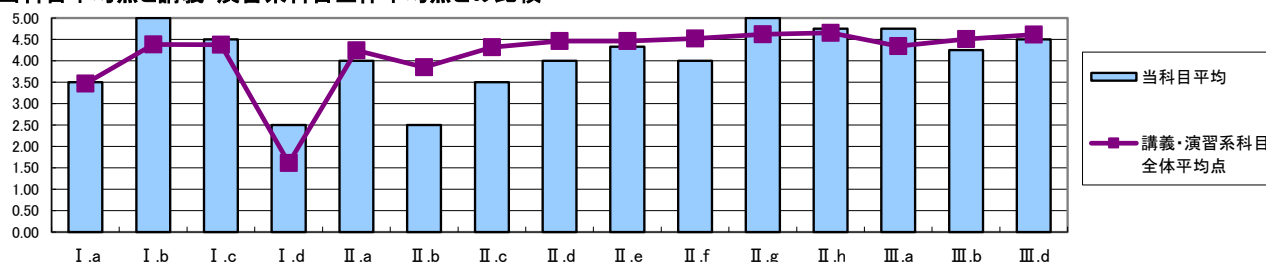
科目名	オーケストラⅠB
教員名	梅田 俊明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	6
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.50		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.50		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.25		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5	4	3	2	1
			100.00	75.00	25.00	50.00	0.00
			4.50		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

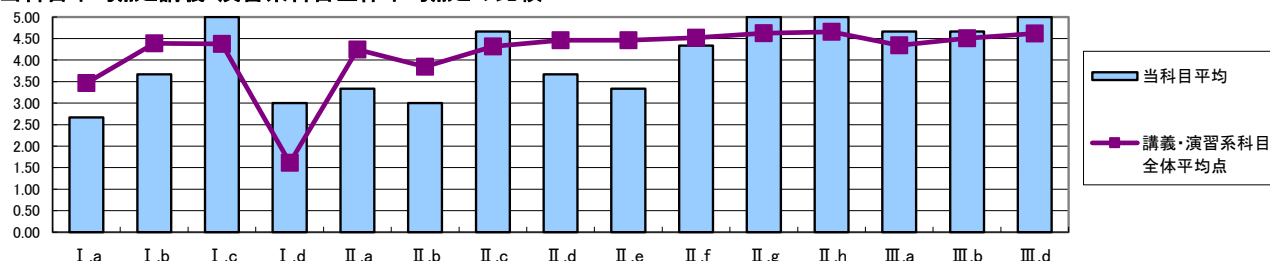
科目名	オーケストラⅡB
教員名	梅田 俊明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	4
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.67		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.67		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.33		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.67		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.33		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	66.67	33.33	0.00	0.00	0.00
		5.00		4.62			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



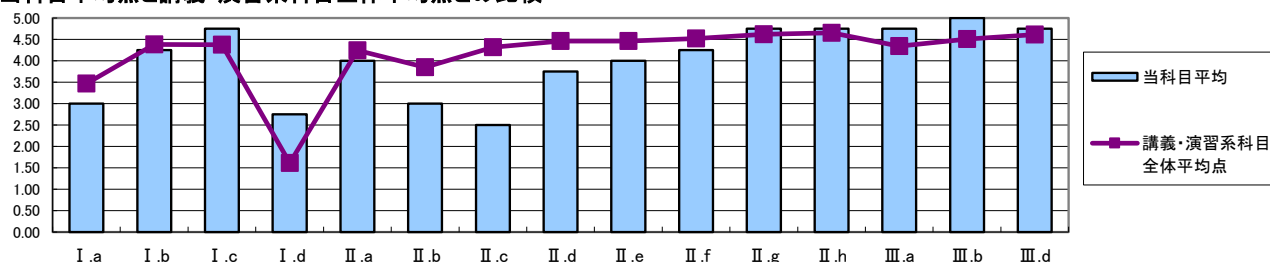
科目名	オーケストラⅢB
教員名	梅田 俊明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	5
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.75		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	2.50		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.75		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.25		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			75.00	75.00	50.00	75.00	25.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

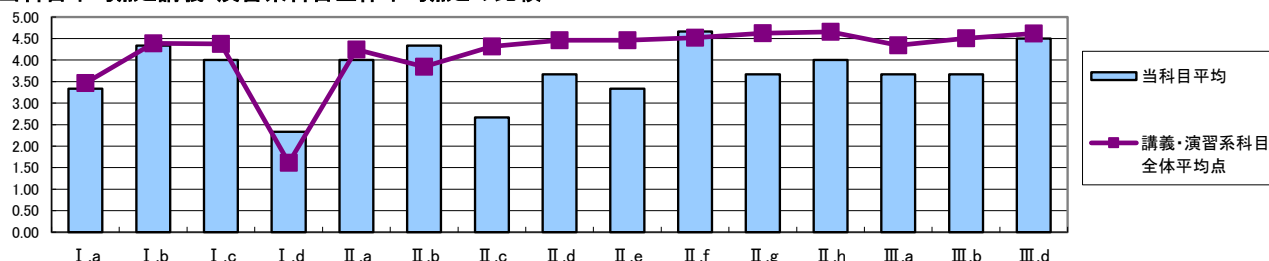
科目名	オーケストラⅣB
教員名	梅田 俊明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	4
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点	全体平均点					
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33	3.47					
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.39					
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.38					
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.33	1.61					
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.24					
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.85					
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	2.67	4.32					
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.67	4.46					
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.33	4.46					
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.52					
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.67	4.62					
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.66					
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.67	4.34					
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.67	4.51					
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率						
			5	4	3	2	1		
			50.00	50.00	50.00	0.00	0.00		
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.62						

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



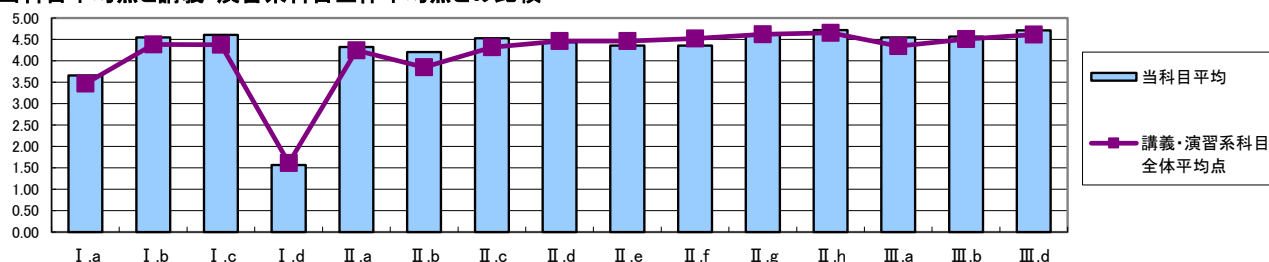
科目名	合唱ⅠB
教員名	荻久保 和明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	63
回答者数	53

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.66		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.55		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.57		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.32		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.21		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.53		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.43		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.36		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.36		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.62		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.72		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.55		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.57		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			81.13	24.53	32.08	3.77	11.32
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.71		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

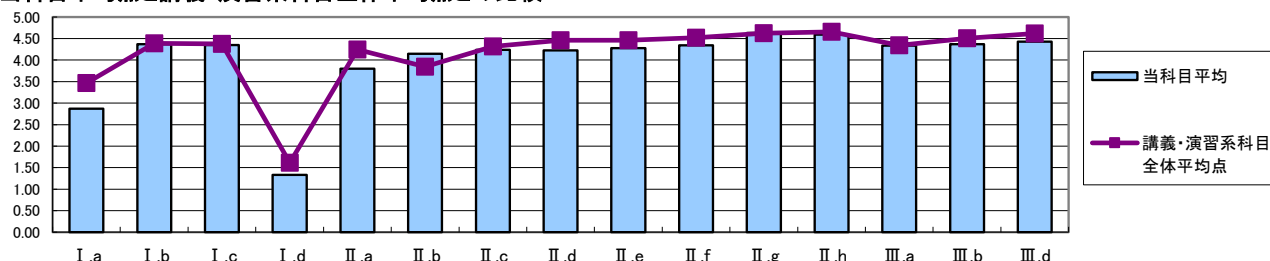
科目名	合唱ⅡB
教員名	荻久保 和明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	62
回答者数	54

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.87		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.37		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.35		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.80		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.15		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.24		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.23		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.28		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.34		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.63		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.59		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.37		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			62.26	26.42	28.30	7.55	13.21
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.43		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



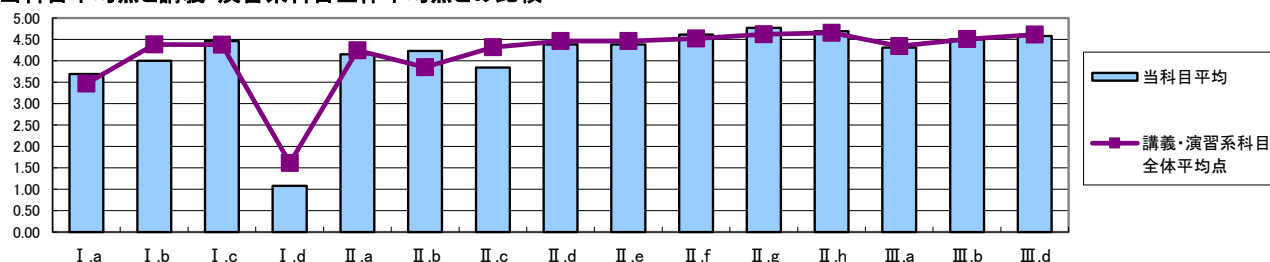
科目名	指揮法b
教員名	粕谷 宏美

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	18
回答者数	13

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.69		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.46		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.08		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.15		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.23		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.85		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.38		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.38		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.62		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.77		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.69		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.31		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			84.62	46.15	53.85	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.58		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

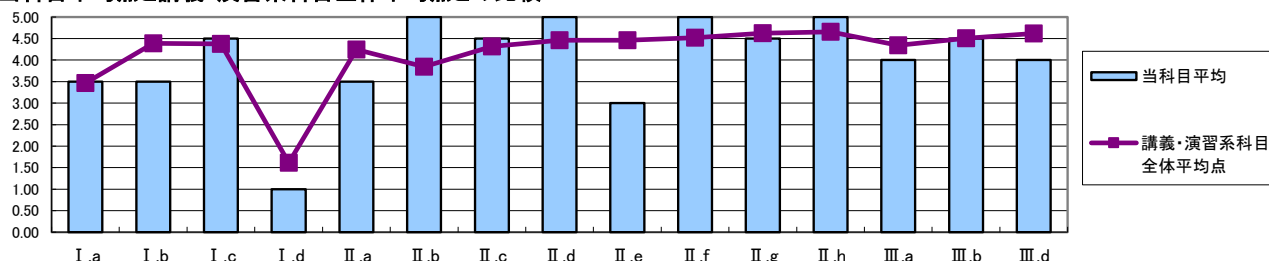
科目名	ライブパフォーマンス&スタッフワークB
教員名	城之内 ミサ

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	6
回答者数	2

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
I	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.50		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
II	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
III	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			0.00	100.00	50.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



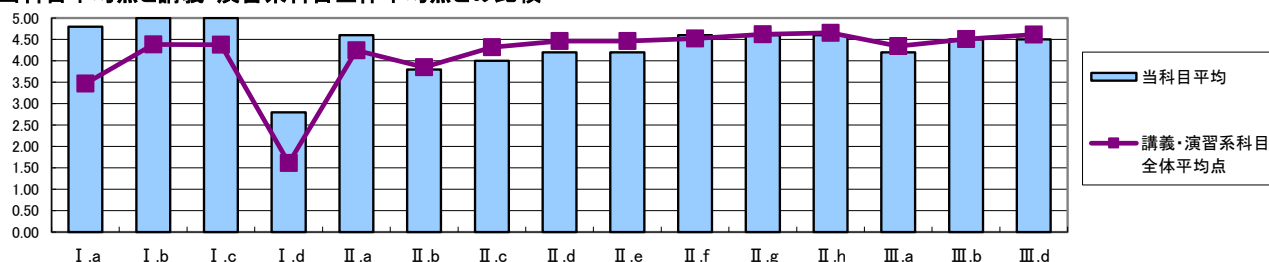
科目名	THE 業界人～仕事の流儀 I B～
教員名	城之内 ミサ

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	6
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.80		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.80		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.60		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.80		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.20		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.20		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.60		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.20		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			80.00	60.00	80.00	80.00	80.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

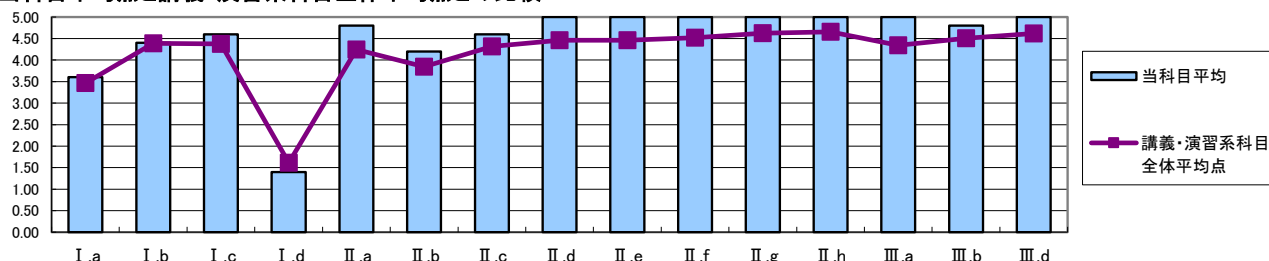
科目名	THE 業界人～仕事の流儀ⅡB～
教員名	城之内 ミサ

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	9
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点	全体平均点					
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.60	3.47					
	b	この授業の出席は良好であった。	4.40	4.39					
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.38					
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.40	1.61					
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.80	4.24					
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.85					
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.32					
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.46					
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.46					
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.52					
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62					
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.66					
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.34					
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4.51					
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率						
			5	4	3	2	1		
			60.00	80.00	60.00	40.00	80.00		
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.62						

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



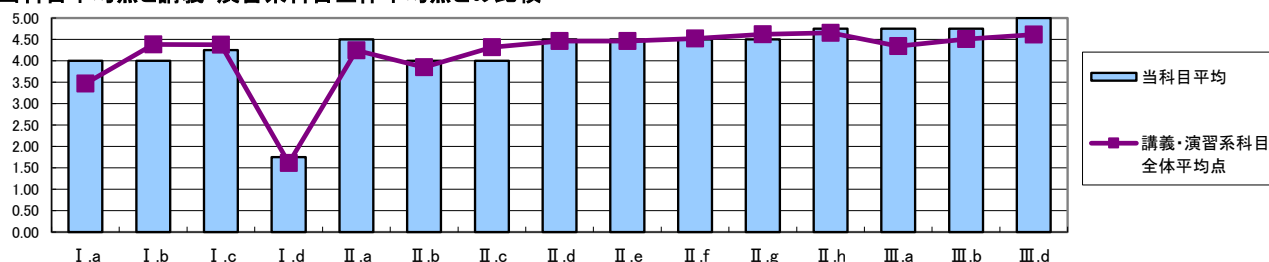
科目名	音楽の基礎理論B(基礎和声を含む)
教員名	城之内 ミサ

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	6
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.75		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			75.00	50.00	75.00	25.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

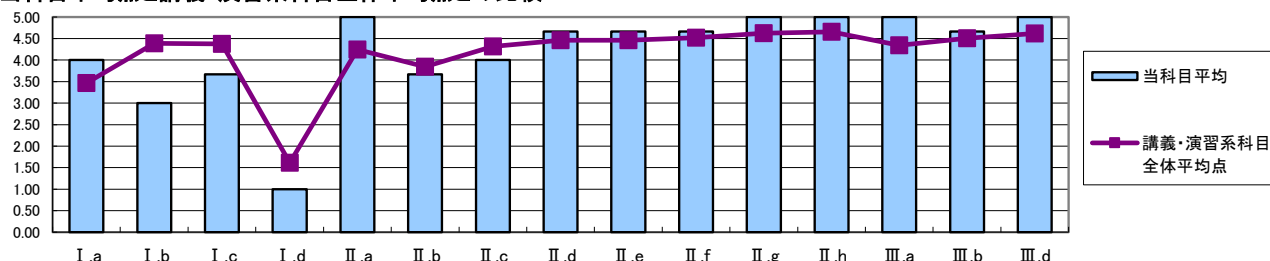
科目名	西洋音楽史
教員名	城之内 ミサ

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	6
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.67		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			66.67	66.67	33.33	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



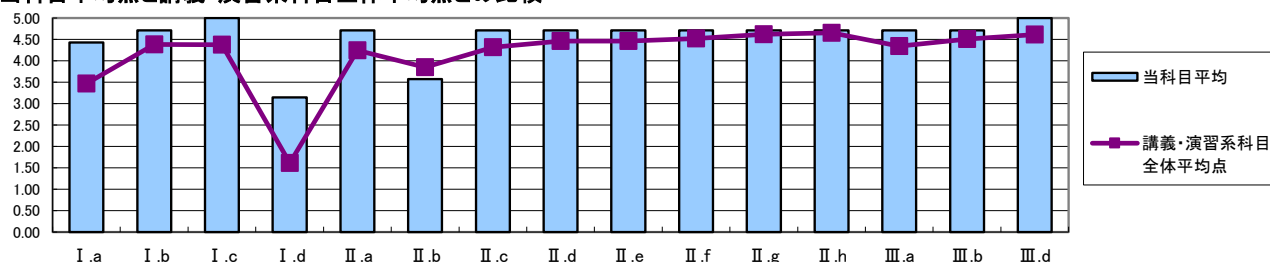
科目名	P.A.C.S.8
教員名	城之内 ミサ

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	9
回答者数	7

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.43		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.71		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.14		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.71		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.57		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.71		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.71		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.71		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.71		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.71		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.71		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			50.00	83.33	100.00	66.67	66.67
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ウインドオーケストラⅠB
教員名	小林 恵子

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	29
回答者数	26

設問		設 問 文	平均点	全体平均点				
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.62	3.47				
	b	この授業の出席は良好であった。	4.85	4.39				
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.76	4.38				
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.68	1.61				
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.24	4.24				
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.40	3.85				
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.27	4.32				
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.58	4.46				
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.31	4.46				
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.77	4.52				
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.58	4.62				
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.77	4.66				
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.62	4.34				
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.81	4.51				
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率					
			5	4	3	2	1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	76.92	46.15	50.00	26.92	26.92	
			4.82	4.62				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	ウインドオーケストラⅡB
教員名	小林 恵子

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	27
回答者数	21

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.71		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.95		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.70		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.19		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.86		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.86		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.62		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.57		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.14		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.38		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.76		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			66.67	42.86	47.62	47.62	14.29
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.76		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

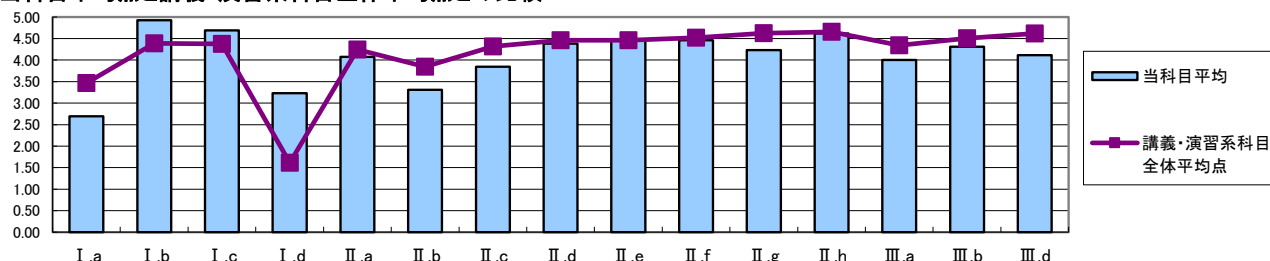
科目名	ウインドオーケストラⅢB
教員名	小林 恵子

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	16
回答者数	13

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.69		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.92		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.69		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.23		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.08		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.31		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.85		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.38		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.46		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.46		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.23		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.62		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.31		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			66.67	75.00	41.67	50.00	41.67
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.11		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



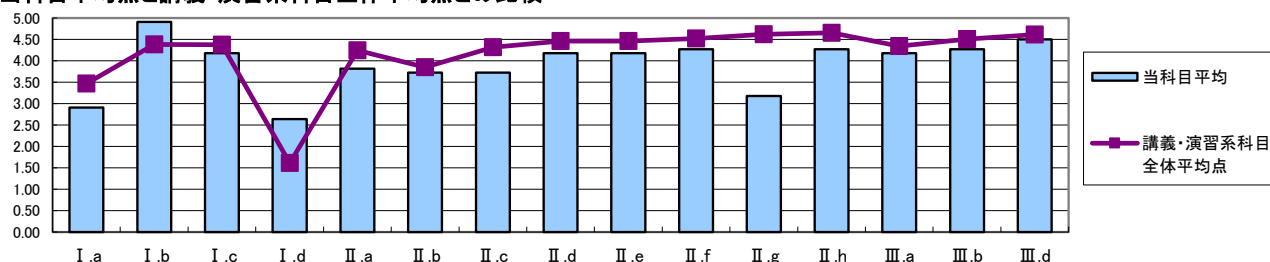
科目名	ウインドオーケストラⅣB
教員名	小林 恵子

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	14
回答者数	11

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.91		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.91		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.18		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.64		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.82		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.73		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.73		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.18		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.18		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.27		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.18		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.27		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.18		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.27		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			72.73	45.45	9.09	9.09	27.27
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

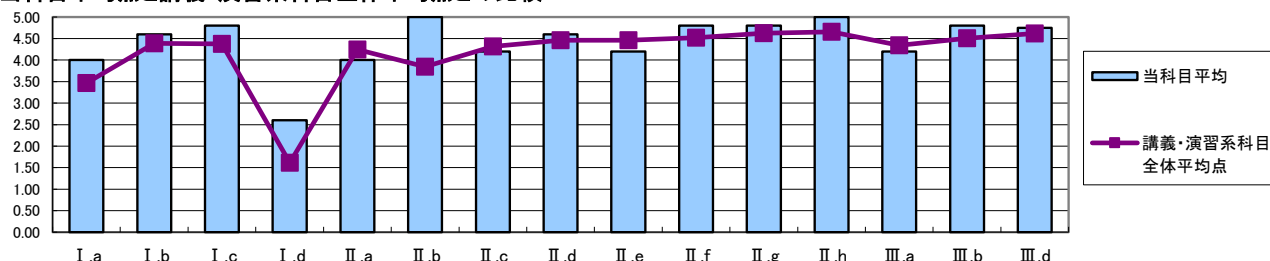
科目名	室内案ⅠBd
教員名	澤 敦

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	5
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.60		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.60		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.20		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.20		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	60.00	40.00	20.00	60.00
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75		4.62			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



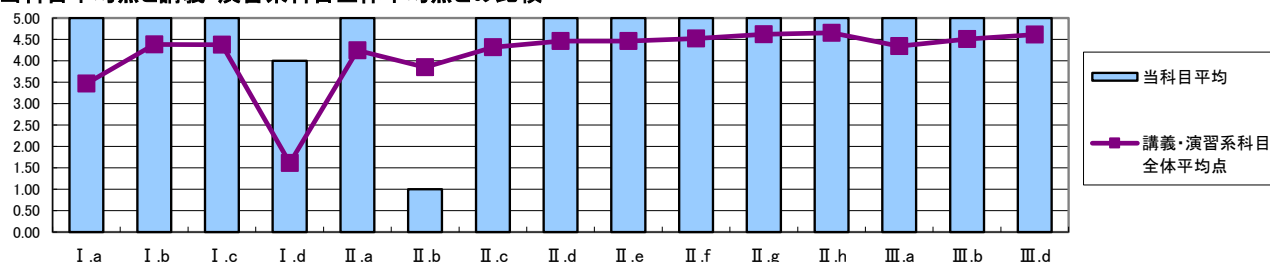
科目名	室内案ⅡBd
教員名	澤 敦

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	1
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	1.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

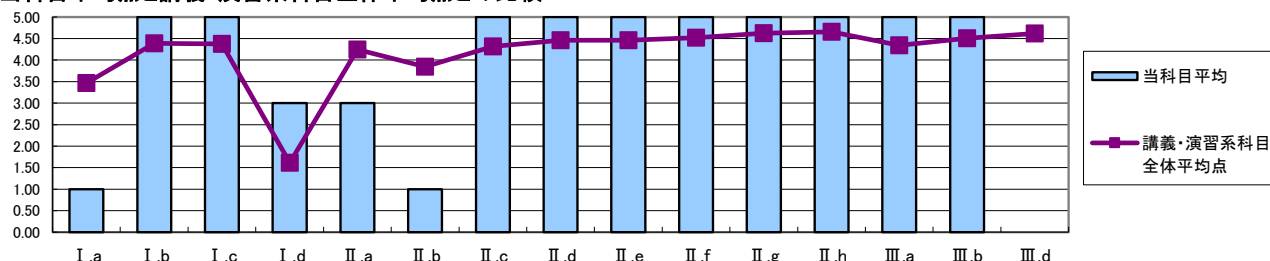
科目名	室内楽ⅣBd
教員名	澤 敦

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	2
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点	全体平均点				
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.00	3.47				
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.39				
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38				
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.61				
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.24				
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	1.00	3.85				
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.32				
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.46				
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.46				
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.52				
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62				
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.66				
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.34				
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.51				
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率					
			5	4	3	2	1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	-	-	-	-	-	

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



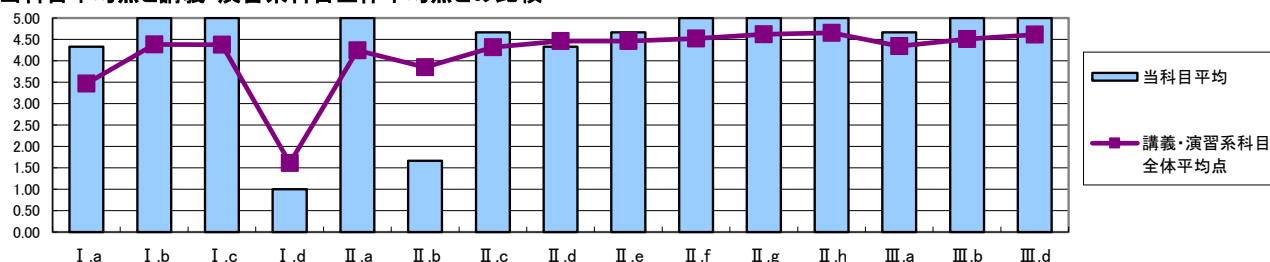
科目名	ピアノ指導者を目指すための音楽教育学入門B
教員名	浦川 玲子

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	4
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.33		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	1.67		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			66.67	66.67	100.00	33.33	33.33
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

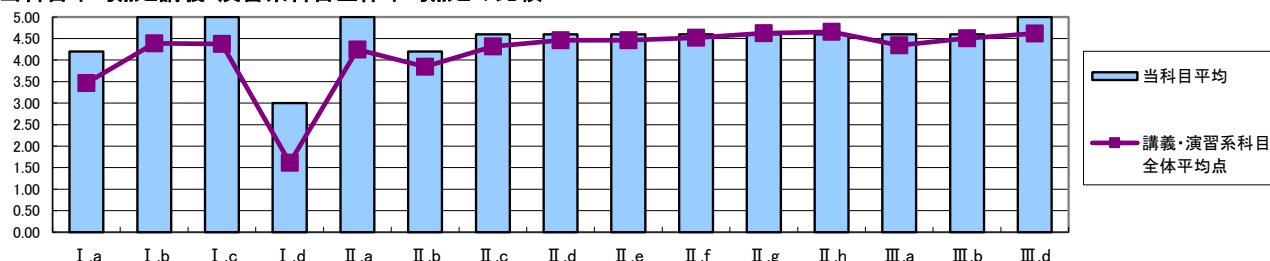
科目名	作曲家の肖像と作品の魅力ⅢB
教員名	益田 善太

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	6
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.20		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.60		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.60		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.60		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	60.00	60.00	40.00	80.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



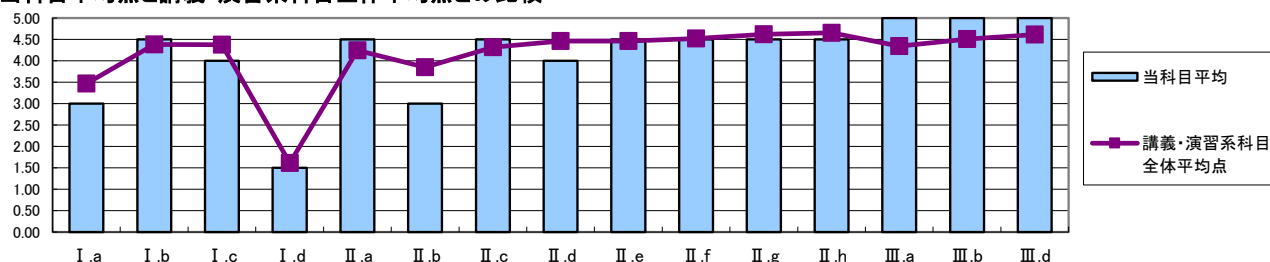
科目名	エンタメビジネスB
教員名	miiya

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	2

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	100.00	50.00	50.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

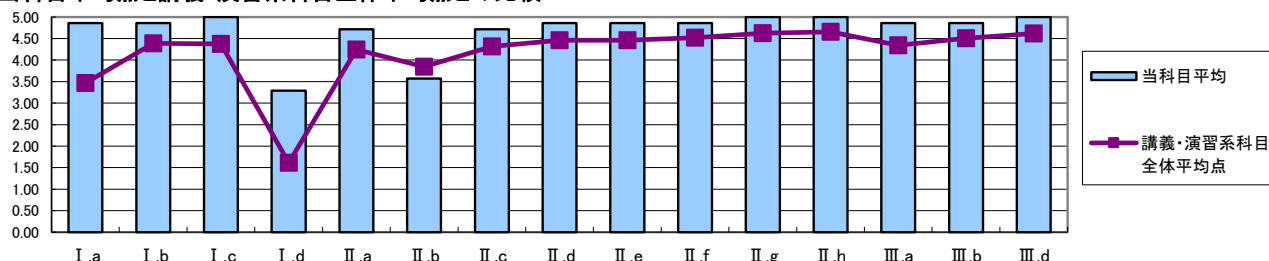
科目名	ソルフェージュ2c
教員名	新井 雅之

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	9
回答者数	7

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.86		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.86		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.29		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.71		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.57		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.71		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.86		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.86		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.86		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.86		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.86		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			85.71	0.00	14.29	28.57	14.29
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



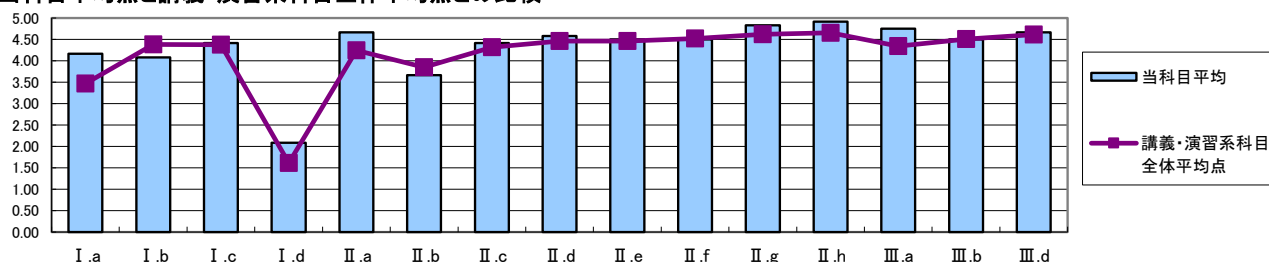
科目名	対位法B
教員名	新井 雅之

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	13
回答者数	12

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.17		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.08		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.42		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.08		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.42		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.58		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.83		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.92		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			81.82	36.36	45.45	18.18	18.18
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

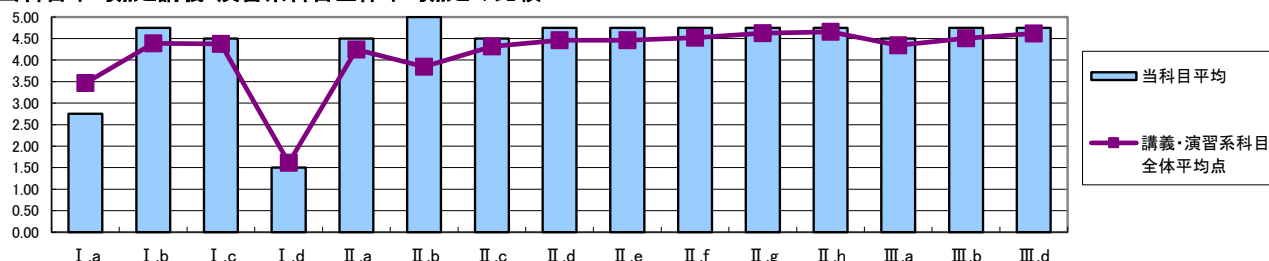
科目名	キーボードハーモニーB
教員名	新井 雅之

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点	全体平均点				
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.75	3.47				
	b	この授業の出席は良好であった。	4.75	4.39				
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38				
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.61				
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.24				
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.85				
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.32				
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.46				
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.46				
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.52				
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.62				
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.66				
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.34				
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.51				
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率					
			5	4	3	2	1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	75.00	50.00	50.00	25.00	25.00	
			4.75	4.62				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



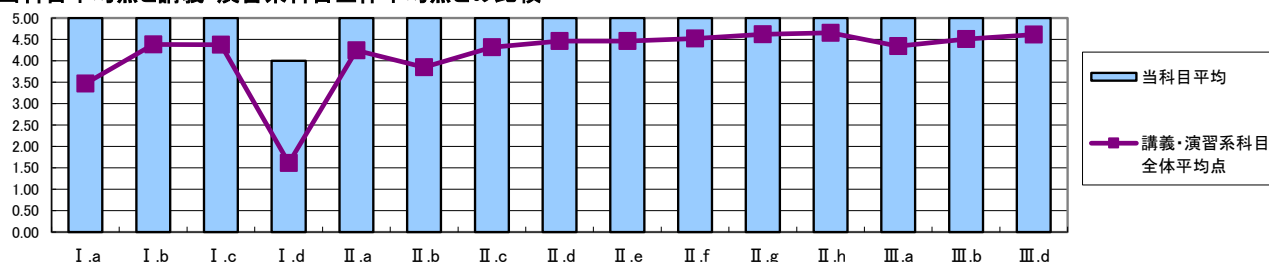
科目名	和声学2c
教員名	新井 雅之

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	3
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	33.33	33.33	33.33	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

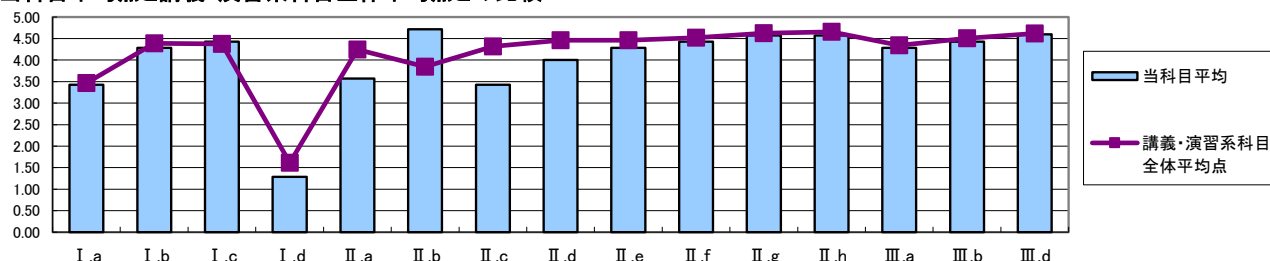
科目名	オンエアプロデュースB
教員名	石井 弘樹

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	10
回答者数	7

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.43		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.29		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.29		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.57		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.71		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.43		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.29		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.43		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.57		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.57		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.29		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.43		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	28.57	28.57	14.29	42.86
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60		4.62			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



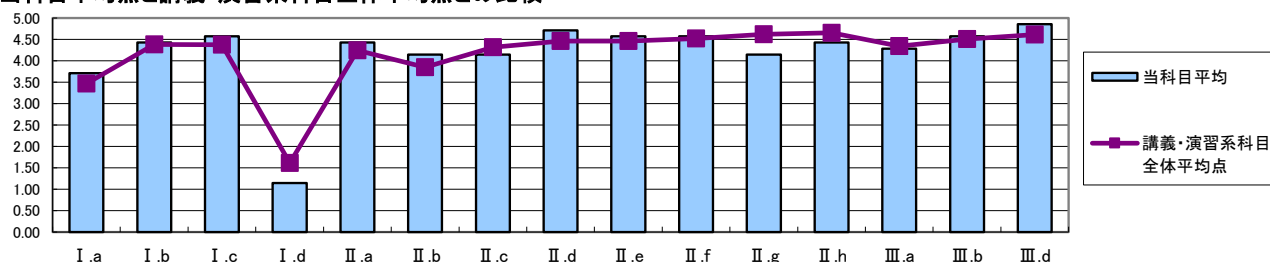
科目名	作品研究[歌曲]B
教員名	伊藤 制子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	10
回答者数	7

設問		設 問 文	平均点	全体平均点					
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.71	3.47					
	b	この授業の出席は良好であった。	4.43	4.39					
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.57	4.38					
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.14	1.61					
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.43	4.24					
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.14	3.85					
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.14	4.32					
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.71	4.46					
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.57	4.46					
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.57	4.52					
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.14	4.62					
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.43	4.66					
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.29	4.34					
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.57	4.51					
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率						
			5	4	3	2	1		
			57.14	42.86	42.86	0.00	0.00		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.86	4.62					

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

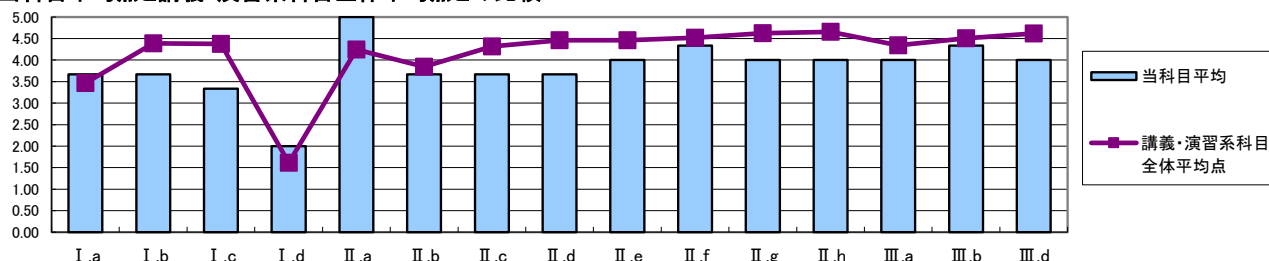
科目名	作品研究[オペラ]B
教員名	伊藤 制子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.67		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.33		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.67		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.67		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			66.67	33.33	33.33	0.00	0.00
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00		4.62			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



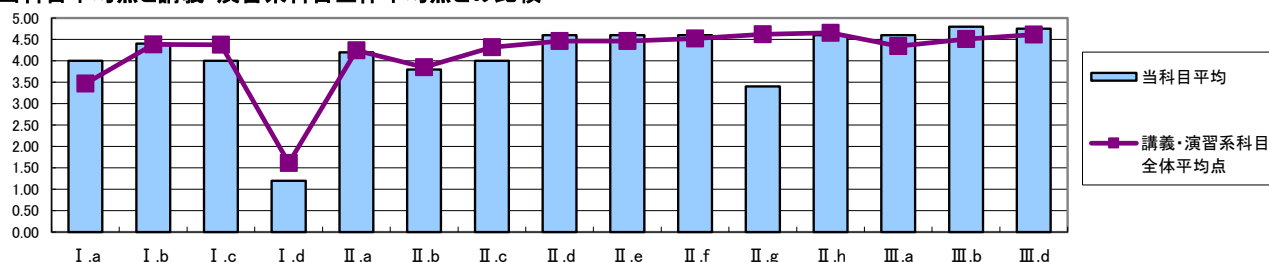
科目名	楽式論B[作曲法・編曲法を含む]b
教員名	伊藤 制子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.40		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.20		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.80		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.60		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.40		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.60		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			60.00	80.00	20.00	20.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

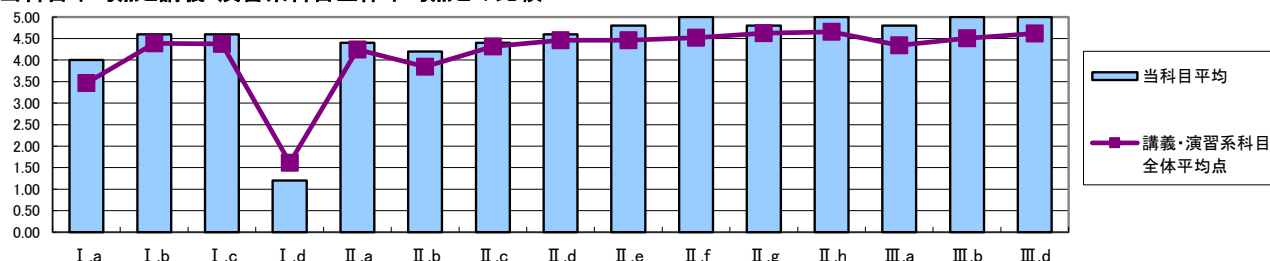
科目名	P.A.C.S.6
教員名	川羽田 晶

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	8
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点	全体平均点				
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.47				
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.39				
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.38				
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20	1.61				
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.24				
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.85				
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40	4.32				
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.60	4.46				
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80	4.46				
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.52				
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80	4.62				
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.66				
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.80	4.34				
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.51				
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率					
			5	4	3	2	1	
			60.00	40.00	60.00	20.00	20.00	
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.62					

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



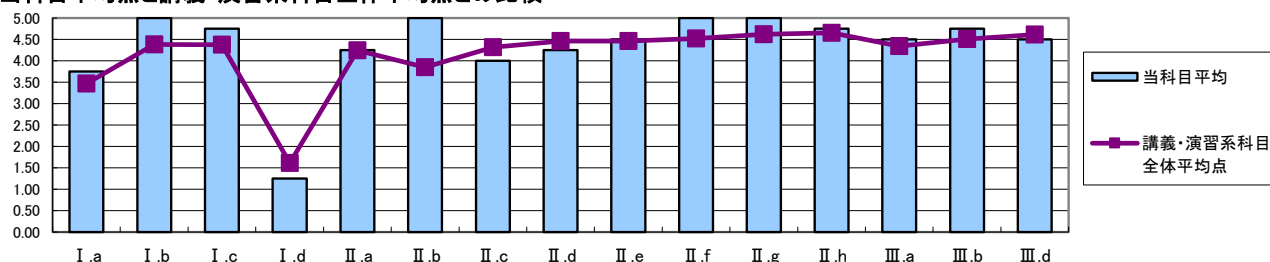
科目名	エンタメプロデュースB
教員名	清弘 誠

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	7
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点	全体平均点					
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.75	3.47					
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.39					
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.38					
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.61					
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.24					
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.85					
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.32					
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.25	4.46					
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.46					
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.52					
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62					
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.66					
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.34					
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.51					
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率						
			5	4	3	2	1		
			75.00	75.00	75.00	0.00	25.00		
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.62						

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

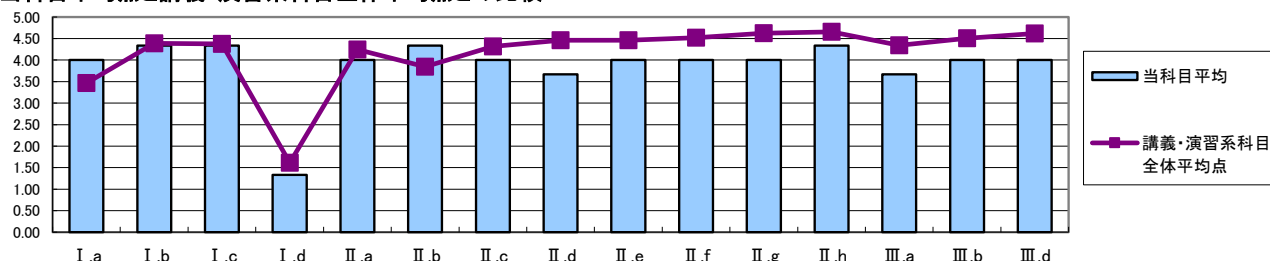
科目名	キャリア・クリエイティブ・メソッドB
教員名	黒澤 慶子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	7
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.67		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.67		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	100.00	0.00	0.00	66.67
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00		4.62			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



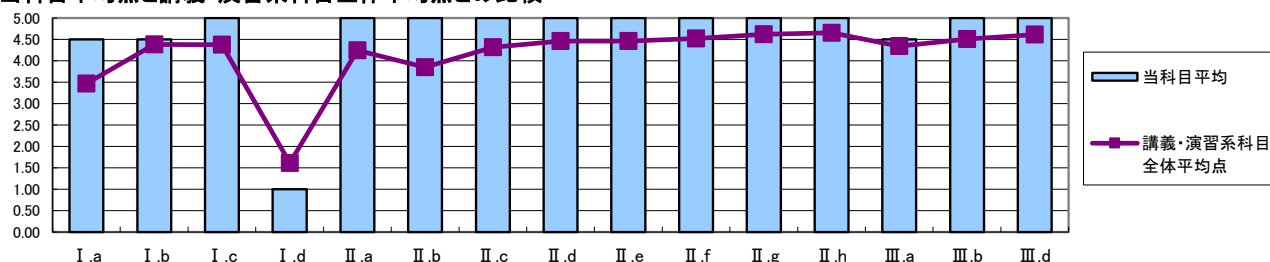
科目名	アジア音楽文化論
教員名	櫻田 素子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	100.00	0.00	0.00	50.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

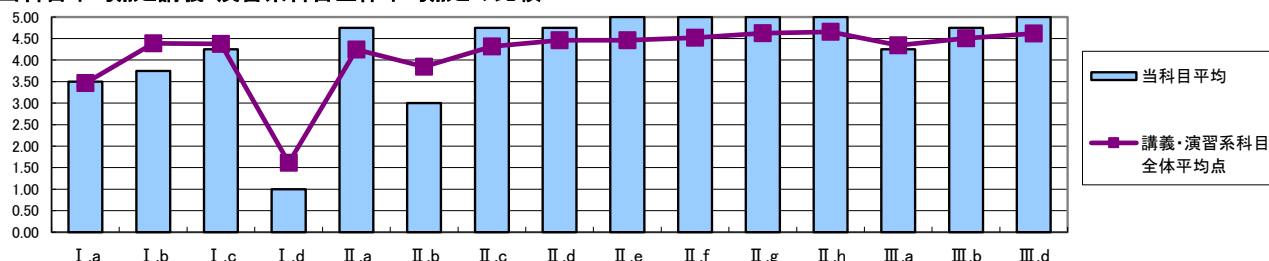
科目名	ビジネスチャレンジャーB
教員名	篠原 竜一

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.75		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.75		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.25		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	50.00	75.00	100.00	50.00	0.00

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



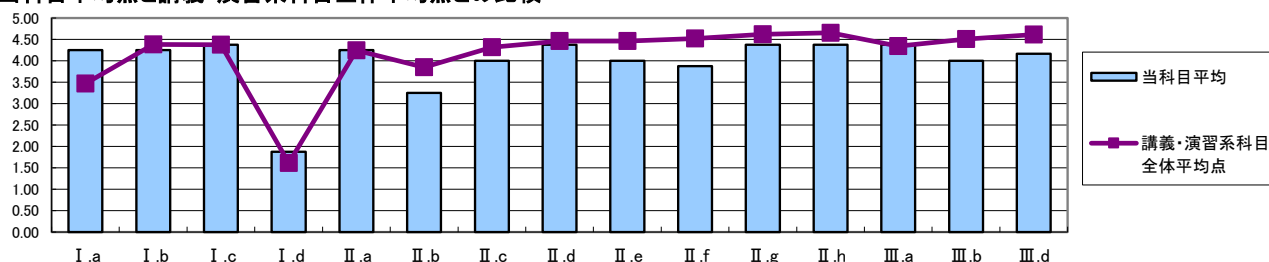
科目名	民族音楽学B
教員名	鈴木 良枝

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	12
回答者数	8

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.25		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.38		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.88		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.25		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.38		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.88		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.38		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.38		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.38		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.17		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

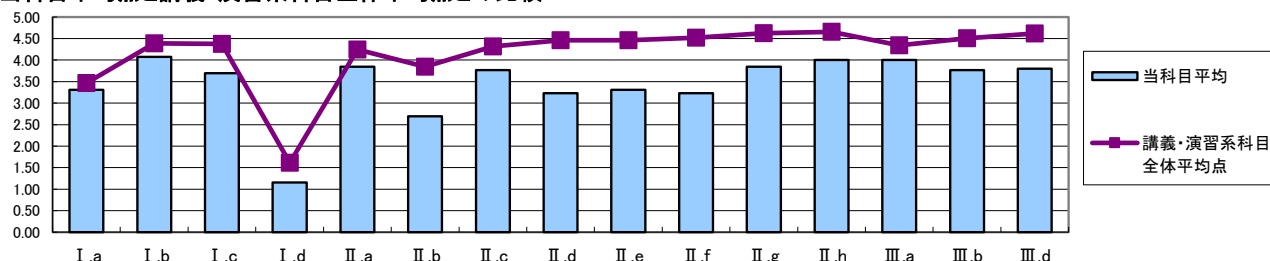
科目名	音楽の基礎理論Ba
教員名	田村 治美

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	17
回答者数	13

設問		設 問 文	平均点	全体平均点				
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.31	3.47				
	b	この授業の出席は良好であった。	4.08	4.39				
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.69	4.38				
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.15	1.61				
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.85	4.24				
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.69	3.85				
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.77	4.32				
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.23	4.46				
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.31	4.46				
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.23	4.52				
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.85	4.62				
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.66				
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.34				
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.77	4.51				
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率					
			5	4	3	2	1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	83.33	25.00	8.33	16.67	0.00	
			3.80	4.62				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



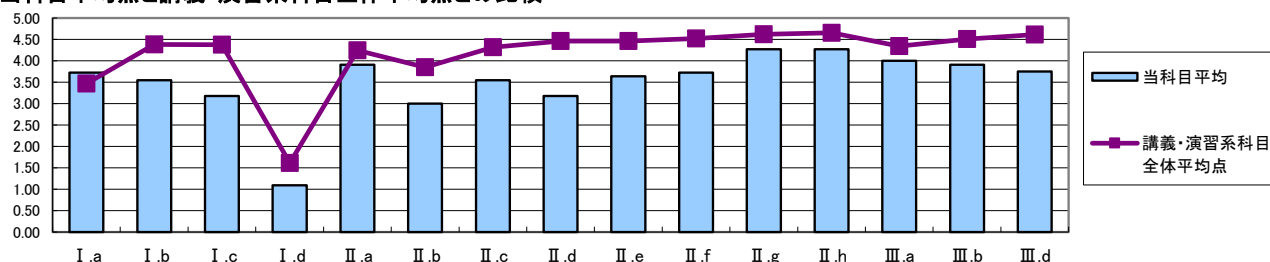
科目名	楽式論B[作曲法・編曲法を含む]a
教員名	田村 治美

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	14
回答者数	11

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.73		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.55		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.18		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.09		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.91		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.55		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.18		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.64		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.73		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.27		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.27		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.91		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			63.64	54.55	45.45	0.00	9.09
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.75		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

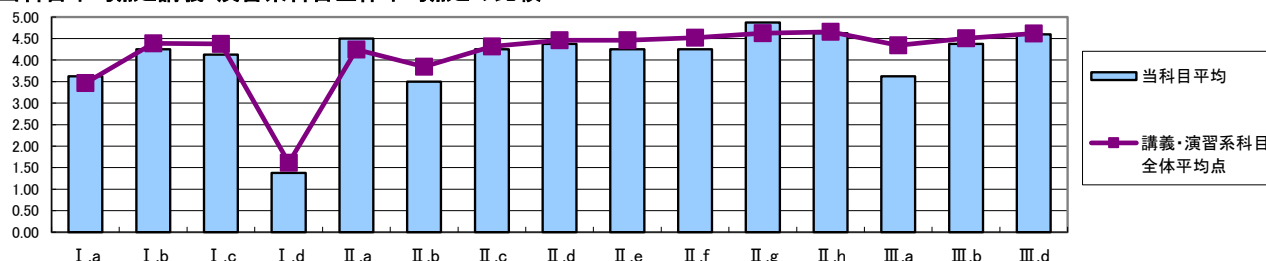
科目名	音楽心理学B
教員名	徳富 政樹

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	12
回答者数	8

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.63		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.13		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.38		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.50		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.38		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.25		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.88		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.63		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.63		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.38		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	57.14	42.86	14.29	0.00	0.00

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



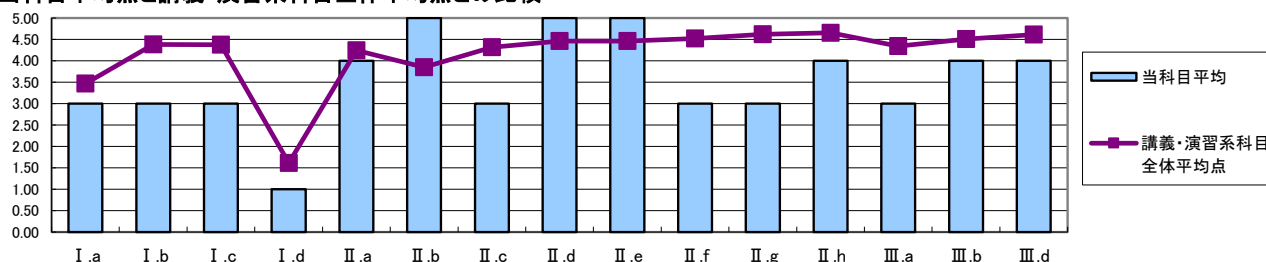
科目名	ポップスボーカルアプローチB
教員名	仁科 薫理

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			4.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

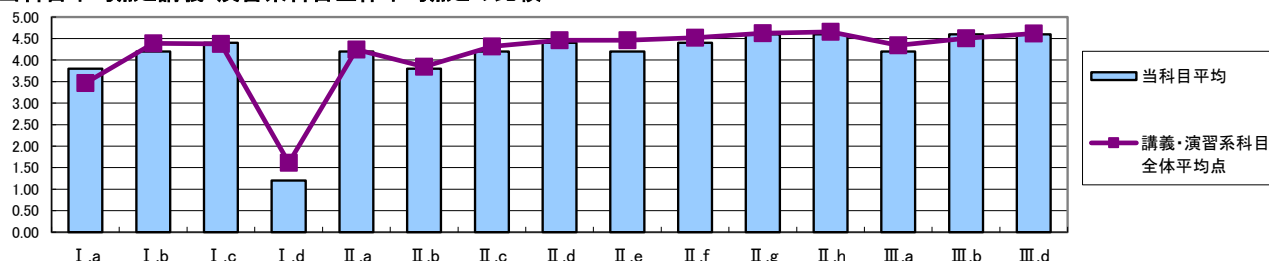
科目名	日本の伝統音楽概説B
教員名	林 信子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点	全体平均点				
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.80	3.47				
	b	この授業の出席は良好であった。	4.20	4.39				
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.38				
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20	1.61				
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.20	4.24				
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.80	3.85				
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20	4.32				
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.40	4.46				
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.20	4.46				
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40	4.52				
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.60	4.62				
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	4.66				
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.20	4.34				
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60	4.51				
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率					
			5	4	3	2	1	
			80.00	20.00	100.00	0.00	0.00	
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60	4.62					

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



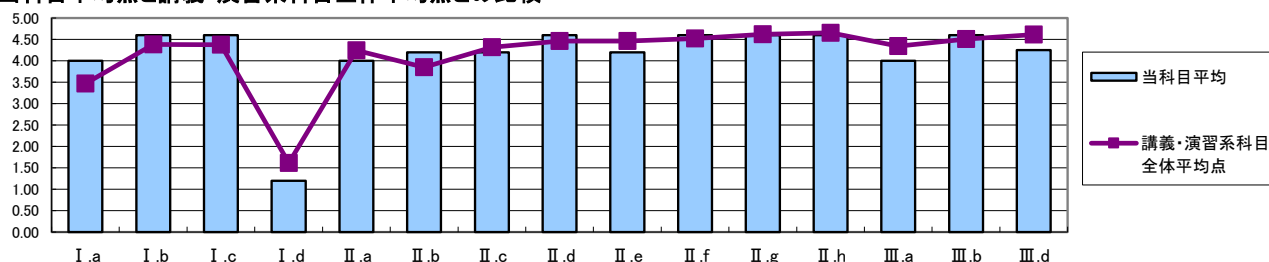
科目名	演技とパフォーマンス
教員名	ひかる 一平

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	7
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.60		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.20		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.60		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			80.00	60.00	40.00	40.00	100.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.25		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

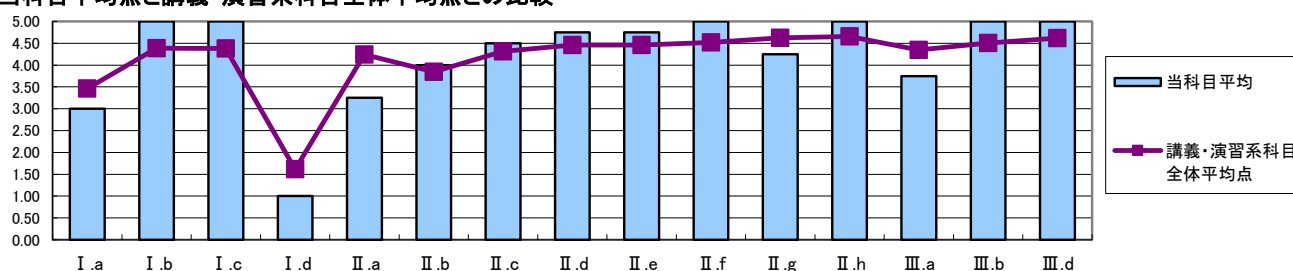
科目名	音楽療法の理論と技法B
教員名	二俣 泉

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.25		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.25		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.75		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	75.00	100.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



基礎教育科目

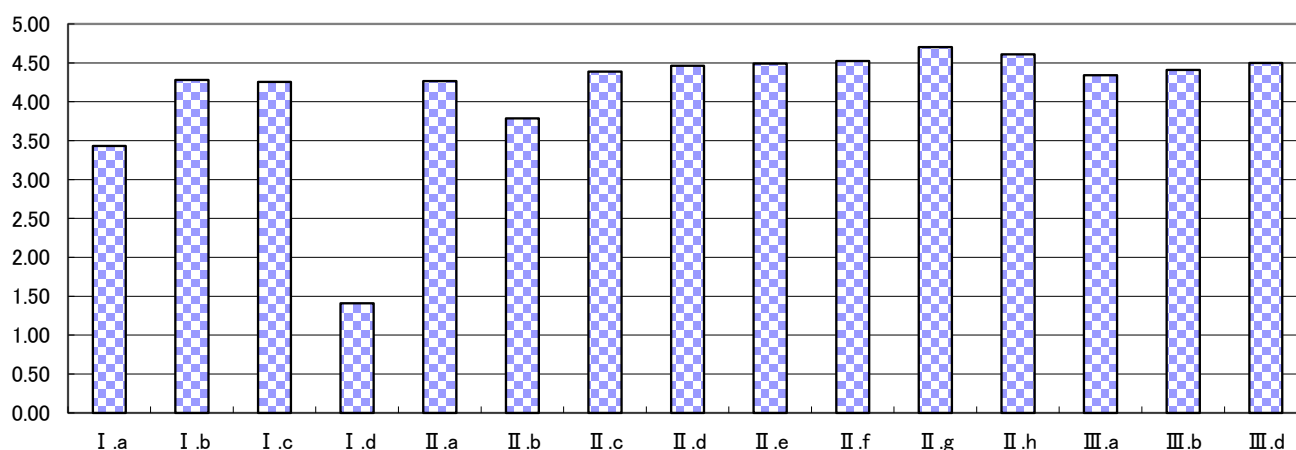
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	07. 基礎教育科目
科目数	45

履修者数	681
回答者数	518

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効 回答数	無効 回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.43	158	123	107	43	86	517	1
				30.6	23.8	20.7	8.3	16.6		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.28	274	150	65	20	8	517	1
				53.0	29.0	12.6	3.9	1.5		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.26	258	171	61	16	11	517	1
				49.9	33.1	11.8	3.1	2.1		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.41	14	7	35	65	395	516	2
				2.7	1.4	6.8	12.6	76.6		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.26	277	114	118	2	6	517	1
				53.6	22.1	22.8	0.4	1.2		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.78	71	118	288	23	15	515	3
				13.8	22.9	55.9	4.5	2.9		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.39	308	126	62	10	9	515	3
				59.8	24.5	12.0	1.9	1.7		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.46	333	118	47	11	8	517	1
				64.4	22.8	9.1	2.1	1.5		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.49	336	126	38	11	7	518	0
				64.9	24.3	7.3	2.1	1.4		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.52	347	105	53	5	5	515	3
				67.4	20.4	10.3	1.0	1.0		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.70	409	72	31	4	2	518	0
				79.0	13.9	6.0	0.8	0.4		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.61	368	108	32	6	3	517	1
				71.2	20.9	6.2	1.2	0.6		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.34	269	168	69	5	5	516	2
				52.1	32.6	13.4	1.0	1.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.41	310	134	50	11	9	514	4
				60.3	26.1	9.7	2.1	1.8		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	350	193	154	92	138	496	22
				70.6	38.9	31.0	18.5	27.8		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	300	99	29	8	11	447	71
				67.1	22.1	6.5	1.8	2.5		

07. 基礎教育科目 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

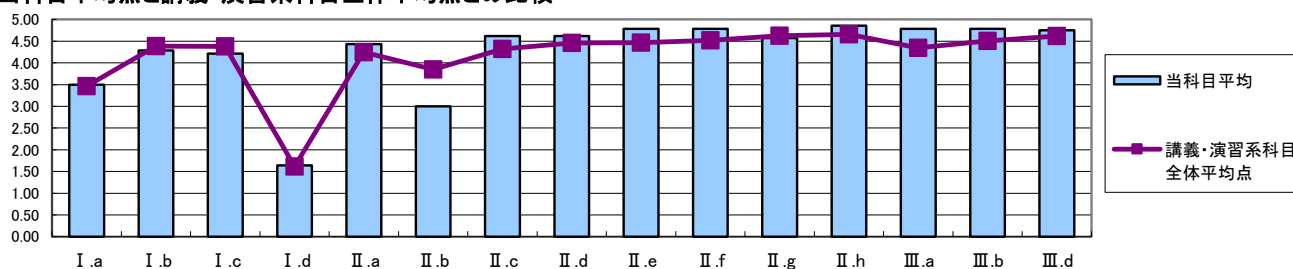
科目名	ドイツ語2a
教員名	高橋 幸雄

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	18
回答者数	14

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.29		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.21		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.64		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.43		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.62		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.62		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.79		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.79		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.57		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.79		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.79		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			78.57	14.29	28.57	14.29	21.43
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

ドイツ語の骨格になる文法力を身につけることを主眼に置いて、演習中心に授業を進めた。また映像を用いて、ドイツ語の背景にあるドイツ、オーストリア、スイスの文化、歴史、社会を理解できるよう視覚化の要素を更に付け加えた。授業の後半ではエーリッヒ ケストナーの映画作品を鑑賞しながら、現在のドイツが抱えている問題や文化の現状を考えた。

● 問題点

シラバスの順序に従って授業を進めたが動詞、冠詞の項目で理解が充分ではなかった。様々なプリントを配布して練習問題を多くこなしたが消化不良がみられた。素材の選別が必要であった。

● 改善の方策

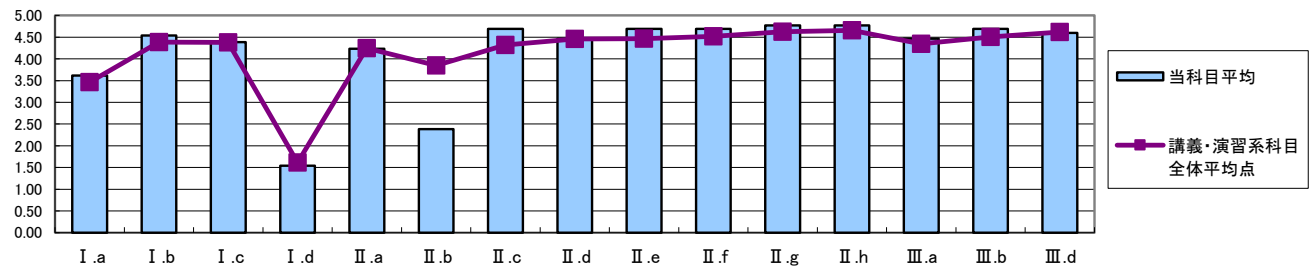
ドイツ語は語形変化の修得が必須条件であるが、確認と定着の為に練習問題を作成し、授業内で理解、定着させる時間を毎回設けることにする。負担感のない課題も作成し、自己チェックとフィードバックの仕組みを確立する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ドイツ語4	職名	03. 特任教授	履修者数	14
教員名	高橋 幸雄			回答者数	13

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.62		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.54		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.38		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.54		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.23		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.38		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.69		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.46		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.69		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.69		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.77		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.77		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.46		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.69		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
	5		4	3	2	1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	84.62	15.38	38.46	15.38	7.69

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

一年間で学習した文法項目の復習をプリントの練習問題で確認した後、未習の文法項目を習得する為、演習形式で授業を進めた。音楽家や文学者のリライト原文を読み、読解力のスキル向上を目指し多読を実行した。また、現代のドイツ文化を更に良く理解する為に、映画作品を素材にしてアクティブラーニングを実行した。

● 問題点

素材の難易度が高くなって来るので、個々の学生の理解度に合わせるのが難しかった。副教材や個別対応だけでは差を埋めるのが難しく、授業が進むごとに理解に差が出た。

● 改善の方策

復習が短時間でできるドリルを作成し、定期的にチェックとフィードバックを行い、個々の学生の弱点克服の方法を見出すことにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

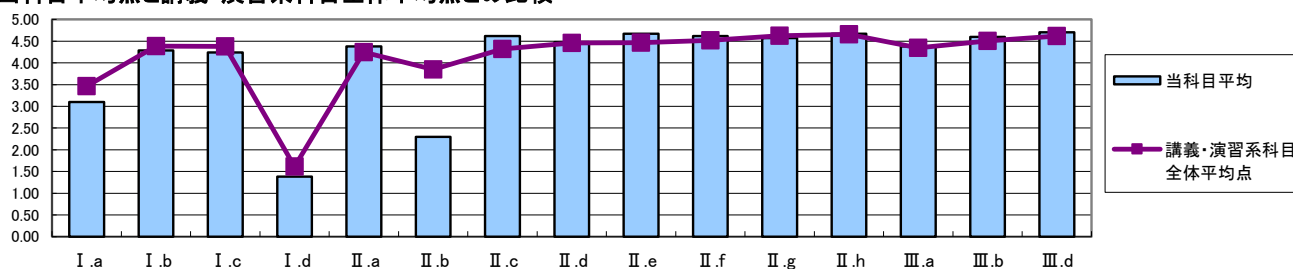
科目名	ドイツ語2b
教員名	高橋 幸雄

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	23
回答者数	21

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.10		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.29		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.24		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.38		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.38		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.30		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.62		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.48		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.62		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.57		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.38		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			66.67	33.33	38.10	14.29	4.76
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.70		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

ドイツ語の骨格になる文法力を身につけることを主眼に置いて、演習中心に授業を進めた。また映像を用いて、ドイツ語の背景にあるドイツ、オーストリア、スイスの文化、歴史、社会を理解できるよう視覚化の要素を更に付け加えた。授業の後半ではエーリッヒ ケストナーの映画作品を鑑賞しながら、現在のドイツが抱えている問題や文化の現状を考えた。

● 問題点

シラバスの順序に従って授業を進めたが動詞、冠詞の項目で理解が充分ではなかった。様々なプリントを配布して練習問題を多くこなしたが消化不良がみられた。素材の選別が必要であった。

● 改善の方策

ドイツ語は語形変化の修得が必須条件であるが、確認と定着の為に練習問題を作成し、授業内で理解、定着させる時間を毎回設けることにする。負担感のない課題も作成し、自己チェックとフィードバックの仕組みを確立する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

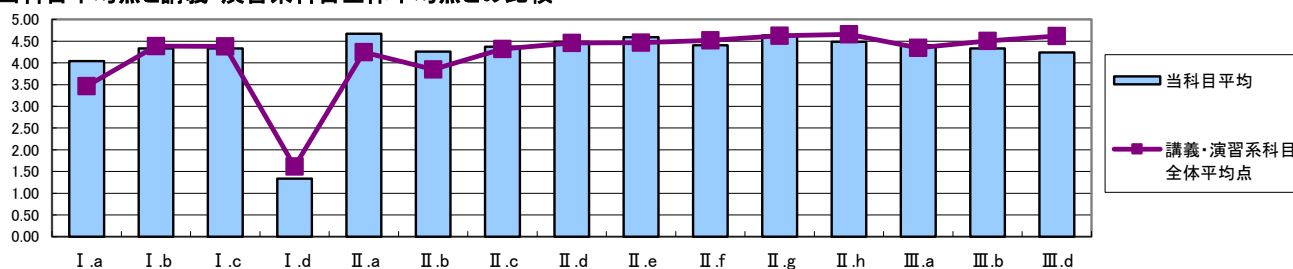
科目名	東邦スタンダード I Ba
教員名	伊藤 和広

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	31
回答者数	27

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.04		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.26		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.37		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.48		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.59		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.41		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.63		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.48		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.41		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			52.00	60.00	12.00	12.00	36.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.24		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度は、1年生を2クラスに分け、そのうちの1クラスを担当しました。履修者数は31名、うちアンケートには27名が回答しています。1年生の担任を務め5年目の今年は学生達もややコロナ禍にも適応した様子で大変スムーズに講義を始めることができました。また、もう1クラスの担任の先生とも連携を取りながら、大学初年度教育の重要性、責任を感じての1年間でした。個人差はあるものの、今年度の1年生は例年に比べ出席率もよくアクティブラーニングとしての積極性も高かったように感じます。アンケートの集計結果を見ますと、全体の平均と比べても特に大きな問題はないかと思えます。I dの設問においては1.33と低く、予習復習内容はシラバス以外に講義の最後に必ず示していましたが残念な結果です。以上、シラバスに提示されている科目の目的については、概ね達成できたということが今年度の結果です。

● 問題点

音楽に直結しない科目であることを考慮しても予習と復習に時間をかけない学生が多く、解決すべき問題点です。

● 改善の方策

予習と復習について実際に発表してもらう時間を設けます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

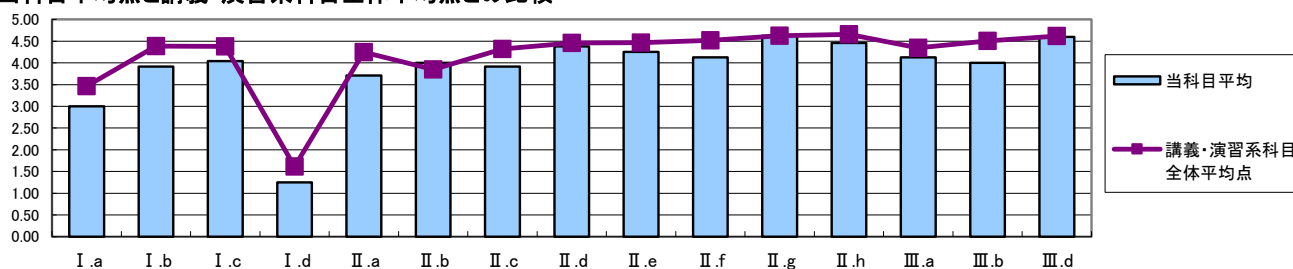
科目名	東邦スタンダードⅡBa
教員名	岩間 文正

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	30
回答者数	24

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.92		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.04		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.71		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.92		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.38		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.13		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.63		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.46		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.13		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			39.13	56.52	8.70	21.74	47.83
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度より2年生の担任を受け持つ。2年生はキャリアを含めた、外部講師による授業を取り入れている。学生は興味深く授業に参加していた。設問Ⅲは担当授業回数から、担当教員に対してというより、外部講師に対する回答と思われる。東邦の教員が担当する授業については、「楽譜とは何？」など、現行シラバスに音楽的な内容を独自に追加して、演奏を交えたり、音源を使用したりしながら授業を行った。学生は興味を持って聞いていたようである。

● 問題点

自由記述を含めたアンケート結果を見る限り、外部講師によるキャリアの授業は学生にあまり受け入れられていないようである。外部講師による授業はもう少し音楽大学に合わせた内容の方が良いかもしれない。

● 改善の方策

外部講師の授業は音楽大学に特化した授業内容にした方が良いと思う。今年度は外部講師と打ち合わせの上、東邦の教員が担当する授業を実施したが、来年度はより連携を深めることが望ましい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

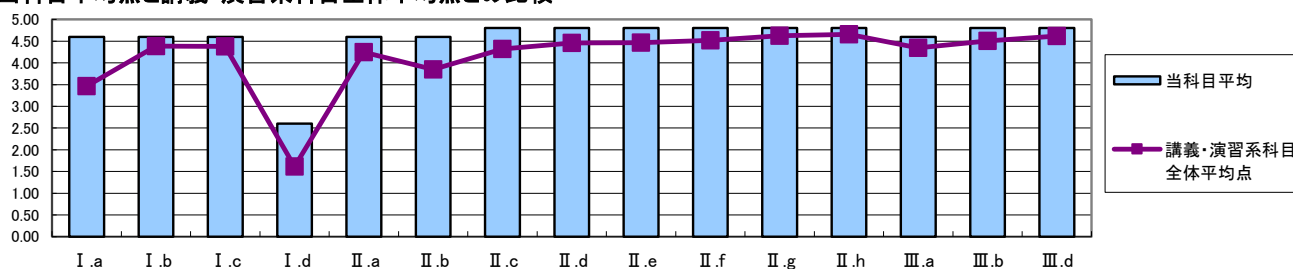
科目名	Career EnglishB
教員名	粕谷 麻里乃

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	6
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.60		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.60		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.60		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.60		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.60		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	60.00	80.00	20.00	40.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目（木曜日2限目に開講）は、ビジネスシーンで使える英語を実践的に学ぶことを目的とした。学生の主体性を促すことに重きを置き、講義と演習の双方を繰り返しながら、学生の英語力向上のため指導した。受講生は当時の2年生が中心であった。良かった点として、①「1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか（設問 I d）」において予習・復習に取り組む時間が多かったことが挙げられる。

● 問題点

選定した教材は、ビジネスシーンにおける実践的な英語を学べるものでよかったが、内容が多く、限られた時間の中で全体を網羅することに重点が置かれていたと思う。そのため、履修者は予習や復習への時間を十分確保し、英語を日常的に学ぶ習慣が身についたことはよかった一方で、すべての内容を授業内でもう少し深めることができたならより学生の満足度も高く得られたものと考えられる。

● 改善の方策

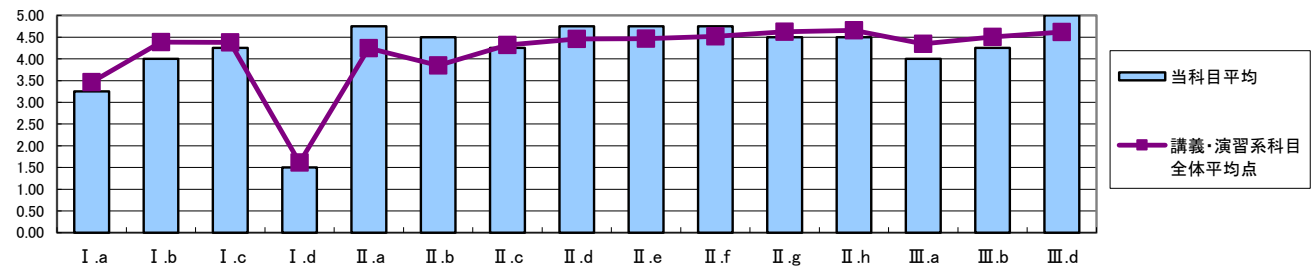
授業では全体を網羅することに終始するのではなく、もう少し踏み込むべき箇所を明らかにし、説明を充実させるよう工夫する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	Basic English 2	職名	04. 准教授	履修者数	5
教員名	粕谷 麻里乃			回答者数	4

設問		設 問 文	平均点	全体平均点			
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.25	3.47			
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.39			
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.38			
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.61			
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.75	4.24			
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.85			
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.32			
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.46			
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.46			
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.52			
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.62			
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.66			
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.34			
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.25	4.51			
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	0.00	25.00	50.00	25.00
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.62				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目（木曜日4限目に開講）は、語学習得における4つの柱「読む・書く・聞く・話す」力をバランスよく学びこれまでの英語力を実践的に深めることを目的とした。学生の主体性を促すことに重きを置き、講義と演習の双方を繰り返しながら、学生の英語力向上のため指導した。受講生は当時の1年生が中心であった。慎重に検討すべき点として、①「この授業を履修するにあたってシラバスを活用した（設問Ⅰa）」において平均をやや下回ること、②「この授業の出席は良好であった（設問Ⅰb）」が全体平均をやや下回ったこと、③「熱意をもって積極的に取り組んだ（設問Ⅰc）」が全体平均値であること、④「1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか（設問Ⅰd）」において予習・復習に取り組む時間が低いこと、⑤「開講時に示された到達目標を十分に達成できた（設問Ⅲa）」が全体平均をやや下回ったこと、⑥「授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった（設問Ⅲb）」が全体平均をやや上まわったことが挙げられる。

● 問題点

現状の説明において記載した問題点①から⑥を通して、学生の意欲的な参加を促す工夫が不足していたと認識している。本専攻の特性柄、音楽には興味関心も高く扱いやすいと考え教材選びも慎重に行ったが、自身の英語力に自信がない学生も散見されたことから、もう少し個人に寄り添う必要があったと考える。

● 改善の方策

音楽に関する教材を選定したが、教材の中で扱われる曲が学生に親しみのあるものが少ない印象であった。英語に自信のない学生も主体的に取り組めるよう、教材の再選定、並びに授業時間において学生間の演習活動を増やすことを検討している。これにより主体的に取り組める体制を改めて構築する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

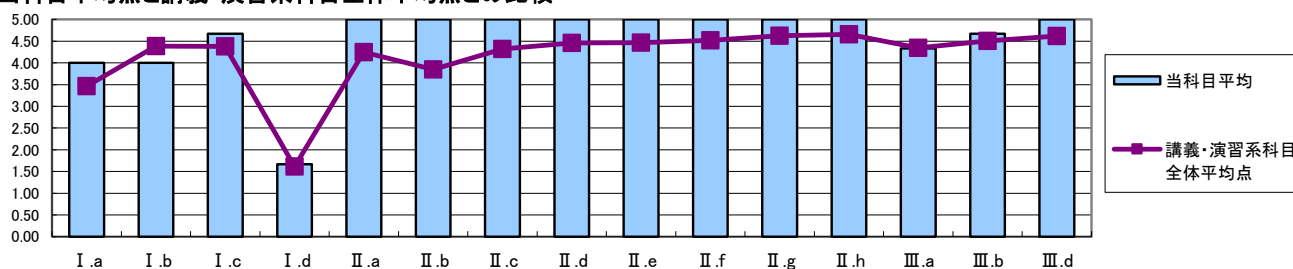
科目名	English PresentationB
教員名	粕谷 麻里乃

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	4
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			66.67	66.67	33.33	0.00	33.33
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目（金曜日2限目に開講）は、本専攻が大切にする「英語で表現できる」人材の育成を目的とし学生の主体性を促すことに重きを置き、講義と演習の双方を繰り返しながら、学生の英語力とプレゼンテーション力を向上のため指導した。受講生は当時の3年生、4年生が中心であった。慎重に検討すべき点として、①前期よりも後期の履修者が減少していること、②「この授業の出席は良好であった（設問 I b）」が全体平均を下回ったこと、③「1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか（設問 I d）」において予習・復習に取り組む時間が低いことが挙げられる。

● 問題点

本科目は英語とプレゼンテーションの両方を学ぶ科目である。現状の説明に記述した検討事項①、②、③より、英語力に自信が持てない学生もいるなか、プレゼンテーションの実践を英語で行うことへの負担意識を最大限に軽減することができなかったものと考えられる。

● 改善の方策

プレゼンテーションのテーマ選定について、もう少し受講者に身近なトピックを提供する。また、毎回短時間でのミニプレゼンテーション（1分間スピーチなど）を実施し、英語でプレゼンを行うことへの抵抗を減少する。プレゼンテーションの組み立てをマニュアル化させ、毎週実施することで、学生自身が、話すことや英語を使うことへの抵抗を減少させるよう支援的に指導を行う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

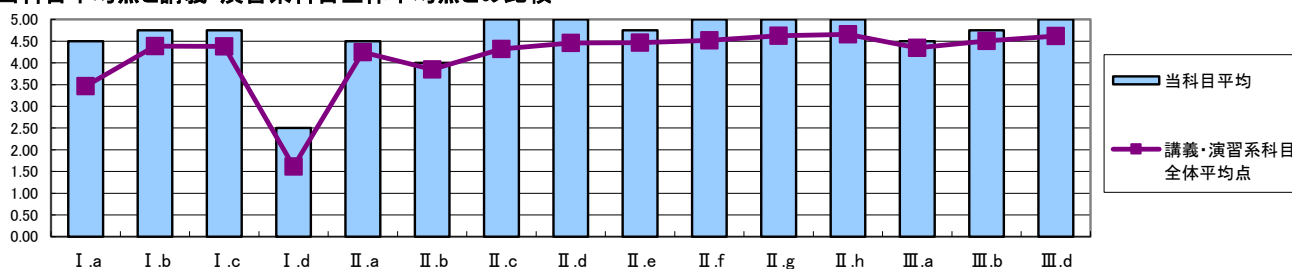
科目名	Communication Skills II B
教員名	粕谷 麻里乃

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	5
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.75		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	0.00	50.00	0.00	50.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目（金曜日3限目に開講）は、Communication Skills IA-Bの履修者がその発展として英語を継続的に学ぶことができるよう教材選びから工夫をした。日常コミュニケーションの中で使われる英語を実践的に学べるよう、講義と演習の双方を繰り返しながら、学生の英語力向上のため指導した。受講生は当時の2年生が中心であった。良かった点として、①「1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか（設問 I d）」において予習・復習に取り組む時間が平均値よりも著しく多いことが挙げられる。その他も全体的に受講者が意義を十分に感じながら意欲的に取り組んでくれたことが伺える結果であった。

● 問題点

日本語母語話者と英語母語話者との間のコミュニケーション上のミスマッチをなくすために、そうした認識の違いを学べるような教材を選定したが、中で取り扱われる状況が受講生にとってはわかりづらいこともあったと認識している。

● 改善の方策

教材の選定を工夫する。2022年度の教材も興味をもって取り組んでもらえるものではあったが、内容がもう少し現実に即したものとなるよう検討する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

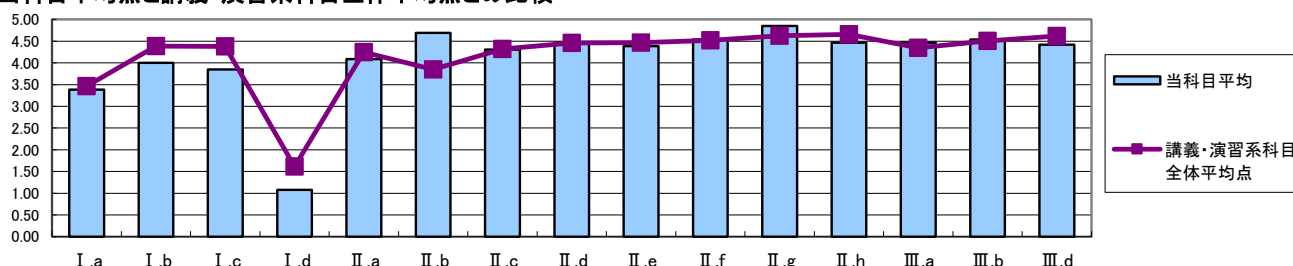
科目名	東邦スタンダードⅢBb
教員名	平田 紀子

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	19
回答者数	13

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.38		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.85		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.08		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.08		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.69		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.31		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.46		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.38		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.54		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.85		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.46		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.46		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.54		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			61.54	38.46	23.08	7.69	38.46
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.42		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

キャリアやインターン、就職や社会に出るための内容が主で、外部講師の高橋先生も熱意を持ち大変役に立つ講義をして下さり感謝している。

所見として「全体との比較」で高かった項目は、難易度・授業回数や時間・到達目標の達成であり、低かった項目は、出席状況・熱意・予習復習・授業の意義であった。

設問Ⅲ-c『自分のためになったこと』に関しては「コミュニケーション能力向上」が高い回答率を示した。グループ討議や、授業各回で学生同士のディスカッションの場が持たれたためと思われる。

「新しいものの見方」についても、全体との比較に及ばないが、他の設問と比べ多くの回答が見られた。学期末のレポート試験は丁寧に書かれ、自身の課題など課題に真摯に取り組む姿勢がみられた。

アンケートの自由回答では「就職について情報や姿勢が学べて良かった」との文言が2件あった。

アンケートにはないが、授業内での小レポートや期末課題レポートでは「卒業生の講話」として音楽イベントスタッフの仕事の話が好評だった。またインターンシップの発表会は同級生の挑戦が刺激になったと見受けられた。

● 問題点

上記の自由記述や授業内の小レポートを散見すると、就職や進路など「社会人として生活すること」といったテーマに対して、学生による受け入れの温度差が大きいと感じられる。

「自立すること」「社会で生きていくこと」を伝えようとする、音楽をあきらめるといった誤解釈をされがちである。しかし演奏だけでなく音楽に関わることもできる、自分の資質を他の分野でも活かせる、といった多様な選択肢を伝えることが課題である。

● 改善の方策

この授業の意図を、初回にまた毎回、明確にくり返し伝える。多様な進路・可能性・それに向かっていく方法がある、ということを示す。先に述べたように「身近な人の音楽の場・仕事の場での体験談」は、より素直に受け入れられると思われる。

合同授業や外部講師の時間が多いので、シラバスを活用する、また毎回の授業や掲示で告知を徹底する。

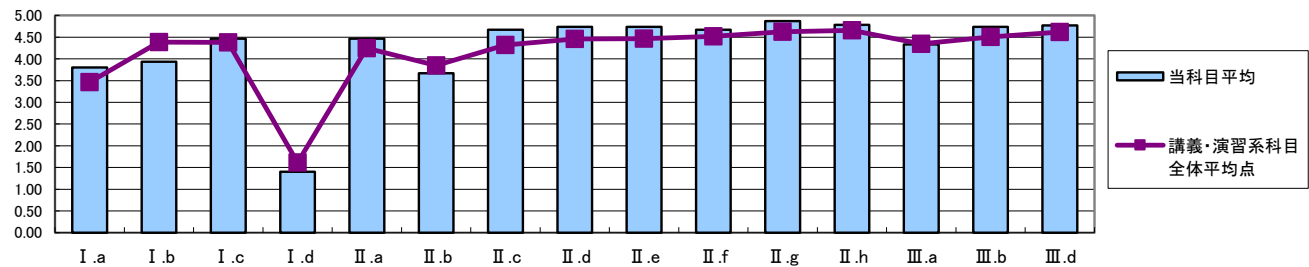
毎回の授業でまとめの記述と次回の授業に繋げるような課題を出すことで、予習・復習ができると感じる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ひとを読み解く科学B	職名	04. 准教授	履修者数	18
教員名	三室戸 元光			回答者数	15

設問		設 問 文	平均点		全体平均点	
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.80		3.47	
	b	この授業の出席は良好であった。	3.93		4.39	
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.47		4.38	
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.40		1.61	
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.47		4.24	
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67		3.85	
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67		4.32	
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.73		4.46	
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.73		4.46	
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67		4.52	
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.87		4.62	
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.79		4.66	
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33		4.34	
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.73		4.51	
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率			
	5		4	3	2	1
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	71.43	78.57	57.14	42.86
		4.77		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

ひとの内面を読み解く研究方法を「アセスメント」といい、言葉や文章、数値や量的データを用いる方法と、制作物・作品又は教示物への反応等によって行う方法などが代表的です。

前半では、制作物や作品を通してアセスメントを行う「描画法」をもとに、描画作者（子ども～学生）の心象世界に触れつつ、後半でひとの内面を深く読み解くための分析方法を、個人内、グループ内検討、グループ発表で総合的に身につけます。後半は、パーソナリティを読み解く心理検査をいくつか取り上げて、より深く自分や他者を理解できるようにしていきます。なお、後期Bを受ける人は前期Aから受けることをおすすめします。

授業は、後期前半に描画体験と描画法の解説、後期後半に心理検査についての自己分析・グループ演習、を行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝えたり、相手から聴いたりする・相手にくわしく質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。

心理学という内面を読み解く知識や道具を使って、「ひと」の心理学的な理解を深め、「ひとをサポートできるようになる」のが、この科目の目標です。絵を描いた人の内面の理解を深めることによって、「ひとがどんなパーソナリティなのか」、「どんな心理的課題があるのか」、その人に『どんな援助の方針が考えられるか』について、「制作物・心理検査によって分析する」ことができるようにしていきます。なお、「心理学そのもの」については、「現代の心理学A・B」を先に履修することをおすすめします。

受講者数：15名 開講日：金曜3時限

留学生の4年生を除けば、他は1年または2年の日本人学生で占められる。他の講義科目と有意に低い評価は「I.b」「I.d」「II.b」の3項目である。出席状況でぎりぎりという学生が多く、今ひとつ熱心に取り組めない要素が授業にあると考えられる。事前の予習ができないので基本的に復習を軸に展開している。また、「描画法」という特異なアセスメントを用いているため、見慣れることに時間がかかることも評価の低下につながるかもしれない。それが授業の難易度が「やや難しい」という回答に現れると思われる。

● 問題点

学生の自由記述を見ると、「内容が難しくて分からないところがあっても、かなり進捗が速かったと思う」という回答が見られ、1コマ1事例というスタンスも影響していると思われるが、数値化できるほど標準化が進んだアセスメントではないため、どうしても見慣れるのに時間がかかる。

● 改善の方策

回答「III.c」では、他の講義科目と比べて有意に低い科目はないため、満足度が低いわけではない。事例の分析に加えてサポートの方法まで考えるのが難しいかもしれないので、事例検討のみで完了させることも改善の方策かもしれない。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

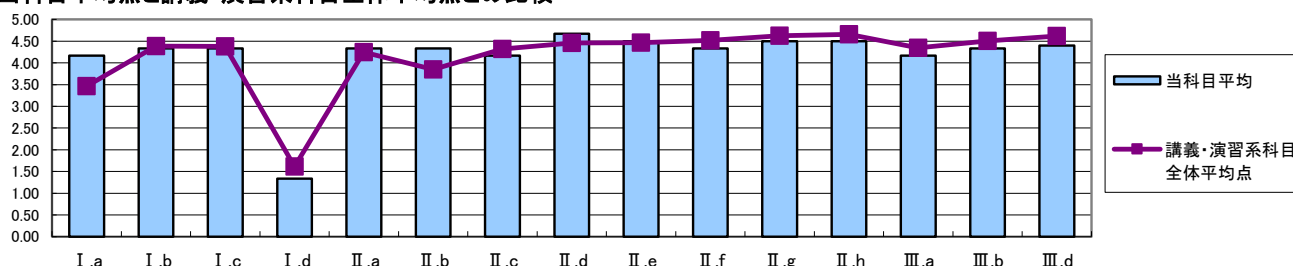
科目名	ひとを読み解く科学B
教員名	三室戸 元光

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	8
回答者数	6

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.17		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.17		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.17		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			83.33	83.33	50.00	16.67	83.33
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.40		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

『ひと』とは何か、『ひとの性格（＝キャラクター又はパーソナリティ）』とは何か、を理解することは、人間心理の中核を理解しようとすることであり、「ひとを理解しようとする思いや行動」は、心理学を学ぶ人間にとって非常に身近な行動です。ただ、単なる「占い」とは異なるので、科学的な根拠（＝心理学的な知識や考え方）が必要となります。この授業では、心理学的な知識や考え方をもとに「自分自身」を多面的に理解し、「自分自身」や「ひと」を多面的に理解する方法として、皆さんと一緒に学び合っていきたいと考えています。後期Bの授業は、『ひととの関係を深く理解すること』を取り上げます。

心理学というひとの内面を読み解く知識や道具を使って、自分自身の心理学的な理解を深め、「自分自身の内面に関わる問題を、自分でサポートできるようにする」ことが、この科目の目標です。自分の内面（＝キャラクターやパーソナリティ）に対して、自身に起きた事実やそれに対する心理的な反応（感情、願望を含むあらゆる行動）への理解を深めることによって、『ひとがどんなパーソナリティをもち、どんな心理的な課題をどのように解消していくか』を自分で考察できるようにしていきます。

なお、「心理学そのもの」については、「現代の心理学A・B」を先に履修することをおすすめします。

授業は、教員による解説形式で行います。テーマによっては、行動実習やグループワークを行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝えたり聴いたりする・相手にくわしく質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。

開講日：月曜4時限 受講者数3名

受講者数が3名と非常に少ないため、後期授業のようなグループワーク主体の授業では毎回同じメンバーになってしまう欠点がある。講義系科目の平均点よりも有意に低い項目は、「I.a」「I.d」「II.c」の3項目である。I.aのように時間割の隙間時間にある当該モックを受講する学生が多いかもしれないが、基本的には通年で参加する学生のみであり、参加の態度も特に問題は見られない。テキストを使わない科目であるため、予習よりも復習に時間を使うこと、基本的に授業内でのふりかえりシートや課題で学習したことを確認しているため復習も授業まとめの直前に集中しやすい。成績評価は取り組んだ課題全部を合算して100%と見なし、そのうち何%取得したかを表現するため、評価がわかりにくいかもしれない。

● 問題点

学生の自由記述を見ると、「自分の考えや価値観を意味詰める良い機会となっています」という意見がある一方、「プリントの画像の印字が見づらい」という意見があった。

● 改善の方策

基本的に何かを暗記したりする科目ではないので「毎回楽しい授業です」という評価が出てくる。プリントは資料のスクリーン画像が多く、にじんだような感じになることが多いので、スライドや口頭での補足を多くしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

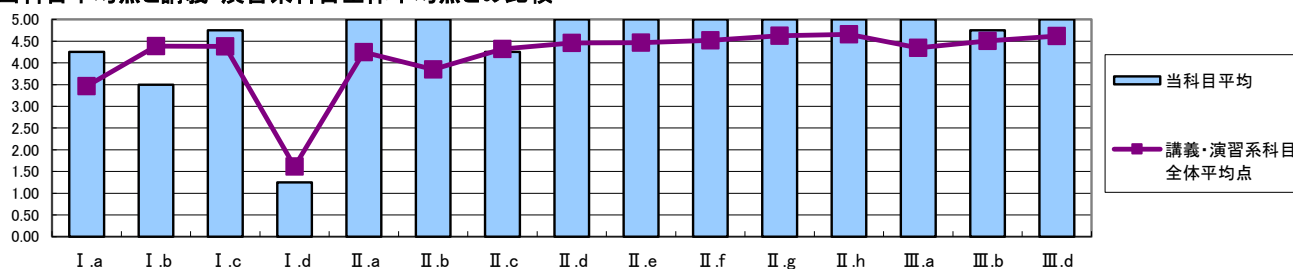
科目名	東邦スタンダードB
教員名	武藤 直美

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	6
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.25		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.50		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			75.00	50.00	0.00	75.00	100.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業では学生生活の過ごし方やスタディスキルを中心に展開しており、大学での学びの楽しさを知り、知的探求の面白さに気づく、自分の立ち位置を認識し、教員や友人を始めとする周囲の人々と円滑なコミュニケーションがとれるようになることを目的としております。水曜日1時限目に開講されており今回は6名履修者の内4名がアンケートに回答してくれました。設問I-dに対する回答数から全体平均に比例して予習復習時間が少ないことが認識できます。また設問III-cに対する回答より履修者全員が授業を通し、コミュニケーション能力が向上したと確信していることが明らかとなっております。

● 問題点

授業の履修にあたり、予習や復習を行っている学生は半数以下という結果でありました。

● 改善の方策

すべての履修者が積極的に、興味や関心を持って予習、復習に取り組んでいけるような環境を構築していく所存であります。また、創意工夫しながら、新たな発想をもって取り組んでいきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

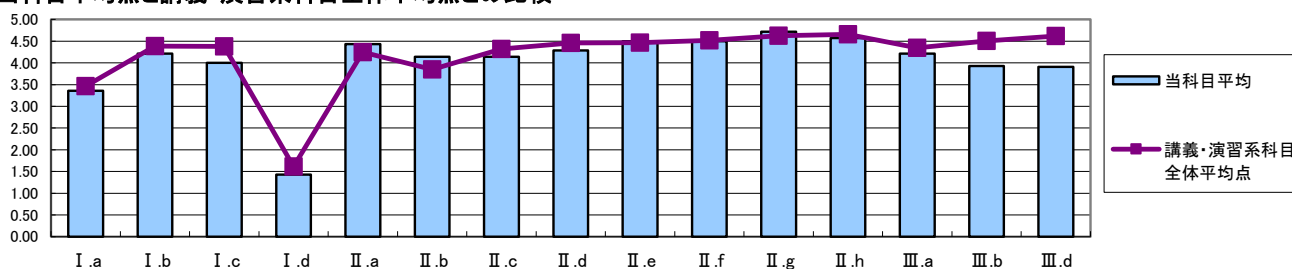
科目名	東邦スタンダードⅢBa
教員名	岩見 真佐子

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	22
回答者数	14

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
I	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.36		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.21		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.43		1.61		
II	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.43		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.14		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.14		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.29		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.71		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.57		4.66		
III	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.21		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.93		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			69.23	38.46	23.08	38.46	30.77
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.91		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本年度後期の本授業は登録履修者22名。年間授業日程に従いⅢabクラス合同のクラス授業の形態で、年間30回開講。外部講師による講義（15回）、東邦スタンダード全体開講授業（3回）を含め、両クラス担任2名体制で全体学生の学修状況をみながら授業を実施。

本年度の「東邦スタンダード授業シラバス」に基づき、内容については当学年の必修科目「ウィーンアカデミー研修」の開講状況に応じて一部内容を入れ替え、本年度の大学3年生の学修目標の達成に向け年間を通じて授業内容を確保することができた。

東邦スタンダードⅢでは、「学生生活関連授業」「キャリア教育関連授業」以外に、クラス全体での「グループ討議の実践と発表」の実践的な学び、「ウィーンアカデミー研修」準備と振り返りからの学び、が授業の基軸になっている。本年度の特徴としては、前期後期の目標設定とまとめの授業含め「本授業目的と位置づけ、積極的な授業への参加によって身につく力」についてのシラバス記載内容を確認しながら、双方向の対話を細かく重ねた点が挙げられる。また、年間を通じてグループ討議によるコミュニケーションの機会を多数確保し、活発な意見交換と共有を実践しながらそれぞれの学修への取り組みに大きな成長がみられた。

● 問題点

①本学年の授業への「参加意識」「積極的に取り組んでいるが意義や興味に結び付きにくい」点があると思われる。②「予習と復習の時間が取れない」点、大学3年は専攻実技授業でも基礎から発展段階にあり、多くの場面で中心的な取り組みを果たしながらこの授業での学びを確保していると思われる。③出欠席で悩みを抱える学生の「意義や興味の項」に働きかける発信について検討が必要と思われる。

● 改善の方策

①大学での学びにおいて各領域での成長が実際に力として発揮できるよう「領域を渡る学び」と「自分で大学生生活に活かす力」に関わる対話を増やしてゆく。

②授業への参加意義を見いだせない学生に対して、将来社会で求められる能力への「必要意識」と、この授業で新たな知見を得る（学ぶ）「楽しさ」への働きかけを工夫してゆく。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

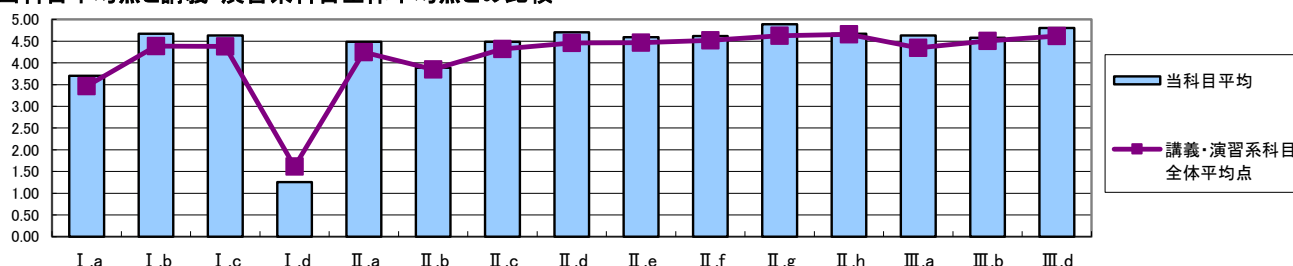
科目名	東邦スタンダードⅠBb
教員名	中島 剛

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	36
回答者数	27

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.70		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.63		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.26		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.48		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.89		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.48		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.70		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.59		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.62		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.89		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.63		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.58		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			59.26	33.33	18.52	22.22	55.56
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2022年度、東邦スタンダード1年生のbを初めて担当することになりました。今年度、履修登録者数36人いました。人数がとても多いので毎回の換気、扇風機等使用し、細心の注意を払いながらの授業を行いました。積極的に主体性を持って熱心に参加し、個人、グループワークも交えながらテキストに沿って進めてまいりました。

● 問題点

集計結果から読み取ると1dの予習、復習が平均値より低いので、今後改善の余地があると思いました。

● 改善の方策

東邦スタンダードという授業の魅力をもっと伝えていきたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

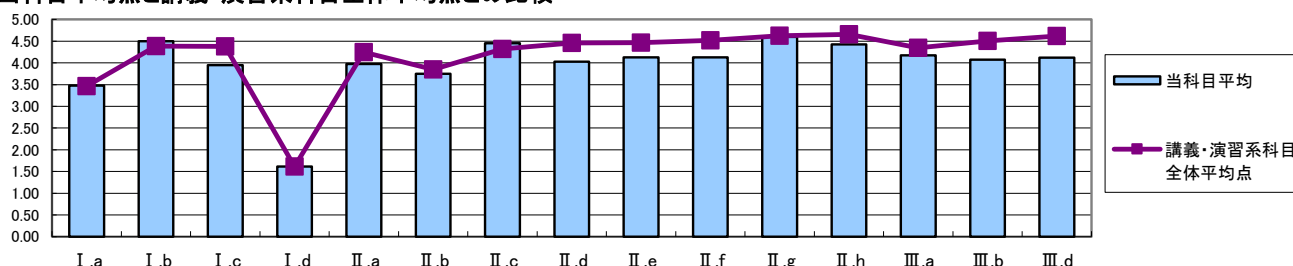
科目名	ウィーンの社会と文化Ba
教員名	荒木 洋育

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	52
回答者数	40

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.48		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.95		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.62		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.98		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.75		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.45		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.03		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.13		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.13		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.60		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.43		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.18		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.08		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			61.54	23.08	35.90	12.82	5.13
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.12		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、3年時にウィーン研修を控えた2年生を対象とする必修の科目である。ウィーンおよびオーストリアに関する知識を研修の成果を最大限生かせる程度まで深めることが目標であるので、学生には授業の理解に支障がない程度の予習を求めている。水曜日の授業であり、内容面ではa、bは原則同一のものである。必修科目であるが専門科目ではないという性格上、授業面では受講者側の負担感をできるだけ軽くし、なおかつ内容に対する受講者側の関心と理解を深めることが強く求められるであろう。数年前からプロジェクター（Power Point）を授業に利用し、評価に際しては口頭発表・期末レポートに加えて別に小レポートを課す形をとっている。

そのうえで昨年度の授業に関し講師側の感想を述べたい。まず、出席状況、授業中の受講者側の態度はおおむね良好であった。口頭発表、学期末レポート、小レポートの内容については、個人差はあるものの学生の様々な工夫、授業内容への理解の深さと知見を示すものが多く、全体として満足のいく結果であったと考えている。

次にアンケートの結果分析を行う。学生側の自己評価に関係するIグループではdの数値が特に低いことが目立つ。これは受講者側が授業の予復習の重要性をまだ十分には認識していないことを示すと考えられる。授業の進行に関係するIIグループに関してはd、e、fの数値が昨年度より改善がみられたがやや低い。このことは講師側の授業の進め方全般に関しまだ改善の余地が残ることを示す。授業全般に関する満足度に関係するIIIグループの数値については全体として昨年度より改善がみられた。cの項目については39件中実に33件が「新しい知識・技能」「新しい見方」を「自分のためになったこと」として回答している。これについては、講師側がこの授業において意図したことがある程度実現した表れとして解釈する。自由記述欄については、Power Point教材の見にくさを指摘する声があり、教材構成や教室設備に問題があることを示すと思われる。上述アンケート結果の分析に基づいて以下、昨年度の授業に対して講師側が感じた問題点を提示し、その改善の方策に関して考察を行う。

● 問題点

前述のような授業方式をとる目的は、教科内容への学生の関心を高めること、講師と学生との間の距離を縮めること、成績評価をより多角的に行うことにある。アンケートの結果をみると昨年度に関し当クラスでは成果が現れたといえ、教室内機器が改善されたことが要因の一つとして考えられる。しかし自由記述欄の内容からは、講師側が教材作成等に際し更に工夫する必要があることもまた読み取れた。

● 改善の方策

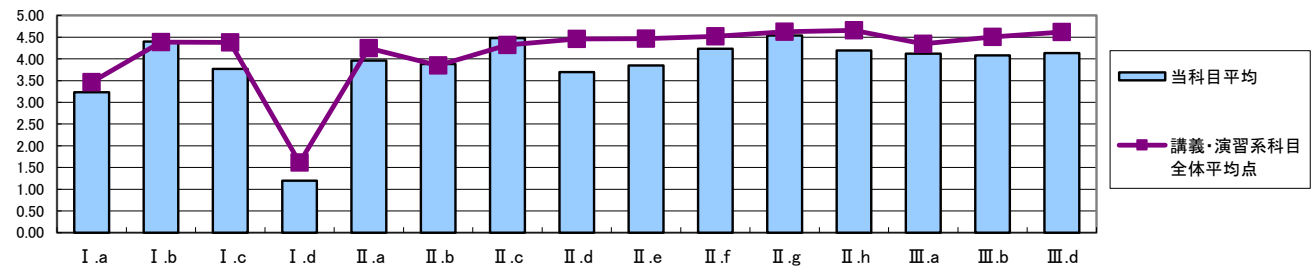
昨年度の授業に対しては、教室内機器の改善もあり、総体として授業において講師側の意図はある程度達成されたといえる。しかし、科目の性格上、教科内容への学生の関心を高め、講師と学生との間の距離を縮め、成績評価の基準を明確にすることが今後も求められるだろう。今年度は上記問題点への反省を踏まえて、教室内機器の作動を工夫し、予復習の役に立つよう教材内容を充実させ、成績評価を多角的に行い講師・学生間の双方向のやりとりを増やすなどの改善を改めて行いたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ウィーンの社会と文化Bb	職名	08. 講師	履修者数	32
教員名	荒木 洋育			回答者数	26

設問		設 問 文	平均点	全体平均点			
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.23	3.47			
	b	この授業の出席は良好であった。	4.40	4.39			
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.77	4.38			
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20	1.61			
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.96	4.24			
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.88	3.85			
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.48	4.32			
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.69	4.46			
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.85	4.46			
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.23	4.52			
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.54	4.62			
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.19	4.66			
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.12	4.34			
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.08	4.51			
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			80.95	9.52	38.10	9.52	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.13	4.62			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、3年時にウィーン研修を控えた2年生を対象とする必修の科目である。ウィーンおよびオーストリアに関する知識を研修の成果を最大限生かせる程度まで深めることが目標であるので、学生には授業の理解に支障がない程度の予習を求めている。水曜日の授業であり、内容面ではa、bは原則同一のものである。必修科目であるが専門科目ではないという性格上、授業面では受講者側の負担感をできるだけ軽くし、なおかつ内容に対する受講者側の関心と理解を深めることが強く求められるであろう。数年前から、プロジェクター（Power Point）を授業に利用し、評価に際しては口頭発表・期末レポートに加えて別に小レポートを課する形をとっている。

そのうえで昨年度の授業に関し講師側の感想を述べたい。まず出席状況、授業中の受講者側の態度はおおむね良好であった。口頭発表、学期末レポート、小レポートの内容については、個人差はあるものの学生の様々な工夫、授業内容への理解の深さと知見を示すものが多く、全体として満足のいく結果であったと考えている。

次にアンケートの結果分析を行う。学生側の自己評価に関係するIグループではdの数値が特に低いことが目立つ。これは受講者側が授業の予復習の重要性をまだ十分には認識していないことを示すと考えられる。授業の進行に関係するIIグループに関してはd、e、fの数値がやや低い。このことは講師側の授業の進め方全般に関しまだ改善の余地が残ることを示す。授業全般の充実度・評価に関係するIIIグループに関しては、cの項目において、21件中実に19件が「新しい知識・技能」「新しい見方」を「自分のためになったこと」として回答している。これについては、講師側がこの授業において意図したことがある程度実現した表れとして解釈する。自由記述欄については、評価の基準をより明確にするよう求める意見もあったが、学生との意思疎通、授業内容等の面に関しては好意的な意見が大半を占めていた。このアンケート結果の分析に基づいて以下、昨年度の授業に対して講師側が感じた問題点を提示し、その改善の方策に関して考察を行う。

● 問題点

前述のような授業方式をとる目的は、教科内容への学生の関心を高めること、講師と学生との間の距離を縮めること、成績評価をより多角的に行うことにある。アンケートの結果をみると昨年度に関し当クラスでは成果が現れたといえ、教室内機器が改善されたことが要因の一つとして考えられる。残る課題は予復習の重要性の認識が低いことであるが、それを含め以下、改善の方策について述べたい。

● 改善の方策

昨年度の授業に対しては、教室内機器の改善もあり、総体として授業において講師側の意図はある程度達成されたといえる。しかし、科目の性格上、教科内容への学生の関心を高め、講師と学生との間の距離を縮め、成績評価の基準を明確にすることが今後も求められるだろう。今年度は上記問題点への反省を踏まえて、教室内機器の作動を工夫し、予復習の役に立つよう教材内容を充実させ、成績評価を多角的に行い講師・学生間の双方向のやりとりを増やすなどの改善を改めたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

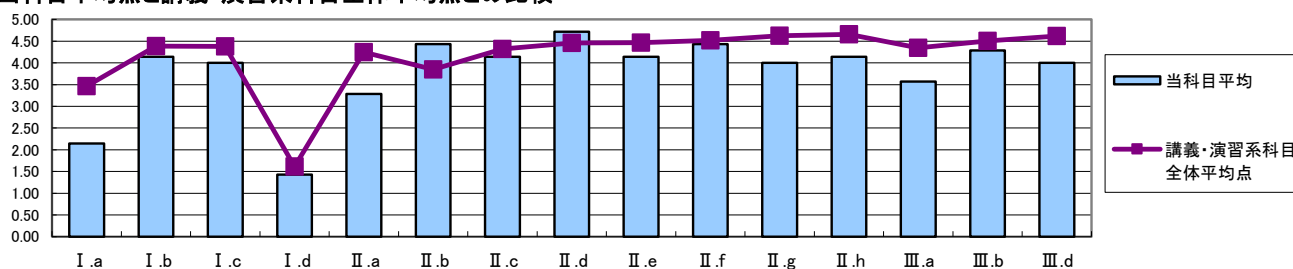
科目名	日本国憲法と生活B
教員名	今枝 昌浩

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	10
回答者数	7

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.14		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.14		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.43		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.29		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.43		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.14		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.71		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.14		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.43		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.14		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.57		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.29		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			85.71	42.86	14.29	0.00	14.29
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

前期の授業（A）と比べると受講者は減少したが、逆にそのため個々の理解度を確認しながら、授業を展開できた。具体的には、定期的に記述式の「小テスト」または「確認テスト」を実施し、答案回収後、解答を実演することで、文章の作成方法を教授することができた。また、普段の授業においても、内容に関する問い掛けを実践し、受講者に尋ねるスタイルを貫徹することで、授業に出席するだけでなく参加することの重要性を意識させることができた。さらに、憲法学が、法律学の中でも話題の抽象度が高く、身近に感じにくい特性をもっていることを踏まえ、時事に関する事柄を例に挙げることで、講義の工夫を図っている。このような授業実践を通して、受講者もまた当事者意識をもって、日本国憲法の仕組み・制度および憲法学の考え方や向き合うことができたと考えられる。

● 問題点

受講者に課された予復習の時間が少ない。

● 改善の方策

引き続き、授業の終わりに教科書の予習部分を告知する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

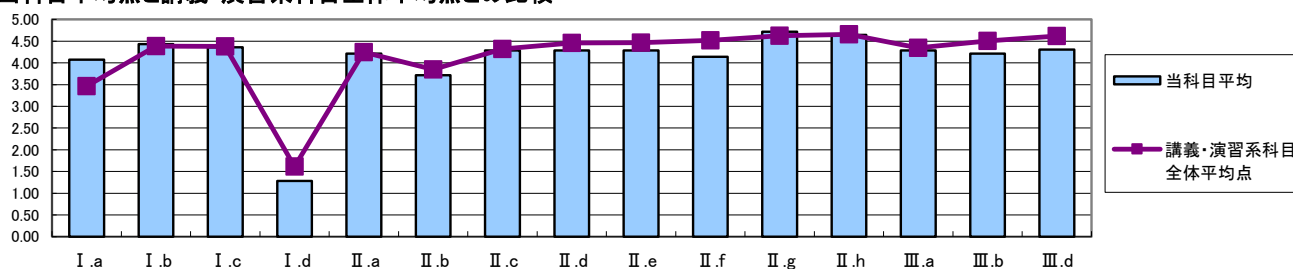
科目名	国際理解と交流B
教員名	今枝 昌浩

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	20
回答者数	14

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.07		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.43		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.36		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.29		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.21		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.71		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.29		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.29		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.29		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.14		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.71		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.64		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.29		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.21		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.31		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本授業は、国際社会を法の観点から考えることができるよう、国際法について講義するとともに、折に触れて日本とは異なる政治制度や考え方をもつ諸外国の制度についても紹介・検討するものである。

前期授業（A）と比べて受講者の人数に変化は見られなかった。受講者の人的構成にかかる特徴としては留学生（中国国籍者）が比較的多いことである。そうした特性を活かし、授業では、中国の制度の紹介や留学生自身の実体験を聴く等、「国際理解」にかなう工夫を凝らしたところである。また、言語にかかる制約には、電子端末の翻訳機能の使用を許可する等、柔軟に対応した。

「国際法」という受講者が初めて触れる分野であるだけに、授業では法というものの考え方や仕組みを出発点として、ゆるやかに丁寧に授業を展開した。さらに、理解度を測るため、受講者に対する問い掛け・応答を実践するとともに、定期的な「小テスト」を実施した。

こうした授業実践の結果、頂戴した個別の意見によれば、好意的なものが比較的多くなったと思われる。

● 問題点

レジュメ（配布プリント）と説明の簡潔性が課題となる。受講者全体が理解することを優先するために、授業での解説が冗長になってしまったかもしれない。

● 改善の方策

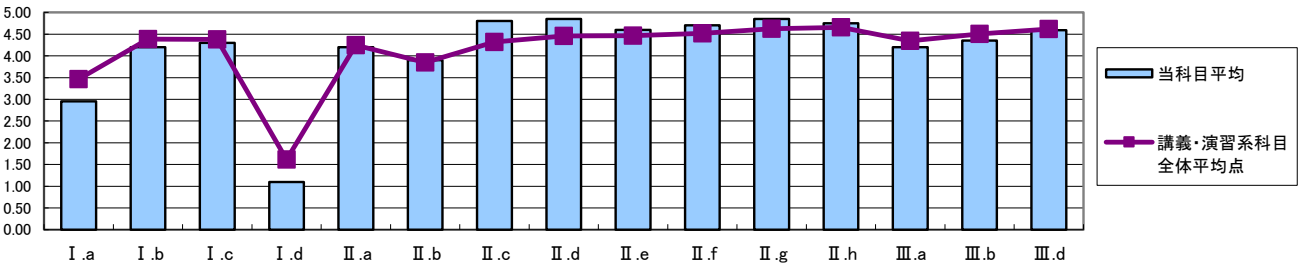
指定教科書を改め、ビジュアル資料が掲載された文献にした。これにより、予復習を容易にし、また具体的なイメージを想起しやすくする。また、レジュメと連携させることで、解説の重複を避けることができる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	英語2a	職名	08. 講師	履修者数	24
教員名	増淵 千幸			回答者数	20

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.95		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.20		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.30		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.10		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.20		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.90		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.85		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.70		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.85		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.20		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.35		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			89.47	31.58	15.79	10.53	21.05
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.59		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

講義・演習混合形式の授業で、中高六年間学んできたことをもとに、リスニング・読解・作文を中心に行った。履修人数はちょうど良く、学生は非常に真面目で、スムーズに授業を進められた。学生間の力の差は気になるほどではなかったし、理解度は高かった。1限ではあったが、大多数の学生がきちんと遅刻もせずに参加し、とても良く取り組んでいた。アンケートの中のIの自己評価が低い、謙遜ゆえと思う。Idの予習復習に関する質問だが、この授業では予習の必要はないと周知している。復習に関しては、定着のために必要不可欠である。語学専門ではない学生ゆえ、勉強の仕方が今一歩わからない学生もいるため、例えば、復習には少なくとも音読をしてみようなど、声掛けを続けたい。授業中も含め、語学をどのように習得してゆくかのプロセスも、今まで以上に説明してゆきたい。

● 問題点

結果からは、学生と私の間の意識のずれはほとんど見えない。ただ、自己評価よりも学生は良く取り組んでいた。

● 改善の方策

毎年同じだが、学生の表情や態度をよく見て、どうすべきかその場で改善し、変えるべき点を早めに変えてゆくことが大切であろう。英語は少なくとも6年間学習してきたため、すべての学生を満足させられるレベル設定が難しい。1コマ内での内容とレベルを多様化し、少しでも学生の学びが深まるよう努めたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

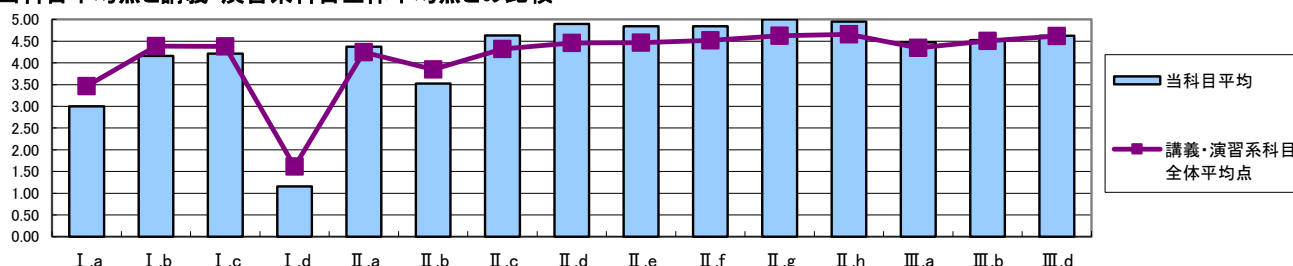
科目名	英語2b
教員名	増淵 千幸

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	21
回答者数	19

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.16		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.21		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.16		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.37		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.53		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.63		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.89		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.84		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.84		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.95		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.47		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.53		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			89.47	21.05	47.37	21.05	36.84
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.63		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

講義・演習混合形式の授業で、中高六年間学んできたことをもとに、リスニング・読解・作文を中心に行った。履修人数はちょうど良く、学生は非常に真面目で、それぞれ積極的に授業に参加していた。スムーズに授業を進められた。学生間の力の差は気になるほどではなかったし、理解度は高かった。大多数の学生が欠席もほとんどせずに参加し、とても良く取り組んでいた。

アンケートの中のIの自己評価が低い、謙遜ゆえと思う。Idの予習復習に関する質問だが、この授業では予習の必要はないと周知している。復習に関しては、定着のために必要不可欠である。語学専門ではない学生ゆえ、勉強の仕方が今一歩わからない学生もいるため、例えば、復習には少なくとも音読を試みようなど、声掛けを続けたい。授業中も含め、語学をどのように習得してゆくかのプロセスも、今まで以上に説明してゆきたい。

● 問題点

結果からは、学生と私の間の意識のずれはほとんどない。ただ、自己評価よりも学生は良く取り組んでいた。

● 改善の方策

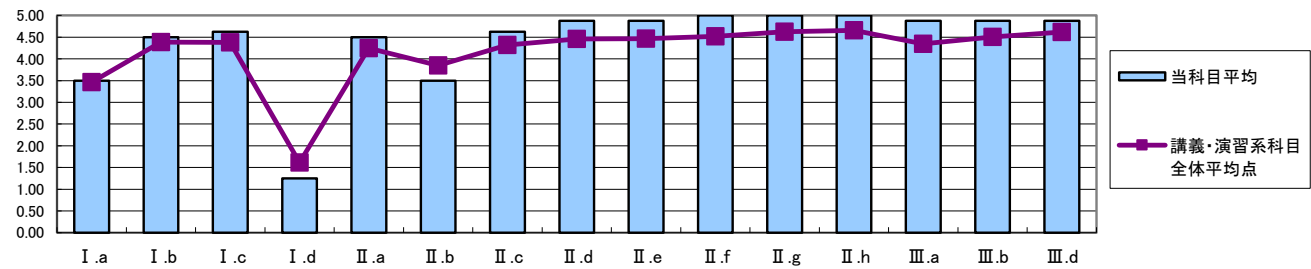
毎年同じだが、学生の表情や態度をよく見て、どうすべきかその場で改善し、変えるべき点を早めに変えてゆくことが大切であろう。英語は少なくとも6年間学習してきたため、すべての学生を満足させられるレベル設定が難しい。1コマ内での内容とレベルを多様化し、少しでも学生の学びが深まるよう努めたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	英語4	職名	08. 講師	履修者数	9
教員名	増淵 千幸			回答者数	8

設問		設 問 文	平均点	全体平均点			
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.47			
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.39			
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.63	4.38			
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.61			
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.24			
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.50	3.85			
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.63	4.32			
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.88	4.46			
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.88	4.46			
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.52			
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62			
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.66			
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.88	4.34			
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.88	4.51			
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			25.00	25.00	62.50	12.50	25.00
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.62				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

講義・演習混合形式の授業で、中高六年間学んできたこと、英語1・2で学んできたことをもとに、リスニング・読解・作文を中心に行った。履修人数が少ないこともあり、なかなか大きな声で発音することが憚れるようであった。授業には真面目に取り組んでいた。学生間の力の差は英語1・2の時につかんでいたため、授業で困ることはなかった。1限ということもあり、遅刻や欠席が多い学生もいた。しかしそれぞれが良く学んでいた。

アンケートの中のIの自己評価が低い、謙遜ゆえと思う。Idの予習復習に関する質問だが、この授業では予習の必要はないと周知している。復習に関しては、定着のために必要不可欠である。語学専門ではない学生ゆえ、勉強の仕方が今一歩わからない学生もいるため、例えば、復習には少なくとも音読をしてみようなど、声掛けを続けたい。授業中も含め、語学をどのように習得してゆくかのプロセスも、今まで以上に説明してゆきたい。

● 問題点

結果からは、学生と私の間の意識のずれはほとんど見えない。ただ、自己評価よりも学生は良く取り組んでいた。

● 改善の方策

毎年同じだが、学生の表情や態度から毎回どうすべきかその場で改善し、変えるべき点を早めに変えてゆくことが大切であろう。英語は少なくとも6年間学習してきたため、すべての学生を満足させられるレベル設定が難しい。1コマ内での内容とレベルを多様化し、少しでも学生の学びが深まるよう努めたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

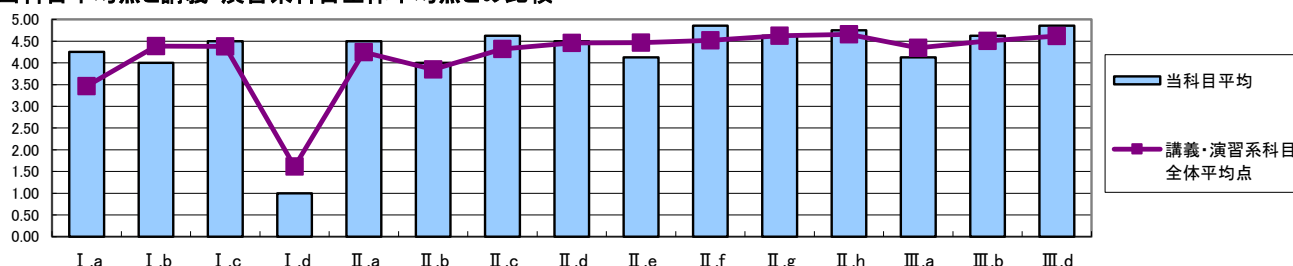
科目名	コンピューター演習Ba
教員名	湯浅 恭子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	14
回答者数	8

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.25		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.63		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.13		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.86		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.63		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.13		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.63		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			87.50	37.50	50.00	12.50	12.50
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.86		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

<科目の目的>

本科目では、文書作成・表作成などのソフトウェアを用いて操作に慣れ、データファイルの取り扱いやそれら情報の整理について学ぶ。また情報セキュリティや、近年発達している情報技術について基本的な知識を習得する。履修者の多くが教職課程履修者であることから、ICT教育に繋がるコンピュータ機器の利用法について考察する。音楽の発信者として情報端末やインターネットをより効果的に使っていく方法を学び、自身の日常利用する端末やネットワークへの応用につなげる。

<内容>

コンピュータの基本的な構造、ハードウェア・ソフトウェアについての知識の習得。インターネット上のSNSやクラウドコンピューティング等に関する現況の概観。Windowsマシンを使ったコンピュータリテラシーの向上。また、小学校から順次必修化となっているプログラミング教育について、その意義を確認し、教育現場で多く利用されているプログラミングソフトウェアを用いて実践を行い、音楽の授業などでの活用方法について考察する。

PCを使った演習ではWord・Excelを用いてビジネス文書の作成、写真画像などを利用した統合的な文書の作成を行う。またPowerPointを用いてグループでのプレゼンテーション演習を実施。楽譜作成ソフトウェアの基本操作の習得と編曲譜面の作成。音楽制作ソフトウェアを用いてMIDI入力・音声編集・動画と音楽を同期させる編集などを行う。

また、PC教室備え付けのWindowsでの作業に加え、初等中等教育現場で近年取り入れられているGoogle Workspace for Educationを利用し、ネットワーク上でのデータの共有・協働編集など、個人のスマートフォン等でも作業ができるような環境も用いた。

<状況説明と集計結果の分析>

月曜日1時限、履修者数14名。授業形態は演習形式と講義形式で行った。コンピュータ演習室にて1人1台のPCを使用。履修者は全学年が対象、当クラスは1～4年生（社会人学生含む）の混合クラスであった。月曜日の1時限という時間帯から、当科目の他の時間帯のクラスよりも出席率がよくなかった。出席率の低さ、履修生のPCスキルの差が影響し、演習の進捗状況にかなり差が生じて、全体で演習を進めることが困難な場面が多くあった。設問「到達目標を十分に達成できた」に対する低い評価はこうしたことが原因の一つと考えられる。

● 問題点

「予習・復習の時間」個人のPC環境が異なることも影響し、すべての履修生がPC操作の演習を予習復習で行うことが難しい。同科目別クラスではあるが、学生同士の会話で「家に帰ってまでPCをやりたくない」といった声も聞こえてきていて、主体的には予習復習に向かえていない様子である。

● 改善の方策

「予習・復習」に関して：「授業の難易度」への回答で一番多いのが「適切」という結果であった。予習復習が必然的になるような難易度を少し上げた演習を取り入れることでスキルアップと予習・復習の定着を図れるか、検討していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

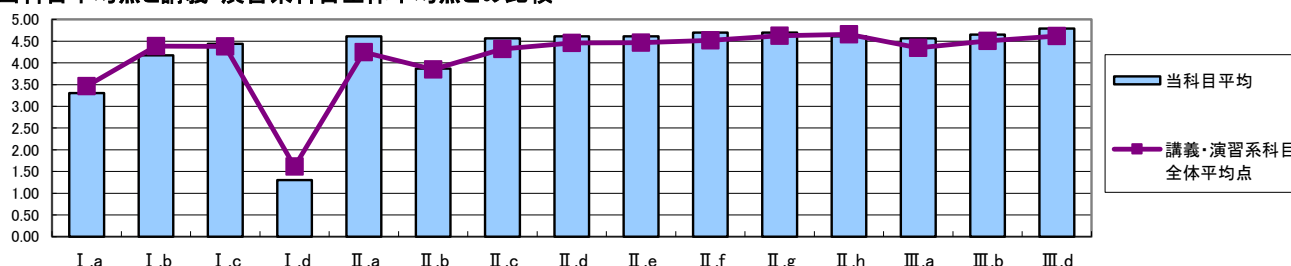
科目名	コンピューター演習Bb
教員名	湯浅 恭子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	24
回答者数	23

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.30		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.17		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.30		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.61		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.87		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.57		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.61		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.61		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.70		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.70		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.61		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.57		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.65		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
	5		4	3	2	1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	90.48	28.57	38.10	14.29	4.76
		4.79		4.62			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

<科目の目的>

本科目では、文書作成・表作成などのソフトウェアを用いて操作に慣れ、データファイルの取り扱いやそれら情報の整理について学ぶ。また情報セキュリティや、近年発達している情報技術について基本的な知識を習得する。履修者の多くが教職課程履修者であることから、ICT教育に繋がるコンピュータ機器の利用法について考察する。音楽の発信者として情報端末やインターネットをより効果的に使っていく方法を学び、自身の日常利用する端末やネットワークへの応用につなげる。

<内容>

コンピュータの基本的な構造、ハードウェア・ソフトウェアについての知識の習得。インターネット上のSNSやクラウドコンピューティング等に関する現況の概観。Windowsマシンを使ったコンピュータリテラシーの向上。また、小学校から順次必修化となっているプログラミング教育について、その意義を確認し、教育現場で多く利用されているプログラミングソフトウェアを用いて実践を行い、音楽の授業などでの活用方法について考察する。

PCを使った演習ではWord・Excelを用いてビジネス文書の作成、写真画像などを利用した統合的な文書の作成を行う。またPowerPointを用いてグループでのプレゼンテーション演習を実施。楽譜作成ソフトウェアの基本操作の習得と編曲譜面の作成。音楽制作ソフトウェアを用いてMIDI入力・音声編集・動画と音楽を同期させる編集などを行う。

また、PC教室備え付けのWindowsでの作業に加え、初等中等教育現場で近年取り入れられているGoogle Workspace for Educationを利用し、ネットワーク上でのデータの共有・協働編集など、個人のスマートフォン等でも作業ができるような環境も用いた。

<状況説明と集計結果の分析>

月曜日2時限、履修者数24名。授業形態は演習形式と講義形式で行った。コンピュータ演習室にて1人1台のPCを使用。履修者は全学年が対象、当クラスは1、3、4年生の混合クラスであった。1年生の人数が全体の3分の2を占めていたが、プレゼンテーションなどは3、4年生の落ち着いたまとまりのよい発表と、1年生の活発な姿勢が、それぞれ効果的に作用していたように感じる。学習意欲の高い学生が多く、各課題に意欲的に取り組めた。

● 問題点

「シラバスを活用したか」教職課程履修生は必修科目であり、履修時に活用していない学生も多いようである。

「予習・復習の時間」個人のPC環境が異なることも影響し、すべての履修生がPC操作の演習を予習復習で行うことが難しい。同科目別クラスではあるが、学生同士の会話で「家に帰ってまでPCをやりたい」といった声も聞こえてきていて、主体的には予習復習に向かえていない様子である。

● 改善の方策

「シラバスを活用したか」：初回授業ガイダンスの際、全体に向けてシラバスの内容確認を行う。

「予習・復習」に関して：「授業の難易度」への回答で一番多いのが「適切」という結果であった。予習復習が必然的になるような難易度を少し上げた演習を取り入れることでスキルアップと予習・復習の定着を図れるか、検討していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

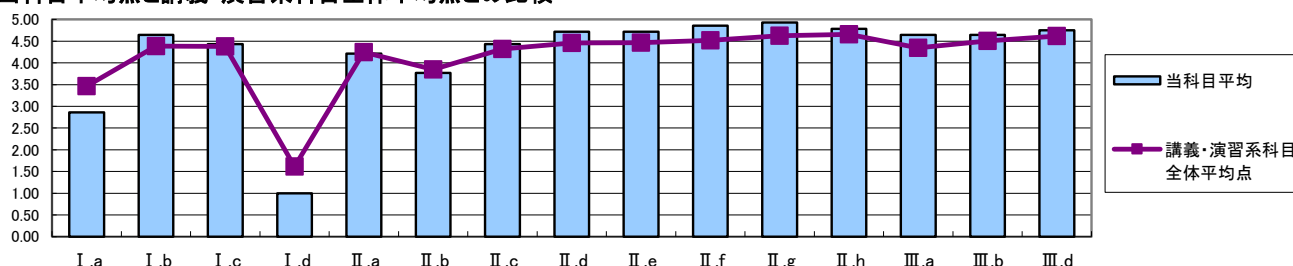
科目名	コンピューター演習Bc
教員名	湯浅 恭子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	23
回答者数	14

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.86		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.64		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.21		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.77		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.43		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.71		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.71		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.86		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.93		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.79		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.64		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.64		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	35.71	42.86	28.57	7.14
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

<科目の目的>

本科目では、文書作成・表作成などのソフトウェアを用いて操作に慣れ、データファイルの取り扱いやそれら情報の整理について学ぶ。また情報セキュリティや、近年発達している情報技術について基本的な知識を習得する。履修者の多くが教職課程履修者であることから、ICT教育に繋がるコンピュータ機器の利用法について考察する。音楽の発信者として情報端末やインターネットをより効果的に使っていく方法を学び、自身の日常利用する端末やネットワークへの応用につなげる。

<内容>

コンピュータの基本的な構造、ハードウェア・ソフトウェアについての知識の習得。インターネット上のSNSやクラウドコンピューティング等に関する現況の概観。Windowsマシンを使ったコンピュータリテラシーの向上。また、小学校から順次必修化となっているプログラミング教育について、その意義を確認し、教育現場で多く利用されているプログラミングソフトウェアを用いて実践を行い、音楽の授業などでの活用方法について考察する。

PCを使った演習ではWord・Excelを用いてビジネス文書の作成、写真画像などを利用した統合的な文書の作成を行う。またPowerPointを用いてグループでのプレゼンテーション演習を実施。楽譜作成ソフトウェアの基本操作の習得と編曲譜面の作成。音楽制作ソフトウェアを用いてMIDI入力・音声編集・動画と音楽を同期させる編集などを行う。

また、PC教室備え付けのWindowsでの作業に加え、初等中等教育現場で近年取り入れられているGoogle Workspace for Educationを利用し、ネットワーク上でのデータの共有・協働編集など、個人のスマートフォン等でも作業ができるような環境も用いた。

<状況説明と集計結果の分析>

金曜日3時限、履修者数23名。授業形態は演習形式と講義形式で行った。コンピュータ演習室にて1人1台のPCを使用。履修者は全学年が対象、当クラスは1、2、4年生の混合クラスであった。教職実践専攻生が多く、全体の3分の1を占めた。設問「授業の難易度」で、当クラスに「やや易しい」や「易しい」という回答が多かったのは、この履修状況が影響しているものと思われる。（当科目の他のクラスではこの回答は少ない。）

● 問題点

「シラバスを活用したか」教職課程履修生は必修科目であり、履修時に活用していない学生も多いようである。

「予習・復習の時間」個人のPC環境が異なることも影響し、すべての履修生がPC操作の演習を予習復習で行うことが難しい。学生同士の会話で「家に帰ってまでPCをやりたくない」といった声も聞こえてきていて、主体的には予習復習に向かえていない様子である。

● 改善の方策

「シラバスを活用したか」：初回授業ガイダンスの際、全体に向けてシラバスの内容確認を行う。

「予習・復習」に関して：「授業の難易度」への回答で一番多いのが「適切」という結果であった。予習復習が必然的になるような難易度を少し上げた演習を取り入れることでスキルアップと予習・復習の定着を図れるか、検討していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

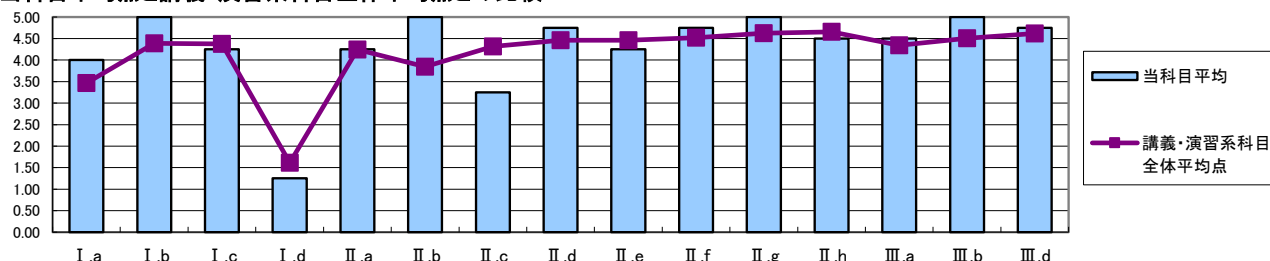
科目名	芸術文化とユネスコB
教員名	城之内 ミサ

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	5
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.25		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	100.00	75.00	100.00	0.00	0.00

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



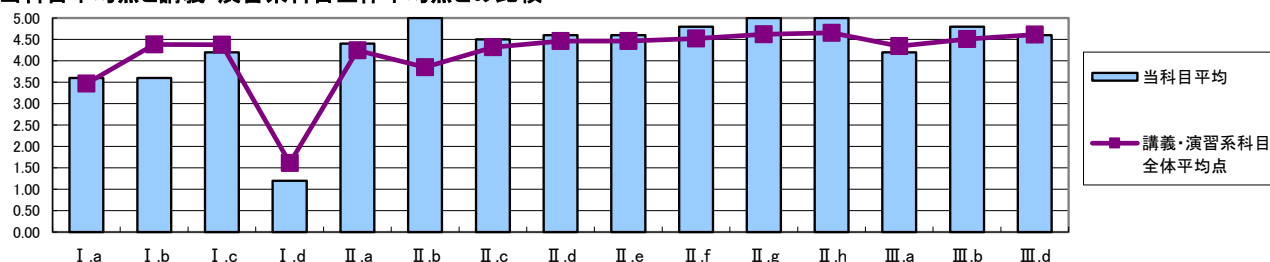
科目名	グローバルミュージックB
教員名	城之内 ミサ

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	9
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.60		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.60		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.20		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.60		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.20		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			60.00	60.00	60.00	40.00	20.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

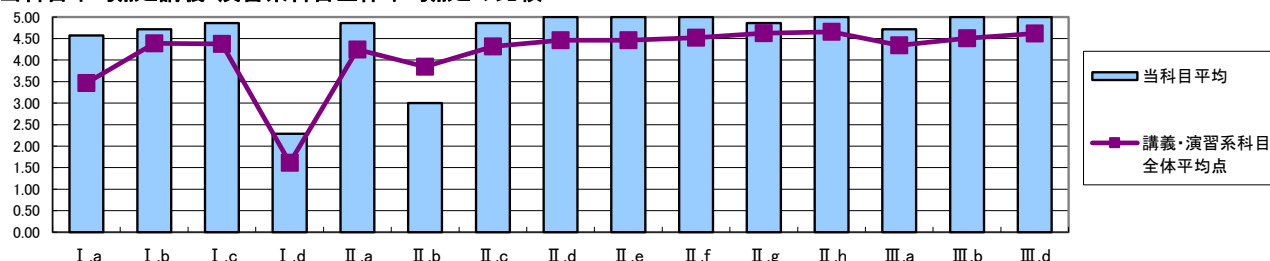
科目名	ドイツ語(Konzertfach)2
教員名	高橋 幸雄

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	10
回答者数	7

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.57		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.71		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.86		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.29		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.86		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.86		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.86		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.71		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	42.86	42.86	0.00	14.29
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



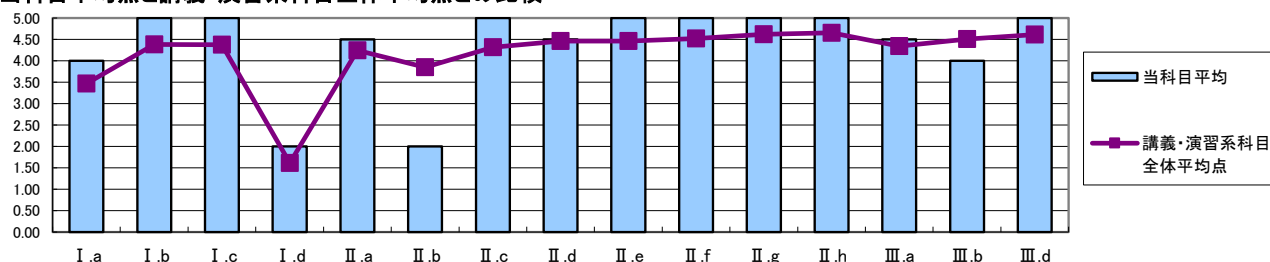
科目名	ドイツ語(Konzertfach)4(異文化コミュニケーションを含む)
教員名	高橋 幸雄

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	2
回答者数	2

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	0.00	0.00	0.00	50.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

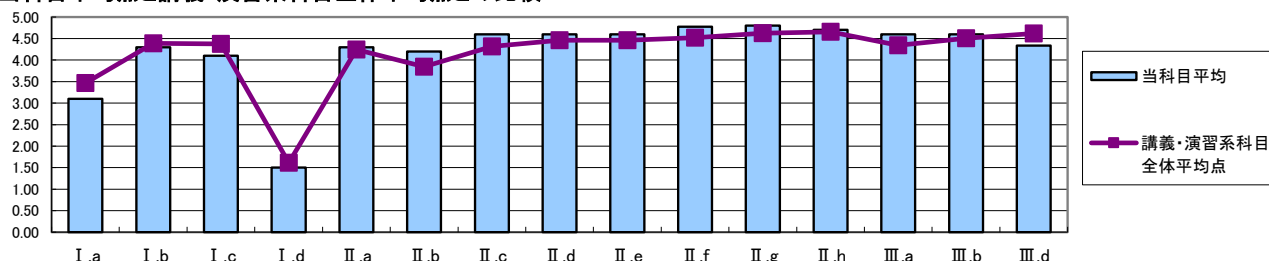
科目名	東邦スタンダードIVBb
教員名	木下 容子

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	18
回答者数	10

設問		設 問 文	平均点	全体平均点					
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.10	3.47					
	b	この授業の出席は良好であった。	4.30	4.39					
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.10	4.38					
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.61					
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.30	4.24					
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.85					
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.32					
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.60	4.46					
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60	4.46					
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.78	4.52					
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80	4.62					
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.70	4.66					
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.60	4.34					
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60	4.51					
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率						
			5	4	3	2	1		
			70.00	60.00	0.00	10.00	50.00		
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.62						

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



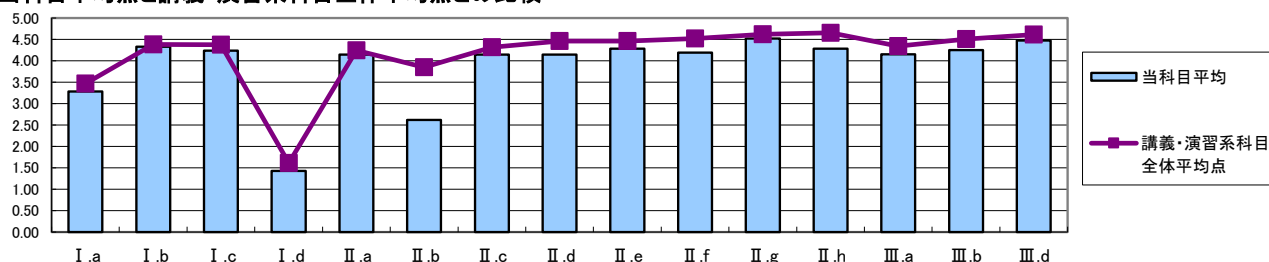
科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション2
教員名	レツ I. K.

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	22
回答者数	21

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.29		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.24		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.43		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.14		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.62		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.14		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.14		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.29		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.19		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.52		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.29		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.15		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.25		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			85.71	19.05	19.05	0.00	28.57
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.47		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

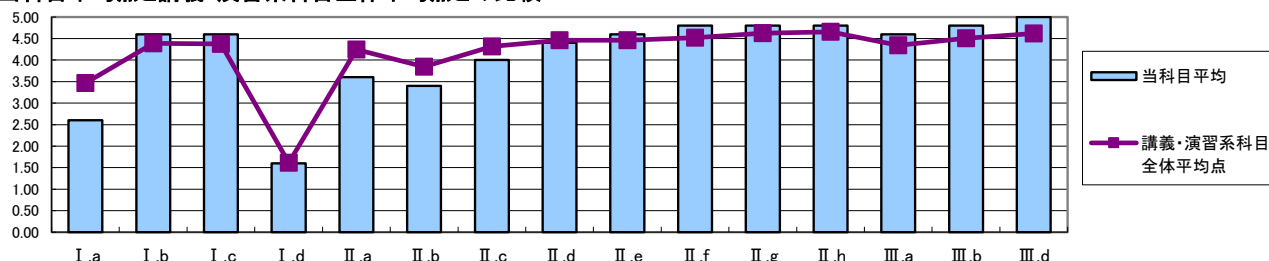
科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション4
教員名	レツ I. K.

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	5
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.60		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.60		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.40		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.40		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.60		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	20.00	80.00	20.00	60.00
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



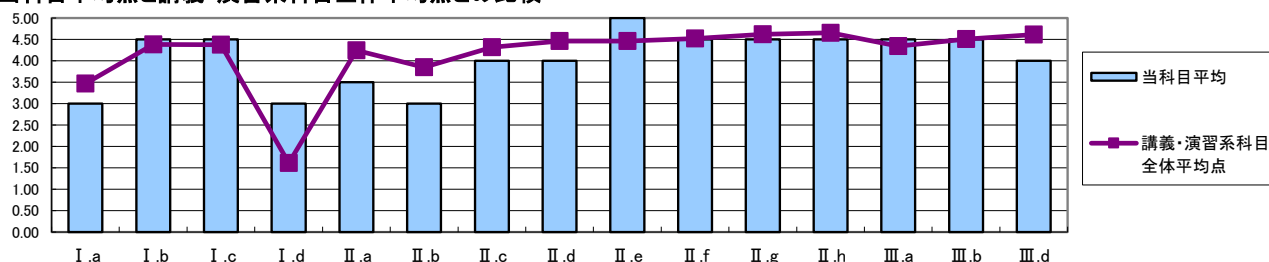
科目名	ドイツ語(Konzertfach)8
教員名	レツ I. K.

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	2
回答者数	2

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			50.00	0.00	50.00	0.00	100.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

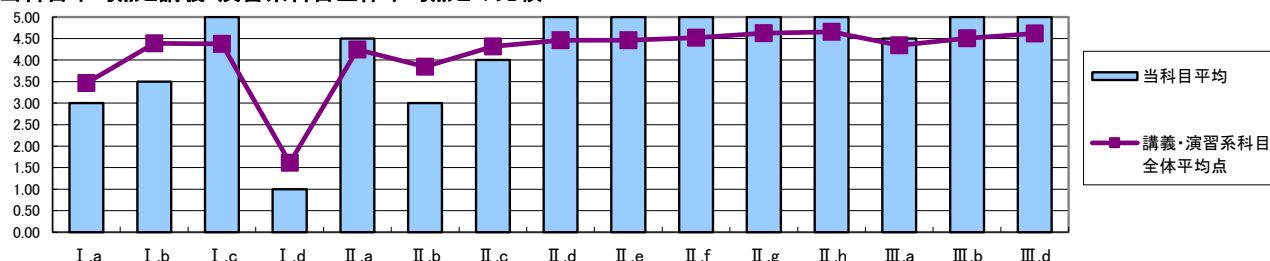
科目名	Advanced Communication Skills I B
教員名	レンツ I. K.

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	2
回答者数	2

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.50		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	100.00	0.00	50.00	100.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



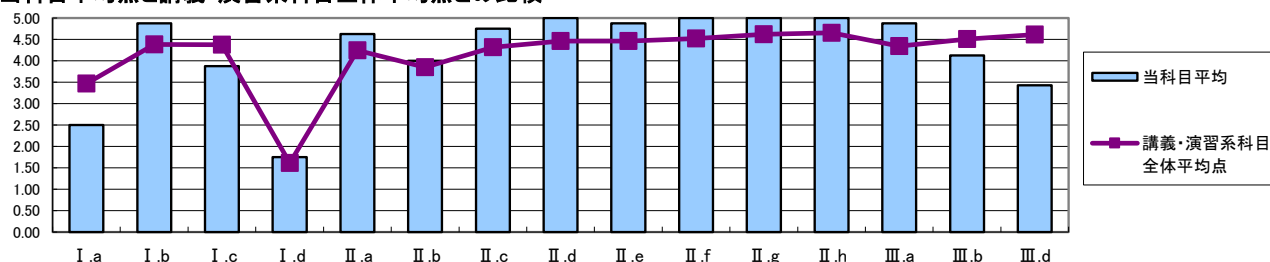
科目名	東邦スタンダードIVBa
教員名	澤 敦

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	19
回答者数	8

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.50		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.88		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.88		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.75		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.63		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.88		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.88		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.13		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			25.00	37.50	12.50	12.50	50.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.43		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

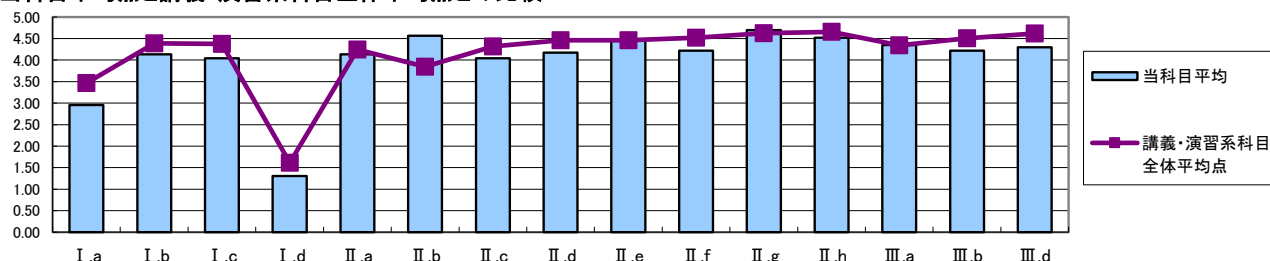
科目名	東邦スタンダードⅡBb
教員名	浦川 玲子

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	34
回答者数	23

設問		設 問 文	平均点	全体平均点				
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.96	3.47				
	b	この授業の出席は良好であった。	4.13	4.39				
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.04	4.38				
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.30	1.61				
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.13	4.24				
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.57	3.85				
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.04	4.32				
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.17	4.46				
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.48	4.46				
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.22	4.52				
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.70	4.62				
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.52	4.66				
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.35	4.34				
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.22	4.51				
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率					
			5	4	3	2	1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.30	4.62				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



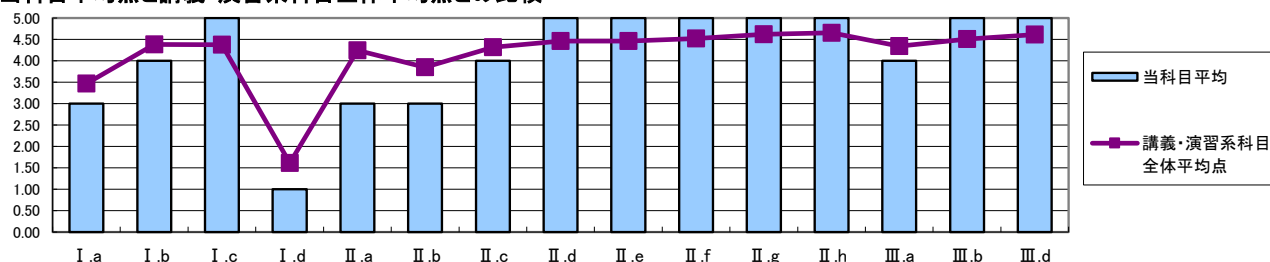
科目名	日本国憲法と生活B
教員名	今枝 昌浩

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	100.00	0.00	100.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

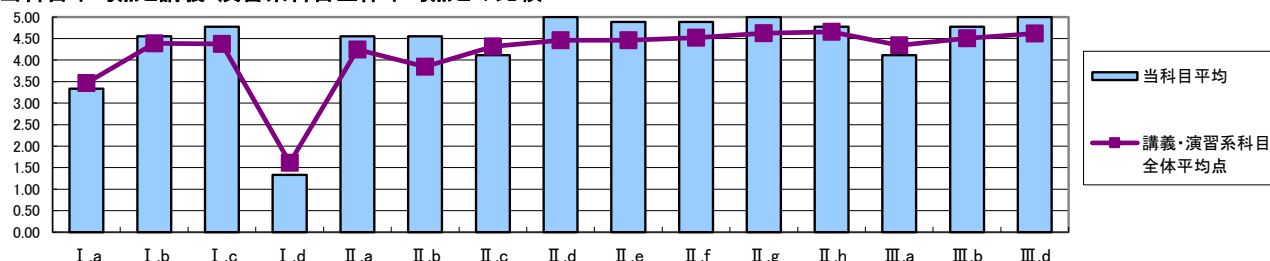
科目名	社会福祉概論(老人・児童福祉を含む)B
教員名	高畑 敦子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	17
回答者数	9

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.56		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.78		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.56		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.56		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.11		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.89		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.89		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.78		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.11		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.78		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			66.67	100.00	44.44	22.22	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



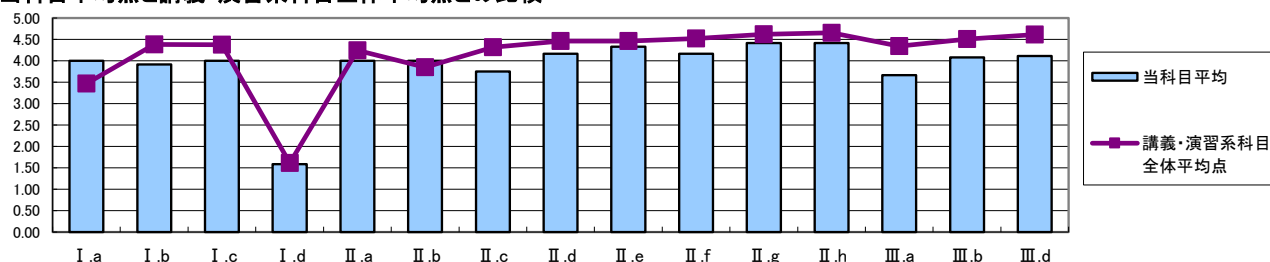
科目名	現代の心理学B(発達心理を含む)
教員名	徳富 政樹

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	15
回答者数	12

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.92		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.58		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.75		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.17		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.17		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.42		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.42		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.67		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.08		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	87.50	37.50	50.00	25.00	0.00
		4.11		4.62			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

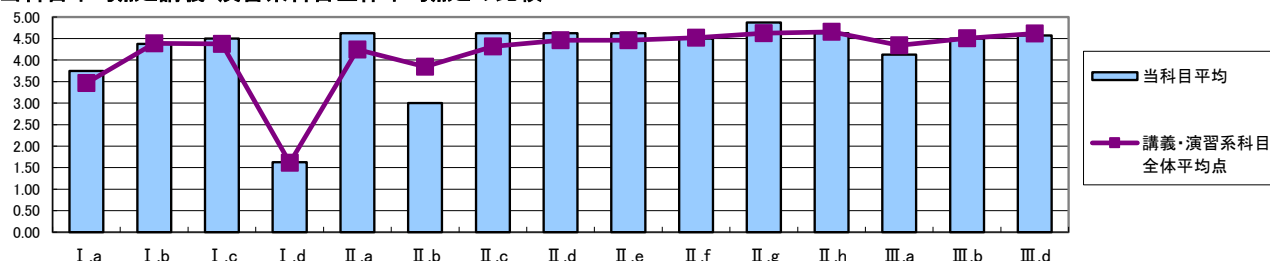
科目名	英語圏異文化コミュニケーション2a
教員名	ヒューゴ ラファル

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	9
回答者数	8

設問		設 問 文	平均点	全体平均点				
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.75	3.47				
	b	この授業の出席は良好であった。	4.38	4.39				
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38				
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.63	1.61				
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.63	4.24				
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.85				
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.63	4.32				
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.63	4.46				
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.63	4.46				
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.52				
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.88	4.62				
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.63	4.66				
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.13	4.34				
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.51				
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率					
			5	4	3	2	1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	50.00	12.50	12.50	37.50	87.50	
			4.57	4.62				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



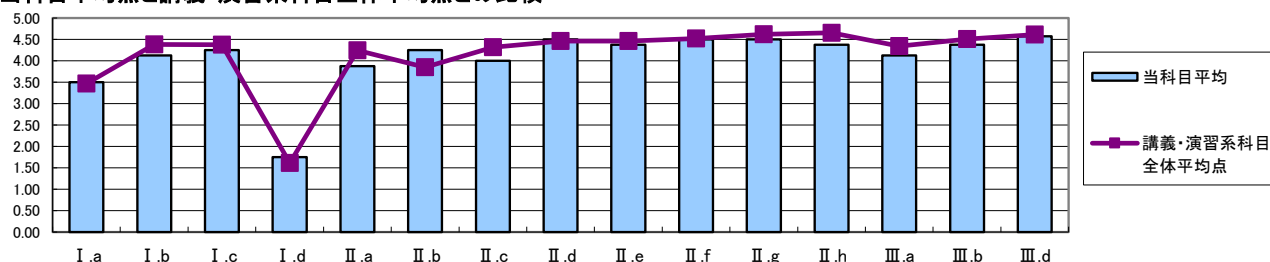
科目名	英語圏異文化コミュニケーション2b
教員名	ヒューゴ ラファル

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	8
回答者数	8

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.13		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.75		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.88		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.25		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.38		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.38		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.13		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.38		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			50.00	37.50	25.00	37.50	50.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.57		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

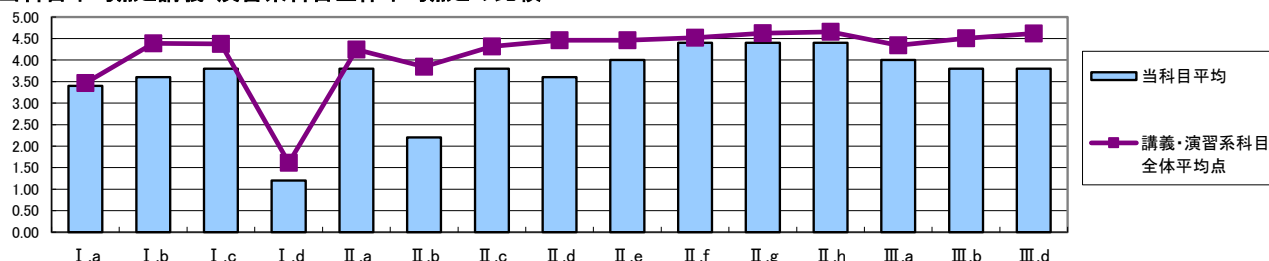
科目名	英語圏異文化コミュニケーション4
教員名	ヒューゴ ラファル

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	7
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.40		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.60		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.80		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.80		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.20		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.80		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.60		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.40		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.40		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.80		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			33.33	33.33	33.33	33.33	66.67
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.80		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



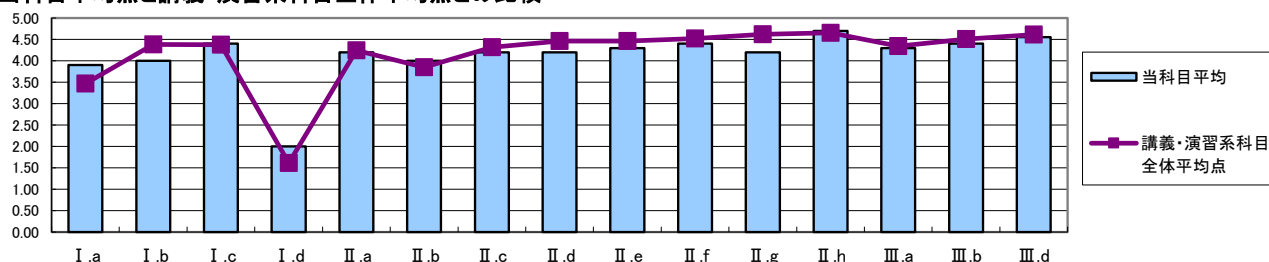
科目名	文化芸術論B
教員名	山下 暁子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	15
回答者数	10

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.90		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.20		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.20		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.30		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.20		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.70		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.30		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.40		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			70.00	40.00	60.00	40.00	10.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.56		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

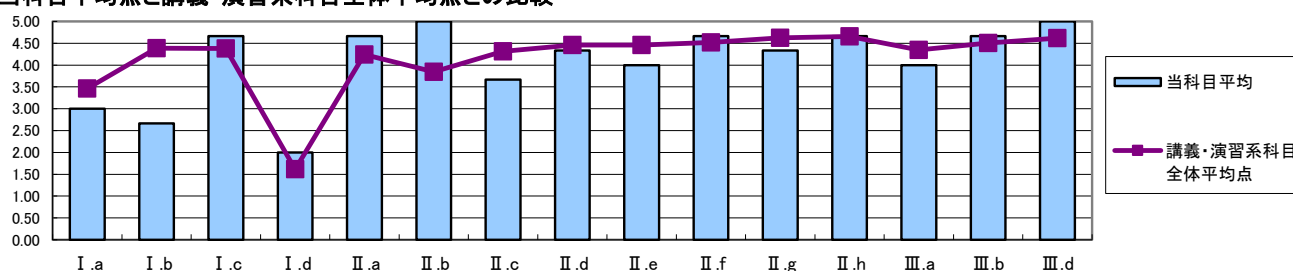
科目名	情報スキルB
教員名	渡辺 和彦

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	2.67		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.67		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.33		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	33.33	33.33	33.33	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



教職に関する専門科目

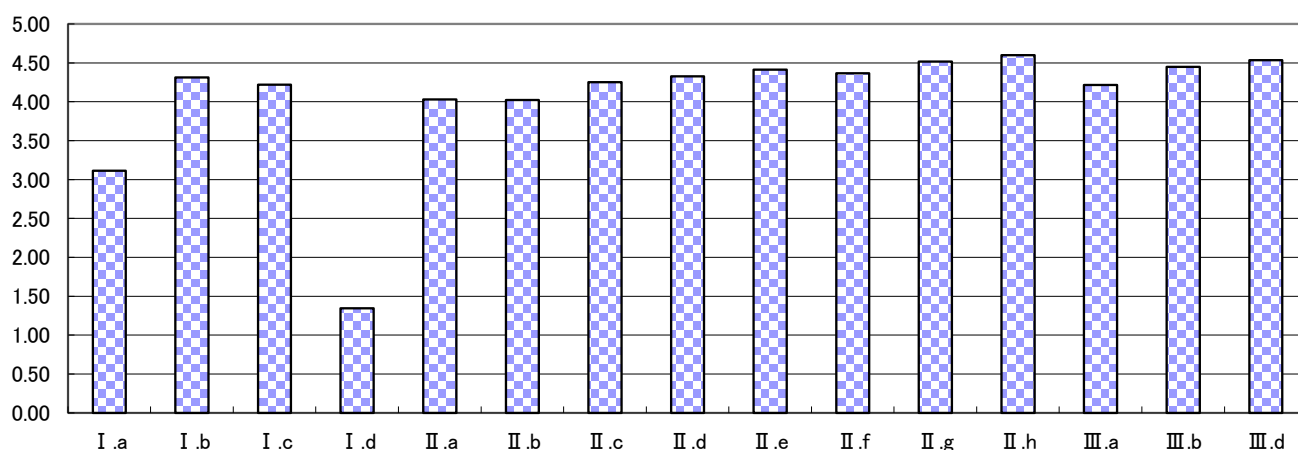
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	08. 教職に関する専門科目
科目数	12

履修者数	328
回答者数	260

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	3.11	46	75	52	32	53	258	2
			17.8	29.1	20.2	12.4	20.5		
	b	4.31	136	81	30	11	1	259	1
			52.5	31.3	11.6	4.2	0.4		
	c	4.22	112	104	33	8	2	259	1
			43.2	40.2	12.7	3.1	0.8		
	d	1.34	3	4	11	43	197	258	2
			1.2	1.6	4.3	16.7	76.4		
II	a	4.03	102	71	78	5	2	258	2
			39.5	27.5	30.2	1.9	0.8		
	b	4.02	30	54	164	8	2	258	2
			11.6	20.9	63.6	3.1	0.8		
	c	4.25	134	72	39	12	2	259	1
			51.7	27.8	15.1	4.6	0.8		
	d	4.33	151	62	29	17	1	260	0
			58.1	23.8	11.2	6.5	0.4		
III	a	4.22	159	59	31	9	1	259	1
			61.4	22.8	12.0	3.5	0.4		
	b	4.37	151	60	42	7	0	260	0
			58.1	23.1	16.2	2.7	0.0		
	g	4.52	182	43	24	9	2	260	0
			70.0	16.5	9.2	3.5	0.8		
	h	4.60	181	53	21	3	0	258	2
			70.2	20.5	8.1	1.2	0.0		
	a	4.22	111	100	42	5	1	259	1
			42.9	38.6	16.2	1.9	0.4		
	b	4.45	154	72	28	5	0	259	1
			59.5	27.8	10.8	1.9	0.0		
	c	-	192	129	76	71	40	254	6
			75.6	50.8	29.9	28.0	15.7		
	d	4.53	148	58	16	4	1	227	33
			65.2	25.6	7.0	1.8	0.4		

08. 教職に関する専門科目 全体平均点

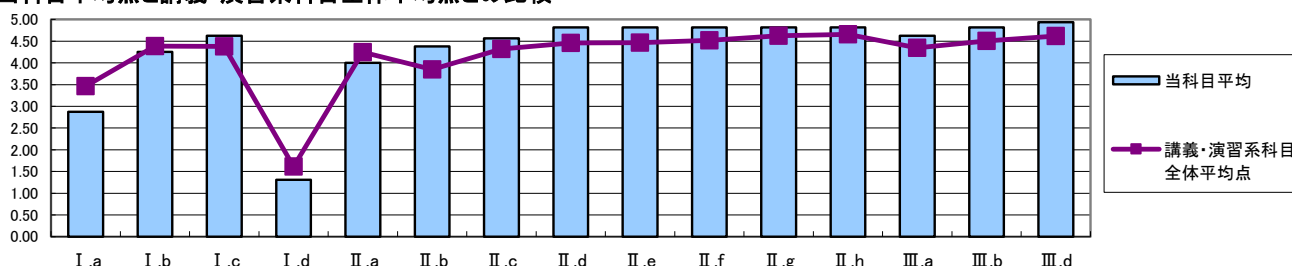


授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	音楽科教育法Ba	職名	03. 特任教授	履修者数	18
教員名	大熊 信彦			回答者数	16

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.88		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.63		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.31		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.38		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.56		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.81		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.81		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.81		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.81		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.81		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.63		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.81		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			62.50	62.50	18.75	43.75	56.25
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.94		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

当科目の目的は、中学校や高等学校などで、音楽科、芸術科（音楽）の授業を担当する教員に必要な資質・能力を身に付けることです。このため、平成29年告示中学校学習指導要領、及び、平成30年告示高等学校学習指導要領の理解、学習指導案の作成、学校現場での授業展開を見据えた授業づくりなどを内容とし、理論と実践の往還を大切にしながら、講義、グループ・ワーク、模擬授業、協議を組み合わせて実施しました。

水曜日の2時限に教職課程履修者18人の学生が受講しました。授業に臨む学生の姿勢はおおむね意欲的で、協力し合いながらグループ・ワークを行い、模擬授業に真摯に取り組み、協議にも積極的に参加していました。

授業改善のための学生アンケート集計結果において、「自分のためになったことは何ですか（複数回答可）」の問いに対する当科目の回答率と、講義・演習系科目全体の回答率と比較すると、「コミュニケーション能力向上」や「問題発見・解決能力」は、当科目の回答率が全体の回答率を大きく上回る一方で、「関連分野の学習意欲」や「新しい知識・技能」は当科目の回答率が全体の回答率を下回っていました。

この結果は、当科目の次のような特性が要因と考えます。すなわち、中学校や高等学校などの学校現場で実際に音楽の授業を行うことを想定し、学生同士が協力し合いながら授業の構想を練ったり、教師役と生徒役に分かれて模擬授業などを行ったりする実践的な学修であるということです。このため、多くの学生が「コミュニケーション能力向上」や「問題発見・解決能力」の高まりを実感できたと考えます。一方、実践的な活動が中心になるため、「関連分野の学習意欲」や「新しい知識・技能」の獲得につながっていく点では十分ではなかったと考えます。

● 問題点

「1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか」の問いに対して8割弱の学生が「1時間未満」の回答でした。また、「自分のためになったこと」の問いに対して、前述したように「関連分野の学習意欲」や「新しい知識・技能」が講義・演習系科目全体の回答率を下回っていました。

● 改善の方策

学生が授業の予習や復習を積極的に行い、学修を更に深めていくことができるように、今後、課題の設定などを一層工夫したいと考えます。また、科目の学修を通して、学習指導要領や学校現場での授業づくりに関わる実践力を獲得することに留まらず、学生の幅広い学習意欲をかき立てるような授業を目指して改善を図っていきたいと考えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

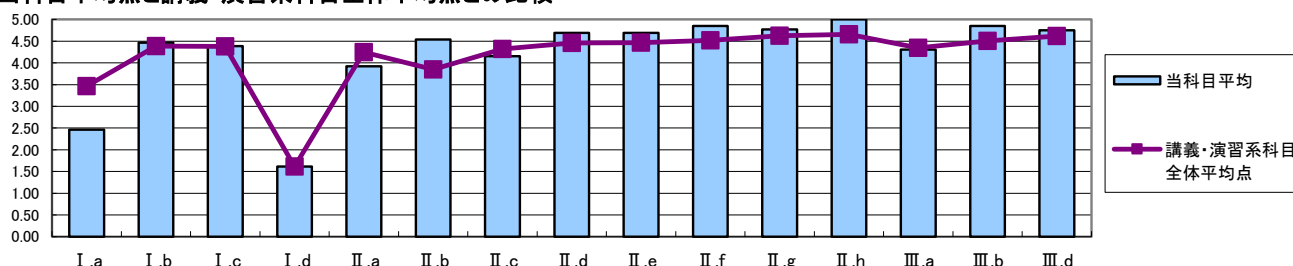
科目名	教職実践演習
教員名	大熊 信彦

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	26
回答者数	13

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.46		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.46		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.38		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.62		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.92		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.54		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.15		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.69		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.69		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.85		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.77		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.31		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.85		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			76.92	69.23	61.54	46.15	15.38
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

当科目の目的は、教職課程の学修全体を通して、教員に求められる資質・能力を身に付けたかどうかを確認することです。このため、多くの学生が教育実習を終えた4年次後期に行い、教職課程を総括する視点で学修を進めました。内容、形態は次の2つです。

- ・模擬授業演習：学校現場での授業を想定して、音楽又は道徳のいずれかを選択し、一人15分程度の模擬授業を行う。教師役（一人）と生徒役（他の学生）に分かれて取り組む。
- ・教育課題研究発表（教員研修会の企画・運営）：学校現場での教員研修会を想定して、グループ（2人）ごとに選択した教育課題についての研究発表及び全体協議を行う。

木曜日の3時限に教職課程を履修している26人の学生が受講しました。授業に臨む学生の姿勢はおおむね意欲的で、意識高く参加していました。

授業改善のための学生アンケート実施日（2回に分けて実施）にウィーン研修中の学生が多く、回答が得られたのは13人でした。集計結果を見ると「自分のためになったこと」（複数回答可）の問いに対し、「問題発見・解決能力」、「関連分野の学習意欲」、「新しいものの見方」を選択した学生の率が、講義・演習系科目全体の回答率をいずれも大きく上回っていました。また、「この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた」の問いに対し、回答者全員が「強くそう思う」と答えました。さらに、自由記述に「とても実践的で良い学びができました」、「一人一人の発表へのアドバイスが的確であった」とコメントした学生がいるなど、全体として一定の成果があったと考えます。

● 問題点

「開講時に示された達成目標を十分に達成できた」の問いに対し、「強くそう思う」と回答した学生は4割弱に留まり、「どちらとも言えない」と回答した学生もいました。また、「自分のためになったこと」（複数回答可）の問いに対し、「コミュニケーション能力向上」については、講義・演習系科目全体の回答率をやや下回っていました。当科目が4年次の最終段階に位置付けていることから、学生にとって学びの達成感を高めるための工夫が必要と考えます。

● 改善の方策

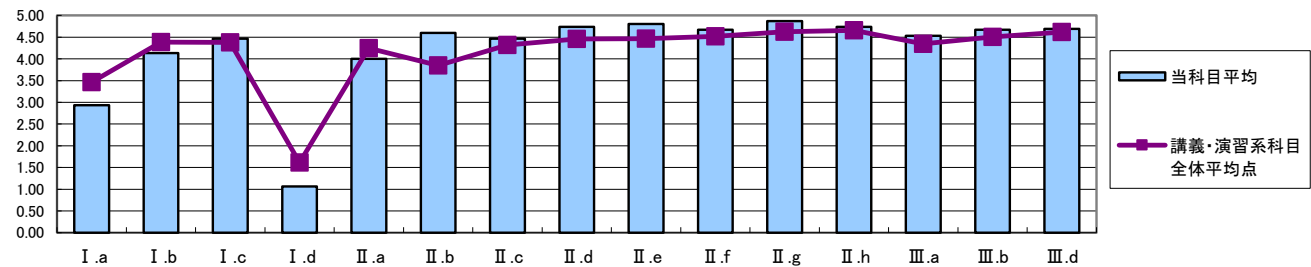
前述のとおり、教育実習の経験などを踏まえた「模擬授業」と「教育課題研究発表」の2つの内容で授業を行いました。今後はこれらの内容を柱にしつつ、学生の協働性を更に生かすとともに、教職課程の集大成に位置付く本科目の趣旨を真に実現できるように、各科目の学修履歴の振り返りを取り入れるなど、内容の改善を図っていきたいと考えます。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	教育行政b	職名	05. 特任准教授	履修者数	18
教員名	石橋 裕			回答者数	15

設問		設 問 文	平均点		全体平均点	
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.93		3.47	
	b	この授業の出席は良好であった。	4.13		4.39	
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.47		4.38	
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.07		1.61	
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00		4.24	
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.60		3.85	
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.47		4.32	
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.73		4.46	
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80		4.46	
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67		4.52	
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.87		4.62	
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.73		4.66	
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.53		4.34	
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67		4.51	
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率			
	5		4	3	2	1
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	80.00	53.33	13.33	13.33
		4.69		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

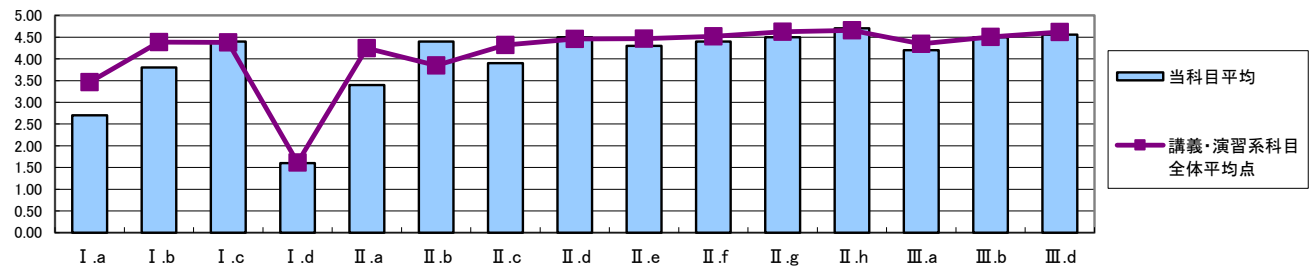
● 現状の説明 各授業とも、講義式と協同学習、グループ学習等の協働的な学修を織り交ぜ、パワーポイント等により視覚的な教材を多く取り入れた。また、毎時間、シラバスに沿って資料を用意し、学生が復習しやすいよう配慮した。さらに各学生の学習状況を把握するため、「授業振り返りカード」を用意して毎時間、記述式で自己評価や感想を書いてもらい、必ずコメントを添えて返した。授業の合間には、各学習内容と音楽科授業との関連に触れ、具体例を示した。アクティブ・ラーニングでは学生同士で活発な意見交換等が行われ、思考力や判断力、発表力を高め、知識の概念化が図られてきた。主体的・対話的で深い学びを行う中で、クリティカル・シンキングにより自分の考えを見直し、メタ認知能力を高めることができた。 授業内容は文部科学省、地方教育行政、学校教育行政、社会教育行政、家庭教育行政、安全教育等と広い分野に及ぶため、教育行政全般の概要を考察し理解することが主眼となる。この分野への興味・関心が薄い学生が多いため、教育行政の概要を考察して体系的に理解する意義は大きいと考えている。 留意したことは次の3点である。① 教育行政と学校運営との関係を具体的な事例に基づいて理解する。② 教育行政の変遷について概要をつかむ。③ 現在の教育行政の現状と課題を整理する。この3点は授業全般で意識して取り組んできたところである。教職課程の授業であることから、特に学校教育行政の変遷および新学習指導要領の方向性、家庭・地域との協働について、具体的に踏み込んだ授業展開を試みた。今後の教育行政は産官学民が協働で歩調を合わせて進めていくことが求められている。この点については、特に強調したところである。	
● 問題点 I a「履修するにあたって、シラバスを活用した。」という項目で「全くそう思わない」に4人が回答している。授業は大方においてシラバスの項目に沿って進めてきたが、シラバスの活用について学生に周知する点において課題を残した。また、I d「1回の授業のために平均どのくらい予習、復習をしましたか。」の項目では、14人が1、1時間未満と回答しており課題を残した。	
● 改善の方策 シラバスについて、第1回目の授業で印刷して配布し、15回の講義の見通しを持たせたい。さらに、毎時間の配付資料でシラバス内容を提示し、内容との関連を説明する。 また、学生の専攻レッスン、演奏会、各学修の状況から鑑みると、予習・復習時間を確保することは容易ではなく、工夫が必要である。そこで、毎時間、予習、復習のポイントを示すことにより焦点化し、予習、復習しやすい環境を整えていきたい。	

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	教育方法(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)b	職名	05. 特任准教授	履修者数	15
教員名	石橋 裕			回答者数	10

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.70		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.80		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.40		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.40		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.90		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.30		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.70		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.20		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
	5		4	3	2	1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	77.78	77.78	33.33	33.33	22.22
		4.56		4.62			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

実際の授業で行われている多様な指導方法や学習形態を体験的にシュミレーションする授業を中心とした。特に協働による学びを重視し、協調学習、ディベート、ブレinstローミング、ランキン手法、グループ討議等について体験的に学修した。各授業とも、講義式、アクティブ・ラーニングを織り交ぜ、パワーポイント等により視覚的な教材を多く取り入れた。また、毎時間、シラバスに沿って資料を用意し、学生が復習しやすいよう配慮した。さらに各学生の学習状況を把握するため、「授業振り返りカード」を用意して毎時間、記述式で自己評価や感想を書いてもらい、必ずコメントを添えて返した。音楽大学という特質から、音楽教育と結びつけて実践的な内容とした上で、主体的・対話的で深い学びを進め、これからの教育に必要とされるイノベーション能力、コラボレーション能力、コミュニケーション能力等のコンピテンシーを含めた資質・能力の育成について体験的に理解していった。後半は、情報通信技術の活用方法や課題について、個別学習、協働学習により知識・技能を深め、GIGAスクール構想の適応したICT活用指導力を高めることに主眼をおく授業を展開した。

3年生という特質から、各種演奏会出演、各種体験活動等から公欠が多く、継続的な学習という点で課題がある。この理由から、学生の学修に極端な差がつかないように復習に力点を置いたため、シラバスどおりに進まない現状があった。

留意したことは ① ねらいを明確にして見通しを示し、学習の内容、成果や課題について振り返りのある授業をめざすこと ② 協調学習(ジグソー学習)等主体的・対話的で深い学びの指導方法、学習方法を理解すること ③ 資質・能力の3つの柱を理念とした新学習指導要領の趣旨や概要を理解することである。この3点は授業全般で意識し、取り組んできたところである。また、家庭や地域社会との連携、協働、産官学民の協働の現状や求められる取組やICT教育の意義と今後の課題について掘り下げた。

● 問題点

I a「この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した」という設問に対して2 1 全くそう思わないに2人の学生が回答している。履修するにあたってシラバスを読み込んでいる学生はすくない現状がある。また、I d「1回の授業のために平均どのくらい予習、復習をしましたか。」の項目では、6人が1. 1時間未満と回答しており課題を残した。

● 改善の方策

シラバスについて、第1回目の授業で印刷して配布し、15回の講義の見通しを持たせたい。さらに、毎時間の配付資料でシラバス内容を提示し、内容との関連を説明する。また、学生の専攻レッスン、演奏会、各学修の状況から鑑みると、予習・復習の時間を確保することは容易ではなく、工夫が必要である。そこで、毎時間、予習、復習のポイントを示すことにより焦点化し、予習、復習しやすい環境を整えていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

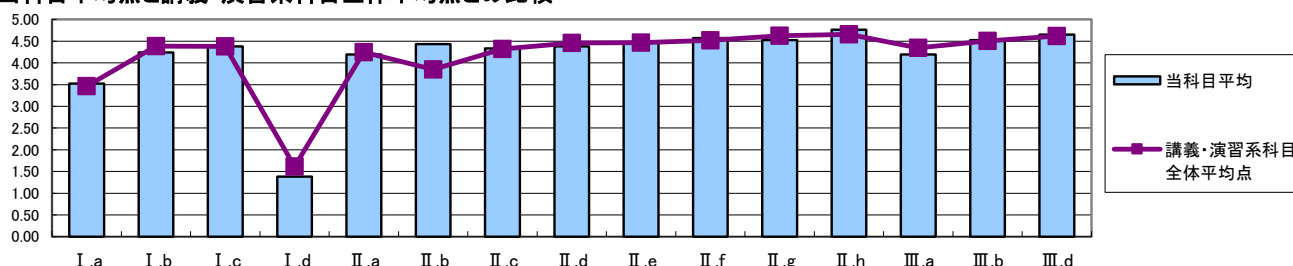
科目名	総合的な学習の時間の指導法
教員名	石橋 裕

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	27
回答者数	21

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.52		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.24		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.38		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.38		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.19		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.43		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.38		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.48		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.57		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.52		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.76		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.19		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.52		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			70.00	35.00	40.00	30.00	20.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.65		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

総合的な学習の時間は、新学習指導要領では各教科等の軸とされている。各教科学習で得られた知識、技能や思考力や表現力等を横断的に関連させ、知の総合科を図り、児童生徒に資質能力の3つの柱を身に付けさせ、生涯にわたって学び続ける力をつけていくことは、現代教育の命題といえる。その中心となる学習が総合的な学習の時間であるが、その意義、目的、探究学習の方法、年間指導計画の作成、音楽をはじめとする各教科等との関連、ポートフォリオ評価等の評価方法等について、演習方式で具体的な活動を通して学ぶ。また、学ぶ過程における協働学習やICTの活用について、疑似体験を通して学んでいく。

探究学習の方法については、課題設定、課題追究（情報の収集、整理）、まとめ発表の各段階の学習方法について考察する。また、年間指導計画の作成について、実際に計画を作成しながら各教科等との関連について考察する。さらに、地域学習をテーマとした場合の総合的な学習に時間について、「川越市」の歴史、観光をはじめとする産業、施設、地域的特色について考察し、ウェビングの手法を用いながら、課題設定の方法を検証する。

総合的な学習の時間と学校行事との関連は、表裏一体をなす。職業体験、宿泊的行事（修学旅行）に焦点をあてて、特別活動と総合的な学習の時間とのねらいを比較しながら、具体的な活動例をもとに特別活動と探究学習としての総合学習の違いについて理解する。

学生は小学校、中学校、高等学校と総合的な学習（探究）の時間を経験している。これらの経験知をいかして、授業を進めるよう心がけている。

● 問題点

学生アンケート結果ではI.d「1回授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」で16人はI時間未満と回答している。また、II.a「この授業はシラバスに沿って行われていた。」でどちらとも言えないと回答した学生が5人いる。この2点に課題がある。また、50分授業に対応するため学習内容の精選が必要である。

● 改善の方策

シラバスに記した「準備学習」について、毎時間最後に確認するようにしたい。特に復習に力を入れ、学修の内容をより深めていくようにする。特に、中学校学習指導要領解説「総合的な学習編」の内容について、その概要をつかめるようにする。単元計画の作成や探究学習の学習方法は、授業計画通りに進まない場合もあり、学習内容を精選した上、3～4時間をまとめてI単元と考えるような発想で、シラバスと授業の実態を合わせていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

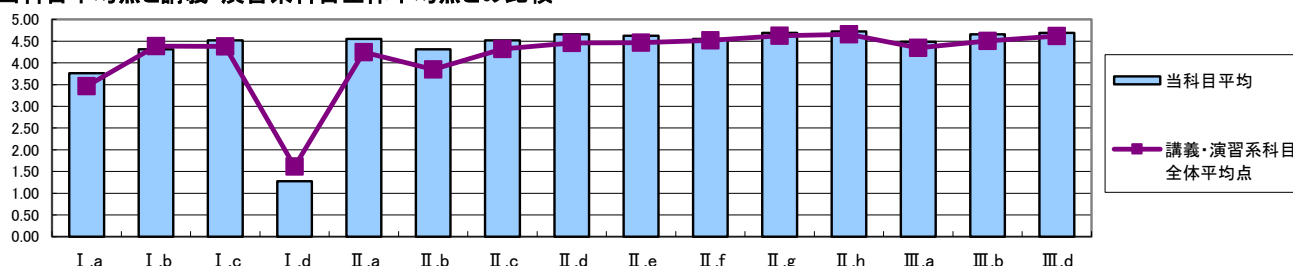
科目名	教育学概説b
教員名	石橋 裕

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	34
回答者数	29

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.76		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.31		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.52		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.28		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.55		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.31		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.52		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.66		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.62		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.55		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.69		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.72		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.48		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.66		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			79.31	48.28	17.24	27.59	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.69		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、西洋と日本の教育思想史から教育思想の歴史的な流れと概要を捉えるとともに、公教育の概念や変遷、学校教育、家庭教育、社会教育の特徴や関連等について法規、日本や世界における教育の現状をふまえて学修する。さらに学習指導要領の変遷から、現代日本の学校教育の変遷とこれからの教育に求められる学校教育の在り方を考察する。このように教育にまつわる内容を多面的・多角的に考察して、その概要をつかむことをねらいとしている。また、本科目は1学年の学生を対象としているため、教育に関する専門科目として基礎から積み重ねて行く段階であり、いわば教育を学ぶ上での土台作りとも言える科目だと考えている。そこで、協働的な学修を多く取り入れ、身近な実体験を生かしながら学修を深化させていくため、アクティブ・ラーニングを中心に据えた。コアカリキュラムに沿って内容は多岐にわたり、学修内容の継続性を図ることに課題があるため、できる限り現代教育との関連を図りながら、興味関心が高まるよう工夫してきた。学生は、真摯に学修に取り組み、新たな発見や知識の質を高め、学修にいきいきと意欲的に取り組む姿が多く見られた。特に教育の歴史、家庭教育、社会教育、学校教育の内容や関連性を考察し、諸外国の教育との比較をするなどすることにより、教育の概念の幅を広げ、深めていくことの意義を大きいと考えている。

● 問題点

学生アンケート結果ではI.d「1回授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」で25人はI時間未満と回答している。また、II.a「この授業はシラバスに沿って行われていた。」でどちらとも言えないと回答した学生が3人いる。この2点に課題がある。

● 改善の方策

シラバスに記した「準備学習」について、毎時間最後に確認するようにしたい。特に復習に力を入れ、学修の内容をより深めていくようにする。本授業は大枠としてシラバスに沿った授業を展開しているが、3人の学生がどちらとも言えないと回答している。おそらく土曜日授業と言うことで演奏活動と重なった公欠が非常に多く、十分に授業を受けられていない結果ではないかと推察されるため、該当する学生への個別支援をできる限り実施していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

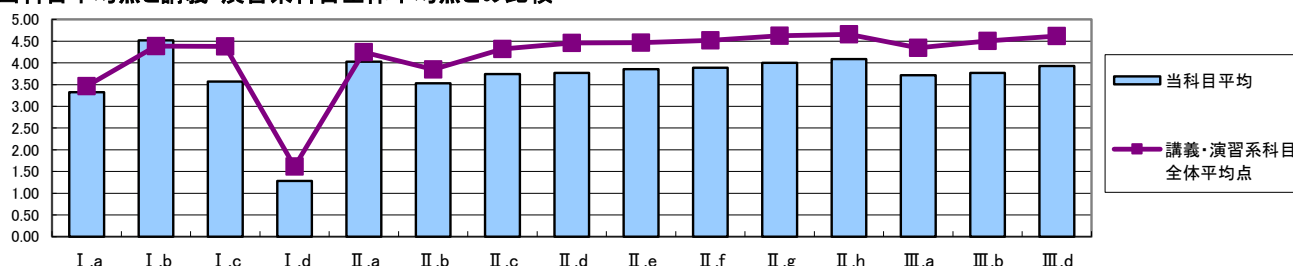
科目名	教育心理学
教員名	宇根 優子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	41
回答者数	35

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.32		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.51		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.57		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.29		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.03		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.53		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.74		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.77		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.86		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.89		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.09		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.71		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.77		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			72.73	24.24	24.24	12.12	6.06
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.93		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

教育心理学では、教育場面における専門的・汎用的能力の獲得や教師としての社会的責任、リーダーシップを獲得することを目的とした。内容は心理学の知見に基づき、発達や学習の基礎、教授法・評価法やクラス内での人間関係、生徒の抱える問題などについて取り扱った。後期の金曜四限に行われ、受講者数は41名、授業形態は講義形式でプリント資料を配布し、Power Pointスライドで提示した。また、授業内容に即して、実験や検査のデモンストレーションを実施し、その結果をリアルタイムで提示した。質問は常時Google Formで受けつけた。

なお、授業については楽しかった、または実験についてのエピソードを面白いと述べた学生がいた一方で、難易度、資料の活用および説明などにおいて、授業理解についての改善の余地があると考えられる。プリント資料とスライドは混乱を避けるためにあえてほぼ同一のものを使用した。また、重要度の指摘などでプリントとスライドの差別化を行った方がよいとの意見が見られた。質問は上述の通りGoogle Formを用いて受け付けたが、質問についてはなかなか得られなかった。また、新しい技能・知識については得られたものの、コミュニケーション能力、新しいものの見方、関連分野への学習意欲などにはつながりにくいようであった。

● 問題点

難易度等から考えると、教員からの情報提供が過多で、それに対する学生の反応をきちんと観察できなかったのではないかと考えられる。授業の区切りにおいて質問の有無について尋ね、Google Formへの入力促したが、必ずしも活用されていなかった。

● 改善の方策

授業におけるインタラクションをもっと重視していきたい。質問受付についてはアプローチしやすい形をとる、またデモンストレーションを増やして学生同士での話し合いができるようにしていきたい。さらに、指摘のあったスライドとプリント資料の差別化については、プリント資料ならではの利点（追加情報など）を加えていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

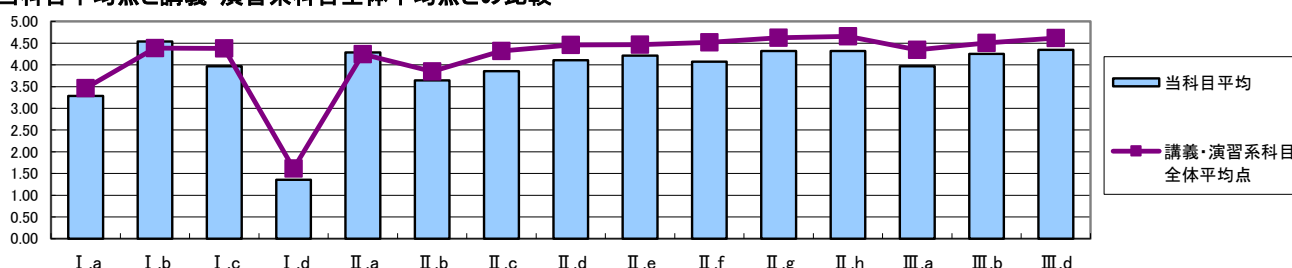
科目名	教育相談・進路指導
教員名	宇根 優子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	40
回答者数	28

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.29		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.54		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.96		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.36		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.29		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.64		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.86		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.11		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.21		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.07		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.32		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.32		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.96		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.25		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			66.67	40.74	22.22	11.11	11.11
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.35		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業では教育相談を担当した。教育相談とは「幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動」であるが、児童思春期の心理的葛藤、いじめ・不登校の問題、発達障害、ならびにコミュニケーション不安等の児童・生徒が抱えやすい問題と教育相談における技法をとりあげ、基礎的な知識を身に着けることを目的とした。受講者は41名、開講曜日は金曜5限である。授業形態は講義形式といくつかのデモンストレーションを取り混ぜた。内容は教育相談の定義、児童生徒および自己理解、コミュニケーションの心理学（傾聴）、教育相談の技法、発達障害と保護者対応などである。講義形式においてはパワーポイントで内容を提示し、それらを配布資料とした。また、相談場面などの映像も適宜視聴させた。デモンストレーションではエゴグラムの実施、「相手を知る」というテーマでの傾聴、自分についての捉えなおしや保護者と教師との面談のデモンストレーション等を行った。授業中の質問は随時google formで匿名で投稿できるようにしたが、使用されたことはほとんどなかった。授業後はレスポンスシートに感想を求めた。また資料には文字が多いとの指摘も見られた。

● 問題点

情報提供がやや一方方向ではないかと考えられる。レスポンスシートによるフィードバックにおいてもあまり多くの質問は見られず、また質問フォームはほとんど使用されることがなかった。

● 改善の方策

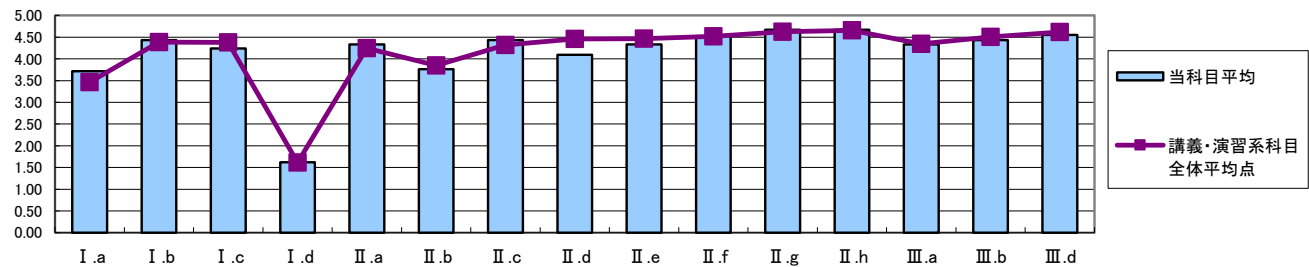
よりインタラクティブな授業にするために、積極的に学生に問いかけをしていきたい。また、質問フォーム、レスポンスシートの利用を促進できるような方法を考えていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	音楽科教材研究B	職名	08. 講師	履修者数	25
教員名	山崎 正彦			回答者数	21

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.71		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.43		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.24		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.62		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.76		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.43		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.10		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.52		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.43		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
	5		4	3	2	1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	76.19	42.86	28.57	38.10	4.76
		4.55	4.62				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

- 現状の説明
次年度に予定されている教育実習に向けての音楽科授業力の獲得を目的としている。内容は音楽科の授業構成のための教材研究、その成果を個人による模擬授業で試行し、学生同士で協議を行う。授業形態は講義及び演習。受講者数は25名。開講曜日・時限は水曜日の第2時限。
学生の授業内容への取り組みは概ね良好、授業態度にも問題は感じられなかった。教材研究の段階では教員の講義、及び、学生個人による授業研究が主であり、模擬授業実践に進むと、毎時、学生が2名がそれぞれ25分ずつの授業実践を行い、その後の授業協議を経て教員が総合評価を行うというルーティンが確立している授業である。
全体の平均点に比して本科目の平均が概して低い点に着目し検討すべきであるが、その理由が思い当たらない。例えば、授業の進め方、授業内外での対応での平均に満ちていない現状に対して、自分としては、これまでの経験上最善の方法・内容で進めてきているつもりであり、それがこの平均点にとどまっている現状について、何が有効な方策なのか現時点では不明。とはいえ、2023年度も全力で各90分真剣勝負の思いは変わらない。
- 問題点
自由記述に綴られている内容を読む限り、当方の指導意図と本科目に関して見込んだ学力観に大きなズレは感じられない。というよりも、学生の回答によっては、そのように実感して頂ければ指導者としても光栄であり、やるべきことが果たせたという思いである。
- 改善の方策
学生の評価は、ある意味で「そうだったのか!」という思いで真摯に受け止めたい。いっぽうで、改善の方策から外れて恐縮であるが、アンケートの質問項目に関して、指導者側からすると、より知りたいと考えるものがあり、例えば、学修内容についてである。大学はその分野に関して理論的裏付けがあり、なおかつ最新の内容を学生に教授する責務を担っていると考えている。加えて、それが教育現場にどのように寄与するのかに及んで学生に伝えている。その学修内容に関してどうであったのか。私は学生の思いを聞きたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	生徒指導の方法及び教育課程の意義と編成a
教員名	五十嵐 由和

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	18
回答者数	15

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.20		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.40		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.47		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.13		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.87		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.27		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.53		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.53		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.73		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.73		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.47		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			73.33	60.00	13.33	66.67	33.33
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.55		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



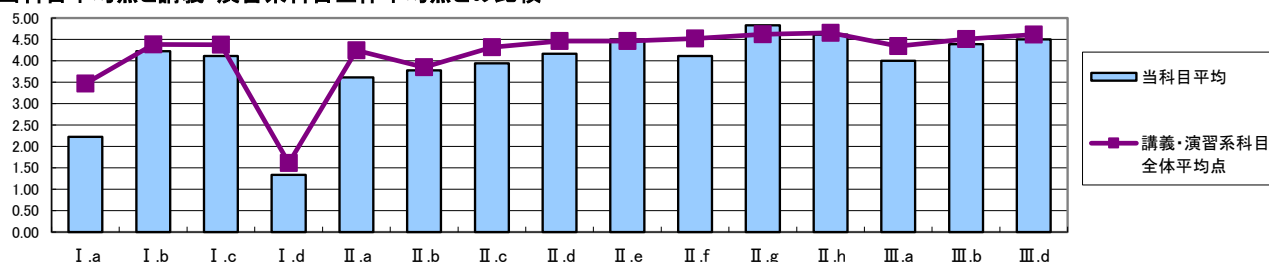
科目名	生徒指導の方法及び教育課程の意義と編成b
教員名	五十嵐 由和

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	24
回答者数	18

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.22		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.22		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.11		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.61		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.78		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.94		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.17		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.11		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.83		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.61		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.39		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			72.22	61.11	16.67	55.56	33.33
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

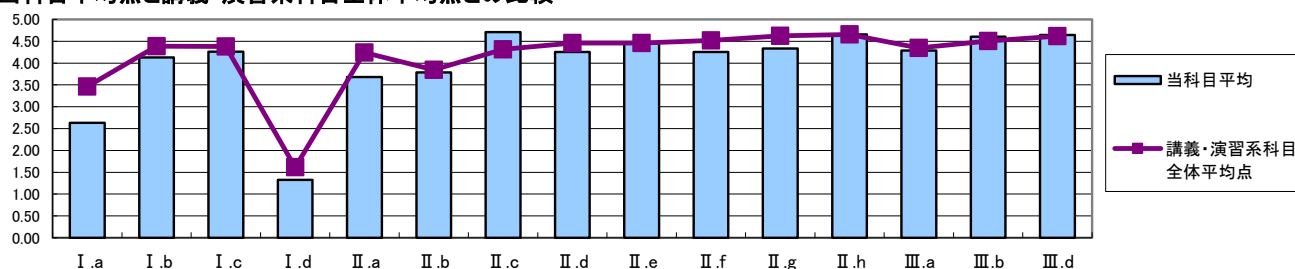
科目名	特別支援を必要とする生徒の理解
教員名	二俣 泉

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	42
回答者数	39

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.63		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.13		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.26		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.32		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.68		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.79		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.71		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.26		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.45		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.26		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.33		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.66		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.29		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.61		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			89.47	68.42	57.89	10.53	10.53
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.65		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



音楽療法に関する科目

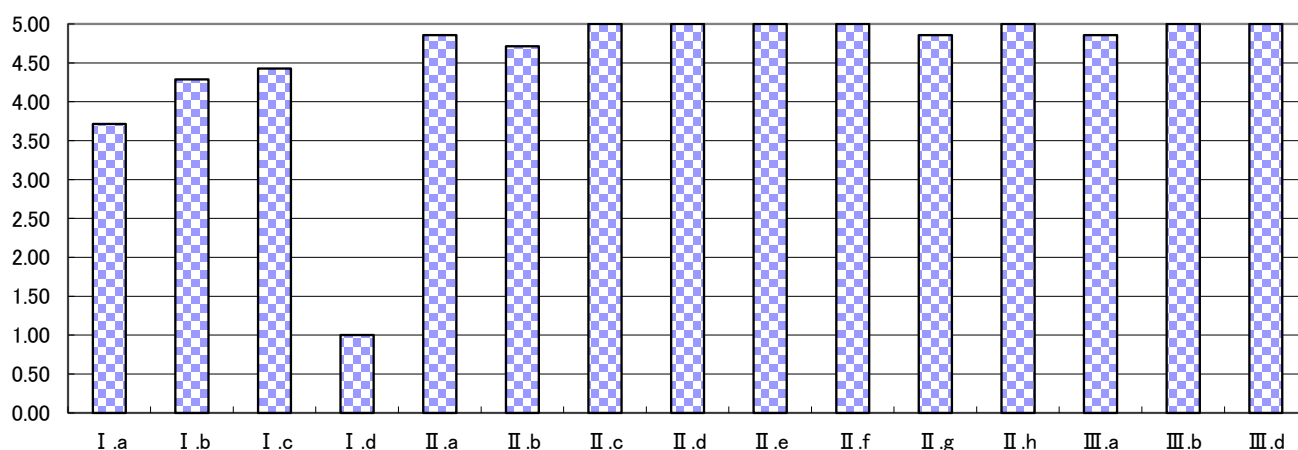
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	09. 音楽療法に関する科目
科目数	4

履修者数	7
回答者数	7

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.71	3 42.9	1 14.3	1 14.3	2 28.6	0 0.0	7	0
	b この授業の出席は良好であった。	4.29	4 57.1	1 14.3	2 28.6	0 0.0	0 0.0	7	0
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43	4 57.1	2 28.6	1 14.3	0 0.0	0 0.0	7	0
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 100.0	7	0
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.86	6 85.7	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7	0
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.71	0 0.0	1 14.3	6 85.7	0 0.0	0 0.0	7	0
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7	0
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7	0
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7	0
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7	0
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.86	6 85.7	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7	0
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7	0
III	a 開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.86	6 85.7	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7	0
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7	0
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	7 100.0	3 42.9	4 57.1	0 0.0	0 0.0	7	0
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7	0

09. 音楽療法に関する科目 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

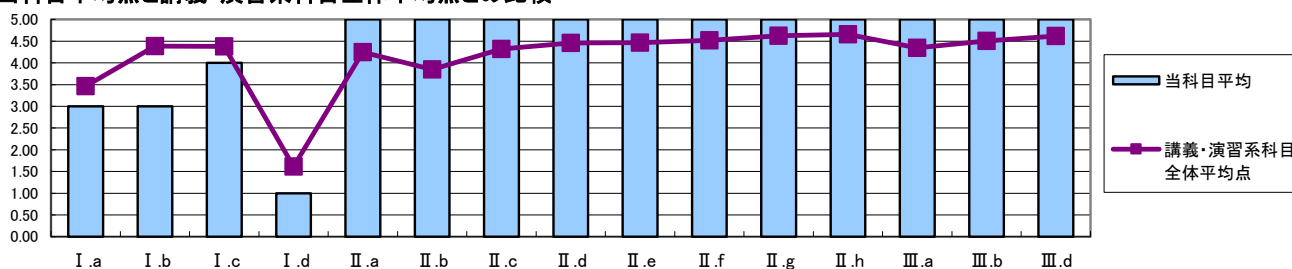
科目名	人間と医療ⅡB
教員名	馬場 存

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

木曜日1時限に開講された当科目の目的は、音楽療法を行う者にとって必要な医学や医療の知識を習得し、さらには疾病や障害を抱えて生きている方々への共感を育て、音楽療法を行う人間として温かみと共感性を持った人間を育てる一助とすることである。受講生は3年生1名である。内容は実質的には通年で学ぶ内容であることを踏まえると、概論に始まり、医学の歴史、健康と病気についての概説、神経生理学入門（ニューロンから脳まで、ミクロからマクロに至る解説）、神経内科学入門（代表的な神経疾患の症状や治療法などの理解）、緩和ケア等と、総論から各論まで幅広い。これは、実際に音楽療法士として病院で働くこととなった場合でも、他の医療職種者と遜色のない知識の獲得を目指しているため（実際にはそのためにはやや時間数が少なく困難な面もあるが）、内容的にも比較的高度である。さらには、医療人としての心構えや態度、人としてどう生きるかについても折に触れ言及したつもりである。アンケート結果は、Ⅱ・Ⅲのすべての項目で満点であった。

● 問題点

満点でない項目はⅠ.a～dで、本人側の問題ではあるが、授業への積極性、出席、予習復習などが不十分と自覚していたようである。

● 改善の方策

適宜のレポート提出は口頭試問などは行ったものの、講義形式のため比較的一方的な知識伝達になったきらいはあるので、もう一段主体的に学ぶ仕組みを組み入れたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

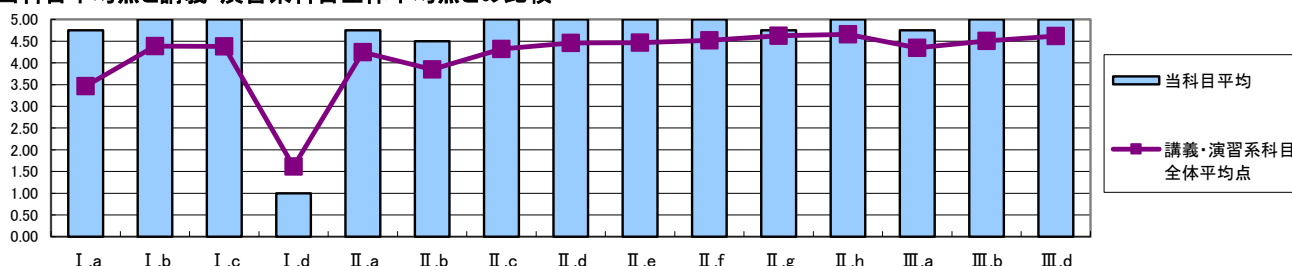
科目名	人間と医療 I B
教員名	木下 容子

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	4
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.75		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.75		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	75.00	100.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

<当科目の目的>

音楽療法実践に役立つ基礎・身体医学（主に神経学）の基礎知識を得て、対象者理解を深めることである。

<内容>

基礎医学・身体医学の中で、音楽療法の対象者理解に必要な神経学（入門程度）を理解する力を身につける。また、それらの疾患のある方々へ自分が音楽療法士として接する時に、自分ならどのように配慮・工夫するか等を言語化できるようにする。

<授業形態>

講義形式であったが、上述の疾患のある方々に対して、またその方々への音楽療法実践に対する自分の意見を述べる場面を適宜設けた。

<受講者数> 4名

<開講曜日・時限>火曜日 3限

<受講者の状況説明>

4名とも授業に熱心に取り組んでいて、意見や感想を問われるとしっかりと述べる事が出来ていた。

<アンケート結果より>

① I-aより、全員がシラバスを活用したことが明らかとなった。これは、教員が授業ごとにシラバスを読み上げながら、授業内容や目標の確認をしたことが影響していると考えられる。また、I-b・cより、学生全員がとても積極的にこの授業に取り組んだことが分かった。I-dで、予習復習時間の低さが目立った。

②担当教員は比較的難易度の高い身体医学の内容を、カラー資料や図表で伝える工夫をしたが、II-b、d、e、hの結果より、受講生の理解に効果的であったと感じた。具体的には、脳の器質的疾患や聴覚のしくみなどを、全てカラー資料を用いて説明した。また、図表をPPTでも映し出し、該当部位を指し示しながら説明した。加えて、検査方法などは学生たちに実践してもらったが、受講生は興味をもって取り組んでいるようであった。

③III-a・b・dより、4名全員が到達目標を十分に達成でき、興味深く学修し、意義のある授業だと感じていることが明らかとなった。また、III-cで「新しい知識・技能」「関連分野の学修意欲」は4名全員が、「新しいものの見方」は3名が獲得したと回答した。今まで学修する機会のなかった基礎・身体医学に触れることで、音楽療法実習で出会う対象者の状態を新たな視点から理解・評価できることを発見したためだと考えられる。

● 問題点

アンケート結果より、2022年度の学生については、教員と学生間に大きな意識のずれは生じなかったと感じている。授業終了時に、学生一人一人にその日の講義の感想や質問を述べてもらい、密にコミュニケーションしたことが影響しているように思う。ただ、予習復習の時間の低さが目立った。授業の小テストを暗記で実施したが、学修意欲や理解度が高い学生たちだったため、準備にさほど時間がかからなかったと考えられる。

● 改善の方策

学修意欲が高く、学修の理解度も高い学生が多い場合は、予習復習を充実させる必要があると考えられる。例えば、授業の内容や小テストの難易度をもう少し上げたり、予習復習を自分でじっくり調べる内容にするなどの工夫が必要だろう。履修する学生の実態に合わせて、難易度や内容を柔軟に設定していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

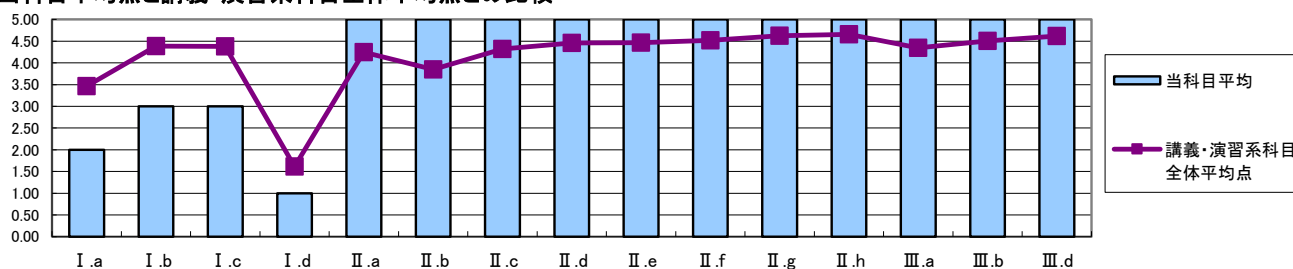
科目名	臨床心理学ⅠB
教員名	岩澤 直子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本科目は、心理学的アセスメントの諸技法についての演習を通して、それぞれの有効性や課題について理解することを目的としている。授業の形式としては、心理検査の実施と所見作成に関して演習をまじえながら行い、それらに関する議論や補足的講義も行う。履修の際の留意点として、演習や課題をこなすだけでなく、主体的に考え、それを言語化し、積極的に議論することが求められる科目である。授業は基本的にはシラバスに沿って実施されるが、演習の進度や受講生の反応によって適宜変更する可能性がある。

アンケートの集計結果を見てみると、多くの項目において5点と評価されている。また、受講生自身が「自分のためになったこと」として、「新しい知識・技能」へ回答している。これらの結果から、受講生が授業内容に満足感を得ていることが推察される。

本科目は音楽療法専攻のみの履修であり、必修科目とされている。授業の内容や進め方は受講生の音楽療法の知識や技術獲得、意欲にも貢献できていると考えられる。

● 問題点

集計結果全体からは、教員と受講生間に大きな意識のズレはないと考えられる。しかしながら、敢えて1点だけ挙げるとすると、予習復習についてである。本科目は専門的な内容が含まれるため、予習と復習は欠かせないと考えられるが、アンケートでは「1時間未満」と回答している。

● 改善の方策

先に述べたように、授業の予習復習において、教員と受講生の間に齟齬が見られる。この結果を踏まえて、次年度では、授業ごとに予習と復習の内容を明示し、レポート等の課題とすることで受講生に対して取り組みを促していきたいと考えている。予習復習を通して、授業の内容の理解を深めることができるため、受講生の学習意欲につながるのではないかと考えられる。また、受講生の反応を確認しながら、授業内容の難易度をあげることや内容量の増加も検討する必要があると考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

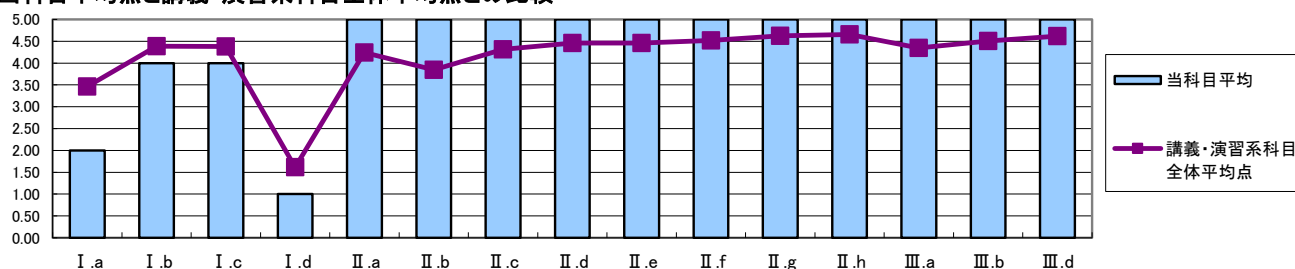
科目名	障害学B
教員名	高畑 敦子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



文化教養科目

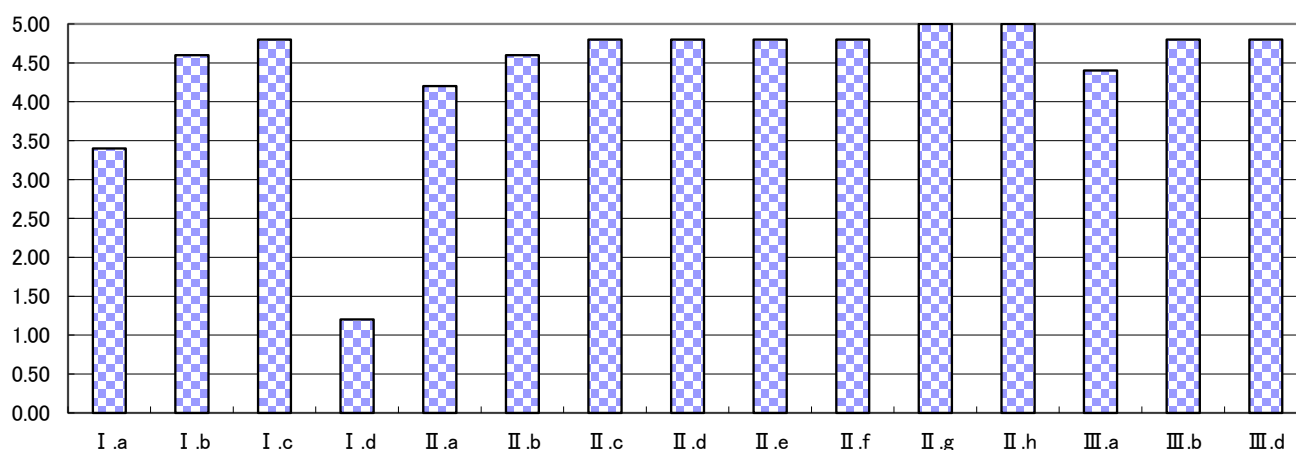
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	10. 文化教養科目
科目数	1

履修者数	5
回答者数	5

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.40	1 20.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	5	0
	b この授業の出席は良好であった。	4.60	3 60.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	4 80.0	5	0
II	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.20	2 40.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.60	0 0.0	1 20.0	4 80.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	g 授業回数や時間は守られていた。	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
III	a 開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.40	2 40.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	4 80.0	4 80.0	3 60.0	2 40.0	1 20.0	5	0
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0

10. 文化教養科目 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

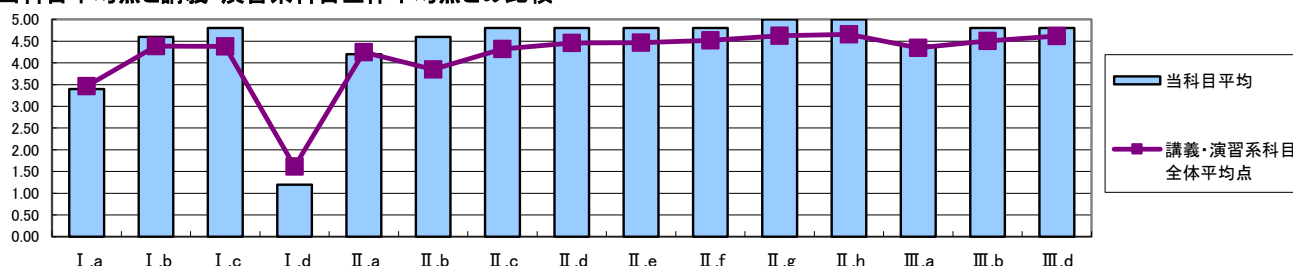
科目名	コンピュータミュージック演習ⅠB
教員名	湯浅 恭子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.40		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.20		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.60		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.40		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			80.00	80.00	60.00	40.00	20.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

<科目の目的>

音楽創造専攻以外の専攻生を対象として、コンピュータを利用しながら音楽制作をする。演奏する立場ではなく、音楽を創る立場になることで音楽に対する視点を増やし、自己表現の拡張に繋げる。音楽制作をコンピュータで行うことで、楽曲の組み立て・音色・テンポなどを客観的情報で観察するとともに、コンピュータでできること、できないことを理解し、音楽においての有効的な活用を考える。コンピュータを用いて「情報を整理する」「考え方を身につける」を学び、「自分のアイディアや伝えたいことを形にするための道具」として活用できるスキルを高める。

<内容>

Macintoshコンピュータの基本操作の習得。OSやアプリケーションソフトウェアなど、コンピュータの基本的な構造についての知識の習得。音楽制作ソフトウェアはDigital Performer、楽譜作成ソフトウェアはSibeliusを使用。ソフトウェアの基本操作を習得し、楽曲のモチーフ作成やその発展の手法を学び、コンピュータで音源や楽譜を作成する。

<状況説明と分析>

金曜日5時限、履修者数5名（このうち社会人学生が2名）。ピアノ専攻生2名、管弦打楽器専攻生3名であった。コンピュータ演習室にてMac PCを使用。授業形態は演習形式と講義形式で行った。自身のコンピュータで作曲を行ったことのある学生が1人、その他4名は「曲を作りたい」「音楽ソフトウェアを使えるようになりたい」という目的から履修をしたとのことであった。コンピュータ操作のスキルには差があり、作曲・編曲と全般的には全員同じ内容で進めた。作った楽曲の数や内容は学生によって差が生じた。また、前年度までは音楽制作ソフトウェアを重点においていたが、今年度はこの操作がとても難しいという学生が複数いて制作作業が難航。後半では、音楽制作ソフトウェア使用を予定していたものを、楽譜作成ソフトウェア使用も可などとして制作を進めた。設問の「シラバスに沿って行われていた」への回答は、この個人差に対応してシラバスの順序・内容を若干変更したこと、コンピュータの不具合が多々生じて、進行が滞ってしまうことがあったものによると考えられる。

● 問題点

「シラバスを活用したか」：前年度に授業の見学をして、おおよその内容をわかって履修したと思われる学生が複数名いた。

「予習・復習の時間」：自宅などで授業でのコンピュータ環境と同じものを作るのは難しいため、テキストを読んだり周辺知識に関する調べ学習などを掲示しているが、なかなか時間の確保にはつながらないようである。

● 改善の方策

「シラバスを活用したか」：初回授業ガイダンスの際、全体へシラバスの内容確認を行う。

「予習・復習の時間」：コンピュータ操作のスキル定着や、自身の活動への応用といった面からも、学生自身のコンピュータでも操作が行える環境を作る（フリーソフトウェアも視野に入れる）ことから進め、予習復習の時間を確保できるようにしたい。

外国人留学生に関する科目

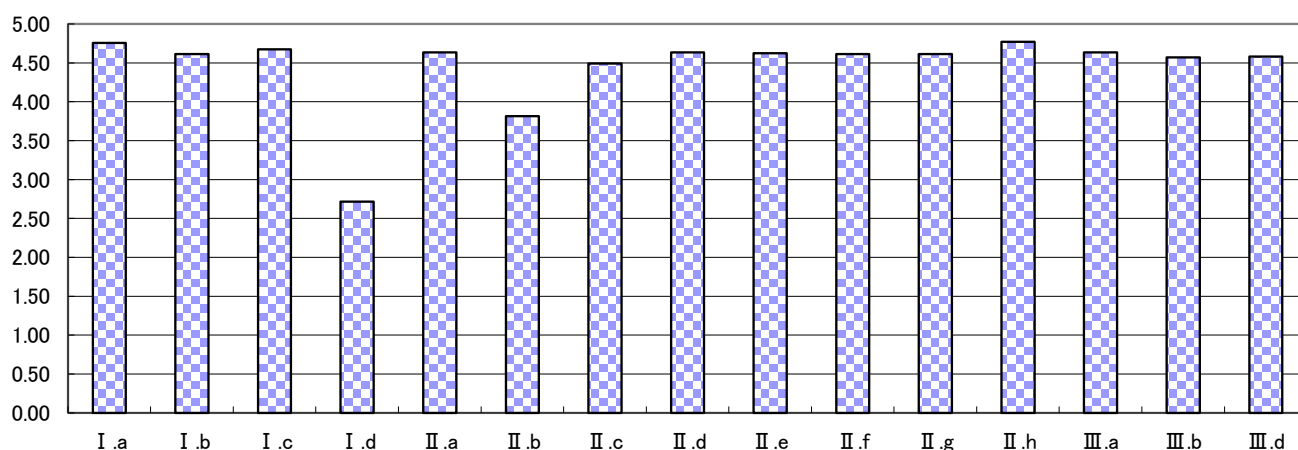
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	11. 外国人留学生に関する科目
科目数	9

履修者数	64
回答者数	49

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効 回答数	無効 回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.76	37	12	0	0	0	49	0
			75.5	24.5	0.0	0.0	0.0		
	b	4.61	33	14	1	1	0	49	0
			67.3	28.6	2.0	2.0	0.0		
	c	4.67	35	12	2	0	0	49	0
			71.4	24.5	4.1	0.0	0.0		
	d	2.71	8	7	12	7	15	49	0
			16.3	14.3	24.5	14.3	30.6		
II	a	4.63	34	12	3	0	0	49	0
			69.4	24.5	6.1	0.0	0.0		
	b	3.82	5	13	25	6	0	49	0
			10.2	26.5	51.0	12.2	0.0		
	c	4.49	31	11	7	0	0	49	0
			63.3	22.4	14.3	0.0	0.0		
	d	4.63	36	8	5	0	0	49	0
			73.5	16.3	10.2	0.0	0.0		
III	a	4.63	33	14	2	0	0	49	0
			67.3	28.6	4.1	0.0	0.0		
	b	4.57	32	13	4	0	0	49	0
			65.3	26.5	8.2	0.0	0.0		
	c	-	33	17	16	13	17	46	3
			71.7	37.0	34.8	28.3	37.0		
	d	4.58	22	5	4	0	0	31	18
			71.0	16.1	12.9	0.0	0.0		

11. 外国人留学生に関する科目 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	日本語5
教員名	一林 久美子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問		設 問 文	平均点	全体平均点					
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.47					
	b	この授業の出席は良好であった。	3.50	4.39					
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.38					
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.61					
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.24					
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.85					
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.32					
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.46					
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.46					
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.52					
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.50	4.62					
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.66					
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.34					
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.51					
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率						
			5	4	3	2	1		
			0.00	0.00	100.00	0.00	0.00		
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.62						

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



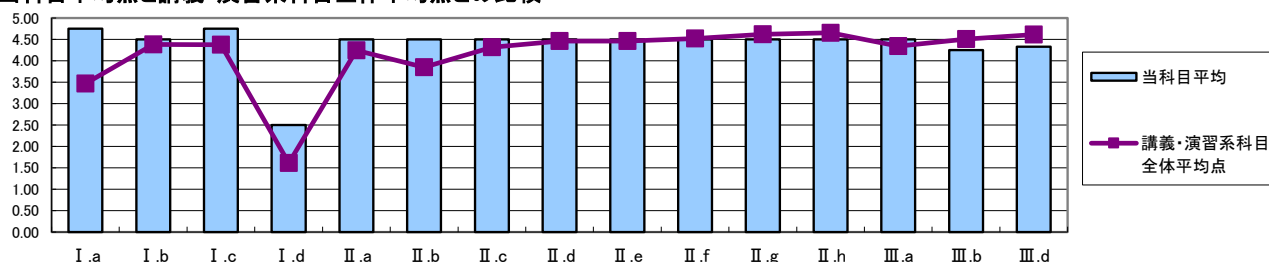
科目名	日本語6a
教員名	一林 久美子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点	全体平均点					
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.75	3.47					
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.39					
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.38					
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.61					
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.24					
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.85					
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.32					
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.46					
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.46					
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.52					
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.62					
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.66					
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.34					
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.25	4.51					
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率						
			5	4	3	2	1		
			75.00	50.00	50.00	25.00	50.00		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.62					

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

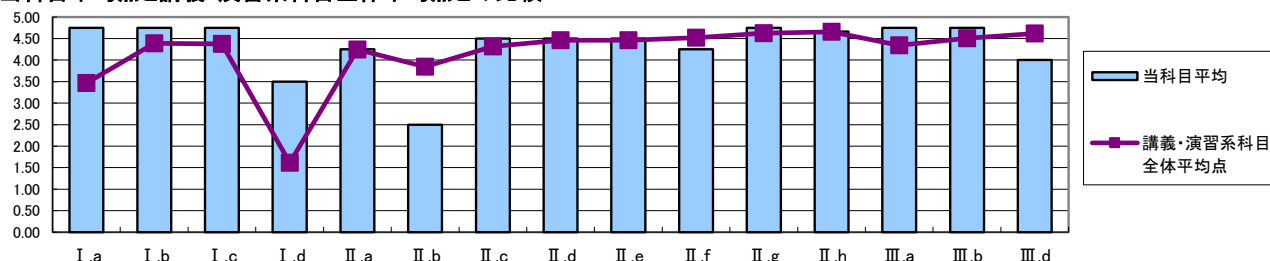
科目名	日本語6b
教員名	一林 久美子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点	全体平均点			
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.75	3.47			
	b	この授業の出席は良好であった。	4.75	4.39			
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.38			
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.50	1.61			
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.24			
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.50	3.85			
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.32			
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.46			
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.46			
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.25	4.52			
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.62			
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.66			
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75	4.34			
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.51			
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			50.00	25.00	50.00	50.00	25.00
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.62				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



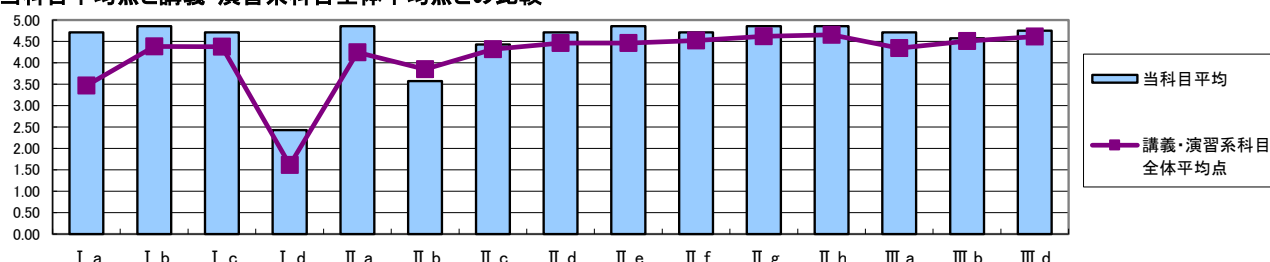
科目名	日本語4
教員名	一林 久美子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	12
回答者数	7

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.71		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.86		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.71		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.43		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.86		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.57		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.43		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.71		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.86		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.86		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.71		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.57		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			71.43	57.14	28.57	28.57	42.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

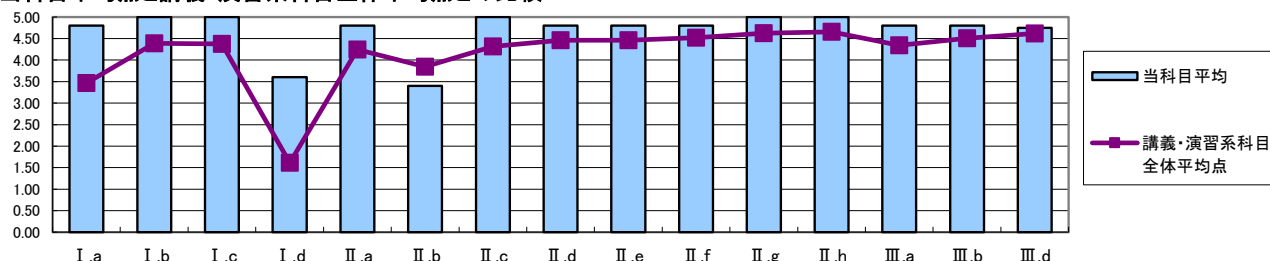
科目名	日本語2
教員名	一林 久美子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点	全体平均点				
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.80	3.47				
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.39				
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38				
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.60	1.61				
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.80	4.24				
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.40	3.85				
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.32				
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80	4.46				
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80	4.46				
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.52				
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62				
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.66				
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.80	4.34				
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4.51				
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率					
			5	4	3	2	1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	80.00	20.00	20.00	20.00	20.00	
			4.75	4.62				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



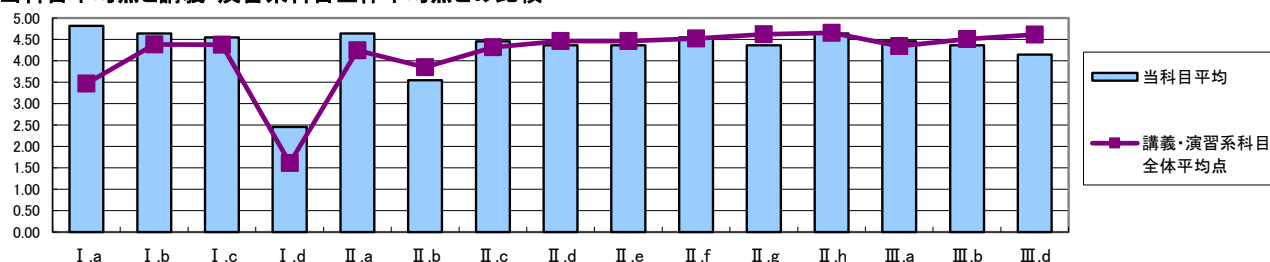
科目名	日本事情ⅢB
教員名	高岸 美代子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	11
回答者数	11

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.82		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.64		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.55		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.45		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.64		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.55		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.45		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.36		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.36		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.55		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.36		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.64		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.45		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.36		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			70.00	30.00	40.00	50.00	50.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.14		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

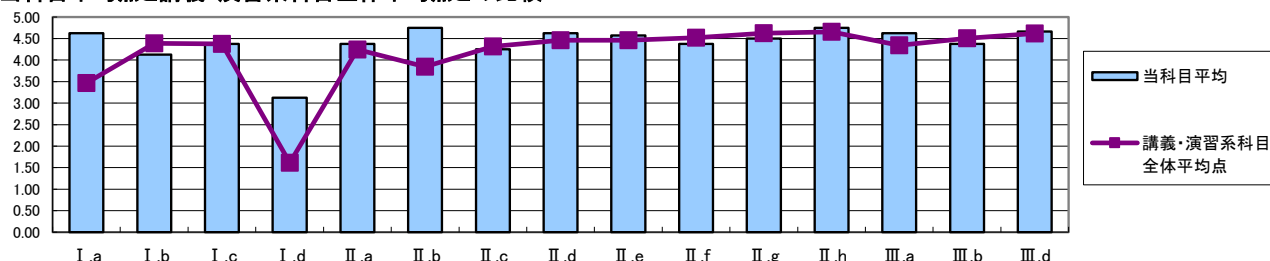
科目名	日本事情ⅣB
教員名	高岸 美代子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	8
回答者数	8

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.63		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.13		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.38		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.13		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.38		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.75		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.63		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.57		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.38		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.63		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.38		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			85.71	28.57	28.57	14.29	42.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



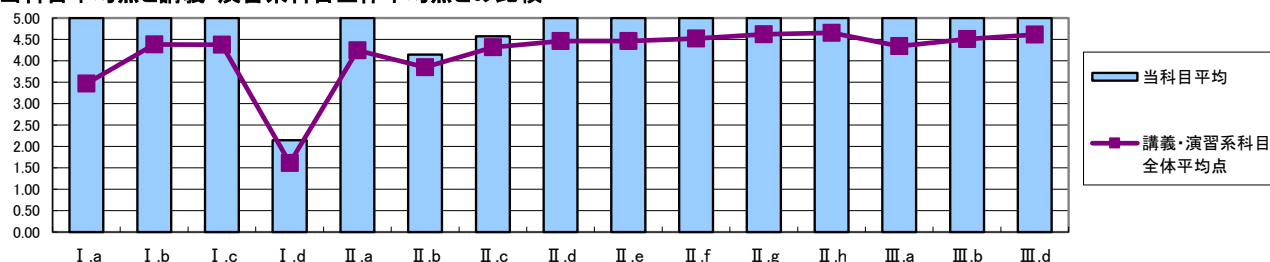
科目名	日本事情ⅠB
教員名	高岸 美代子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	9
回答者数	7

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.14		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.14		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.57		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			71.43	42.86	28.57	14.29	28.57
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

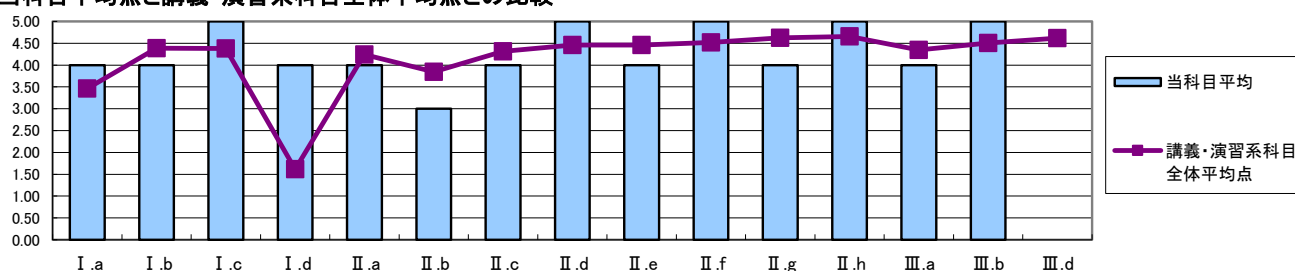
科目名	日本事情ⅡB
教員名	高岸 美代子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	7
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	100.00	0.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	－		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



東邦音楽短期大学

ピアノ

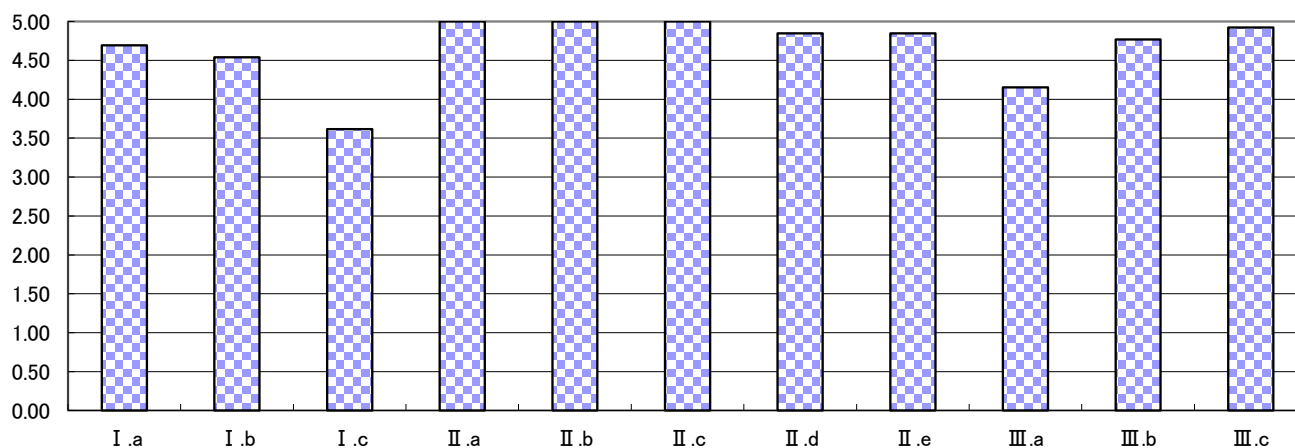
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	01. ピアノ
科目数	7

履修者数	13
回答者数	13

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効 回答数	無効 回答数
			5	4	3	2	1		
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.69	9 69.2	4 30.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	13	0
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.54	8 61.5	4 30.8	1 7.7	0 0.0	0 0.0	13	0
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.62	6 46.2	1 7.7	1 7.7	5 38.5	0 0.0	13	0
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	13 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	13	0
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	13 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	13	0
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	13 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	13	0
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.85	12 92.3	0 0.0	1 7.7	0 0.0	0 0.0	13	0
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.85	12 92.3	0 0.0	1 7.7	0 0.0	0 0.0	13	0
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.15	4 30.8	7 53.8	2 15.4	0 0.0	0 0.0	13	0
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.77	10 76.9	3 23.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	13	0
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.92	12 92.3	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	13	0

01. ピアノ 全体平均点

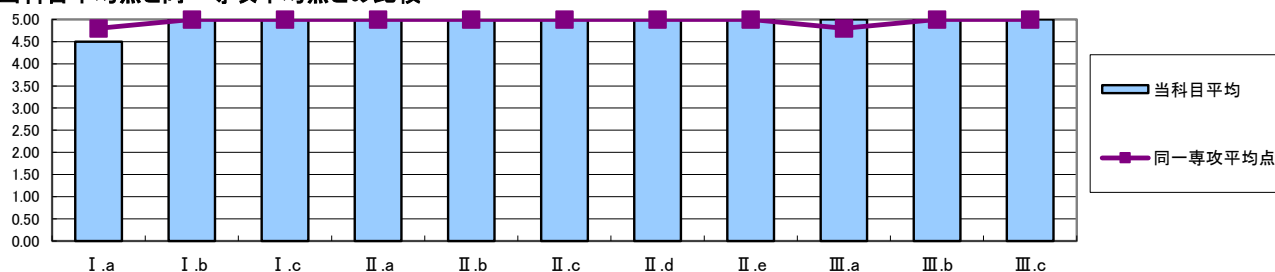


授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	器楽専攻ピアノコース	職名	02. 教授	履修者数	2
教員名	國谷 尊之			回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.80
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	5.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.80
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2022年度の器楽専攻ピアノコースは1年次生1名、2年次生1名を担当した。
1年次生は子どもの頃からレッスンしている学生で、ピアノレッスン自体に問題はなかったが、健康状態に気を配りながら進める必要があった。結果的に十分な単位数と学習成果を獲得することができた。2年次生は附属高校から短大に進学した学生で、コンクール、演奏会に意欲的に取り組み、大学3年次編入試験に合格することができた。アンケート結果にも、2人の成長が示されている。

● 問題点

ピアノのレッスンを通じて、短期大学全体の学びが充実する効果をもたらすことができれば理想的である。多様な学生に対して、このことを留意しておきたい。

● 改善の方策

今年度のアンケート結果を継続できるよう、前項に述べたことを引き続き心がけていく。学生の健康状態にも留意し、出席が良好に保たれるようサポートしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

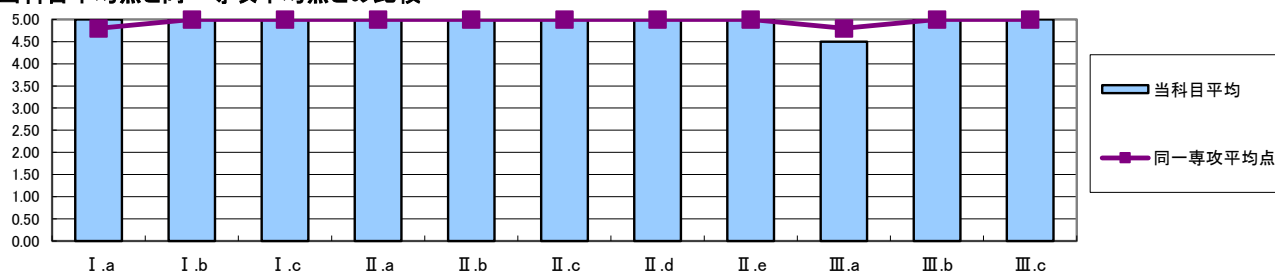
科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	大場 文恵

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.80
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	5.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.80
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

履修者2名(1年生1名、2年生1名)より回答がありました。2名とも社会人の学生です。子供の頃にかかなりのレベルまで学びましたが、一般大学に進み一度はピアノから離れましたが、再び短大で学んでいます。2名とも熱心で努力家で理解力に優れ、探究心に燃えています。それぞれ家庭を持ち忙しい日常を過ごしているにも係わらず、演奏がどんどんレベルアップしています。

学生からは「レベルに合わせ実現可能なやり方を具体的に示して下さいととても分かりやすく、私の技術と音楽が良くなった」「いつも厳しく温かいレッスンをしてくださって、とても具体的に教えて下さるので理解しやすい」とのコメントがありました。

● 問題点

設問Ⅲaの「到達目標を十分に達成できた」という設問で、1名が「ある程度そう思う」と回答していますが、自分自身でまだ満足していない、まだ充分とは言えないという考えからの回答だと思います。

● 改善の方策

2名とも申し分のない学生です。今後益々、細心の注意を払って学生達の成長を手助けできるよう、向上心を更に引き出すようレッスンに取り組みたいです。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

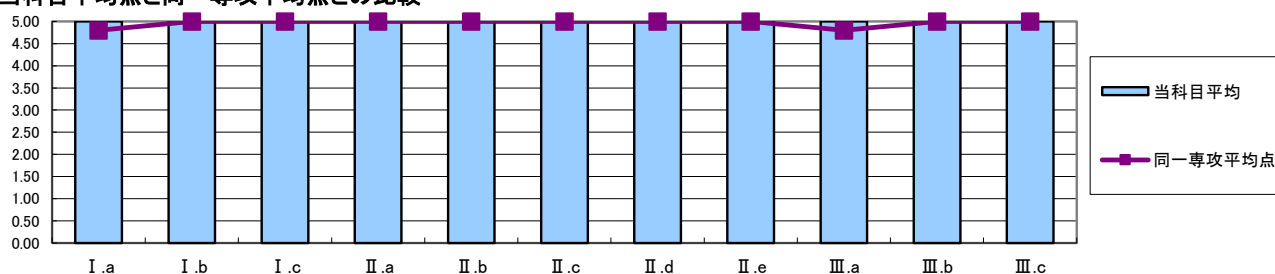
科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	中島 剛

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.80
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	5.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.80
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2022年度短期大学ピアノ科2名担当しました。毎回のレッスンに臨む姿勢がとても意欲的に予習、復習も丁寧でとても有意義なレッスンが出来ました。

● 問題点

暗譜に苦手意識があり、克服方法が難しく感じました。テクニックや基礎的な練習方法も取り入れ、表現する音色を導き出すのが大変でした。

● 改善の方策

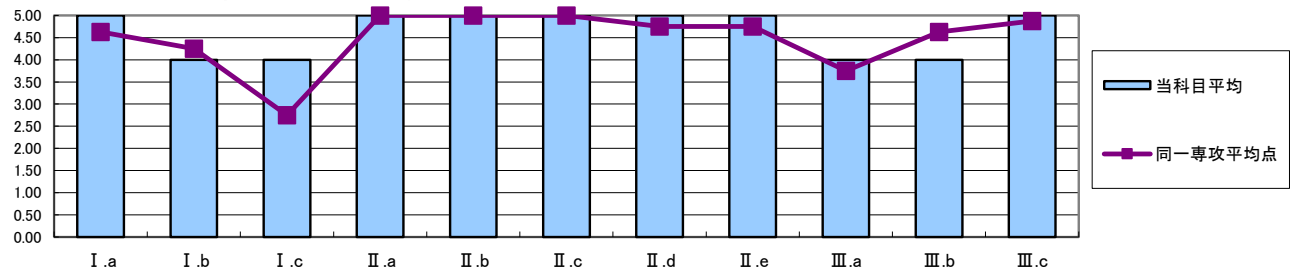
根気強く基礎的な事を指導し、本人も少しずつ成長を感じられるよう工夫してみました。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

科目名	副科ピアノ	職名	03. 特任教授	履修者数	1
教員名	太田 幸子			回答者数	1

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.63
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.25
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	2.75
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.75
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.75
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	3.75
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.63
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.88

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明
令和4年度 1名担当
社会人であり、海外出張等もある中で、よく出席し、頑張っています。
最近是指もしっかりコントロール出来るようになり、少しは曲らしいものにもチャレンジ出来るようになりました。

● 問題点

● 改善の方策

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

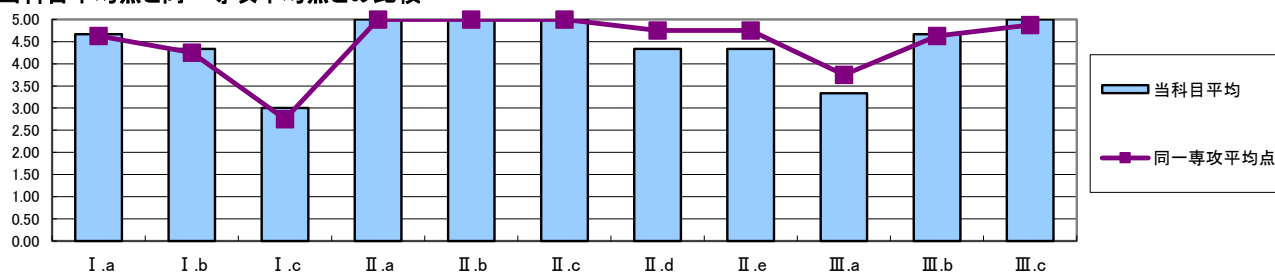
科目名	副科ピアノ
教員名	大場 文恵

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.63
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.25
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	2.75
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.33	4.75
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.33	4.75
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.33	3.75
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.67	4.63
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.88

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

履修者3名(すべて1年生)より回答がありました。専攻実技は声楽、サクソフォン、シンガーソングライター・アーティストです。サクソフォンの学生は社会人です。声楽の学生は入学前から通っているプライベートレッスンを継続しているらしく、安定した演奏をしています。これからは表現の幅を広げたいと思います。サクソフォンの学生は子供の頃にピアノを習っていたそうなのですが、初めは指が思うように動きませんでした。しかし熱心さと勘の良さで徐々に改善されてきました。これからいろいろな曲に挑戦して欲しいと思います。シンガーソングライター・アーティストの学生は手が硬く、癖のある弾き方をしていたため弾くのがやっとという状態でした。まずは適切な運指を身につけることに注力し、少しずつ弾けるようになってきました。学生からは「レッスンで注意されたことを振り返りながら練習することができた」「今までやったことのない曲調や雰囲気曲に挑戦することができた」「とても分かりやすい指導で、次回までにどのような点を改善すれば良いのか、とてもよく理解できた」とのコメントがありました。

● 問題点

設問II.dで「質問や相談への対応が適切であった」に「どちらとも言えない」という回答が1名ありました。また「到達目標が十分に達成できた」の設問では、「ある程度そう思う」が1名、「どちらとも言えない」が2名でした。「レッスンを総合的に判断すると」は全員が「強くそう思う」でした。

● 改善の方策

レッスンの受け取り方は、その学生のレベル・意欲・性格・経験によってさまざまです。それを見極め、課題のレベルも時に応じて柔軟に考え、学生が満足のいくレッスンをしたいと思っています。副科ですので、専門実技とのバランスも考えつつ音楽の視野を広げたいと考えています。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

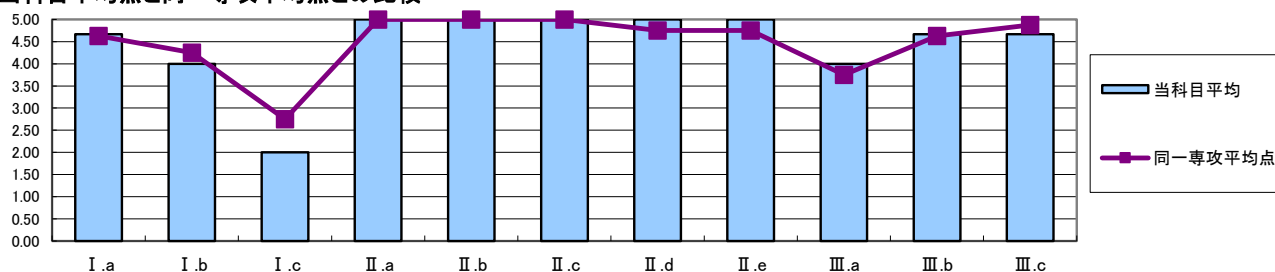
科目名	副科ピアノ
教員名	野田 説子

職名	07. 特任講師
----	----------

履修者数	3
回答者数	3

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.63
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.25
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.75
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.75
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.75
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	3.75
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.67	4.63
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.88

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度の短大の受け持ちの内訳は、副科1年1名、2年2名
短大の副科生は、大変真面目で真剣に取り組んだ

● 問題点

副科の学生達は、日常的に忙しいようで、練習時間の確保が出来ない。

● 改善の方策

学生とのコミュニケーションを取りながら、何が問題になっているのかを一緒に考え、具体的に示していくことを心がける。

また、自信や意欲が失わないように努める

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

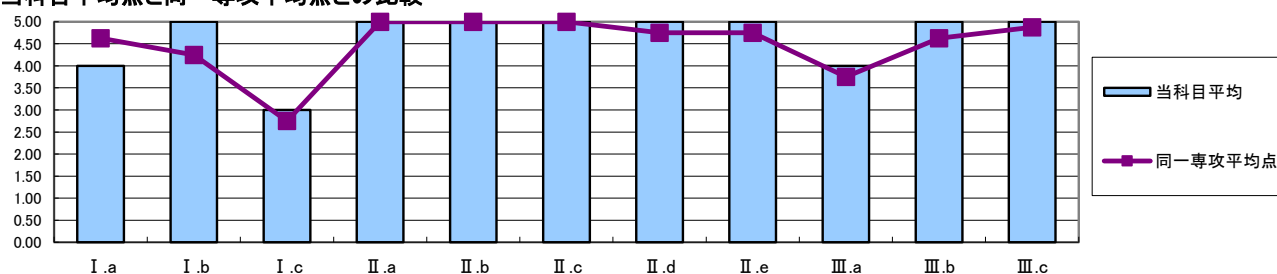
科目名	副科ピアノ
教員名	浦川 玲子

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.63
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.25
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	2.75
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.75
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.75
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	3.75
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.63
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.88

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



声 楽

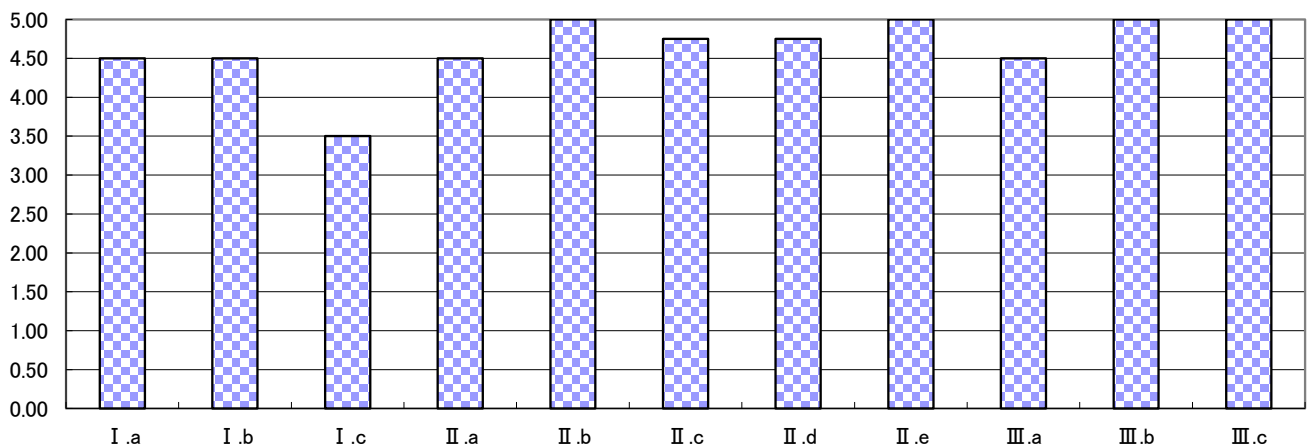
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	02. 声楽
科目数	2

履修者数	5
回答者数	4

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	4.50	2	2	0	0	0	4	0
			50.0	50.0	0.0	0.0	0.0		
	b	4.50	2	2	0	0	0	4	0
			50.0	50.0	0.0	0.0	0.0		
	c	3.50	2	0	1	0	1	4	0
			50.0	0.0	25.0	0.0	25.0		
II	a	4.50	3	0	1	0	0	4	0
			75.0	0.0	25.0	0.0	0.0		
	b	5.00	4	0	0	0	0	4	0
			100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	4.75	3	1	0	0	0	4	0
			75.0	25.0	0.0	0.0	0.0		
	d	4.75	3	1	0	0	0	4	0
			75.0	25.0	0.0	0.0	0.0		
	e	5.00	4	0	0	0	0	4	0
			100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
III	a	4.50	2	2	0	0	0	4	0
			50.0	50.0	0.0	0.0	0.0		
	b	5.00	4	0	0	0	0	4	0
			100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	5.00	4	0	0	0	0	4	0
			100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

02. 声楽 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

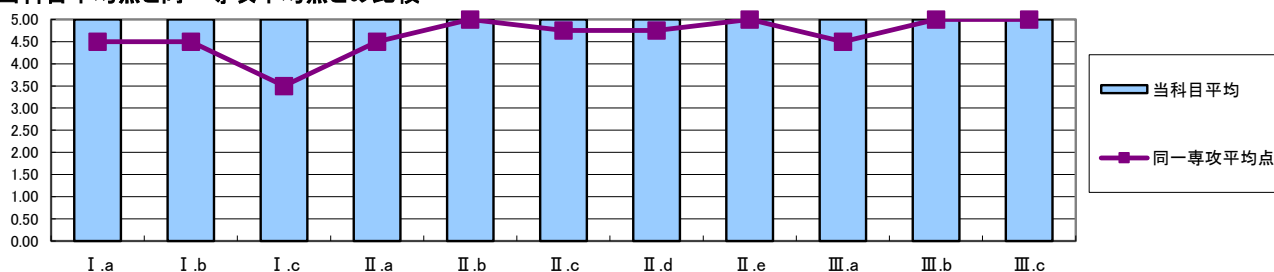
科目名	声楽
教員名	山崎 明美

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.50
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.50
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	3.50
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.50
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.75
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.75
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.50
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

短大において専攻声楽の学生1人を担当している。アンケートはその1名からのものである。声楽実技は個人レッスンの形式で行われ、必要に応じて、伴奏者が同伴されるという形式で進められる。専攻声楽におけるレッスン目的は、1. 声楽技術の習得…呼吸法、レガート唱法の習得、滑らかな声区転換などの技術の追求、読譜能力を高めるなど。2. 更にそれらを向上させること。3. 言葉への十分な取り組みを行うこと。…語学としての基礎知識を習得することは勿論、正確で美しい発音、内容を正しく把握する、想像力を持って表現するなどである。4. 曲の背景を理解すること…作曲家について、その時代背景、音楽背景、ほかの作品との比較、またテキストとなっている詩への深い理解、詩人のことなどである。また、オペラ、歌曲、宗教曲などのそれぞれの分野の基礎となるレパートリーの学習を2年間に学んでいくことを柱としている。実技は個人個人の特性があり、その特性をいかに伸ばし、充実させていくかが要となる。前期、後期それぞれに実技試験があり、試験はそれぞれ課題が設けられている。レッスン時間は、学生との打ち合わせを年度初めに行い、それぞれ他の授業に差しさわりのない時間を確保する。1年生1名、を担当している。アンケートは、本人の受講についての設問3項目、教員の授業の進め方についての設問5項目、学生が実感する到達度についての設問4項目よりなる。回答は積極的肯定：5、消極的肯定：4、普通：3、消極的否定：2、積極的否定：1で回答されている。アンケート結果は、全ての項目については5点であった。

● 問題点

このアンケートから、教員と学生の信頼関係が結ばれていることが確認できたことは喜ばしい。回答者1名のアンケートであることを考慮に入れつつ1対1の良さを生かした丁寧な指導を継続していきたい。

● 改善の方策

実技の到達度は目標を納得いく形で実感することは難しい。該当学生が、達成度を感じながらもまだまだもっとできるはず、もっと頑張らなければという向上心を持ちつつ取り組んでいることを教員としても感じている。これからはしっかりサポートしつつ指導をしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

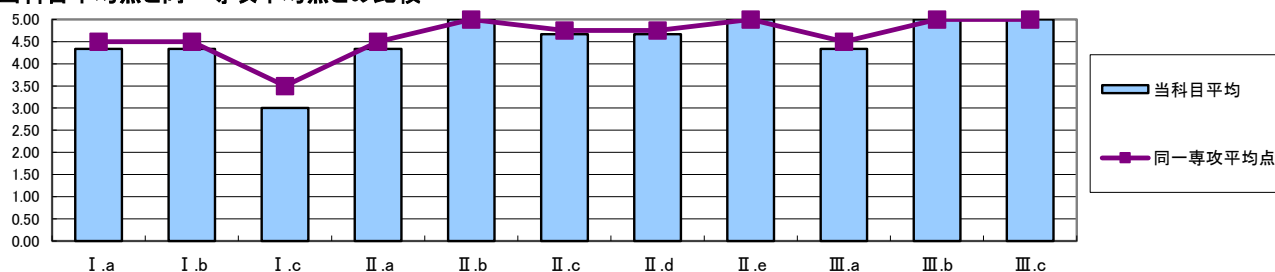
科目名	声楽
教員名	武藤 直美

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	4
回答者数	3

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.33	4.50
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.50
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	3.50
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.33	4.50
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.67	4.75
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.67	4.75
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33	4.50
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

主専攻声楽4名の受講者に対して、シラバスに提示された授業計画に沿ってレッスンが行われていたと思います。当初は身体の使い方が十分理解できていない受講生もありました。しかし、呼吸法や発声法を学ぶにつれ、身体の使い方が少しずつ分かってきたようで、それからは、質問も積極的になり、曲の意味を音楽として表現しようとする意欲が出てきたと思料いたします。

● 問題点

今回の結果から判断しますと、設問Ⅱaの回答にて学生のレベルに応じ、レッスンの進め方の見直しが必要であると思われます。また練習時間の確保や練習方法についての指導も必要であると思料いたします。

● 改善の方策

次年度も授業計画に沿ったレッスンを基本としますが、今まで以上に学生のレベルにあわせた指導を心がける所存であります。

管弦打樂器

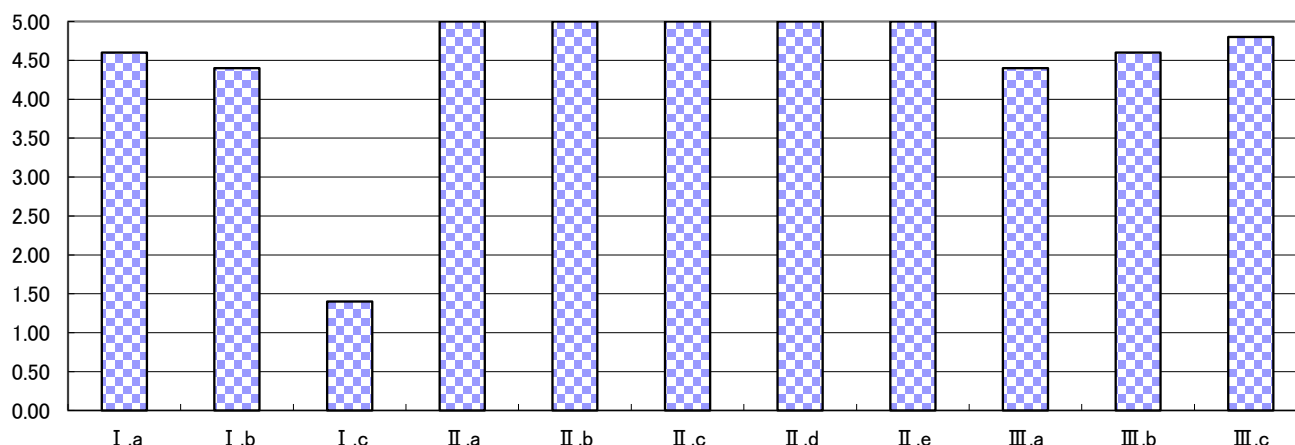
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	03. 管弦打楽器
科目数	3

履修者数	5
回答者数	5

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.60	3 60.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	2 40.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.40	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	4 80.0	5	0
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.40	2 40.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.60	3 60.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5	0

03. 管弦打楽器 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

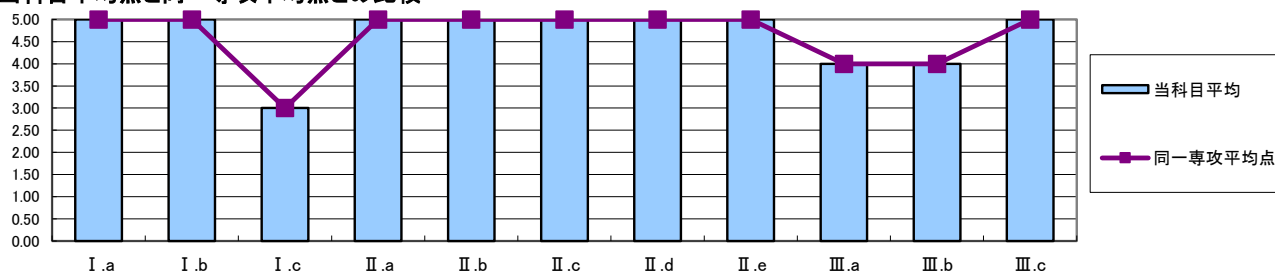
科目名	器楽専攻管弦打コース
教員名	宮野 陽子

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	3.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.00
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

短大のヴァイオリン専攻の学生は一人だけだった。高校3年になってから、趣味でやっていたヴァイオリンで進学しようと思った学生なので、基礎から取り組んでいった。大変理解力があり、真面目なので、着実に基礎力が身に付いてきているが、練習時間はかなり少ないので、目覚ましい成長振りにはなっていない。短大アンサンブル授業で、彼女の実力以上の難曲をいくつも請け負ってきて、かなり苦勞していた。正直、そのためのレッスンもかなりやっただので、ソロ(試験のための)のレッスン時間が十分に確保できなく、後期試験は準備不足に終わってしまった。

● 問題点

III.bの回答の点が低いのが気になる。曲の仕上がりは悪かったが、様々な技術は身に付いてきていることを実感できていないのかと思う。

● 改善の方策

練習時間を増やさなければならないことを、納得のいくように説明していきたいと思う。技術や知識の習得については、1つ1つ明確な言葉にして、伝えていこうと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

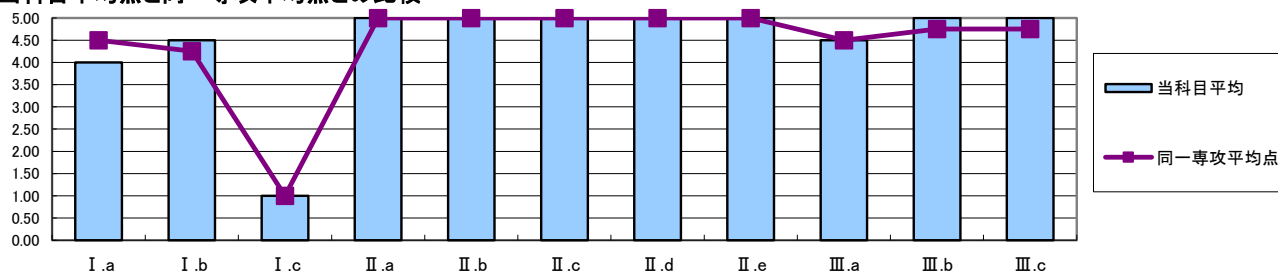
科目名	副科管弦打
教員名	宮野 陽子

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.50
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.25
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.00	1.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.50
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.75
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.75

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



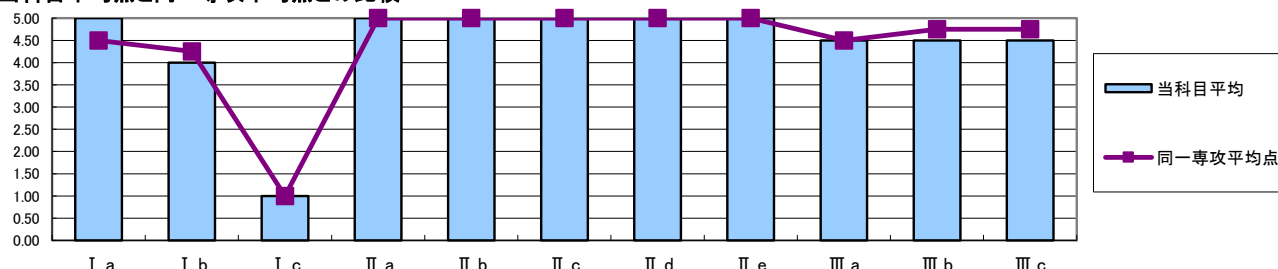
科目名	副科管弦打
教員名	村越 麻希子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.50
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.25
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.00	1.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.50
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.75
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.75

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



ピアノ指導者

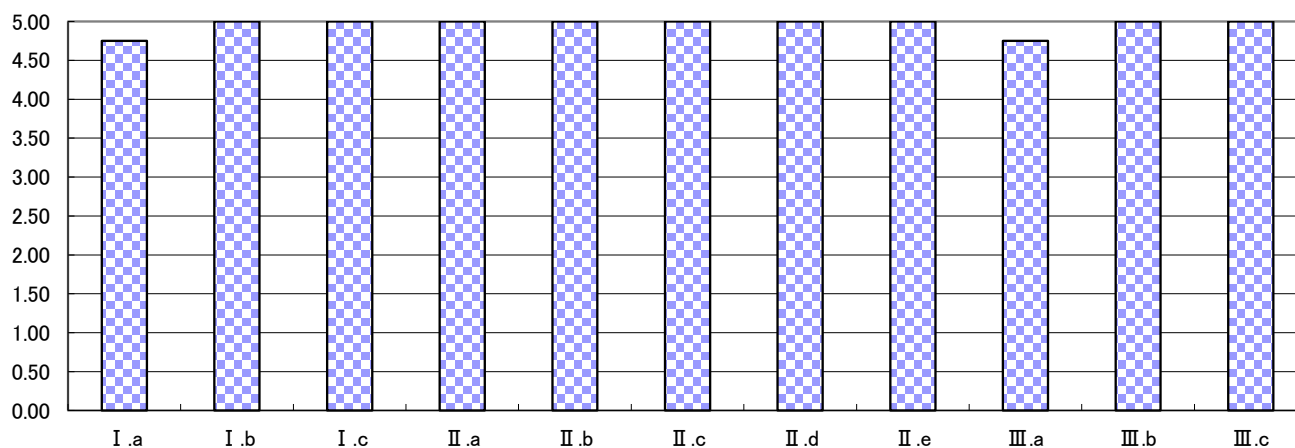
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	06. ピアノ指導者
科目数	3

履修者数	4
回答者数	4

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効 回答数	無効 回答数
			5	4	3	2	1		
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.75	3 75.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75	3 75.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0

06. ピアノ指導者 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

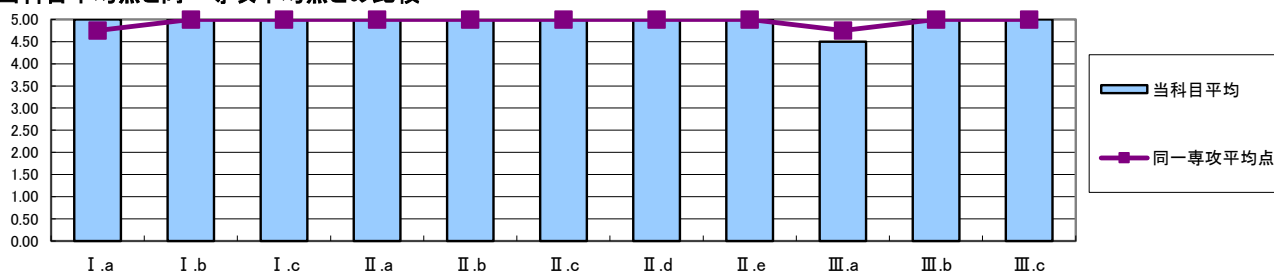
科目名	器楽専攻ピアノ指導者コース
教員名	國谷 尊之

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.75
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	5.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50	4.75
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2022年度の器楽専攻ピアノ指導者コースは、1年次生1名、2年次生1名のピアノ実技レッスンを担当した。1年次生は本学卒業生のレッスン生で、ピアノ講師を目指す目的を明確に持っている。2年次生はピアノ講師の指導実績のある社会人学生であり、非常に熱心に知識と技能の向上に取り組んでいる。2名とも、レッスンではピアノ演奏技術の向上とその研究を、さらにピアノ指導に生かしていくことも念頭に置き、練習方法、メソッドなどについて会話の時間を多くとって進めてきた。アンケート結果からは、それが学生のニーズに合致していたことが示されたと考えられる。

● 問題点

到達目標の達成について「ある程度そう思う」との回答が1名あった。さらに学生が学習成果を実感できるようレッスン内容を改善していく必要がある。

● 改善の方策

学生それぞれが、どのような点を向上させたいと考えているか、丁寧な聞き取りを行いレッスンに反映させる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

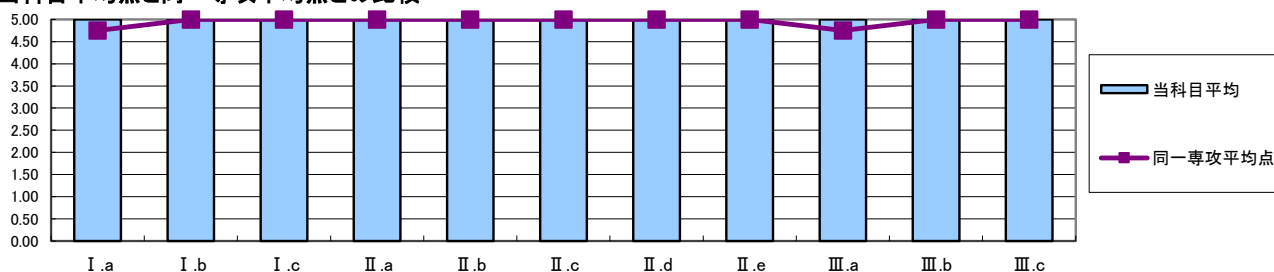
科目名	器楽専攻ピアノ指導者コース
教員名	中島 裕紀

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.75
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	5.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.75
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度履修者は1名であり、毎回のレッスンに熱心に取り組んでいた。そのことが集計の数値にも表れている。ただし、社会人にとって試験での暗譜ということがとても大きな負担となっており、それが解決されると更に学びがスムーズに行えるのではないと思われる。

● 問題点

集計において特に問題点はない。

● 改善の方策

集計上の問題点は抽出されなかったが、今後とも多様な学生に対応できるように学生一人一人のニーズと進度を踏まえながら、ディプロマ・ポリシーに沿った力を身につけられるように工夫しながらレッスンを進める。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

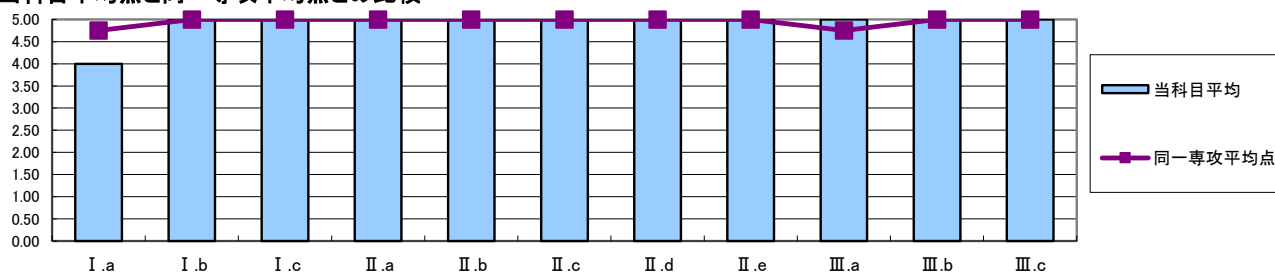
科目名	器楽専攻ピアノ指導者コース
教員名	中島 剛

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.75
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	5.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.75
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2022年度短期大学ピアノ科2名担当しました。毎回のレッスンに臨む姿勢がとても意欲的に予習、復習も丁寧でとても有意義なレッスンが出来ました。

● 問題点

暗譜に苦手意識があり、克服方法が難しく感じました。テクニックや基礎的な練習方法も取り入れ、表現する音色を導き出すのが大変でした。

● 改善の方策

根気強く基礎的な事を指導し、本人も少しずつ成長を感じられるよう工夫してみました。

音樂教養實技

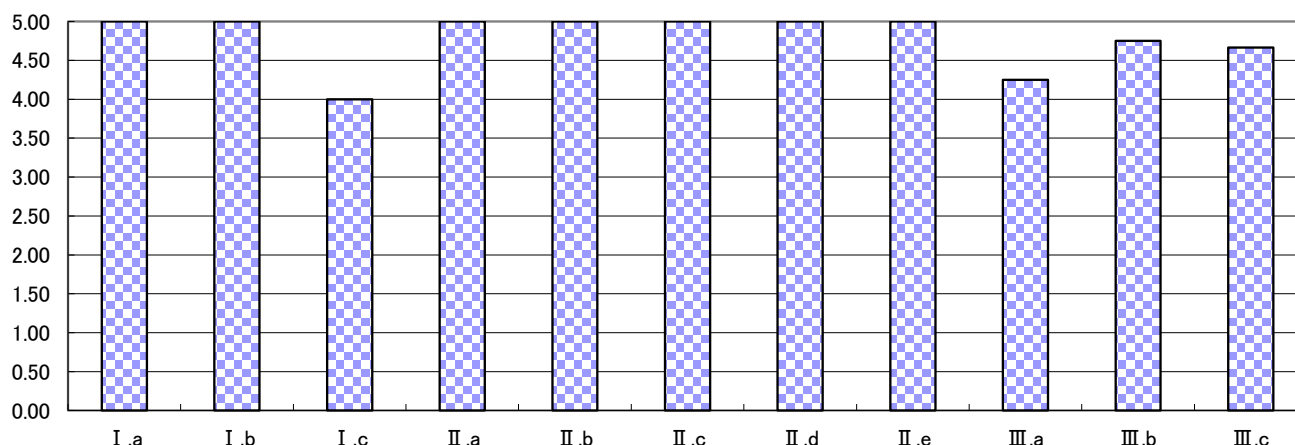
授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

専攻	07. 音楽教養実技
科目数	3

履修者数	4
回答者数	4

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	1
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	1
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	3 75.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	4	0
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	1
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	1
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	1
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.25	2 50.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.75	3 75.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4	0
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3	1

07. 音楽教養実技 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

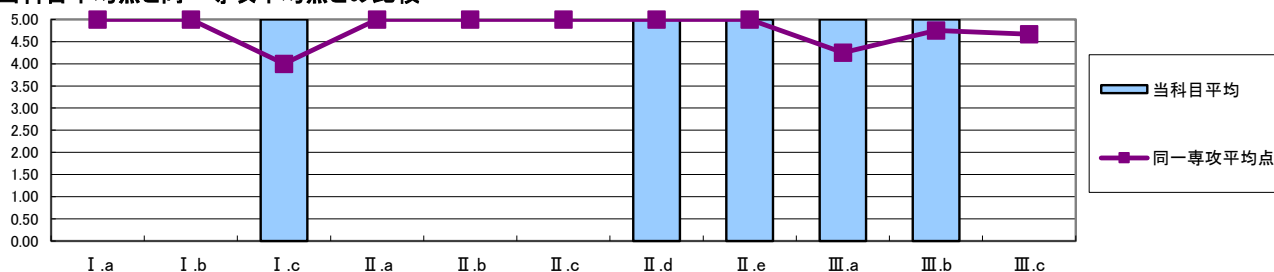
科目名	音楽教養
教員名	大場 文恵

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	-	5.00
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	-	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	-	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	-	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	-	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.25
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.75
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	-	4.67

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

履修者1名よりの回答でした。この学生は社会人で、高校までピアノを習っていたが一般大学に行き、ピアノから離れていました。新聞で本学のリカレント教育の記事に目が止まり、是非にと受験して入学しました。本人に依りますと、子供の頃にかかなりのレベルまで勉強したとのことですが、実際は技術的なことなど基礎に力を入れなければならぬような状態でした。試験ではモーツァルトのソナタKV545の第1楽章を演奏しましたが、テンポ・リズムを正確に演奏するために、かなりの時間を費やしました。技術が不足していますので、テンポがゆっくりの仕上がりにになりました。学生からは、「アドバイスが分かりやすく適切だった。レッスンがとても楽しかった」とのコメントがありました。

● 問題点

勘違いをしたのか11問中5問に回答したのみで、すべて5点でしたので、特に意識のズレはないと思います。

● 改善の方策

基礎的な技術を向上させるために本学のテキストを使って練習を始めたのですが、本人が体調を崩し現在休止しています。しかし大切なことですので是非再開して基礎を固めつつ、曲のレパートリーを増やしたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

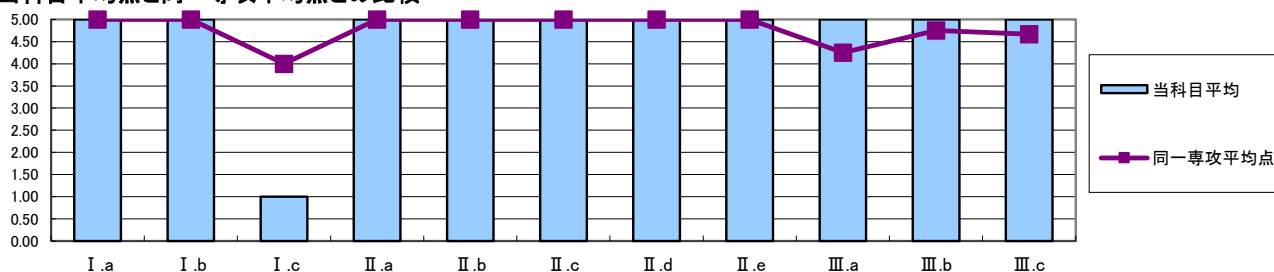
科目名	音楽教養
教員名	佐藤 泰弘

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.00	4.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00	4.25
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.75
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.67

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この「音楽教養」における声楽レッスンは、声楽専攻学生のような職業的声楽家を育成するというよりは、趣味としての声楽に親しむためのレッスンが提供されていると思われる。しかしながら、この度の学生は大変意欲的で、コンクールにも果敢に挑戦して、職業的声楽家を目指す声楽専攻学生に匹敵する大きな進歩を見せて、コンクール入賞も果たし、大きな成果もあった。

● 問題点

学生の意欲的姿勢は充分にあったが、ICの「1回のレッスンのために、平均どのくらいの練習をしましたか」という設問について、平均よりも大幅に下回る練習時間しかしていなかった。これには、この学生が、文京キャンパスからかなり遠い千葉県勝浦市から往復約5時間以上もかかっていた時間的なロスも一つの要因だった。

● 改善の方策

学生が予習するための勉強時間を確保するには、遠隔地から通って帰宅すると時間の確保がかなり難しいので、キャンパスからそれほど遠くない住居地に住みながら勉学することを促していくことも必要であろう。尚、この学生は短大音楽教養科を卒業して、次年度は大学3年に編入した上、その大学のある川越キャンパスの近くに住むこととなり、勉強時間の確保を実現している。

授業改善のための学生アンケート集計結果 実技(個人レッスン)

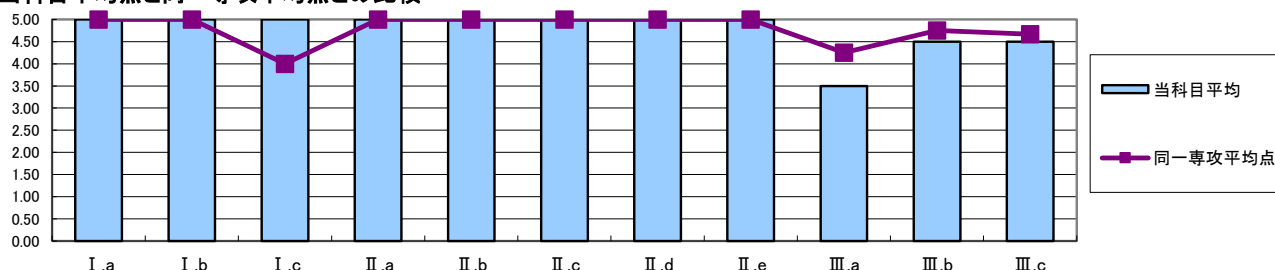
科目名	音楽教養
教員名	武藤 直美

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設問文	平均点	全体平均点
I	a このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c 1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.00
II	a このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
III	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.50	4.25
	b このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.75
	c このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.67

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

主専攻音楽教養2名の受講者に対して、シラバスに提示された授業計画に沿ってレッスンが行われていたと思います。身体の使い方、発声法及び呼吸法を学ぶにつれ、曲の意味を音楽として表現しようとする意欲が出てきたと思料いたします。

● 問題点

今回の結果から判断しますと、実技の指導方法については特に問題点はないと思われます。

● 改善の方策

次年度も授業計画に沿ったレッスンを基本とし、受講生の更なる技術の向上を目的とし指導にあたる所存であります。

音樂專門教育科目

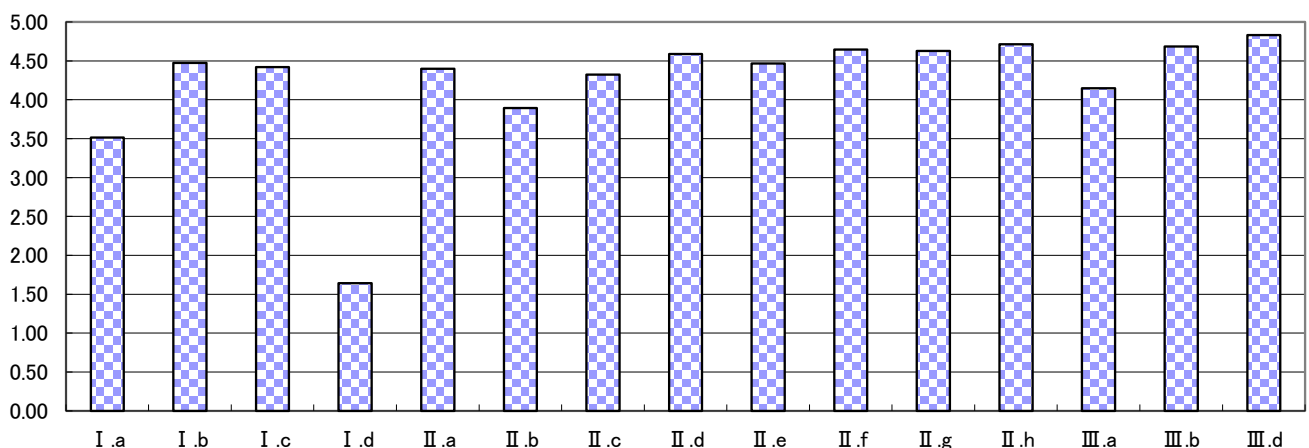
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	08. 音楽専門教育科目
科目数	29

履修者数	149
回答者数	116

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効 回答数	無効 回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.51	24	40	31	6	12	113	3
				21.2	35.4	27.4	5.3	10.6		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.47	65	39	9	1	0	114	2
				57.0	34.2	7.9	0.9	0.0		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.42	58	48	6	2	0	114	2
				50.9	42.1	5.3	1.8	0.0		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.64	9	1	9	16	79	114	2
				7.9	0.9	7.9	14.0	69.3		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	69	22	20	2	0	113	3
				61.1	19.5	17.7	1.8	0.0		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.89	13	34	64	3	0	114	2
				11.4	29.8	56.1	2.6	0.0		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.32	63	26	24	1	0	114	2
				55.3	22.8	21.1	0.9	0.0		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.59	76	29	9	0	0	114	2
				66.7	25.4	7.9	0.0	0.0		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.46	72	24	17	1	0	114	2
				63.2	21.1	14.9	0.9	0.0		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.65	83	20	10	0	0	113	3
				73.5	17.7	8.8	0.0	0.0		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.63	82	20	11	0	0	113	3
				72.6	17.7	9.7	0.0	0.0		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71	87	18	7	0	0	112	4
				77.7	16.1	6.3	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.15	40	52	21	1	0	114	2
				35.1	45.6	18.4	0.9	0.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.68	83	26	5	0	0	114	2
				72.8	22.8	4.4	0.0	0.0		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	95	72	49	18	14	113	3
				84.1	63.7	43.4	15.9	12.4		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.83	75	13	1	0	0	89	27
				84.3	14.6	1.1	0.0	0.0		

08. 音楽専門教育科目 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

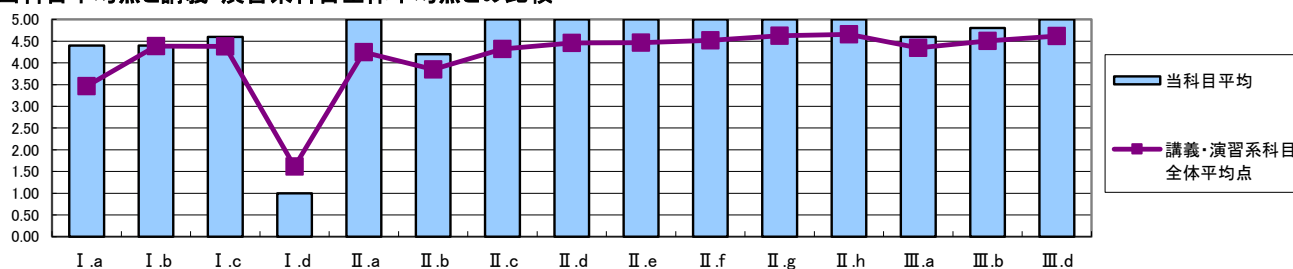
科目名	ピアノ指導者教材研究B
教員名	國谷 尊之

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	6
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.40		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.40		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.60		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			80.00	80.00	40.00	20.00	20.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この科目はピアノ指導者コース必修科目となっており、おもにピアノ指導者をを目指す学生を対象としているが、専攻にかかわらず音楽を通じた社会貢献に関心のある学生にもシラバスにて履修を呼びかけている。2022年度は2年次配当科目であり6名が履修した。主に卒業後にピアノ指導者をを目指すための技能と知識を身に付けるための授業であるが、シラバスに基づく授業内容は守りつつ幅広い年齢と専攻に受け入れやすい授業運営となるよう考えており、今回も全体に高い評価をいただいたことで概ね支持されたと感じている。特に「授業の難易度」についてはほぼ適切との評価であったことは、多様な学生を対象とした授業としては良い結果と見てよいと思われる。

● 問題点

予習・復習の時間が、回答者全員が不十分という結果であった。講義系科目の平均をも下回っている。予習・復習課題の具体的な提示が足りなかったと考えられる。

● 改善の方策

シラバスへの予習・復習についての記述をさらに具体的にした。課題についても全面的に見直し、考察の時間と技能を修得する時間の必要性が学生にとって把握しやすいものとする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

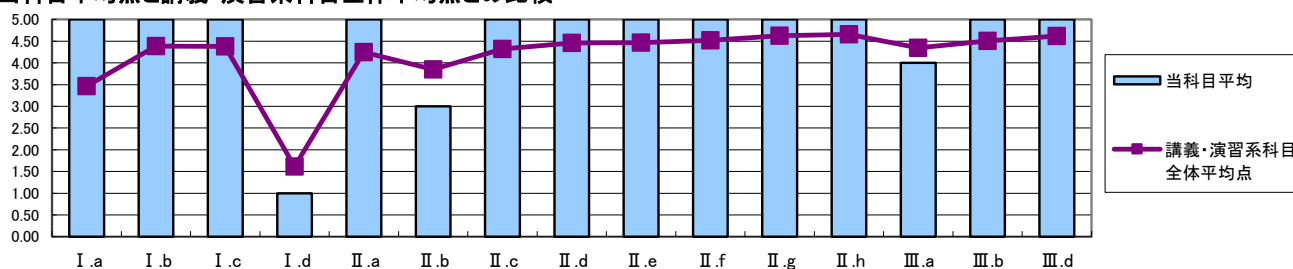
科目名	ピアノ指導法2
教員名	國谷 尊之

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	100.00	100.00	0.00	100.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この科目はピアノ指導者コース必修科目であり、かつピアノ指導者コースのみ履修可能な科目である。2020年度の履修者は1名であった。ピアノ指導者を目指すための科目であることから実践やディスカッションを積極的に取り入れている。回答数が1名であるためアンケートとしての有効性には乏しいが、該当学生は積極的にこの授業に取り組んでいたと感じている。しかし、この科目の学習成果を獲得するには予習・復習が重要であり、この時間が少ないことは問題である。

● 問題点

予習・復習の重要性を授業内で解説し、具体的な練習課題も事前に配布しているが、十分にそれが浸透していないことが伺える。

● 改善の方策

シラバスへの予習・復習についての記述をさらに具体的にした。課題についても、さらに具体的に提示し、解説も加えて行くこととする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

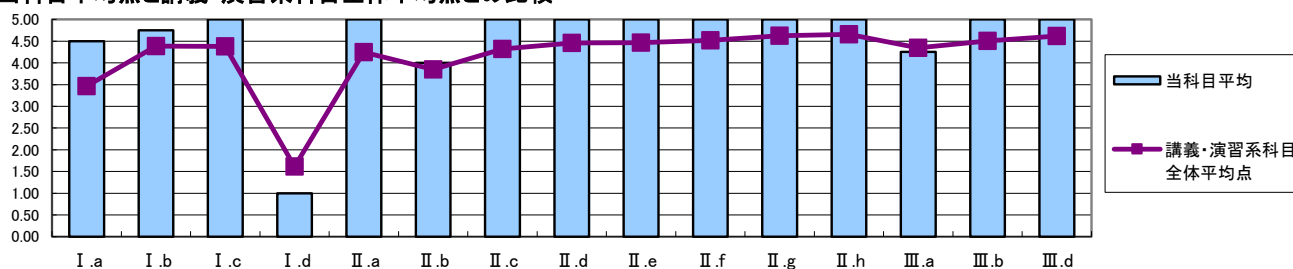
科目名	ピアノ指導法4
教員名	國谷 尊之

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	4
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.75		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.25		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	75.00	25.00	25.00	25.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この科目はピアノ指導者コース必修科目であり、かつピアノ指導者コースのみ履修可能な科目である。2022年度の履修者は4名であった。うち、社会人学生が3名、うち1名は現役の音楽指導者である。全く背景の異なる4名であるが、全員非常に熱心に受講し、昨年度の成果の上にさらに積み上げることができた。学年末レポートは、授業の内容を理解したことのみならず、各々のピアノ指導に対する考え方が深まったことを示す質の高いものであった。アンケートの結果からは、この授業を学生たちが肯定的にとらえていると考えてよいと思う。昨年度のアンケートでは「授業の難易度」について全員が「難しい」との回答であったが、今年度は3名が「適切」と回答した。

● 問題点

到達目標について、1名が「どちらとも言えない」と回答、また、1名が授業の難易度を「難しい」と回答している。多様な学生ニーズにどのように対応して授業を展開するかが課題である。また、予習・復習については具体的な課題を事前に配布するようにしたが、改善が見られない。

● 改善の方策

シラバスへの予習・復習についての記述をさらに具体的にした。課題についても、さらに具体的に提示し、解説も加えて行くこととする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

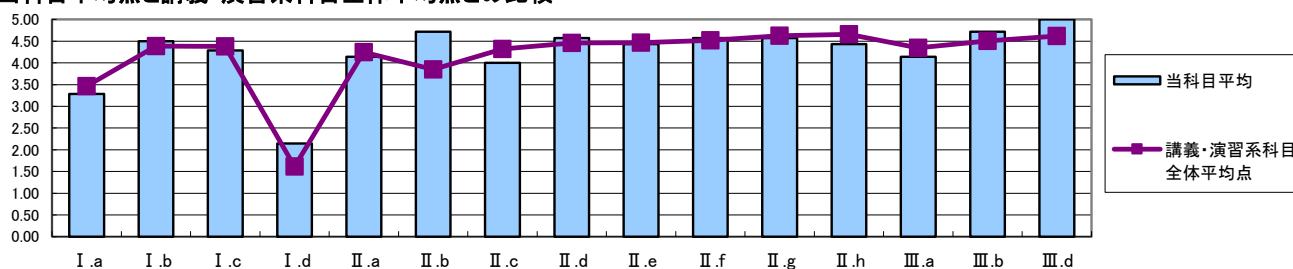
科目名	楽器の特性と機能B
教員名	岩間 文正

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	9
回答者数	8

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.29		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.29		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.14		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.14		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.71		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.57		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.43		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.57		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.57		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.43		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.14		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.71		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			85.71	28.57	42.86	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業は鍵盤楽器を含む、全ての楽器について学習する授業である。この授業の特色は担当教員が一人で全ての楽器について解説するのではなく、毎週、各楽器の講師を招いて演奏を交えながら講義を行う。学生は毎週教員が代わるので飽きる事なく授業に参加している。設問Ⅱ-aに関しては、シラバスにも明記してあるが、シラバス作成時点で各教員のスケジュール調整が出来ないため、必ずしもシラバスに掲載した楽器順には授業が進められない。今年度休講はなかったが、設問Ⅲ-h、補講に関して、授業の特性上、実施するのが困難であるため、担当教員が学校業務で授業が出来ない場合は、担当講師に授業を任せる事がある。担当教員が授業毎に代わるため試験を実施出来ないため、評価はレポート提出となる。全ての楽器についてレポートを提出させるので、レポートの分量が必然的に多くなってしまふ。今年度は月が終わる毎にレポートの整理をするよう指導を徹底した。非常勤教員に授業を依頼しているため、オーケストラ等のスケジュールによっては解説出来ない楽器が出てしまう。担当講師が授業が出来ない場合は、担当講師から指導を受けた演奏研究員に授業を担当させた。

● 問題点

アンケート結果を見る限り学生の評価は良いものと考えられる。授業の進め方、成績の出し方等にも問題はないと思われる。今期は11名程の教員が関わっているため、アンケート結果は授業全体の評価となる。今年度休講はなかったが、設問Ⅲ-h、補講に関して、授業の特性上、実施するのが困難であるため、担当教員が学校業務で授業が出来ない場合は、担当講師に授業を任せる事がある。自由記述欄を見る限りは、学生の満足度は高いと思われる。

● 改善の方策

レポートをしっかりと提出させるよう指導を徹底したい。
各教員のスケジュール調整はなるべく早い時期に行うよう努力する。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

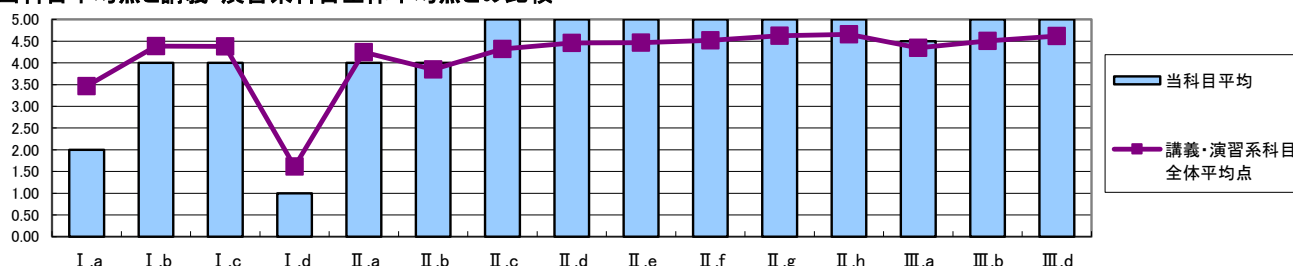
科目名	ソルフェージュ4a
教員名	井上 淳司

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	4
回答者数	2

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	50.00	0.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2年次生の選択授業で第1回目の授業で履修者に聴音を行い、a、bの2クラスに分けた上位のクラスである。授業時間は金曜日3限の週1回連続2コマ計90分である。履修者数は4名で回答者は2名であった。聴音、弾き歌い、リズム打ちを中心に授業を行い成績評価の試験も上記項目で行った。クラスのサイズは理想的ではあり授業は個々の能力に合わせてワンツーワンに近く行うことができたが、選択授業のためなのかいささか意欲に欠けるきらいがあった。

● 問題点

基礎力の不足が将来に音楽を続ける事への疑問となりモチベーションの維持が出来にくくなっている。上位クラスといえども楽典などの知識や基礎的な音感の訓練が不十分であり、高度な音楽的能力の向上に結びつけるまでは至らなかった。将来的に音楽を続けていくための設計が描ける工夫をする必要があると思われる。

● 改善の方策

音楽をするために進学をして来たのにその情熱を失う状況を作ってはいけいない。音楽の習得は日々の努力とその積み重ねであり、効率の良い基礎訓練を学生の意識を集中させて行わなければならないが、モチベーションを失くすほど魅力ある場ではないことは避けなければならない。本校の理念にかなった学生のスキルの向上とより良い音楽作りのためにも、丁寧に細かく指導を行う事が肝心であろう。また、まずはその環境を作ることが前提であろう。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

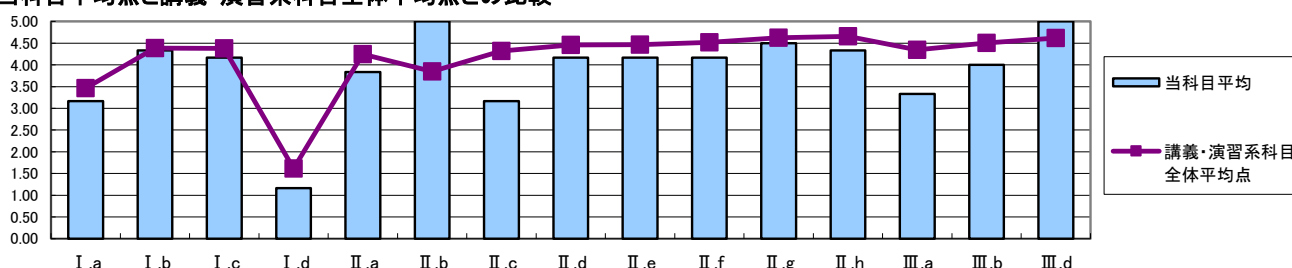
科目名	楽曲の楽しみ方Ⅱ
教員名	井上 淳司

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	9
回答者数	6

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
I	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.17		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.17		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.17		1.61		
II	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.83		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.17		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.17		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.17		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.17		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33		4.66		
III	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.33		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			66.67	50.00	50.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

音楽教養専攻の選択授業である。9月からの半期で一コマ50分の授業で学部の学生も受講しており、履修者は9名で回答者は6名であった。社会人対応として、社会人の興味が湧くように音楽鑑賞をYouTube等の演奏動画や譜例を使用し、それぞれの時代、社会、文化等を知り、楽曲解説、楽曲分析、逸話等を織り交ぜ、楽曲の聴きどころ、聴かせどころを示して、音楽鑑賞能力を高めることを目的としている。今年度は声楽を取り上げた。

● 問題点

授業への意欲、授業の進め方に関しては全体の平均点よりは低い、ある程度評価がなされており、問題はないと考えているが、受講生の年代の幅も広く、また興味や知りたいことへの要求も多様であり、受講生の中には実演や音源を多く聴いている知識の豊富な、所謂、耳の肥えている者もあり、音響、機器のインフラが今ひとつ完備されておらず、音のニュアンスやバランスがその影響を少なからず受けており、音楽の高等教育機関としての音質としては物足りていない。音楽では聴覚・視覚的環境は重要であり、出来る限り生演奏に近くなくては、いくら良い素材であっても真実やその良さが伝わらず、それを言葉で補うのでは音楽への興味がマイナスになってしまうおそれがある。

● 改善の方策

万人受けをする内容や進め方をするのは難しい面も多々あるが、学生にとってさらに良い授業となるよう内容の充実を図ることや真意を伝えるための工夫を心がけたい。意見や批判はそれが発せられる何らかの要因があったものと受け止め、真摯に対応していきたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

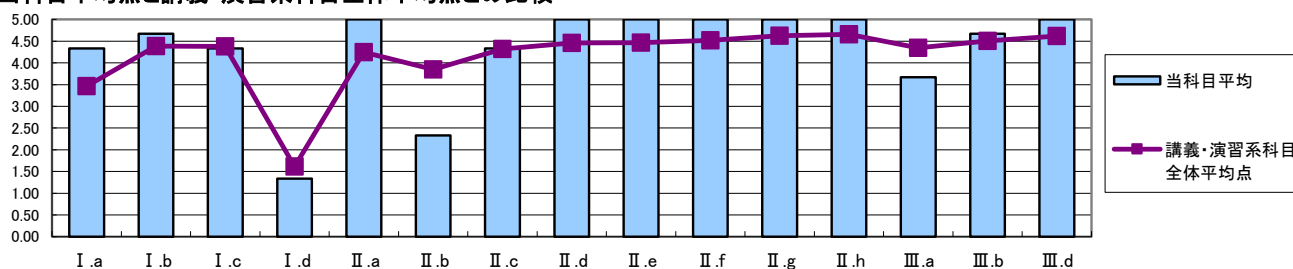
科目名	ソルフェージュ2a
教員名	井上 淳司

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	4
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.33		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.33		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.67		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	33.33	33.33	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

1年次生を前期試験の成績により2クラスに分けた、上位のクラスである。授業時間は金曜日5限の週1回連続2コマ計90分である。履修者数は4名で回答者は3名であった。授業は聴音、コールユーブンゲン、暗譜唱、新曲視唱を中心に行い成績評価の試験はコールユーブンゲンを除いた3項目で実施した。授業は個々の能力に合わせてワンツーワンに近く行うことができた。

● 問題点

上位クラスといえども楽典などの知識や基礎的な音感の訓練が不十分であり、音楽的能力の向上に結びつけるまでは至らなかった。それがアンケート結果での難易度を難しいと感じることや、また目標達成ができなかったことの一因となっている。さらに実力を上げるための工夫が必要と思われる。

● 改善の方策

音楽の習得は日々の努力とその積み重ねであり、効率の良い基礎訓練を学生の意識を集中して行わなければならない。学生を丁寧に指導するには出来る限りの少人数で似通った個々の能力に合わせる事が本校の理念にもかなっており実現すべき必須事項であり、学生のスキルの向上とより良い音楽作りのためにも、同じような能力の出来るだけ少ない人数である事が集中力を高め向上を早めることになるため、クラスサイズの設定は単純な人数分布によらず能力別に細かく行う事が前提であろう。学生には授業以外でも日々の訓練を怠らないよう促し、またその方法や向上のための個人的なアドバイスを細かく出来る環境を作ること踏まえて指導して行くことを心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

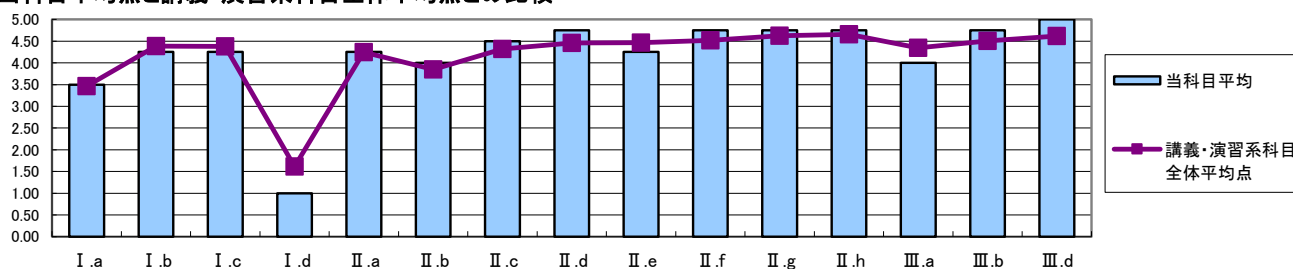
科目名	リミック IB
教員名	藤原 優里

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	100.00	75.00	25.00	50.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

座学ではなく、体験型の授業であり、授業内で身体を動かすこと、反射神経を求めていることが内容に多く含まれている。そのため、4月に在籍していた社会人の受講者が後半になり辞めていくことが多い。無理のない範囲で大丈夫とお伝えはしているが、本人たちがおそらく若い子たちについていくのがしんどくなってしまうのだと思われます。

● 問題点

シラバス上で体験型とお伝えしているが実際にここまで動くとは思っていなかった、ということだと思われます。

● 改善の方策

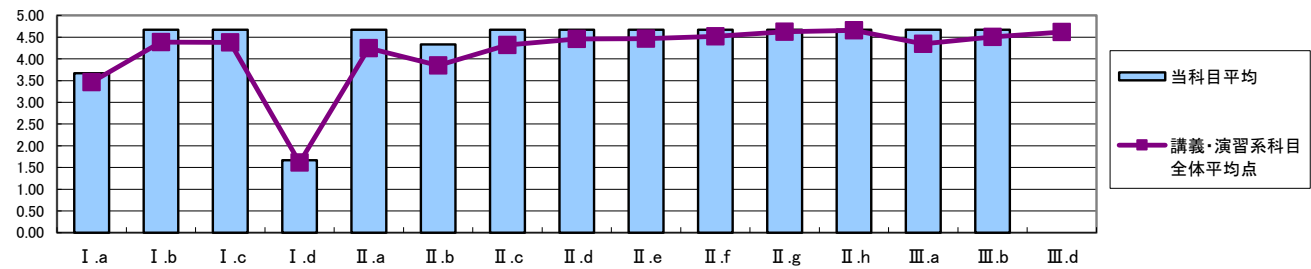
1回目の授業ではっきりとお伝えする、また体力的に無理な場合はその範囲で構わない旨をお伝えする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	リミックⅡB	職名	08. 講師	履修者数	6
教員名	藤原 優里			回答者数	3

設問	設 問 文	平均点	全体平均点		
Ⅰ	a この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.47		
	b この授業の出席は良好であった。	4.67	4.39		
	c 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.38		
	d 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.61		
Ⅱ	a この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.24		
	b この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.85		
	c 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.32		
	d この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.46		
	e 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.46		
	f 授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.52		
	g 授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.62		
	h この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.66		
Ⅲ	a 開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.67	4.34		
	b 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.51		
	c この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率			
		5	4	3	2
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	66.67	66.67	66.67	0.00
		-	4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

(先程お送りした回答はⅠAの方でした、こちらがⅠBです)実践を中心に行なっており、意図が学生に十分伝わっていたと思う。受講者数は少なめだが、1年からの継続で少しずつ減っていくのでやむを得ない。ある意味熱意のある学生だけが残る感じです。

● 問題点

学生も積極的に参加しており意見も活発に言ってくれていました。将来使える知識として身につけていただくだけでなく、自分で応用して他のことに活かせるよう、指導したつもりです。その点での意識のずれはなかったと思いますが、最終課題は他の授業や卒業作品と重なって大変だったと思います。一部課題が不十分だった学生がおりました(いつもならもっと完成度が高くできているはずという意味で)

● 改善の方策

最終課題を最後に持つてくるのはやむを得ないが、あらかじめ予告しておくことで余裕のある時に課題をやっておくことができるよう伝えたら良いかと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

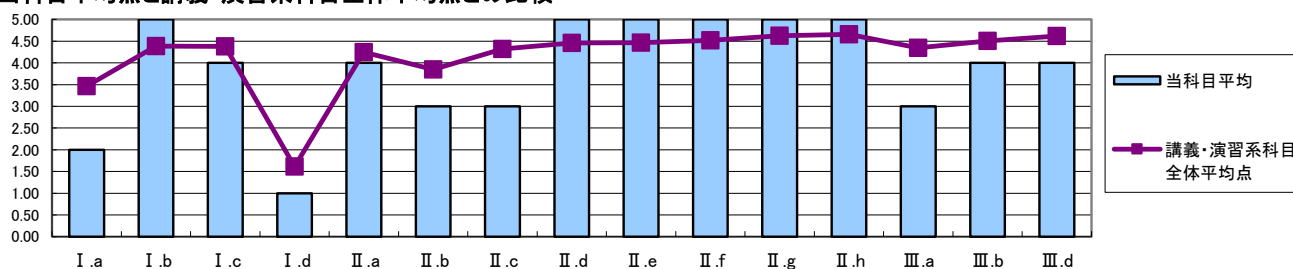
科目名	ソルフェージュ4b
教員名	横山 裕美子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2年次の選択授業。2つあるクラスのうちの下クラスである。1年次よりも高度な聴音・新曲視唱・新曲リズム・青本の暗譜唱の勉強をしている。受講者は1人である。この授業はマンツーマンであったので、学生のレベルに合った課題と、少し上のレベルの課題とを組み合わせ、得意なところはさらに伸ばし、不得意なところはできるようになるよう、学生のペースに合わせて指導した。学生は、あらかじめ質問を用意して授業に臨むことも多々あり、大変熱心に勉強していた。

● 問題点

特になく考える。

● 改善の方策

引き続き、学生のレベルに合わせた授業を工夫していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

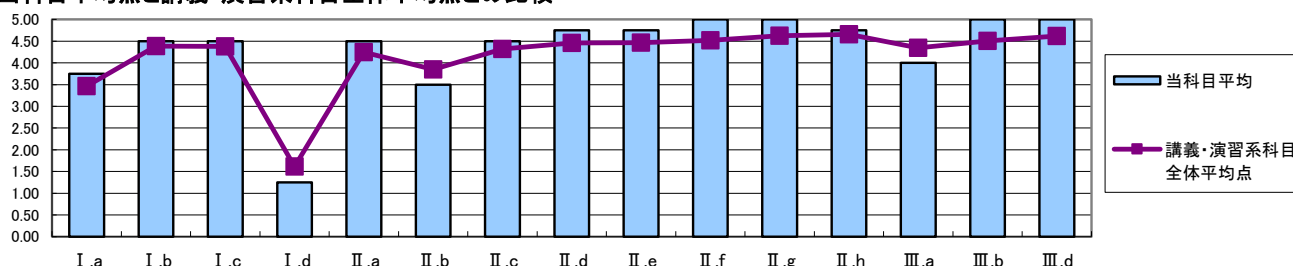
科目名	ソルフェージュ2b
教員名	横山 裕美子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.75		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.50		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			75.00	50.00	50.00	50.00	25.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

1年次の必修授業。2つあるクラスのうちの下のクラスである。聴音・新曲視唱・新曲リズム・青本の暗譜唱をバランスよく勉強している。後期に2人、aクラスから移動があった。少人数であっても実力差があり、得意なところと不得意なところは各自違うため、個別アドバイスを丁寧に行っている。真面目に前向きに学習する学生たちの姿勢は素晴らしく、全員が力を伸ばしていった。

● 問題点

特になく考える。

● 改善の方策

引き続き、授業に工夫を重ねていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

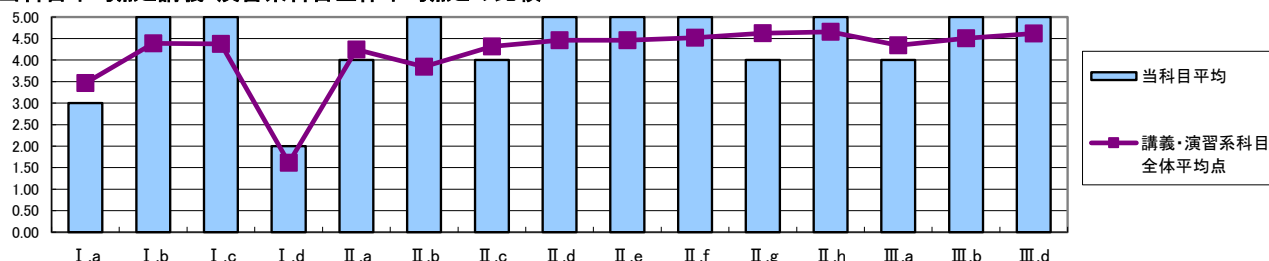
科目名	アンサンブル(ピアノ)ⅡB
教員名	小林 律子

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	2
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点	全体平均点				
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.47				
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.39				
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.38				
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.61				
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.24				
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.85				
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.32				
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.46				
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.46				
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.52				
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.62				
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.66				
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.34				
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.51				
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率					
			5	4	3	2	1	
			100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.62					

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



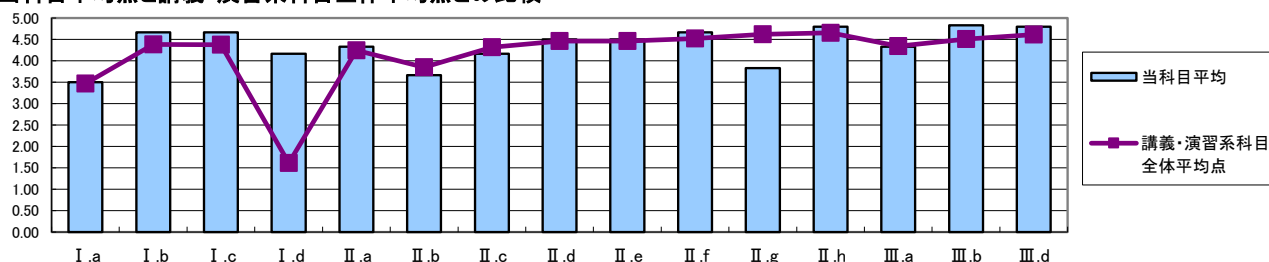
科目名	アンサンブル(ピアノ)ⅠB
教員名	小林 律子

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	6
回答者数	6

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.17		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.17		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.83		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.83		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	83.33	33.33	33.33	33.33
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

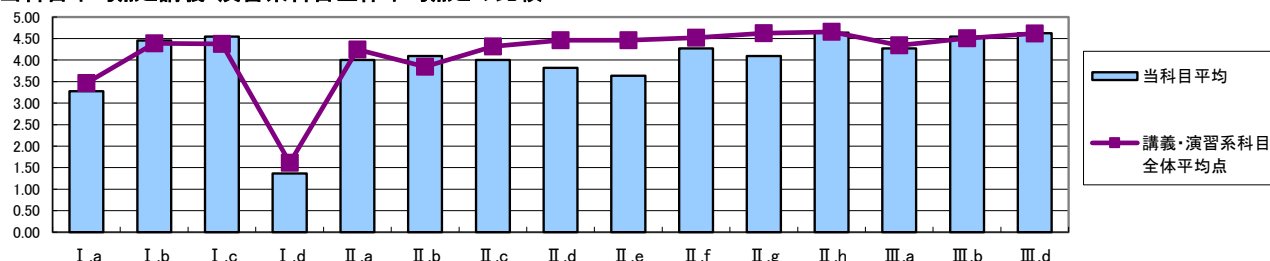
科目名	合唱ⅠB
教員名	荻久保 和明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	13
回答者数	11

設問		設 問 文	平均点	全体平均点				
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.27	3.47				
	b	この授業の出席は良好であった。	4.45	4.39				
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.55	4.38				
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.36	1.61				
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.24				
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.09	3.85				
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.32				
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.82	4.46				
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.64	4.46				
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.27	4.52				
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.09	4.62				
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.64	4.66				
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.27	4.34				
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.55	4.51				
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率					
			5	4	3	2	1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.63	4.62				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



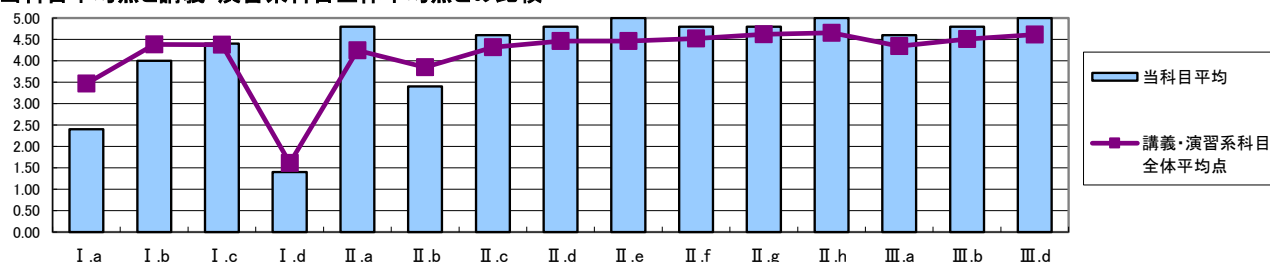
科目名	合唱ⅡB
教員名	荻久保 和明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	8
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点	全体平均点					
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.40	3.47					
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.39					
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.38					
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.40	1.61					
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.80	4.24					
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.40	3.85					
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.32					
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80	4.46					
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.46					
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.52					
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80	4.62					
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.66					
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.60	4.34					
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4.51					
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率						
			5	4	3	2	1		
			60.00	40.00	40.00	20.00	0.00		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.62					

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

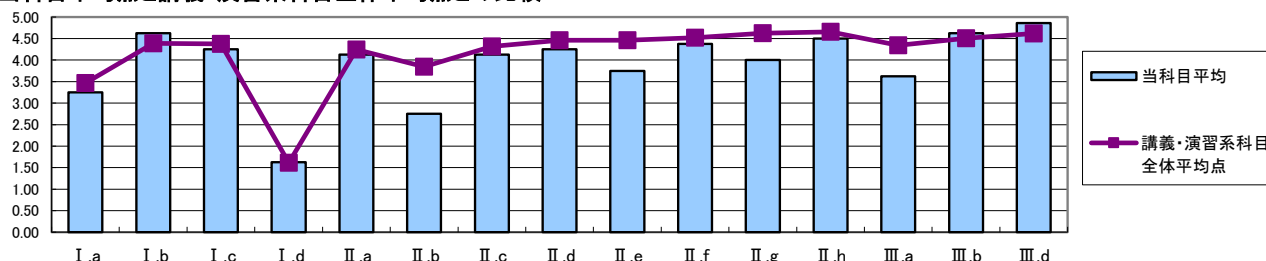
科目名	和声学2
教員名	荻久保 和明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	11
回答者数	8

設問		設 問 文	平均点	全体平均点				
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.25	3.47				
	b	この授業の出席は良好であった。	4.63	4.39				
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.38				
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.63	1.61				
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.13	4.24				
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.75	3.85				
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.13	4.32				
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.25	4.46				
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.75	4.46				
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.38	4.52				
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.62				
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.66				
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.63	4.34				
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.63	4.51				
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率					
			5	4	3	2	1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	87.50	62.50	12.50	12.50	0.00	
			4.86	4.62				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



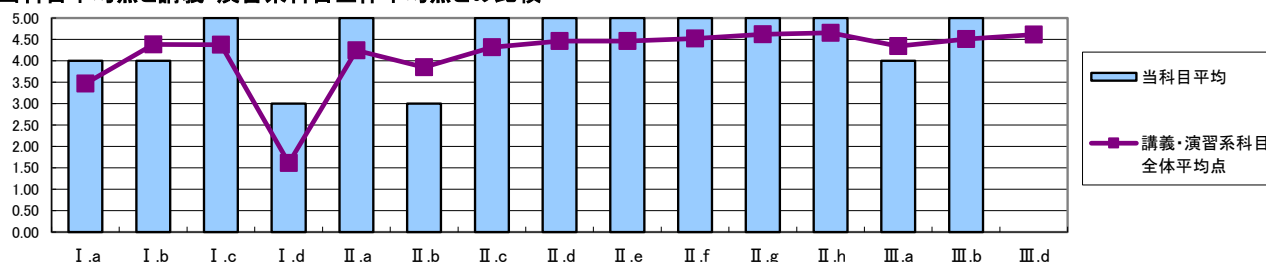
科目名	サウンドクリエーションB
教員名	城之内 ミサ

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	2
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	100.00	100.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	-		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

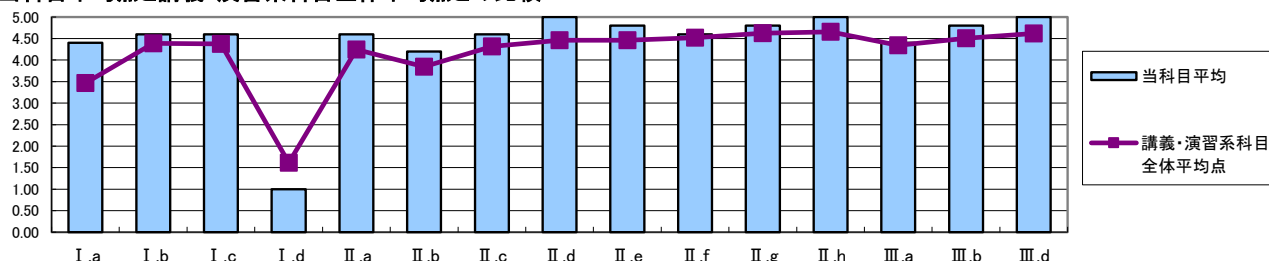
科目名	THE プロフェッショナルB
教員名	城之内 ミサ

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	5
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.40		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.60		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.40		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	40.00	80.00	20.00	20.00
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



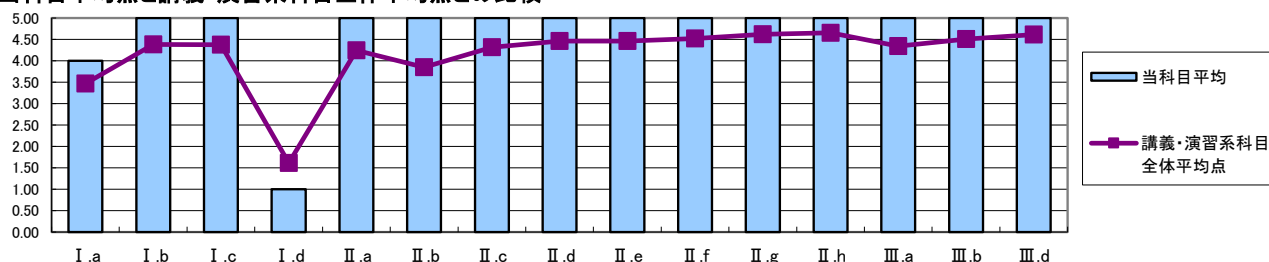
科目名	アンサンブル(管弦打)IB
教員名	澤 敦

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	3
回答者数	2

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			50.00	100.00	50.00	100.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

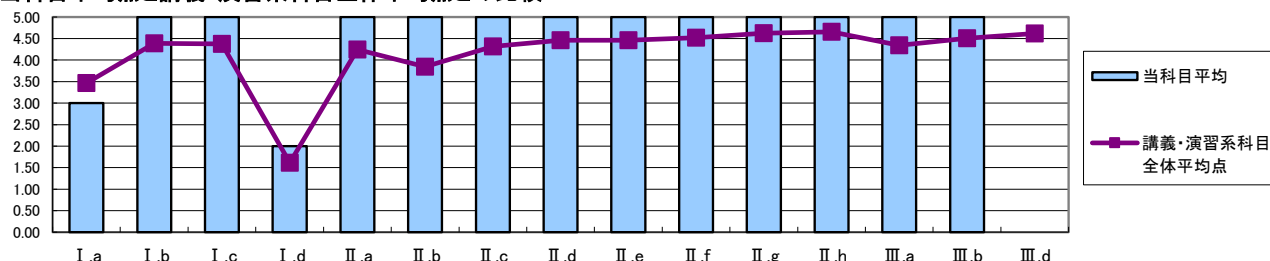
科目名	アンサンブル(管弦打)ⅡB
教員名	澤 敦

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	1
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	100.00	100.00	0.00	0.00	0.00

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



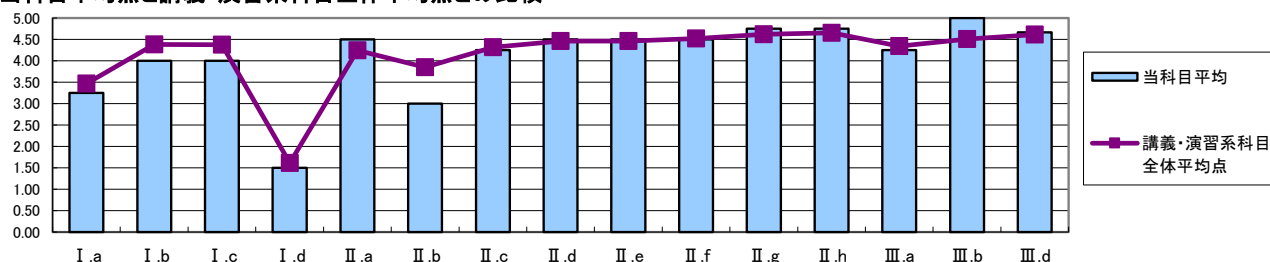
科目名	レッスンマネージメントB
教員名	嶋田 友梨香

職名	07. 特任講師
----	----------

履修者数	5
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.25		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.25		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	75.00	50.00	0.00	25.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

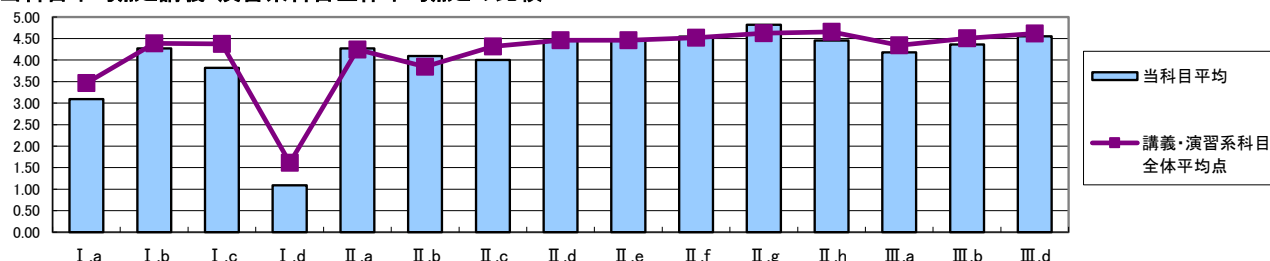
科目名	音楽の基礎理論B
教員名	新井 雅之

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	12
回答者数	11

設問		設 問 文	平均点	全体平均点				
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.09	3.47				
	b	この授業の出席は良好であった。	4.27	4.39				
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.82	4.38				
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.09	1.61				
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.27	4.24				
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.09	3.85				
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.32				
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.45	4.46				
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.45	4.46				
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.55	4.52				
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.82	4.62				
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.45	4.66				
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.18	4.34				
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.36	4.51				
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率					
			5	4	3	2	1	
			72.73	72.73	27.27	27.27	0.00	
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.56	4.62					

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



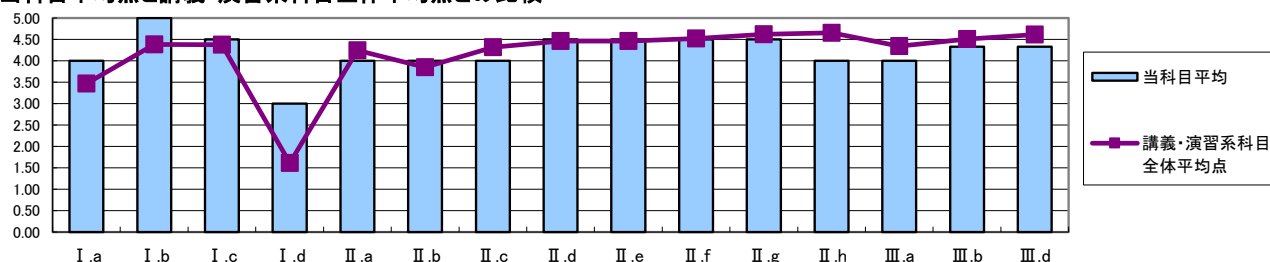
科目名	音楽教養基礎講座〔楽典〕IB
教員名	新井 雅之

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	3
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	100.00	100.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

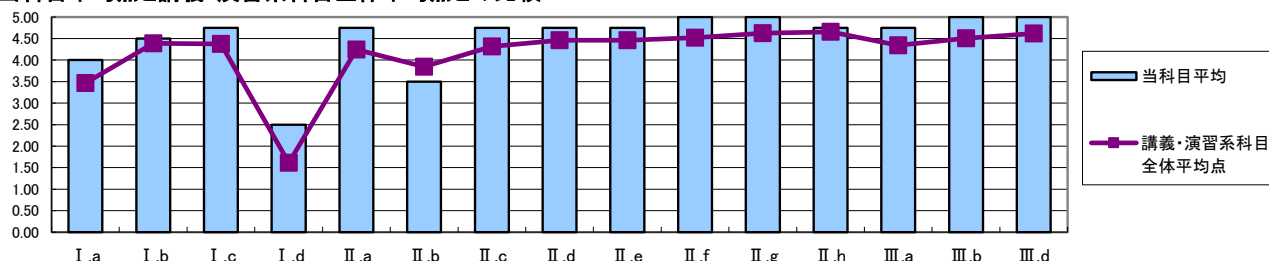
科目名	和声学4
教員名	新井 雅之

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点	全体平均点				
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.47				
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.39				
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.38				
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.61				
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.75	4.24				
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.50	3.85				
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.32				
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.46				
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.46				
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.52				
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62				
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.66				
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.75	4.34				
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.51				
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率					
			5	4	3	2	1	
			100.00	75.00	75.00	25.00	25.00	
d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.62					

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



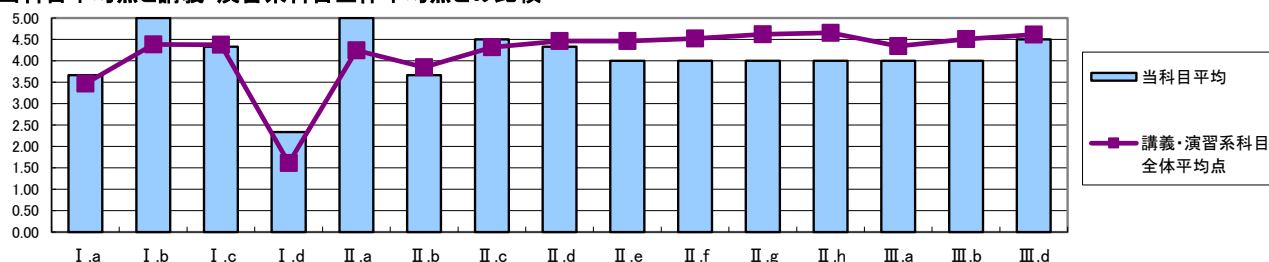
科目名	音楽教養基礎講座【ソルフェージュ】IB
教員名	新井 雅之

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.33		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	50.00	50.00	50.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

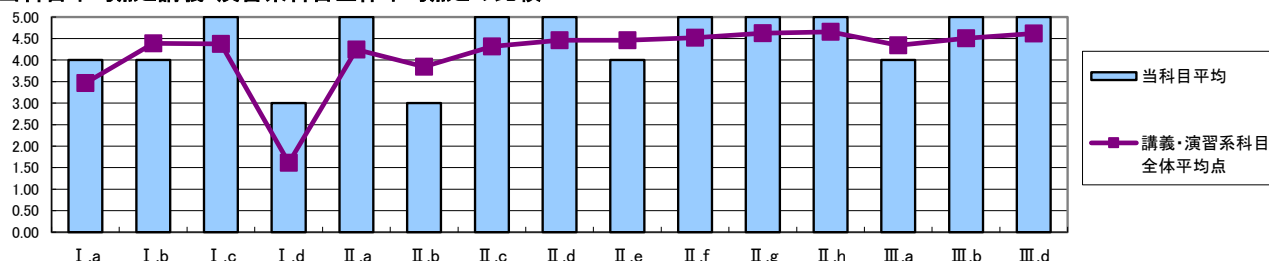
科目名	音楽教養基礎講座(ソルフェージュ)ⅡB
教員名	新井 雅之

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	100.00	100.00	100.00	0.00	0.00

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



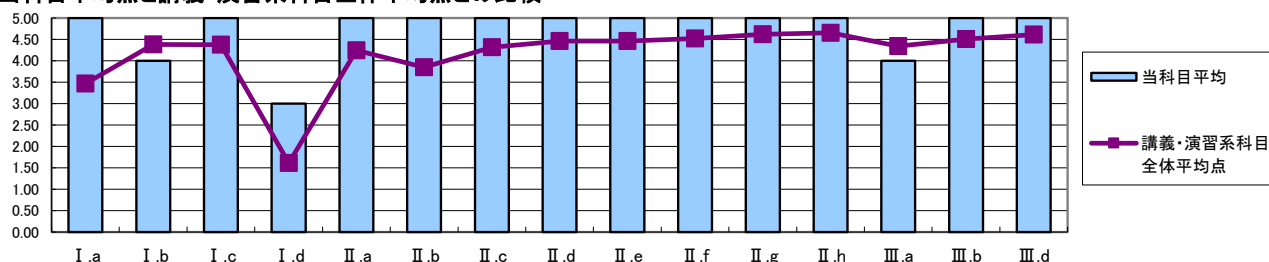
科目名	音楽教養基礎講座(楽典)ⅡB
教員名	新井 雅之

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	100.00	100.00	100.00	0.00	0.00
		5.00		4.62			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

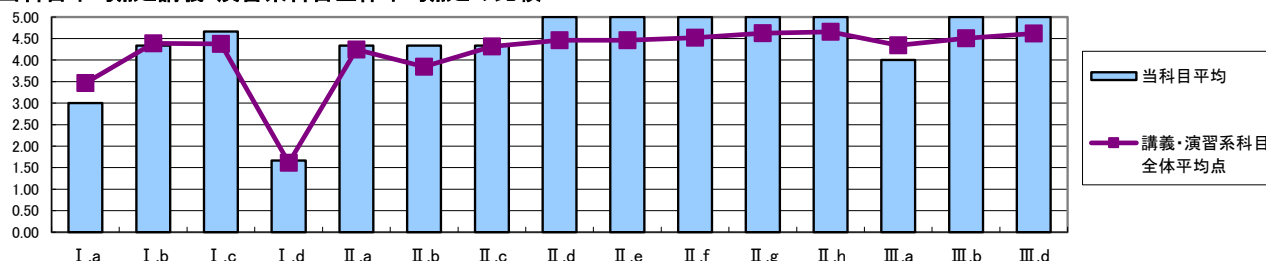
科目名	シンギングポップスB
教員名	仁科 薫理

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			66.67	100.00	33.33	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



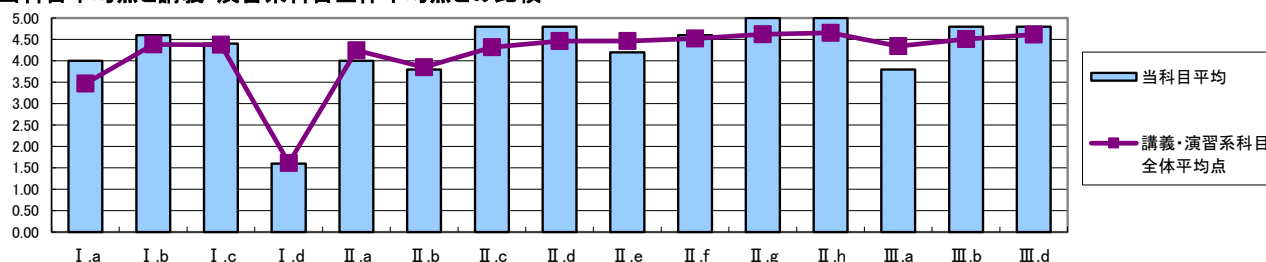
科目名	音楽史B
教員名	山下 暁子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	9
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.80		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.80		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.20		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.80		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	80.00	60.00	60.00	0.00	0.00
			4.80		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



基礎教育科目

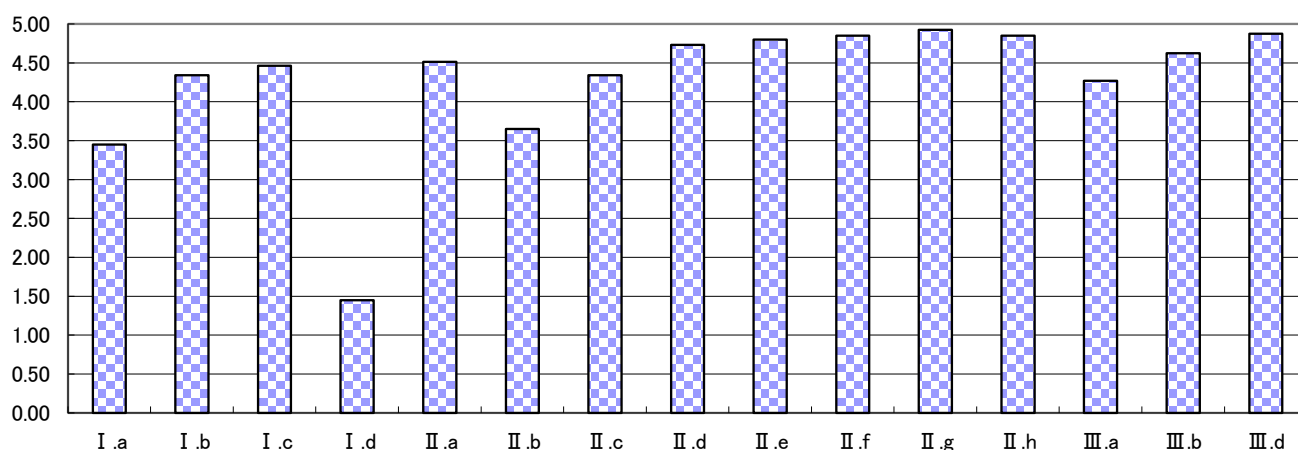
授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

専攻	09. 基礎教育科目
科目数	12

履修者数	53
回答者数	41

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a	3.45	8	15	10	1	6	40	1
			20.0	37.5	25.0	2.5	15.0		
	b	4.34	24	10	4	3	0	41	0
			58.5	24.4	9.8	7.3	0.0		
	c	4.46	24	13	3	1	0	41	0
			58.5	31.7	7.3	2.4	0.0		
	d	1.45	3	0	1	4	32	40	1
			7.5	0.0	2.5	10.0	80.0		
II	a	4.51	28	6	7	0	0	41	0
			68.3	14.6	17.1	0.0	0.0		
	b	3.65	6	11	20	2	1	40	1
			15.0	27.5	50.0	5.0	2.5		
	c	4.34	22	12	6	1	0	41	0
			53.7	29.3	14.6	2.4	0.0		
	d	4.73	34	4	2	1	0	41	0
			82.9	9.8	4.9	2.4	0.0		
	e	4.80	33	6	1	0	0	40	1
			82.5	15.0	2.5	0.0	0.0		
	f	4.85	35	4	1	0	0	40	1
			87.5	10.0	2.5	0.0	0.0		
	g	4.93	38	1	1	0	0	40	1
			95.0	2.5	2.5	0.0	0.0		
	h	4.85	35	4	1	0	0	40	1
			87.5	10.0	2.5	0.0	0.0		
III	a	4.27	20	14	5	2	0	41	0
			48.8	34.1	12.2	4.9	0.0		
	b	4.63	29	7	4	0	0	40	1
			72.5	17.5	10.0	0.0	0.0		
	c	-	28	25	13	7	15	41	0
			68.3	61.0	31.7	17.1	36.6		
	d	4.88	28	4	0	0	0	32	9
			87.5	12.5	0.0	0.0	0.0		

09. 基礎教育科目 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

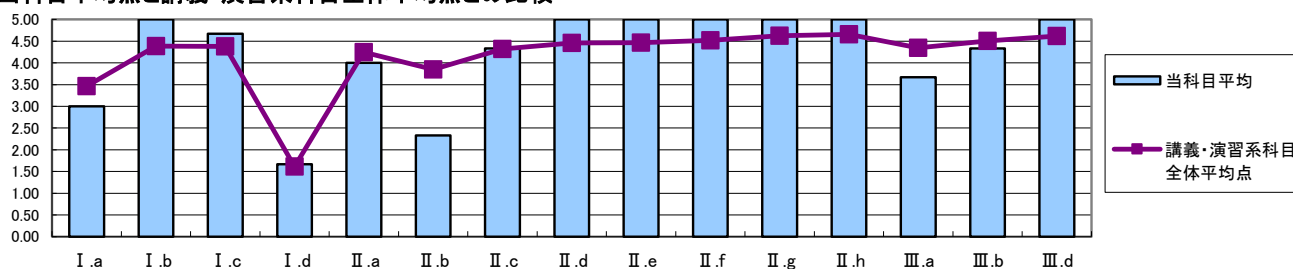
科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション2
教員名	高橋 幸雄

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	4
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.33		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.67		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	0.00	33.33	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

ドイツ語圏の多様性に触れる為に、引き続きビデオ映像を用いて最新のドイツ、オーストリア、スイスのトピックスを紹介した。特に日本の中のドイツ、ドイツの中の日本と言うコンセプトでドイツ語圏の文化や歴史の理解を深めた。更にステップアップした文法項目を習得しながら、話すことにも視点を当てながら練習を重ねた。日常生活の話題を取り上げ、習得した文法を用いて表現力の向上を目指した。

● 問題点

多様なドイツ語圏の現状を理解する為に毎回様々な素材を用意したが、説明の時間が多くなり、学生のアクティブな参加が阻害されたきらいがある。素材の厳選と各回の学習項目の厳選化が必要である。

● 改善の方策

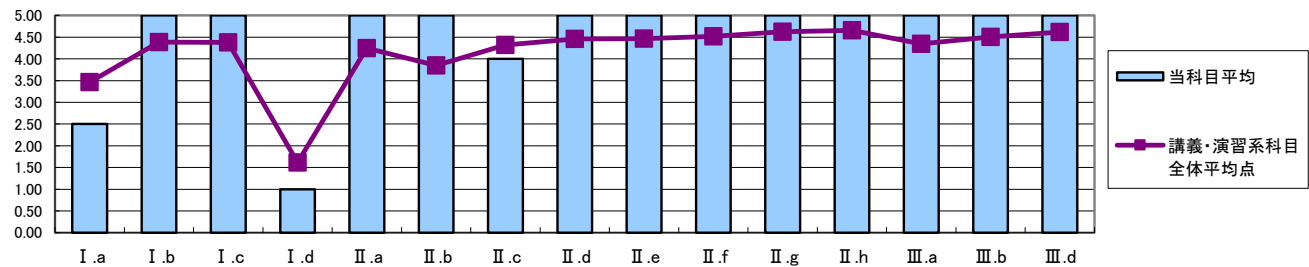
毎回の学習の要点と情報を分け、理解の平易化を図る。その為、各回別々のレジュメを作成することにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	ひとを読み解く科学B	職名	04. 准教授	履修者数	3
教員名	三室戸 元光			回答者数	2

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.50		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
	5		4	3	2	1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	100.00	100.00	50.00	50.00	100.00
		5.00		4.62			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

『ひと』とは何か、『ひとの性格（＝キャラクター又はパーソナリティ）』とは何か、を理解することは、人間心理の中核を理解しようとすることであり、「ひとを理解しようとする思いや行動」は、心理学を学ぶ人間にとって非常に身近な行動です。ただ、単なる「占い」とは異なるので、科学的な根拠（＝心理学的な知識や考え方）が必要となります。この授業では、心理学的な知識や考え方をもとに「自分自身」を多面的に理解し、「自分自身」や「ひと」を多面的に理解する方法として、皆さんと一緒に学び合っていきたいと考えています。後期Bの授業は、『ひととの関係を深く理解すること』を取り上げます。

心理学というひとの内面を読み解く知識や道具を使って、自分自身の心理学的な理解を深め、「自分自身の内面に関わる問題を、自分でサポートできるようになる」ことが、この科目の目標です。自分の内面（＝キャラクターやパーソナリティ）に対して、自身に起きた事実やそれに対する心理的な反応（感情、願望を含むあらゆる行動）への理解を深めることによって、『ひとがどんなパーソナリティをもち、どんな心理的な課題をどのように解消していくか』を自分で考察できるようにしていきます。

なお、「心理学そのもの」については、「現代の心理学A・B」を先に履修することをおすすめします。

授業は、教員による解説形式で行います。テーマによっては、行動実習やグループワークを行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝えたり聴いたりする・相手にくわしく質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。

開講日：月曜4時限 受講者数3名

受講者数が3名と非常に少ないため、後期授業のようなグループワーク主体の授業では毎回同じメンバーになってしまう欠点がある。講義系科目の平均点よりも有意に低い項目は、「I.a」「I.d」「II.c」の3項目である。I.aのように時間割の隙間時間にある当該モックを受講する学生が多いかもしれないが、基本的には通年で参加する学生のみであり、参加の態度も特に問題は見られない。テキストを使わない科目であるため、予習よりも復習に時間を使うこと、基本的に授業内でのふりかえりシートや課題で学習したことを確認しているため復習も授業まよめの直前に集中しやすい。成績評価は取り組んだ課題全部を合算して100%と見なし、そのうち何%取得したかを表現するため、評価がわかりにくいかもしれない。

● 問題点

学生の自由記述を見ると、「自分の考えや価値観を意味詰める良い機会となっています」という意見がある一方、「プリントの画像の印字が見づらい」という意見があった。

● 改善の方策

基本的に何かを暗記したりする科目ではないので「毎回楽しい授業です」という評価が出てくる。プリントは資料のスキャン画像が多く、にじんだような感じになることが多いので、スライドや口頭での補足を多くしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

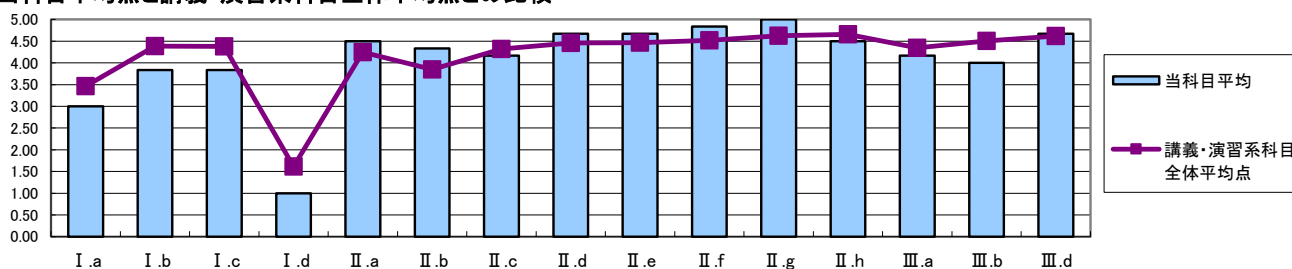
科目名	東邦スタンダードⅠB
教員名	野田 説子

職名	07. 特任講師
----	----------

履修者数	6
回答者数	6

設問		設 問 文	平均点	全体平均点					
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.47					
	b	この授業の出席は良好であった。	3.83	4.39					
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.83	4.38					
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.61					
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.24					
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.85					
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.17	4.32					
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.46					
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.46					
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.83	4.52					
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62					
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.66					
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.17	4.34					
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.51					
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率						
			5	4	3	2	1		
			50.00	83.33	0.00	16.67	83.33		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.62					

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

1年6名中6名から回答を得た。
学生達の出席は概ね良好で授業中の態度もよかった。

● 問題点

朝1限の授業開始までに席につけない学生への対応

● 改善の方策

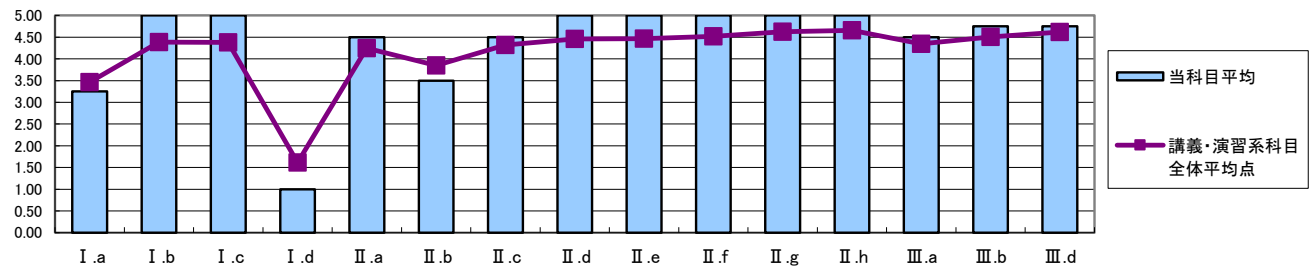
時間の大切さを工夫して伝える

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

科目名	キャリアデザイン	職名	08. 講師	履修者数	6
教員名	キャリア支援センター			回答者数	4

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.25		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.50		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.50		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	75.00	25.00	75.00	50.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

毎回授業開始時に講座の趣旨3点を明確に表記させて来た：
①自分自身が成長できる機会 ②社会に出会う機会 ③自分自身の再発見の機会
これらを念頭に置いて授業を展開。
授業シラバス活用度合がやや低いのは、殆どの学生達にとって初めて受けるタイプの授業だからと見る。
授業出席は良好であった。全学生出席率は90%
学生達は強い関心・意欲を示し、概ね熱意を感じることができた。
平均予習・復習時間が少ない結果的については、毎回授業都度に配布資料を用意している為、予め予習が困難なことの帰結である。
授業難易度がやや厳しいと受け止められている点に付いては、基礎学力強化部分、SPI等の筆記試験対策講座部分が合った為と分析している。数値解析や文章読解、又は一般社会常識の理解向上に役立っていると判断している。
成績評価基準も開始時に出席点と期末テストによる総合評価方式を説明出来ている。
授業の進め方と指導は、ワークショップ形式を取り入れて全員参加型で理解は深めることができた。
資料もそのワークショップ内容に沿って効果的に使用出来た。
質問や相談も都度対応出来た。
授業回数と時間は当初の計画通り、15回x90分で終了した。
キャリア支援センタースタッフ及び外部講師2名による工夫は概ね好評であった。
上記冒頭の3点を一貫して提示し、到達目標を達成することができた。
毎回授業後に受講アンケートをとり、学習意欲向上に繋がり、総合的に判断して意義あるものに出来ていると判断している。

● 問題点

上記でも述べた授業難易度がやや厳しいと受け止められている点に付いては、音大の勉強でこうした社会常識的な勉強が必要と理解されていなかった点と思われる

● 改善の方策

何故必要なのかを、具体例、例えば独立した音楽教室運営を手掛ける先輩卒業生事例を挙げて、説明する形を試みてみたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

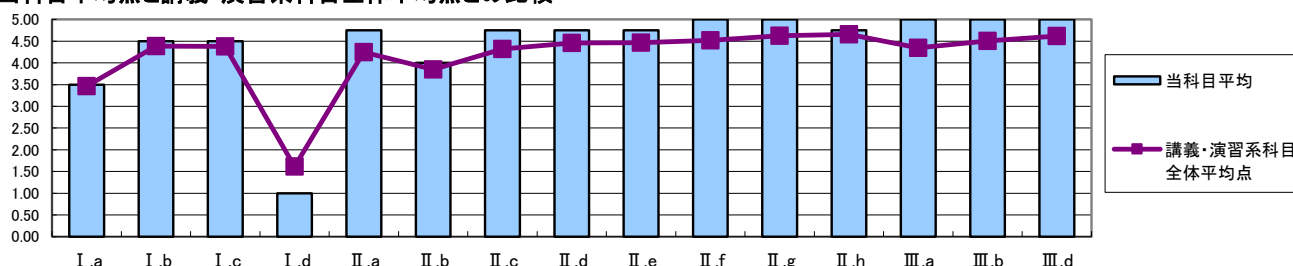
科目名	健康と音楽B
教員名	佐々木 和佳

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.75		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			50.00	25.00	50.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

様々な障害・疾患の方への音楽療法や音楽に関わる際の目的・音楽の使い方について深く理解することを目的とし、音楽療法の歴史、各領域（高齢者、ホスピス・緩和ケア、精神科、障害児・者）における音楽療法について紹介。授業は講義形式で行い、より理解を深めるためにDVD等の視聴覚教材を使用。受講者数5名。開講は水曜日の2時限目。受講者数が少なかったこともあり、受講生全員とコミュニケーションを図りながら講義を進めることができた。

I-a “この授業を履修するにあたって、シラバスを活用したか” について「ある程度そう思う」50.0%、「どちらとも言えない」50.0%だった。I-b “出席は良好だった”・I-c “熱意を持って積極的に取り組んだ” 「強くそう思う」が100%だった。I-d “予習・復習の時間” について、「1時間未満」が100%だった。II-b “この授業の難易度” について、「難しい」25%、「適切」75.0%だった。III-c “この授業を履修して自分のためになったこと” について、「新しい知識・技能」50.0%、「新しいものの見方」25.0%、「関連分野の学習意欲」50.0%、「問題発見・解決能力」0%、「コミュニケーション能力向上」0%だった。

● 問題点

シラバスの活用については、初回授業時にシラバスを配布し各回の内容を紹介し、また毎回の授業の開始時にはその日の内容と、終了時には次回の内容と予習について説明していたが、あまり活用されていないことがわかった。授業の難易度について、難しいと感じていた学生がいたことがわかった。

● 改善の方策

毎回の授業内において各回の内容についてシラバスをもとに確認し、またシラバスを活用しながら予習や復習ができるような課題を果し、発表等を通して予習・復習したことが授業内で活かされるようにする。授業内で扱う内容や説明の仕方を工夫し、理解しやすく今後役立つことを学べる授業になるようにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

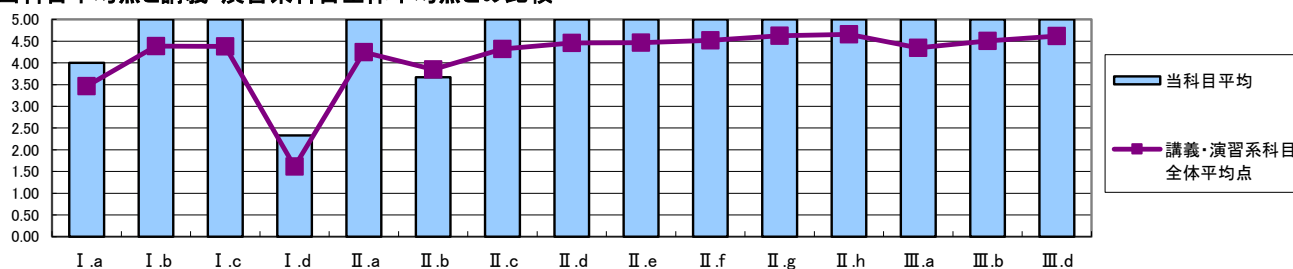
科目名	社会福祉概論(老人・児童福祉を含む)B
教員名	佐々木 和佳

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	3
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.33		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			33.33	33.33	66.67	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

社会福祉に関する基本的な知識を身につけるとともに、我が国や諸外国の福祉の現状を通して、身近な出来事として考えることを目的とし、様々な施策や社会福祉に携わる人たちの仕事内容等を紹介。授業は講義形式で行い、より理解を深めるためにDVD等の視聴覚教材を使用。受講者数3名。開講は水曜日の3時限目。受講者数が少なかったこともあり、受講生全員とコミュニケーションを図りながら講義を進めることができた。

I-a “この授業を履修するにあたって、シラバスを活用したか” について「強くそう思う」33.3%、「ある程度そう思う」33.3%、「どちらとも言えない」33.3%、だった。I-d “1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしたか” について、「5時間以上」33.3%、「1時間未満」66.7%だった。II-b “授業の難易度” について、「難しい」33.3%、「適切」66.7%、だった。III-c “この授業を履修して自分のためになったことは何か” について、「新しい知識・技能」33.3%、「新しいものの見方」33.3%、「関連分野の学習意欲」66.7%、問題発見・解決能力0%、コミュニケーション能力向上0%だった。

● 問題点

シラバスの活用については、初回授業時にシラバスを配布し各回の内容を紹介し、また毎回の授業の開始時にはその日の内容と、終了時には次回の内容と予習について説明していたが、活用についてばらつきがあったことがわかった。授業の難易度について、難しいと感じていた学生がいたことがわかった。

● 改善の方策

毎回の授業内において各回の内容についてシラバスをもとに確認し、またシラバスを活用しながら予習や復習ができるような課題を果し、発表等を通して予習・復習したことが授業内で活かされるようにする。授業内で扱う内容や説明の仕方を工夫し、理解しやすく今後役立つことを学べる授業になるようにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

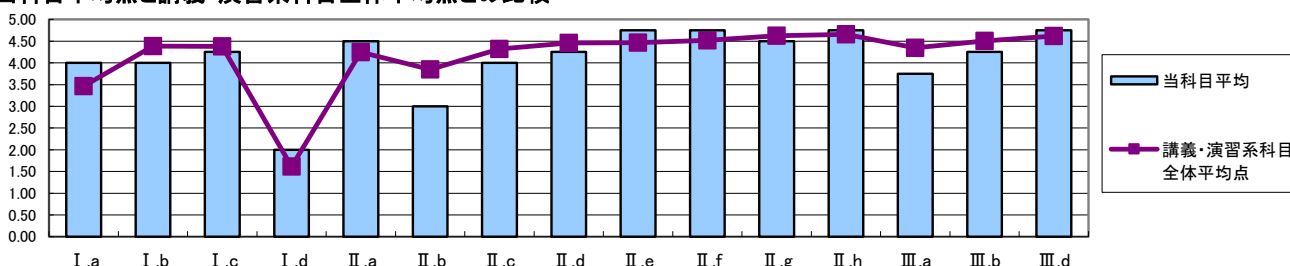
科目名	コンピューター演習B
教員名	湯浅 恭子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	6
回答者数	4

設問		設 問 文	平均点	全体平均点			
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.47			
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.39			
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.38			
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.61			
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.24			
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.85			
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.32			
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.25	4.46			
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.46			
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.52			
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.62			
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.66			
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.75	4.34			
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.25	4.51			
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			75.00	75.00	50.00	25.00	25.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.62			

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

<科目の目的>

本科目では、文書作成・表作成などのソフトウェアを用いて操作に慣れ、データファイルの取り扱いやそれら情報の整理について学ぶ。また情報セキュリティや、近年発達している情報技術についての基本的な知識を習得する。一般的な文書作成や表計算ソフトウェアの他、楽譜作成ソフトウェアの基本操作を習得し、コンピュータを「自分のアイディアや伝えたいことを形にするための道具」として、自身の音楽活動やキャリアにつながる活用スキルを向上させる。

<内容>

コンピュータの基本的な構造、ハードウェア・ソフトウェアについての知識の習得。インターネット上のSNSやクラウドコンピューティング等に関する現況の概観。Windowsマシンを使ったコンピュータリテラシーの向上。

PCを使った演習ではWord・Excelを用いてビジネス文書の作成、写真画像などを利用した統合的な文書の作成を行う。PowerPointを用いてグループでのプレゼンテーション演習を実施した。楽譜作成ソフトウェアの基本操作の習得と編曲譜面の作成。また、近年初等教育から行われているプログラミング教育の意義について学び、簡単なプログラミング実践を行って「プログラミング的思考」について考察を行う。

<状況説明と集計結果の分析>

木曜日2時限、履修者数6名（このうち社会人学生が2名）。授業形態は演習形式と講義形式で行った。コンピュータ演習室にて1人1台のPCを使用。履修者は全学年が対象、当クラスは1、2年生の混合クラスであった。社会人学生は履修開始時においてのコンピュータスキルに差があり、就労経験によって慣れているか、またはこれまで使う機会が少なく初歩的操作（配布データを自分のUSBメモリへコピーするなど）からサポートが必要となるか、両極に分かれることが多い。本年度は双方のケースの学生が履修しており、その中間に現役生がいるというような状況であった。基本的には現役生が社会に出て就労・音楽活動をするために必要となるスキルを学んで定着させるような演習で構成をし、早く演習が終わる学生には難易度の高い演習問題を追加で配布したり、楽譜作成では編曲譜面の作成や、音を採譜して楽譜にするなど自ら考えてデータ作成したりと、個別対応になる場面も多くあった。

● 問題点

「授業の難易度」基本操作の習得が中心となっていたが、早く演習を終えた学生には少しずつ難易度の高い演習問題を配布していたため、「難しい」「やや難しい」との回答が多かったものと思われる。

「授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった」今年度は教科書の演習問題をそのまま使ったものが多く、「やらされている」という感が見受けられたように思う。

● 改善の方策

「授業の難易度」：学生によって、演習の進捗や理解度の差が大きくなる。現役生を基準に演習内容の設定をしつつ、個々のスキルを早めに見極めて、学生に合わせた内容（易しくも難しくも）も用意して対応する。

「授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった」：教科書の内容で押さえておくべきものは残しながら、音楽大学生にとってより身近で必要となるような演習内容を扱っていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

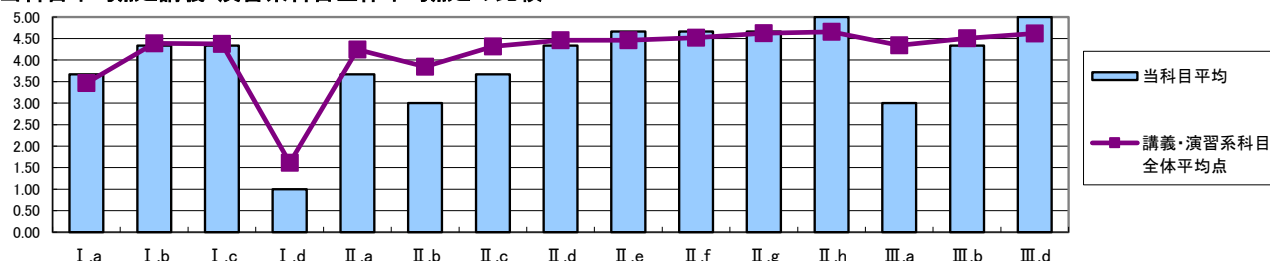
科目名	英語圏異文化コミュニケーション2
教員名	レンツ I. K.

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	4
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.67		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.67		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	3.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			66.67	66.67	0.00	0.00	66.67
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



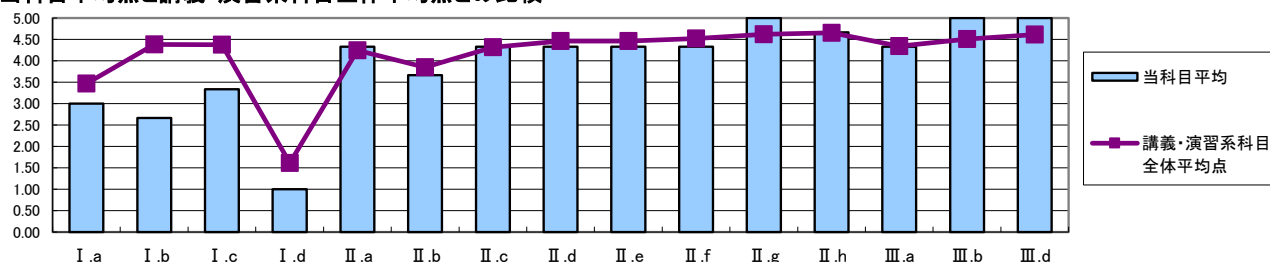
科目名	東邦スタンダードⅡB
教員名	益田 善太

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	5
回答者数	3

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	2.67		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.33		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.33		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			33.33	66.67	0.00	0.00	33.33
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

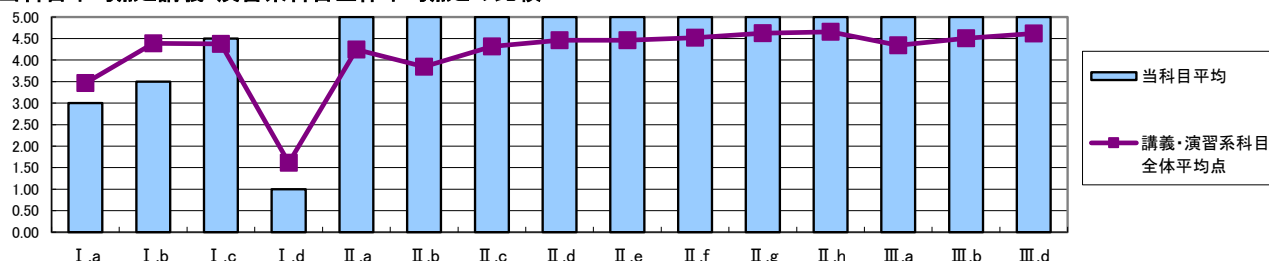
科目名	法と経済(日本国憲法を含む)B
教員名	今枝 昌浩

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	3
回答者数	2

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	3.50		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	5.00		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			100.00	50.00	50.00	0.00	0.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



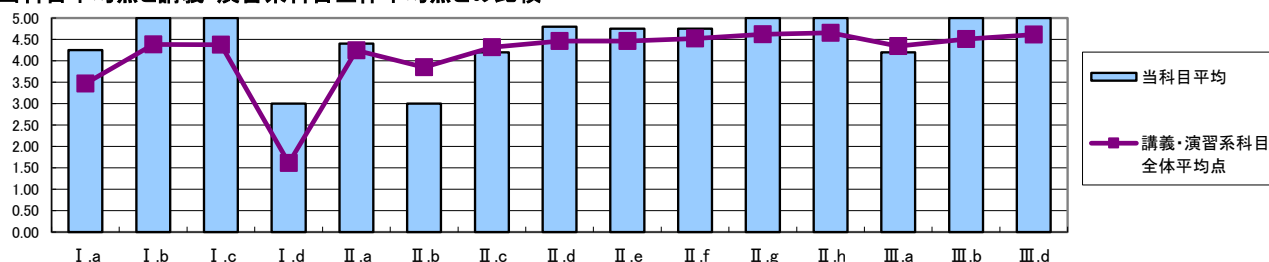
科目名	イタリア語圏異文化コミュニケーション2
教員名	ヴェルゴラニ ミケレ

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	5

設問		設 問 文	平均点		全体平均点		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.25		3.47		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00		4.39		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00		4.38		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00		1.61		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40		4.24		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00		3.85		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.20		4.32		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80		4.46		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75		4.46		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75		4.52		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00		4.62		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00		4.66		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.20		4.34		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00		4.51		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率				
			5	4	3	2	1
			80.00	60.00	60.00	20.00	40.00
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00		4.62		

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 講義・演習科目系

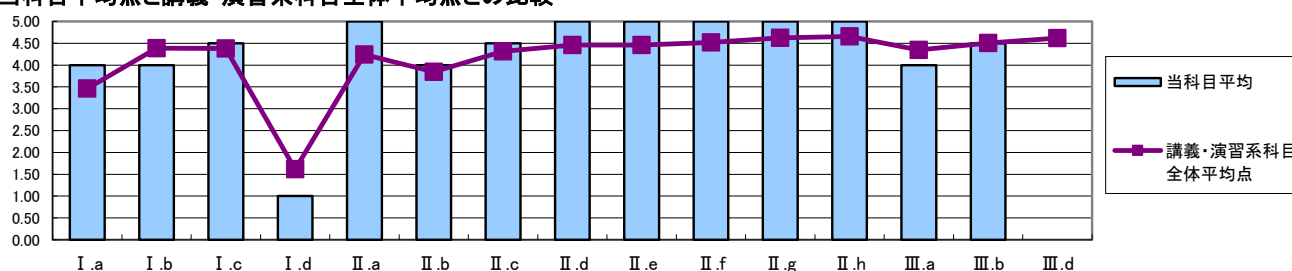
科目名	現代の心理学(発達心理を含む)B
教員名	徳富 政樹

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	3
回答者数	2

設問		設 問 文	平均点	全体平均点					
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.47					
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.39					
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.38					
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.61					
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.24					
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.85					
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.32					
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.46					
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.46					
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.52					
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.62					
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.66					
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を十分に達成できた。	4.00	4.34					
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.51					
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率						
			5	4	3	2	1		
			50.00	100.00	0.00	0.00	0.00		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	-		4.62				

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



東邦音楽大学大学院

ピアノ領域

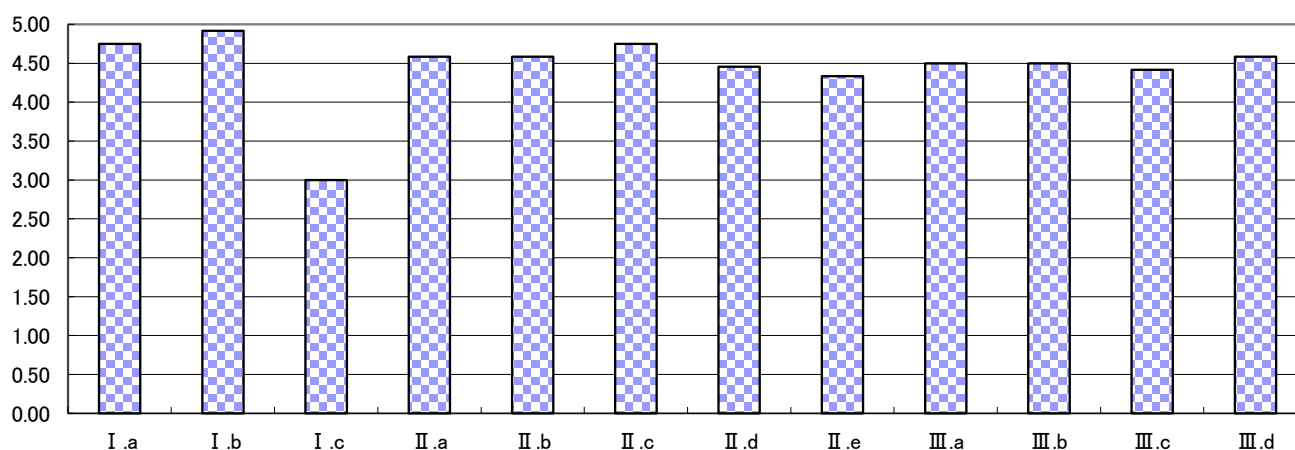
授業改善のための学生アンケート集計結果 大学院

専攻	01. ピアノ領域
科目数	8

履修者数	16
回答者数	12

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.75	10 83.3	1 8.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0	12	0
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.92	11 91.7	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12	0
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.00	3 25.0	3 25.0	0 0.0	3 25.0	3 25.0	12	0
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.58	9 75.0	1 8.3	2 16.7	0 0.0	0 0.0	12	0
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.58	9 75.0	1 8.3	2 16.7	0 0.0	0 0.0	12	0
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.75	9 75.0	3 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12	0
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.45	7 63.6	2 18.2	2 18.2	0 0.0	0 0.0	11	1
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。(自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。)	4.33	4 66.7	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0	6	6
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.50	6 50.0	6 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12	0
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.50	6 50.0	6 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12	0
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.42	5 41.7	7 58.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12	0
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.58	7 58.3	5 41.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12	0

01. ピアノ領域 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

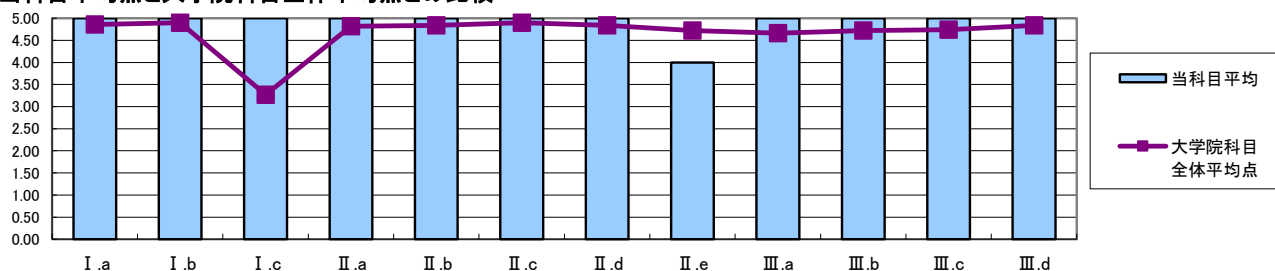
科目名	ピアノ特別演習
教員名	國谷 尊之

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.00	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2022年度は、大学院ピアノ特別演習のレッスンを、2年次生1名担当した。中国人留学生であり、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う入国制限のため対面でのレッスンができなかったが、オンラインでのレッスン環境の中、多くの楽曲に取り組む研究を着実に進めていた。2022年4月に来日を実現し、さらに2年間修士課程で学ぶことになった。今年度は昨年度の基盤の上にさらに演奏力を向上させ、大学院1年次演奏会でその成果を見ることができた。論文テーマも確定し、研究に取り掛かっている。アンケート結果からは充実した1年間であったことが伺える。

● 問題点

論文指導はまだ本格的に始まっていないため、今後その取り組みを加速する必要がある。

● 改善の方策

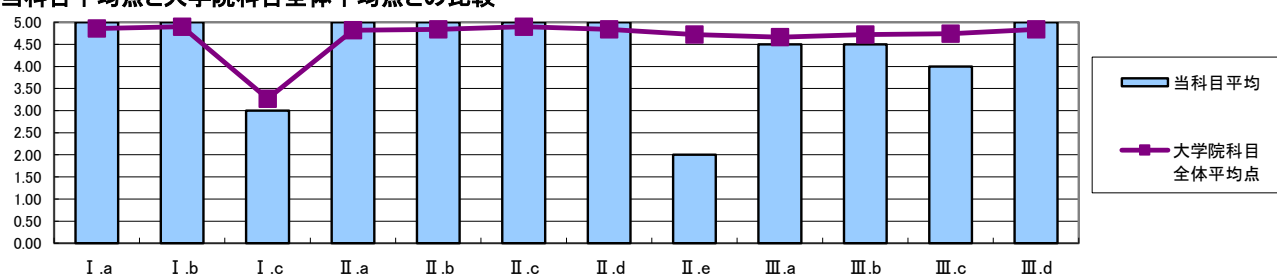
日本語能力の向上も促しつつ、意思の疎通ができているか留意しながら、論文テーマに沿った研究と演奏表現が最終的に結実するよう指導していく。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	ピアノ特別演習	職名	02. 教授	履修者数	2
教員名	中島 裕紀			回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.00	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	2.00	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.50	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.50	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.00	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

今年度履修者は、2名で2名から回答を得た。非常に熱心に取り組んでいる学生であり、毎回のレッスンに課題意識を持って臨んでいた。2名とも2年間の中でできることを模索しながら、ひたすら進むような取り組みをした1年間であった。

● 問題点

特に問題点はない。論文指導に関しては、2年次に本格的に形を作っていく段階で、研究課題の模索をしている段階であったため、指導そのものもこれから本格的に始まる。

● 改善の方策

明らかな問題点はないが、大学院という研究段階において、どのような課題意識を持って学修を進めたら良いか、それぞれのニーズと進度を見極めながら、多様性を生かして今後とも指導にあたる。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

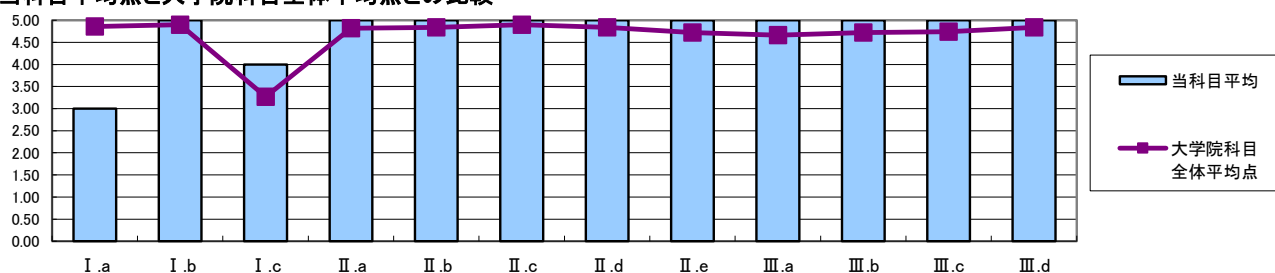
科目名	ピアノ特別演習
教員名	太田 幸子

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	3.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.00	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

令和4年度 1名担当
この学生は、2年生に入り、特に体調が悪く、休みが続いておりました。
2年生の課題は、1年後期に与えておりましたが、なかなか進まず、論文と実技で大変苦勞致しました。
体調不調のため学位審査修了演奏会は欠席致し、そのまま休学に入りました。

● 問題点

● 改善の方策

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

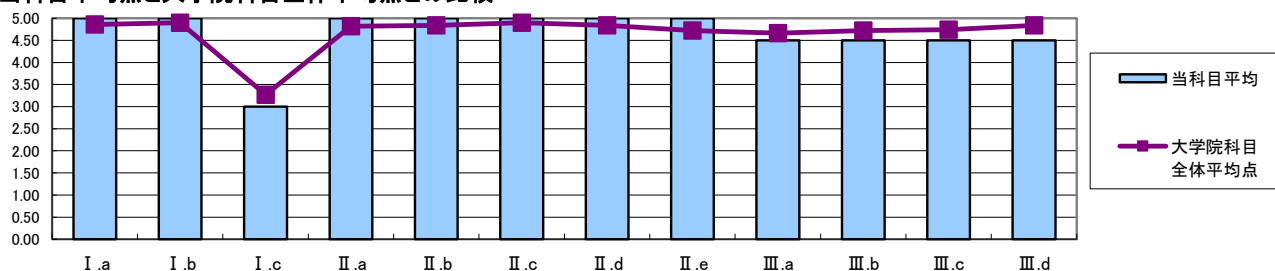
科目名	アンサンブル表現研究A(伴奏法)
教員名	田中 梢

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.00	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.50	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.50	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.50	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

アンサンブル演奏会の為に演目を選び本番までに持っていく。2名と聴講生1名で少ない中で助演も入れて演奏会まで持って行けた。生徒は優秀だったが中国人の生徒は日本語の資料読み込みや歌詞の読み込みで苦労した。

● 問題点

日本人の生徒との意思のズレはなかったと思う。中国人との意思の疎通は文献を読む事や歌詞を読み込むときに難しかった。

● 改善の方策

中国人とのやり取りで瞬間的な翻訳タブレットがあると良いと思うが難しいのだろうか。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

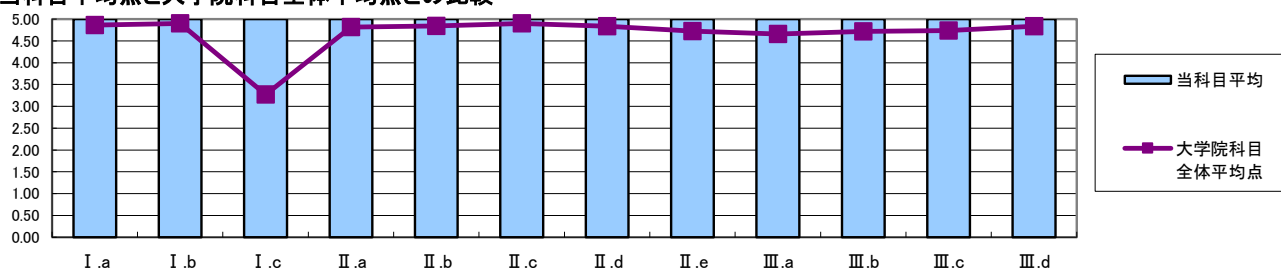
科目名	ピアノ特別演習
教員名	小林 律子

職名	02. 教授
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



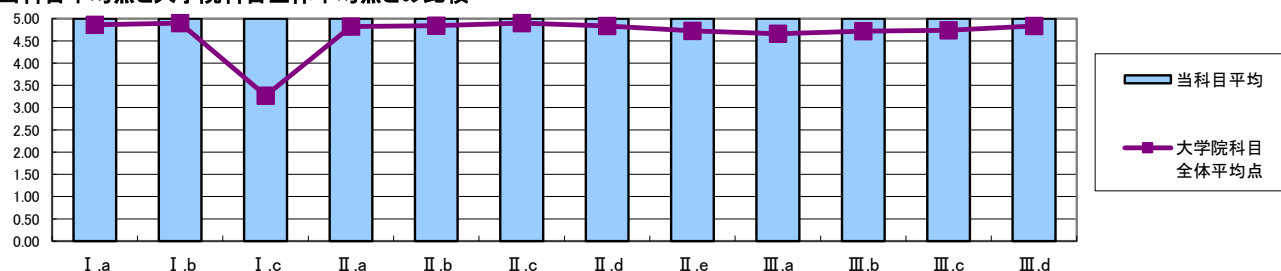
科目名	ピアノ特別演習
教員名	浦川 玲子

職名	06. 専任講師
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

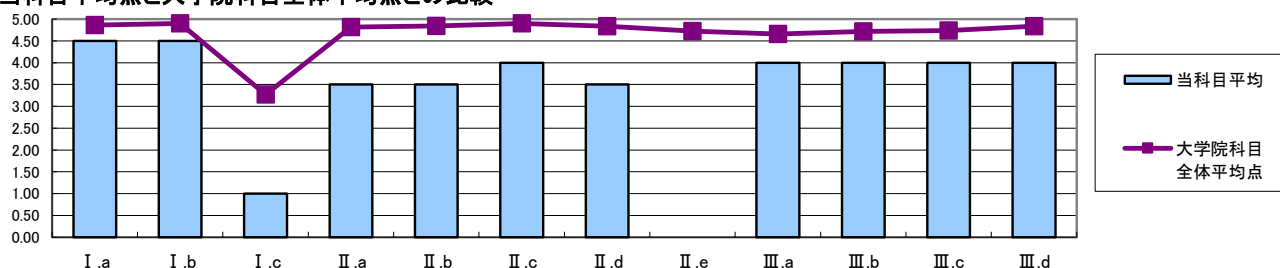
科目名	鍵盤音楽史研究
教員名	伊藤 制子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.50	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	1.00	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	3.50	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	3.50	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.50	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	-	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.00	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.00	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.00	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



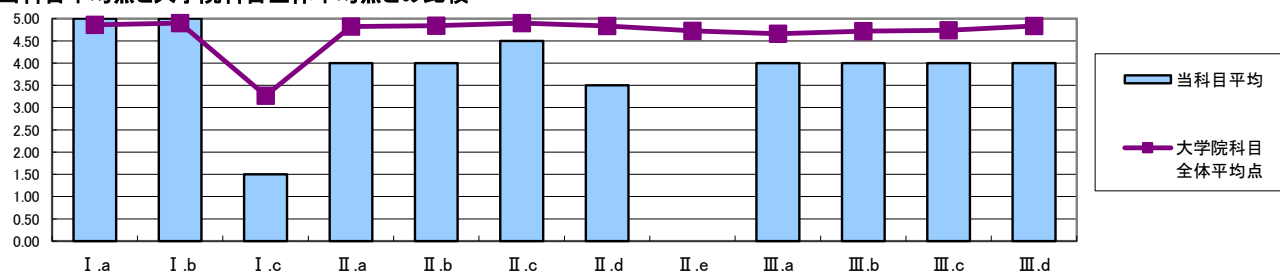
科目名	作品研究A(バロック・古典期)
教員名	伊藤 制子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	3
回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	1.50	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.50	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.50	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	-	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.00	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.00	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.00	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



管弦打領域

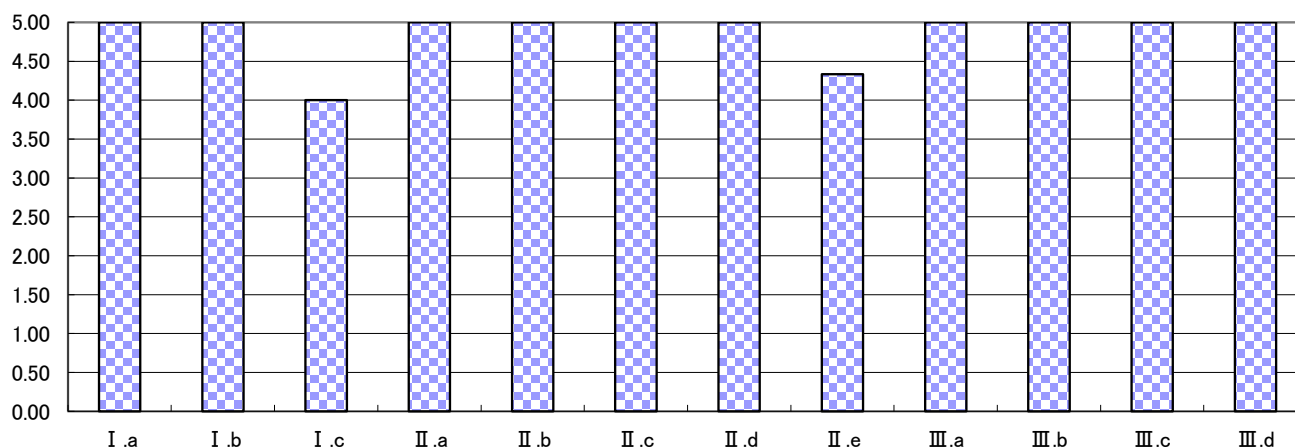
授業改善のための学生アンケート集計結果 大学院

専攻	02. 管弦打領域
科目数	4

履修者数	9
回答者数	6

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.00	4 66.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7	6	0
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。(自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。)	4.33	4 66.7	0 0.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	6	0
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	0

02. 管弦打領域 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

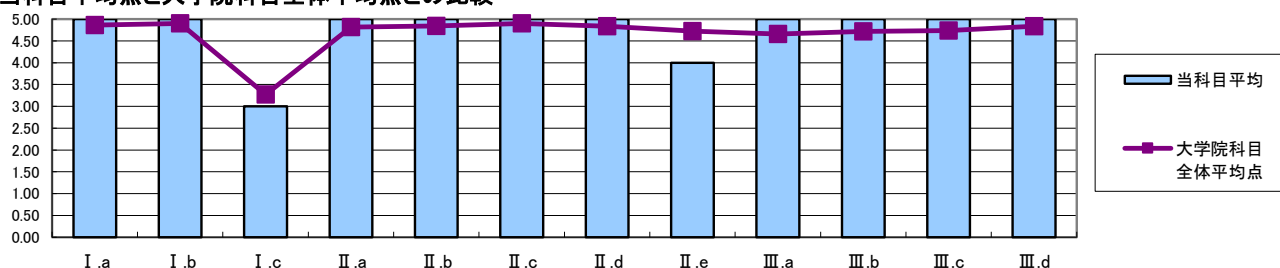
科目名	作品研究(室内楽)
教員名	萩久保 和明

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	3
回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.00	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.00	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



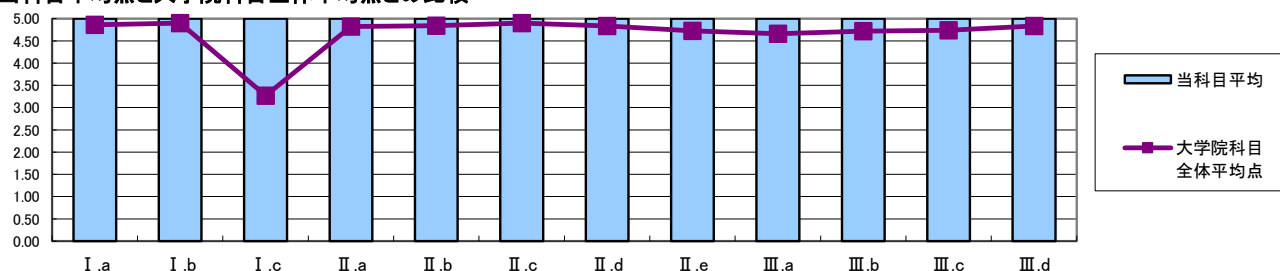
科目名	管弦打特別演習
教員名	天満 敦子

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

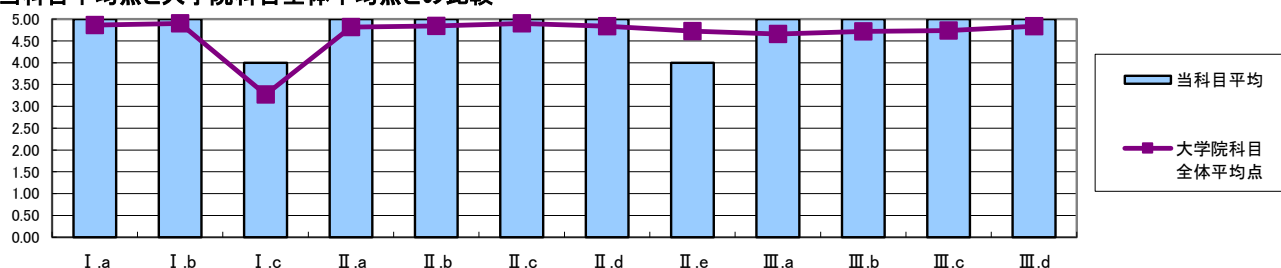
科目名	アンサンブル表現研究(室内楽)
教員名	澤 敦

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	4
回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.00	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.00	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



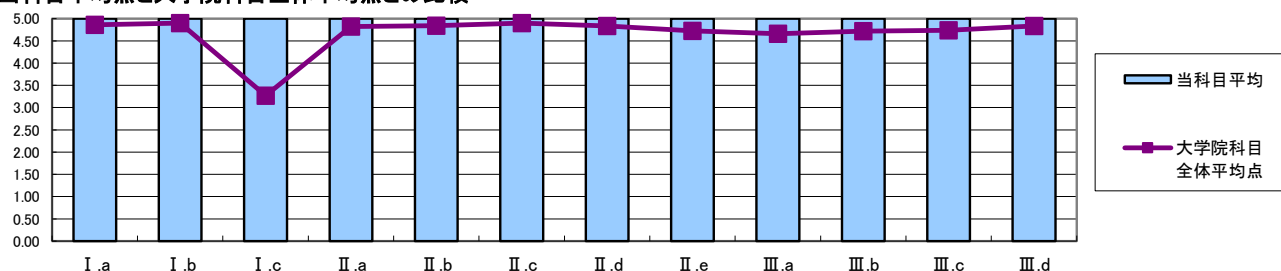
科目名	管弦打特別演習
教員名	田中 洪至

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



声 楽 領 域

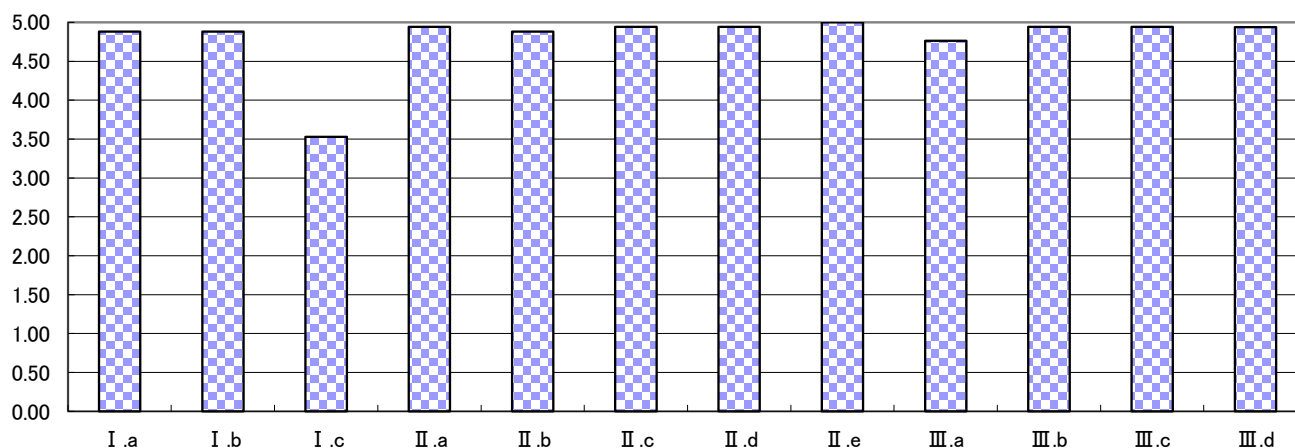
授業改善のための学生アンケート集計結果 大学院

専攻	03. 音楽領域
科目数	7

履修者数	20
回答者数	17

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.88	16 94.1	0 0.0	1 5.9	0 0.0	0 0.0	17	0
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.88	16 94.1	0 0.0	1 5.9	0 0.0	0 0.0	17	0
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.53	5 29.4	4 23.5	5 29.4	1 5.9	2 11.8	17	0
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.94	16 94.1	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17	0
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.88	15 88.2	2 11.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17	0
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.94	16 94.1	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17	0
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.94	16 94.1	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17	0
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。(自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。)	5.00	11 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11	6
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.76	14 82.4	2 11.8	1 5.9	0 0.0	0 0.0	17	0
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.94	16 94.1	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17	0
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.94	16 94.1	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17	0
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.94	15 93.8	1 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	16	1

03. 音楽領域 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

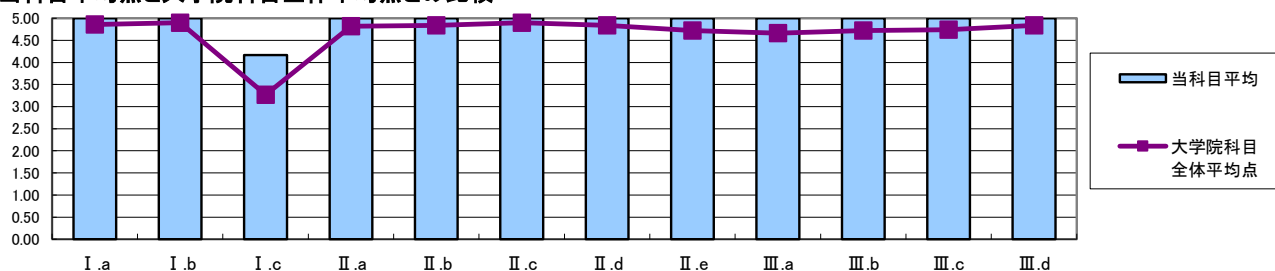
科目名	アンサンブル表現研究(声楽)
教員名	佐藤 泰弘

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	6
回答者数	6

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.17	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

この授業では、オペラの二重唱や三重唱を用いて、音楽的かつ演劇的アンサンブル感覚を学んでいくものである。声楽教員3名とピアニスト、また指揮者と演出家という複数のプロフェッショナルな教員達の多角的指導により、実践的にオペラの舞台感覚や総合芸術のコンビネーションが自然に身についていく成果を目的としている。

● 問題点

概ねこの授業による学習効果は上がっているのだが、IC「1回の授業・レッスンのための研究や練習」があと一息足りないことが明らかとなっている。

● 改善の方策

学生達にとって、オペラのアンサンブル、二重唱や三重唱のみの部分的予習に偏っていると思われる。もっと作品の背景を調べさせたり、オペラ全曲の中で、与えられたアンサンブルがどのようなドラマを展開していくのか、もっと徹底した状況把握をさせるべく、予め多角的な課題を出すよう、教員の私達も更なる工夫が必要となる。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

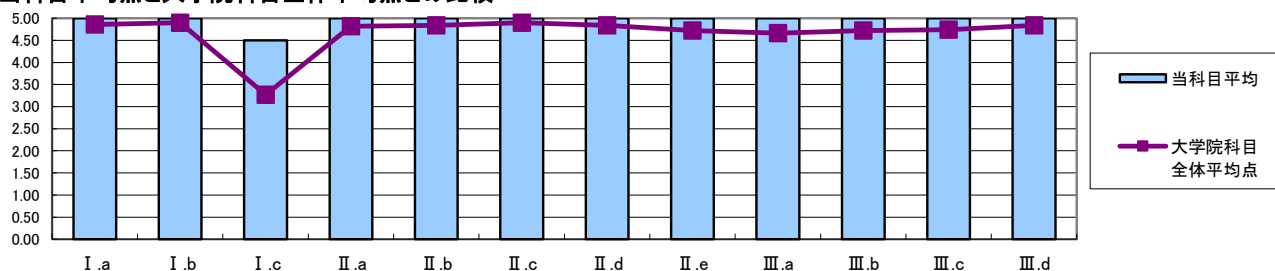
科目名	声楽特別演習
教員名	佐藤 泰弘

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.50	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

1回70分という、学ぶために十分な時間が与えられており、基礎的発声練習による発声テクニックを徹底的に習得させた上で、外国語の朗読指導、そして歌唱表現のきめ細やかさを追求して、さらにピアニストを合流させての音楽的アンサンブルも探求していくことで様々な楽曲のレパートリー作りを実現した。

● 問題点

概ね順調に演習を積み重ねていけたが、ICの「1回のレッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしたか」という設問については、あともう少し足りていなかった。

● 改善の方策

作品の背景や作曲家の作風など、もっと踏み込んだ準備学習としての予習もできるよう、教員が宿題を出すのにもう一工夫が必要であろう。それには、音楽家としてのみならず、研究者としての意欲を掻き立てるような課題を与えることも、今後検討していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

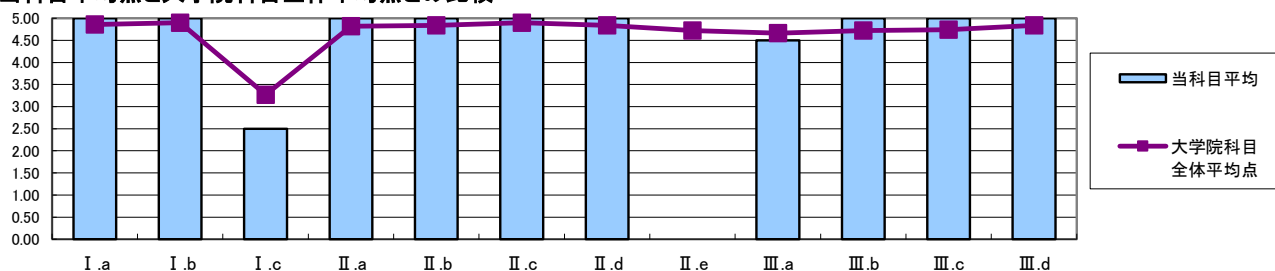
科目名	作品研究A-Ⅰ(日本歌曲)
教員名	山崎 明美

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	3
回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.50	3.27
Ⅱ	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	—	4.72
Ⅲ	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.50	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

講座の目的は、日本歌曲の成立、発展の変遷を辿りつつ、日本歌曲演奏に必要な学識を深め、その専門的能力を養うことである。日本歌曲演奏における日本語の発音のあり方を系統的に学び、ベル・カント唱法と結びついた自然な日本語の表現を学ぶ。さらに詩の解釈、朗読を研究し、詩人、およびその文学的背景を探究し、加えて作曲家について多岐にわたる文献を参考にしつつ、その演奏法を習得する。授業の進め方は、各自演奏を行い、担当の歌曲についてそれぞれが資料を作成、それをもとに研究発表を行う形である。教員は学生にさらなる資料の提示、または補足を行い、学生各自の積極的な研究を促し、資料の紹介、演奏者として取り組むべき内容、さまざまな課題を示す。各自が今後の演奏において役立つよう助言を行う形態である。楽譜の選択から、楽譜の読み方、研究の結果をどう演奏に反映させるかと言う教員自らの研究結果に基づき、授業を進め、必要に応じて視聴覚資料も用いている。本講座履修者3名のうち2名から提出された。アンケートは、本人の受講についての設問3項目、教員の授業の進め方についての設問5項目、学生が実感する到達度についての設問4項目よりなる。回答は積極的肯定：5、消極的肯定：4、普通：3、消極的否定：2、積極的否定：1で回答されている。アンケート結果は、設問Ⅰは5点（学習時間を問うⅠ-3を除く）。設問Ⅱは5であった。回答の分布はいずれも肯定にとどまっている。

● 問題点

Ⅰ－c「1回の授業のために、平均どれくらい研究をしましたか」が2、5となった点だろうか。

● 改善の方策

3時間が50パーセント、2時間が50パーセントという結果である。時間としては充分と思われる。学生への知識の伝達は確におこなわれていると実感している。さらに興味の幅が広がる授業にすべく自身も研究を深めていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

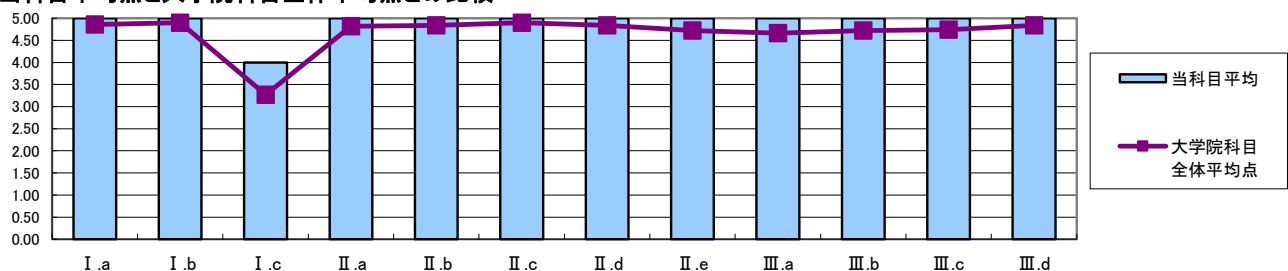
科目名	作品研究A-Ⅱ(日本歌曲)
教員名	山崎 明美

職名	03. 特任教授
----	----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.00	3.27
Ⅱ	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.72
Ⅲ	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

講座の目的は、日本歌曲の成立、発展の変遷を辿りつつ、日本歌曲演奏に必要な学識を深め、その専門的能力を養うことである。日本歌曲演奏における日本語の発音のあり方を系統的に学び、ベル・カント唱法と結びついた自然な日本語の表現を学ぶ。さらに詩の解釈、朗読を研究し、詩人、およびその文学的背景を探究し、加えて作曲家について多岐にわたる文献を参考にしつつ、その演奏法を習得する。授業の進め方は、各自演奏を行い、担当の歌曲についてそれぞれが資料を作成、それをもとに研究発表を行う形である。教員は学生にさらなる資料の提示、または補足を行い、学生各自の積極的な研究を促し、資料の紹介、演奏者として取り組むべき内容、さまざまな課題を示す。各自が今後の演奏において役立つよう助言を行う形態である。楽譜の選択から、楽譜の読み方、研究の結果をどう演奏に反映させるかと言う教員自らの研究結果に基づき、授業を進め、必要に応じて視聴覚資料も用いている。本講座履修者1名であり、提出された。アンケートは、本人の受講についての設問3項目、教員の授業の進め方についての設問5項目、学生が実感する到達度についての設問4項目よりなる。回答は積極的肯定：5、消極的肯定：4、普通：3、消極的否定：2、積極的否定：1で回答されている。アンケート結果は、Ⅰ－Ⅲを除き全て5点であった。

● 問題点

Ⅰ－Ⅲ「1回の授業のために、平均どれくらい研究をしましたか」が2、5となった点だろうか。

● 改善の方策

アンケート対象は1名であった。学習時間は4時間であり、時間としては充分と思われる。学生への知識の伝達は確におこなわれていると実感している。さらに興味の幅が広がる授業にすべく自身も研究を深めていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

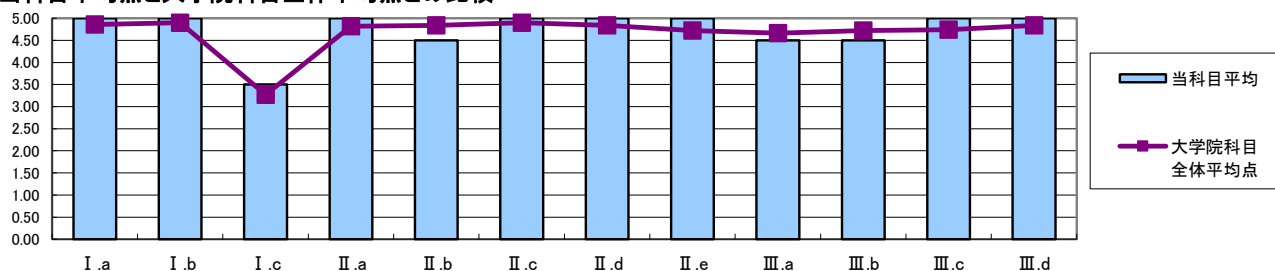
科目名	声楽特別演習
教員名	武藤 直美

職名	04. 准教授
----	---------

履修者数	2
回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.50	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.50	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.50	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.50	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

2年生2名の受講者に対して、シラバスに提示された授業計画に沿ってレッスンが行われていたと思います。受講生は独自の方法で学習し、積極的に曲の意味を音楽として表現しようとする意欲を持って授業に臨んでおりました。実技ほか修士論文の作成においてかなり早い段階で準備につとめておりました。

● 問題点

今回の結果から判断しますと、実技の指導方法については特に問題点はないと思われます。

● 改善の方策

次年度以降も授業計画に沿ったレッスンを基本としますが、修士論文に向けてのさらなる指導の強化を追求、実践していく所存であります。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

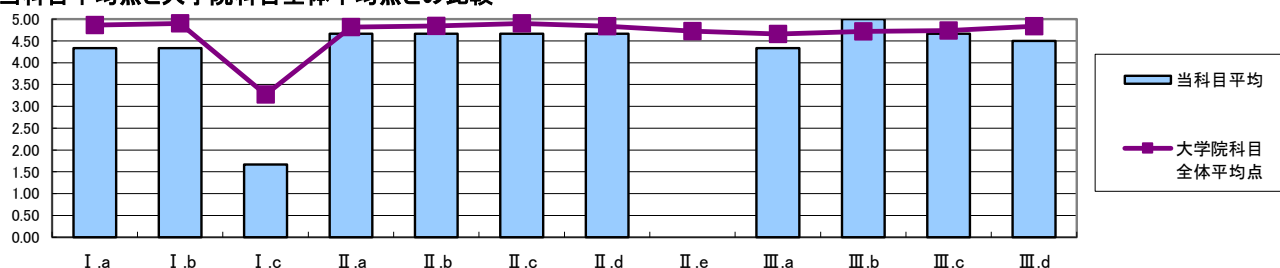
科目名	歌曲・オペラ史研究
教員名	伊藤 制子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	3

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.33	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	1.67	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.67	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.67	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.67	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	-	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.33	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.67	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



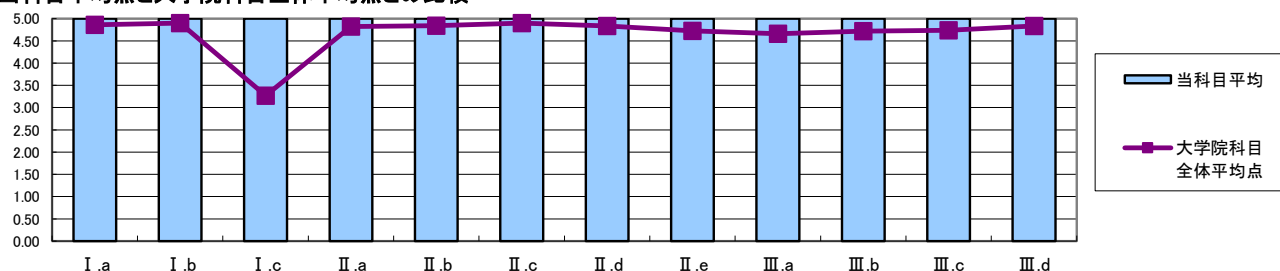
科目名	声楽特別演習
教員名	大島 洋子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



作曲領域

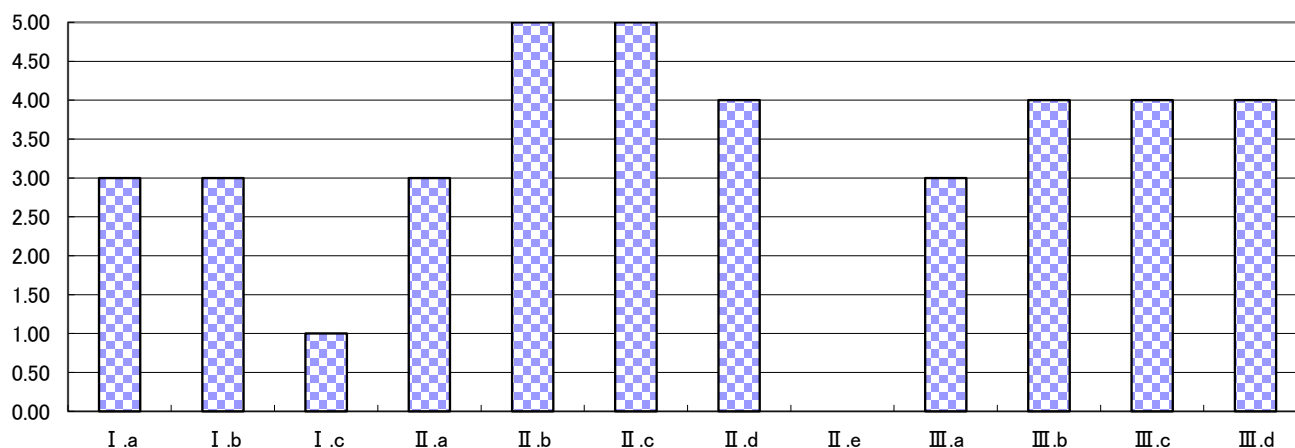
授業改善のための学生アンケート集計結果 大学院

専攻	04. 作曲領域
科目数	1

履修者数	1
回答者数	1

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	3.00	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1	0
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.00	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1	0
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	1.00	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1	0
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	3.00	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1	0
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1	0
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1	0
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1	0
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。(自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。)	-	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0	1
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	3.00	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1	0
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.00	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1	0
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.00	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1	0
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1	0

04. 作曲領域 全体平均点



授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

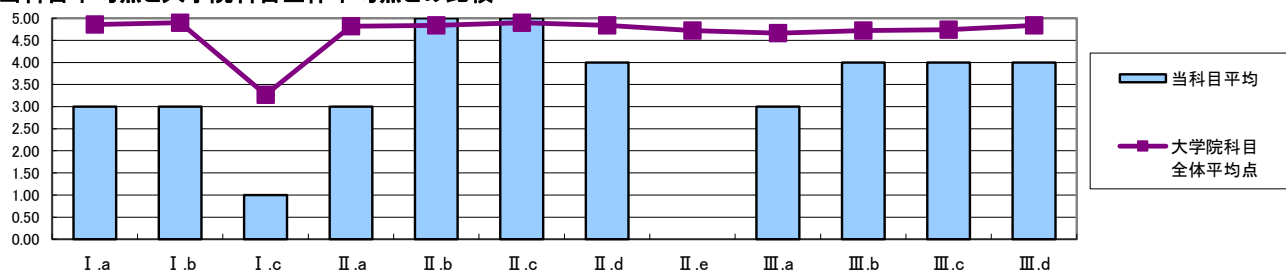
科目名	作曲技法特別研究Ⅱ
教員名	井上 淳司

職名	05. 特任准教授
----	-----------

履修者数	1
回答者数	1

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	3.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	1.00	3.27
Ⅱ	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	3.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	-	4.72
Ⅲ	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	3.00	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.00	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.00	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本来は大学院生作曲領域専攻生向けの科目であるが、今年度は作曲領域の学生がおらず管弦楽領域の2年次生1名が履修した。週に1コマ（90分）である。取り扱う題材は近代西洋音楽が中心となり、所謂クラシック音楽の系譜を追って、前バロック期から現代音楽へと調性音楽の誕生からその延長上にある無調音楽、さらにまた現在の多様な音楽におけるその構造（構成、旋律の扱い、和声法、リズムの扱い等）や作曲家の扱う題材をも時代背景を踏まえながら考察し、かつ研究することによって、作曲の技法のみならず作曲行為の精神性にまで探求することを目的としている。今年度は1年次生が1名でしかも管弦楽領域の学生のため個人的な内容の授業形態として活性化を図る講義となった。

● 問題点

今年度はアンケートに回答したのは1名である。人数的に必ずしもアンケートの体をなしているとは言えないが、特に問題点としてあげるものがないほど履修生は良く研究をしました勉強もして、音楽に対する専門的な理解度を向上させることが出来たと思う。

● 改善の方策

個々の学生のレベルに合った下調べの方法や参考になる曲の紹介等を図書館の利用も含めて綿密に伝えて来たことが学生にも理解してもらえていたが、今年度の大学院生は研究熱心で優秀な理解力を持って授業に臨み、なんら問題となることは一つもなかった。次年度以降も学生の意欲を今以上に喚起するような題材や授業展開を心がけ、それを徹底したいと思っている。良い音楽を実行するためには、実技だけではなく熟考するための充分に余裕な時間が必要で、それによって良い発想が湧くため、レッスンへ臨むのに何が必要か、そのための普段からの最低必要な準備をどのようにするかなどの方法や内容を伝えながら、また意思の疎通を心がけて院生の向上に努めたい。

共 通 科 目

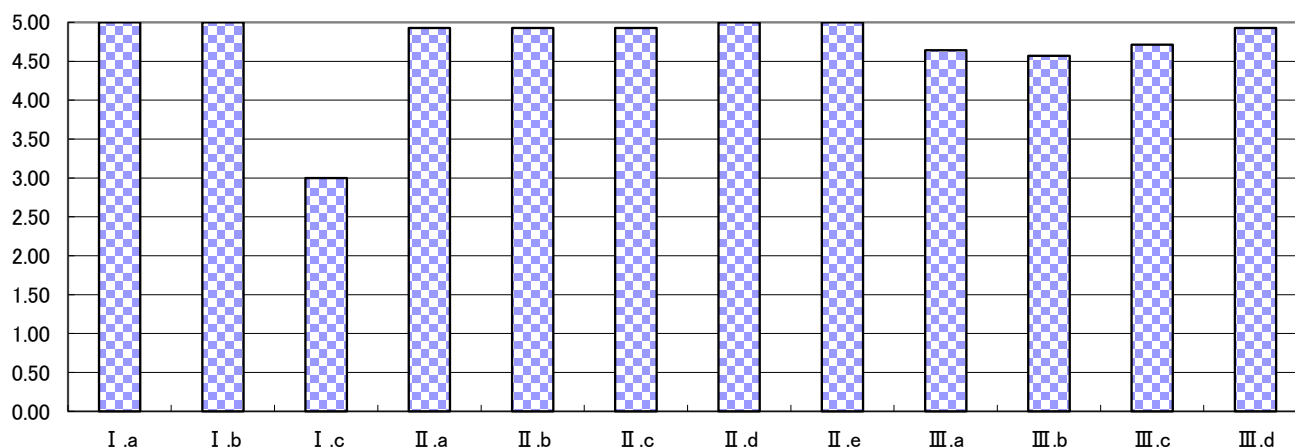
授業改善のための学生アンケート集計結果 大学院

専攻	05. 共通科目
科目数	5

履修者数	18
回答者数	14

設問	項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	14 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	14	0
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	14 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	14	0
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.00	3 25.0	1 8.3	4 33.3	1 8.3	3 25.0	12	2
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.93	13 92.9	1 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	14	0
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.93	13 92.9	1 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	14	0
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.93	13 92.9	1 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	14	0
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	14 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	14	0
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。(自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。)	5.00	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6	8
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.64	9 64.3	5 35.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	14	0
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.57	8 57.1	6 42.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	14	0
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.71	10 71.4	4 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	14	0
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.93	13 92.9	1 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	14	0

05. 共通科目 全体平均点

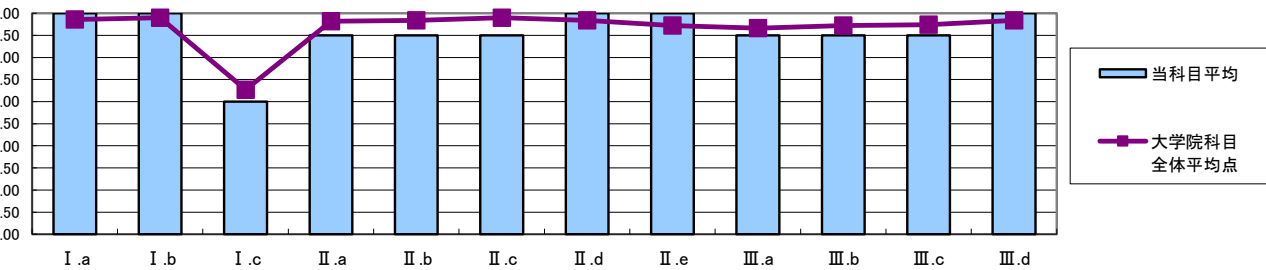


授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

科目名	楽書研究	職名	08. 講師	履修者数	2
教員名	上山 典子			回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.00	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.50	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.50	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.50	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.50	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.50	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.50	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本授業は英語で書かれた音楽事典や文献の内容を読み、その内容理解を深めることを目的とした。履修者には年間の授業を通して英文で書かれた音楽書を読むことに慣れ、日本語で書かれた文献からだけでは得られない知識を獲得することで、音楽的視野を広げることを目指してもらった。

履修者は修士1年のピアノ専攻1名と、修士2年の弦専攻1名の計2名で、両者とも単位を取得した。（両名とも、本授業に続いて開講した月曜2限の「演奏表現研究」を連続して履修していた。）M1の学生が社会人ということもあり、欠席や遅刻、予習の不備といったことに対する心配が一切不要だった。一方M2の留学生は、コロナ禍の渡航制限の影響で、大学院入学以降、今年度6月に初めて来日して対面通学となったため、前期授業回数の半分近くを経てからの合流となった。そのためこの留学生は、4月以降読み進めていた文献の途中から参加することを余儀なくされた。中国で渡航待機中の時期から、この授業を履修することが分かっていたら、担当教員としては4～5月の2か月間、遠隔対応やメール対応などで講読文献を事前に渡しておく、ということは可能と考える（楽書の授業事態をメールで対応するのは、あまり現実的ではない。メールのやり取りだと、結局のところは訳をチェックするだけになってしまう可能性が高い）。今後は、渡航が遅れている学生が存在しないかどうか、事務局からの情報入手に努めたいと思う。

授業は、履修者の希望も取り入れながら、プログラムの楽曲解説や、Harvard Dictionary of Music、New Grove Dictionary（第2版）の項目の講読などに取り組んだ。本授業は英語の能力を高めることが目的ではないため、本来的には英語で書かれた文献の内容を把握できていれば問題はないのだが、そのことを確認するためには、日本語に訳するという作業がどうしても必要となる。しかし今回の留学生は例年と比べて明らかに日本語に不自由だったため、英語の文献を読むことに加えて、それらを日本語に訳して理解を確認するという作業に、二重の苦労を抱えることになってしまった。

● 問題点

例年、設問I-cの授業のための予習復習に対する取り組みが課題となっていたが、今年度は最高値の「5時間以上」が1名と最低値である「1時間未満」が1名で、当科目の平均点が3.00となった。回答者の母数が2のため、平均値を算出する意味合いは難しいものがあるが、それにしても、両者ともに同じ文献を読んでいるなかで5時間以上と1時間未満という回答は両極端で、授業担当者としては多少の驚きをもって受け止めた。本授業は楽書講読という演習形式で運営されるため、3時間程度の予習が理想的に思われる。とは言え、元々英語能力が高い学生の場合、講読文章の意味調べにかかる時間も必然的に短くて済むため、予習時間の多さが意欲や成果に比例するという訳ではない。

● 改善の方策

今年度に限らず、楽書購読の授業においてはやはりある程度の予習が必要となる。もちろん、辞書を用いずに多読を重ねる訓練も効果的で、意味調べの予習は取立てせずに解説を試みるというやり方もあるだろう。しかしこうしたことが可能になるのは、一定の語学力を備えた学生にとってであり、多くの学生（特に日本語を学習中の留学生）にとっては、地道な単語の事前調べが必要に思われた。しかし同時に、本授業は英語を文法的に正しく読むことではなく、あくまで英文で書かれた楽書の内容を理解することを目的としていることから、授業時間外の自修のあり方（内容、時間、方法などすべて）、そしてそれらを学生にどう促すかについては、引き続き担当者の課題としていきたい。また、関連する日本語文献を読んだり、文献で言及されている作品の音源を入手して聴いてみる、といった実技専攻の学生にとってより取り組みやすい学習方法の提供を模索していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

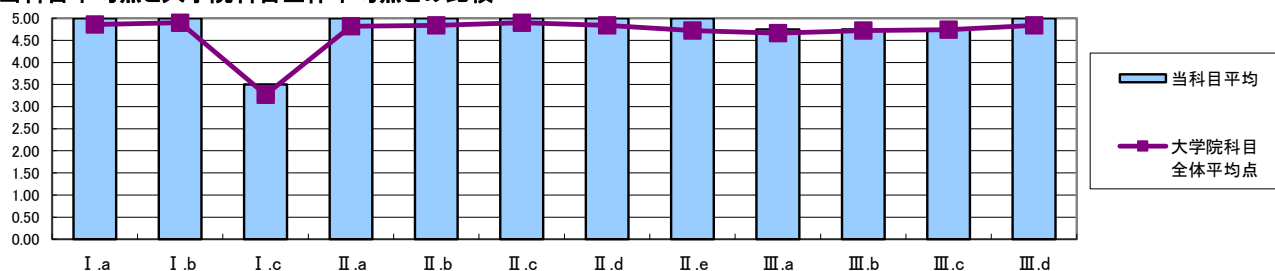
科目名	演奏表現研究
教員名	上山 典子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	4

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.50	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.75	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.75	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.75	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

本授業は大学院1年以上を対象とする通年授業として、月曜2限に開講した。鑑賞や分析を通して個々の作品の構造とそれぞれの作品が属するジャンルとしての特徴を把握するとともに、これらの作品を生み出した作曲家の意図や当時の時代背景、音楽社会・文化などにも目を向け、豊かな演奏表現につなげることを目的とした。前期はバロック時代～古典派のいわゆる大作曲家の作品を中心に上げ、時代による形式構造の変化や作曲家の特色を把握した。後期は19世紀ロマン主義時代から、多くの履修者にとってこれまであまり馴染みがなかったという20世紀半ば頃までを対象に、作品が生み出された音楽史的背景に対する理解を深めた。講義形式を基本としたが、履修者による作品分析、作品批評など積極的な参加とディスカッションを求めた。また、取り上げる作品の鑑賞（DVD映像など）とその補足説明も重視した。

履修者は修士1年のピアノと管専攻、修士2年のピアノと弦専攻が各1名の計4名で、最終的に全員が単位を取得した。このうちM2の留学生はコロナ禍の渡航制限の影響で、大学院入学以降、今年の6月に初めて来日して対面通学となったため、前期授業開始からおよそ7週が経ってからの合流となった。概ね歴史軸に沿って進めている本授業に途中から参加しなくてはならなかったこと、また日本語の理解能力が十分ではない状況下で、講義形式の本授業のを十分理解するのは困難であったと推測した。（授業担当者から平易な質問を投げかけたり、作品に関する感想を聞いてみたりと、理解と関心を深めてもらえないかと努めたつもりではあったが、結果はなかなか難しいものがあった。従来の留学生と比べると、恐らくは来日が遅れたこともあり、日本語習得の遅れが目立つ、という印象を受けた。）

例年、比較出席状況の良い科目だが、留学生の後期の出席は残念ながら芳しくなかった。そのほかの3名に関しては、出席は極めて良好で、学習意欲も高かった。

● 問題点

アンケートの結果、設問I-cの授業のための予習復習に対する取り組みの平均点が3.50で、1.00という最低値を記録した昨年度よりは幾分改善したように思われるが、依然として十分な結果ではない。アンケートの回答者4名のうち、「5時間以上」が2名、「3時間」が1名、そして「1時間未満」が1名で、少ない回答数（母数）ではあるものの、履修者によってばらつきが大きいと感じる結果だった。

また、日本語能力が不十分な留学生に対する対応も大きな課題と感じる。本年度の履修者は真面目な性格ではあったが、本国（中国）での学部時代に音楽学関連の授業をどの程度履修した経験があるのか、少々疑問に思うところがあった。日本の音楽大学出身者の履修者が最低限修得している音楽学や音楽史的な知識の欠落を、個別ではなく、複数人の授業でどう補っていけばいいのか、大きな課題と感じた。

● 改善の方策

授業に対する意欲や関心度はおおむね良好だったと感じているが、履修者がこの授業の予習復習に費やした時間は決して十分なものではなかったことを改めて認識した。輪読や演習系授業にあるような「宿題」といった性格の課題を出しにくいところはあるが、学生に対しては一層の時間外学習を推進していく必要性を感じた。特に、授業で取り上げる作品を、授業内で全曲聴くことには時間上の制限があるため、学生が各自で作品を鑑賞するよう、促していきたい。また、予習復習を明確な課題という形で提示しなくても、学生が自発的に授業内容を振り返ってみようと思うような、魅力ある講義を提供できるように努めたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

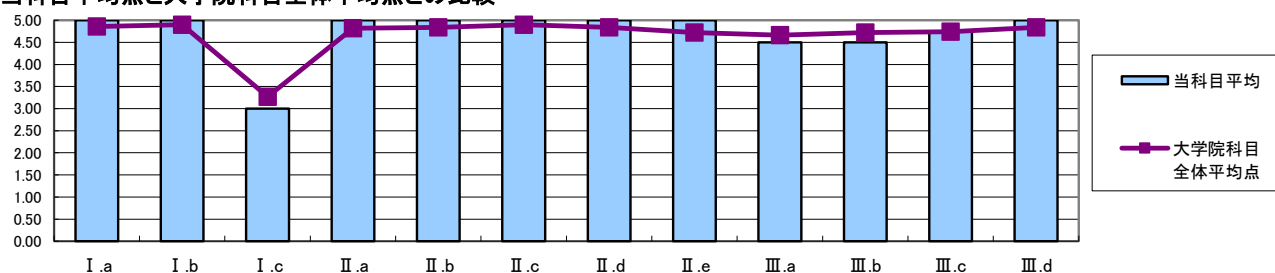
科目名	身体表現演習
教員名	渡辺 恵

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	4
回答者数	4

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.00	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.50	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.50	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.75	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● 現状の説明

出席、授業態度ともに良好であった。

● 問題点

特にズレを感じる場面は無かった。

● 改善の方策

生徒の皆さんは熱心に授業に取り組んでいたもので、質問等があった場合に適切に対応出来るよう研究を続けていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果（大学院科目用）

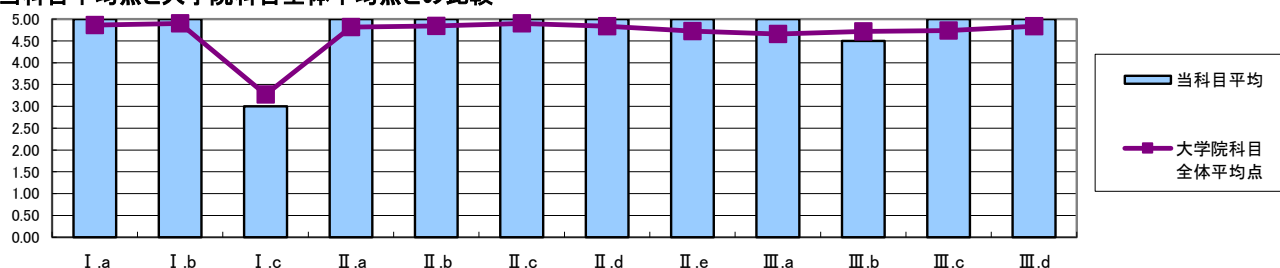
科目名	フランス語
教員名	伊藤 制子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	5
回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.00	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.50	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



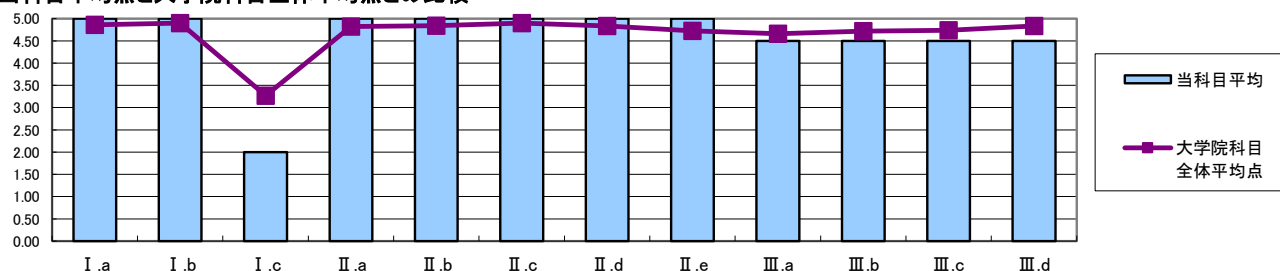
科目名	民族音楽表現法研究
教員名	櫻田 素子

職名	08. 講師
----	--------

履修者数	3
回答者数	2

設問	設 問 文	平均点	全体平均点
I	a この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b 熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.90
	c 1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.00	3.27
II	a シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.82
	b 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.84
	c 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.90
	d この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.84
	e 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.72
III	a この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.50	4.66
	b この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.50	4.72
	c この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.50	4.74
	d この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.84

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



東邦音楽大学大学院
東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

2022 年度 授業改善のための学生アンケート実施報告書

令和 5 年 3 月 31 日 発行

編集発行 : 東邦音楽大学・東邦音楽短期大学 FD 委員会

〒112-0012 東京都文京区大塚 4 丁目 46-9

TEL 03 (3946) 9667

FAX 03 (3946) 2455

印刷・集計 : 株式会社 教育ソフトウェア